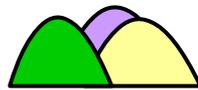


六甲山物語 1

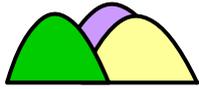
六甲山を深く知る 36話



2007年発行 六甲山自然保護センターを活用する会
2018年改訂増刷 六甲山を活用する会



この冊子はひょうご県政 150 周年記念県民連携事業の助成金を受けて 2018 年に改訂増刷しました。



六甲山物語 1 発行に寄せて

神戸のシンボルである港と六甲山。とりわけ市街地の間近に広がる自然豊かな六甲の山並みは、四季折々にさまざまな表情を見せ、神戸市民をはじめ多くの人々の憩いの場として親しまれています。現在の豊かな緑は、明治以来の植林によって生まれたものであり、まさに、人の暮らしや営みとともに育まれてきた貴重な財産です。

神戸市民の参画と協働により地域の将来像を描いた「神戸地域ビジョン」においても「自然との共生のシンボル」として位置づけられ、六甲山をもっと知り、親しみ、楽しむ場にしていこうと多彩な活動が繰り広げられています。

「六甲山自然保護センターを活用する会」は、その中心的なグループの一つです。ビジョンの実現をめざして尽力されてきた堂馬さんを中心として平成14年に設立されて以来、セミナーや企画展の開催をはじめ、散策コースの清掃活動など意欲的に活動されています。

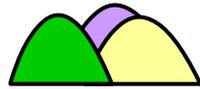
今回、同会が開催してきた「六甲山魅力再発見セミナー」の内容が、「六甲山物語 1」として発行されます。収録されている36話には、山の成り立ちから動植物などの自然環境、文化やレクリエーションまで六甲山の多彩な情報が凝縮されています。環境学習や生涯学習の貴重なテキストとして活用できるほか、日頃から六甲山に親しまれている皆さんにも、きっと新たな発見があることでしょう。

本書が広く親しまれ、六甲山が人と自然、人と人がふれあい、交流を育む場としてより生かされていくことを願っています。



兵庫県知事

井戸敏三



ご挨拶

このたび、『六甲山物語1』を発刊することができました。六甲山についての知識や情報を総合的に掴むことは難しいですが、多様な視点から理解を深めるための案内書として十分活用していただけるものだと思います。

私ども「六甲山自然保護センターを活用する会」は、兵庫県神戸県民局の地域ビジョン委員の有志が中心になって設立した市民団体です。「六甲山を活かす県民行動プログラム」を提言し具体的に実践するため、リニューアルオープンした県立六甲山自然保護センターの有功活用を目指しました。「六甲山魅力再発見市民セミナー」を着想し毎月第3土曜日に開催しました。

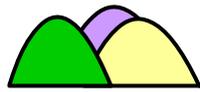
井戸敏三知事から「六甲山のことを頼みます」と期待を寄せられ、県立人と自然の博物館の中瀬勲副館長にも「できる限りの応援をする」と励まされました。四季を問わずに六甲山上に人を集めるのは至難で、1回限りで講演をお願いする講師の方を探すことなど、常に知恵や工夫を必要としました。「六甲山を知り、語り、交流する」という新たな文化を創造する意欲に支えられて継続し、現在は第5期目の準備を整えています。

この『六甲山物語1』は、36回の市民セミナーの報告書を「六甲山を深く知る36話」というコンセプトで開催時期を問わずに6つのジャンルにくくり直しています。「六甲山を見渡す」「六甲山を辿る」「六甲山の植物を知る」「六甲山の動物を知る」「六甲山のくらし・学び」「六甲山に親しむ」という編成です。学術的な体系ではありませんが、市民が手づくりで六甲山という「地域研究」を続けるには適切な枠組みだと思います。巻末には437項目の索引も掲載しましたので用語の参照もできます。

多くの皆さんからご支援やご協力をいただきて勇気づけられ、ようやくお役に立つものを産み出しました。私どもは、このような「六甲山を知る情報発信」を軸に、「自然探勝フィールドづくり」と「六甲山らしさを生かした環境学習」の3つの課題を三位一体化して展開していくつもりです。改めて、感謝を申し上げるとともに、今後の活動へのご理解・ご支援もお願いする次第です。

2007年3月

六甲山自然保護センターを活用する会
代表幹事 堂馬 英二



六甲山物語 1 目次

「六甲山物語1」発行に寄せて:兵庫県知事 井戸 敏三 P 1

ご挨拶:六甲山自然保護センターを活用する会代表幹事 堂馬 英二 P 2

目次 P 3

1. 六甲山を見渡す～六甲山の成り立ちと都市環境～ P 4

①六甲山をつくる花崗岩の性質とその影響 先山 徹 P 5～7

②宇宙から見た六甲山 宮崎 ひろ志 P 8～10

③都市環境と六甲山 澤木 昌典 P 11～13

④六甲山の景観計画を考える 中瀬 勲 P 14～16

⑤六甲山の森づくり 高橋 敬三 P 17～19

⑥六甲おろし～今昔物語～ 近藤 浩文 P 20～22

⑦六甲山の清掃運動と水質調査 岡 敏明 P 23～25

2. 六甲山を辿る～六甲山の歴史と文化～ P 26

①六甲山地に埋められた宝物 谷 正俊 P 27～29

②六甲山南山麓の歴史～歴史探遊と講演～ 豊田 實 P 30～32

③六甲山北山麓の歴史～歴史探遊と講演～ 豊田 實 P 33～35

④摩耶詣について 伊藤 浄厳 P 36～38

⑤名所図会から見た六甲山と神戸 田原 直樹 P 39～41

⑥グループと神戸外国人居留地文化 桑田 優 P 42～44

⑦六甲山開発史 森地 一夫 P 45～47

3. 六甲山の植物を知る～六甲山の生物～ P 48

①六甲山の植生 武田 義明 P 49～51

②六甲山のブナについて 松井 光利 P 52～54

③六甲山とツツジ 白岩 卓巳 P 55～57

④六甲山のアジサイ 米村 邦稔 P 58～60

⑤六甲山のシダ植物 鈴木 武 P 61～63

⑥六甲山の苔 秋山 弘之 P 64～66

4. 六甲山の動物を知る～六甲山の生物～ P 67

①六甲山での野生生物との共存を考える 坂田 宏志 P 68～70

②六甲山の野鳥 松下 猛 P 71～73

③六甲山の昆虫 八木 剛 P 74～76

④六甲山と昆虫たちの冬越し 戸田 信示 P 77～79

5. 六甲山のくらし・学び～生活文化と環境学習～ P 80

①六甲山小学校の総合的な学習 高光 正明 P 81～83

②六甲山を子供達の遊び場に 越智 正篤 P 84～86

③出る杭をのばす教育の実践 ラーンネット・グローバルスクール P 87～89

④六甲山における野外教育～六甲山YMCAの活動～ 池田 勝一 P 90～92

⑤六甲山と環境教育 岩木 啓子 P 93～95

⑥六甲山に生涯学習の場を求めて あけびグループ P 96～98

6. 六甲山に親しむ～スポーツからレジャーまで～ P 99

①六甲全山縦走大会の生い立ちと歴史 中島 龍 P 100～102

②六甲山を楽しもう 桑田 結 P 103～105

③六甲山でハーブを楽しもう 高畑 正 P 106～108

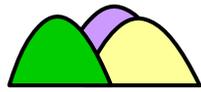
④六甲山で草玉をつくろう 伊東 吉夫 P 109～111

⑤六甲山を描いて 浅井 審一 P 112～114

⑥六甲山で俳句をつくろう 半田 陽生 P 115～117

索引/H15～17 市民セミナー・プログラム P 118～P 122

編集後記:『六甲山物語1』編集委員会 P 123



1. 六甲山を見渡す

～六甲山の成り立ちと都市環境～

①六甲山をつくる花崗岩の性質とその影響

P 5～7



先山 徹
兵庫県立人と自然の博物館
主任研究員
第24回市民セミナー講演
2005年3月19日

⑤六甲山の森づくり

P 17～19



高橋 敬三
神戸市森林整備事務所
所長
第3回市民セミナー講演
2003年6月21日

②宇宙から見た六甲山

P 8～10



宮崎 ひろ志
兵庫県立人と自然の博物館
研究員
第14回市民セミナー講演
2004年5月15日

⑥六甲おろし～今昔物語～

P 20～22



近藤 浩文
環境省登録
環境カウンセラー
第10回市民セミナー講演
2004年1月17日

③都市環境と六甲山

P 11～13



澤木 昌典
大阪大学大学院
助教授
第22回市民セミナー講演
2005年1月15日

⑦六甲山の清掃運動と水質調査

P 23～25



岡 敏明
兵庫県勤労者山岳連盟
第29回市民セミナー講演
2005年8月20日

④六甲山の景観計画を考える P 14～16



中瀬 勲
兵庫県立人と自然の博物館
副館長
第26回市民セミナー講演
2005年5月21日

六甲山は「こうべ」のシンボルといわれています。南北約10キロ、東西約40キロの山塊が六甲山地で、山麓の神戸市などに200万人以上の市民が住んでいます。大都市に隣接する世界でも稀な自然環境で、瀬戸内海国立公園の六甲地区に編入されています。阪神大震災以降は山麓の都市環境が急激に人工化しており、貴重な自然環境である六甲山を「市民の庭」として見直す必要が増えています。

「六甲山物語」の始まりは「六甲山を見渡す」というくくりです。六甲山の成り立ちや都市環境について、いわば「地球市民」という大きな視点からとらえてみましょう。

先山さんには六甲山の成り立ちを花崗岩など地質から、宮崎さんには宇宙から見た環境の特徴をお話いただきます。澤木さんには地球環境・都市環境の観点、中瀬さんには六甲山の景観計画というビジョンづくりを提起していただきます。高橋さんには明治以来の森づくり、近藤さんには六甲山の自然環境の味わい、岡さんには六甲山の環境調査について語っていただきます。

第24回テーマ:六甲山をつくる花崗岩の
性質とその影響兵庫県南部地震で崩壊した
なまず石（芦屋川上流）

講演内容

- ①六甲山地の地形と地質
- ②花崗岩とはどんな石か
- ③有馬温泉のでき方

実施日：平成17年3月19日（土）

午後1時～4時

場 所：六甲山YMCA
里見ホール

講師：先山 徹さん

プロフィール

1954年生まれ。岐阜県出身。岡山大学理学部、同温泉研究所を経て、1985年広島大学大学院理学研究科（地質学鉱物学専攻）修了。第28次南極地域観測隊員。兵庫県立人と自然の博物館主任研究員。

六甲山の春はまだ遠い？

3月に入り、街中は少しずつ春めいてきました。六甲山上は肌寒く、近畿自然歩道の日陰には霜柱がありました。街から近いとはいえ、標高1000mの貫禄を感じます。シュラインロードの麓はアセビが満開でしたが、自然歩道沿いのアセビはつぼみの状態でした。六甲山上の春はこれからのようです。来月は満開になるものと心待ちです。



六甲山地の地質についてお話を聴く

六甲山地の花崗岩を知った

県立人と自然の博物館の主任研究員、先山徹さんに今年度最後の市民セミナーを締めくくっていただきました。先山さんは、南極観測にも行かれた花崗岩研究の専門家です。岩石見本やスライドで、六甲山地の地形や地質、大部分を占める花崗岩について解説していただきました。六甲山地は、活断層の運動による隆起でできた山で、約9～8千万年前の花崗岩でつくられていることを理解しました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

有馬温泉（金泉）は珍しい温泉

六甲山地は災害が起きやすい地質ですが、みかげ石や有馬温泉という花崗岩地帯ならではの恵みもあります。有馬温泉（金泉）は、全国に5箇所しかない珍しい泉質であると聞き、大変関心を持ちました。

質疑応答も活発に行われました。先山さんの南極観測の体験談もあり、興味の尽きない話が続きました。先山さんの専門的な話に加えてユニークな体験も伺って、一層親しみがわきました。

冬の贅沢なおもてなしが終わる

平成16年度最後の市民セミナーも大変盛況でした。里見ホールの暖炉や、焼き芋も食べ納めとなり、来月からは会場を自然保護センターに戻し、清貧の時代？に変わります。来年度も充実したセミナーを継続していきたいです。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 久保 紘一さん

先山先生のお話を聞いて、私の住んでいる東灘区住吉は素晴らしいところと思いました。住吉川周辺には六甲花崗岩、丹波層群など、地質図を見るといろいろな地層がみられるようです。

六甲山地の接峰面図や、地質図と、普通の地図を重ね合わせながら山を歩く楽しみが増えました。

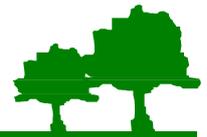


【助成金をいただいている機関】

灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ：六甲山をつくる花崗岩の性質とその影響



第24回市民セミナーの流れ

市民セミナー

- 1. あいさつ : 13:00~13:10
- 2. 講演 : 13:10~15:05
- 3. 休憩 : 15:05~15:25
- 4. 交流会 : 15:25~15:55

講演

- ①六甲山地の地形と地質
- ②花崗岩とはどんな石か
- ③有馬温泉のでき方



※パワーポイントと岩石見本を用いて、講演していただきました。

講演のあいさつ(先山 徹さん)

私は、神戸の西鈴蘭台に住んでいます。大きな見方をすれば六甲山に住んでいると言えます。

出身は岐阜県です。新婚旅行で神戸を訪れ、六甲山ホテルに泊まりました。今日は、六甲山の地形と地質、花崗岩とはどんな石か、またその花崗岩によって起こることを紹介します。



ニコニコ顔の先山さん

講演内容

前半は、六甲山地の地形と地質、花崗岩についての解説。後半は、みかげ石や有馬温泉についてご紹介いただきました。

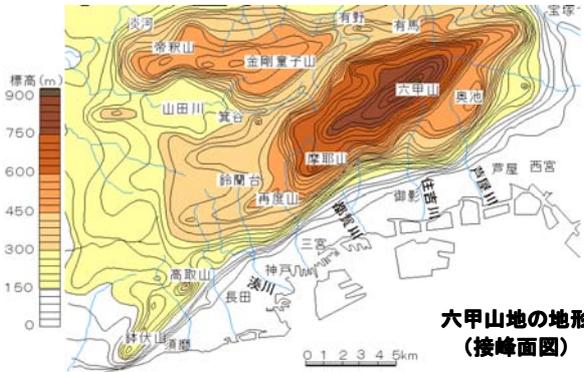
1. 六甲山地の地形と地質

■六甲山はどんな山か？

地形の特徴：断層でできた山

六甲山地は海のすぐ側にあり、急傾斜で高い山である。接峰面図（地形の概略図）を見ると、六甲山は急傾斜の部分と平坦な部分が階段状になる。傾斜が急なところには断層がある。

海からすぐ急斜面となるが、山上部分はなだらかで平らである。したがって開発がしやすく、900mの高さにゴルフ場がつけられた。



地質の特徴：花崗岩でできた山

六甲山地の大部分が約9千万年～8千万年前（中生代白亜紀）の花崗岩でつくられている。活断層の運動による隆起でつくられた山地で、花崗岩以外には、4つの層群と安山岩からなる。

丹波層群：ジュラ紀（約2億年前）で海溝により堆積した地層。

有馬層群：白亜紀（約9千万年～8千万年前）で火山活動によりできた地層。

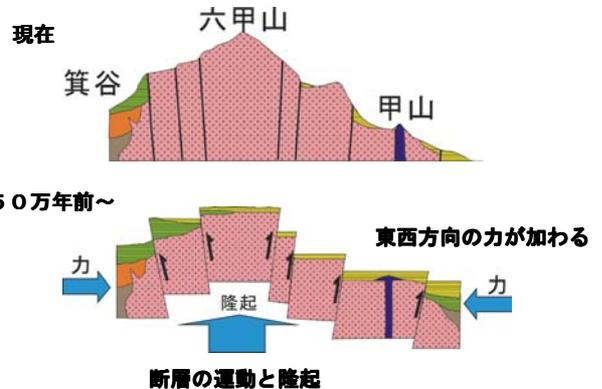
神戸層群：古第三紀（約3千5百万年前）植物化石やほ乳類の化石が見つかる。

甲山安山岩：新第三紀：（約1千5百万年前）大陸続きの日本が列島となる。そのときに甲山ができた

大阪層群：約2百万年～50万年前に、隆起して六甲山ができた。

※層群とは、地層が重なって、ひと続きのものをまとめたもの。

約50万年前から、左右の力が加わって隆起が起こり六甲山地となる。隆起したため、地下の岩石（花崗岩）が盛り上がってきた。（下図）



2. 花崗岩とはどんな石か

■花崗岩の特徴

地下でマグマがゆっくり固まってできたもの。石英・斜長石・カリ長石を主とし、黒っぽい鉱物が多い。花崗岩は大陸地殻にしかない。（海は玄武岩）日本列島では、白亜紀から古第三紀（9千万年～3千万年前）に貫入。花崗岩は、マグマだまりの化石とも言える。大陸がどうやってできたのかを調べることができる。風化しやすい。

■六甲山地の大部分を占める六甲花崗岩

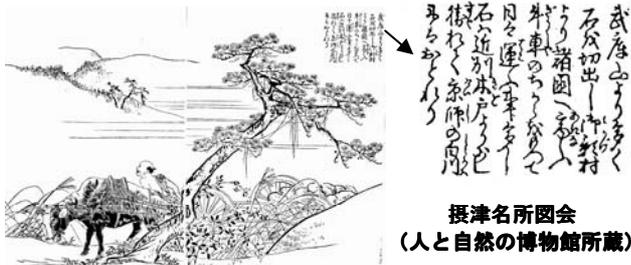
有馬層群の下で固まったものが、六甲花崗岩となる。六甲山地は、六甲花崗岩がほとんどで、その他に布引花崗閃緑岩がある。花崗岩は磁力を持っており、その強さは場所によって違う。（糸でぶら下げた磁石を石に近づけると、磁石が六甲花崗岩にくっついた）

■六甲山地は石材（みかげ石）の産地

花崗岩のことを一般に「みかげ石」というが、それはもともと六甲花崗岩のことである。みかげ石は、御影で採石した石ではなく、御影村から運んでいったことから、みかげ石とつけられている。

江戸時代の撰津名所図会に、御影の村より御影の浜から諸国へ牛車で運ぶ様子が描かれている。

みかげ石の質に関して、近江の木戸より優れ、京都の白川より劣ると記されている



撰津名所図会
(人と自然の博物館所蔵)

2002年6月、芦屋市六麓荘浄水場の工事の際、みかげ石採石場の跡が見つかった。くさびを打ち込んで切ったと思われる跡や工具も見つかった。石切場跡をみると、その部分がかつての土石流による堆積物で、それによって運ばれてきた岩石を切り出して石材にしていたのがわかる。

■花崗岩がもたらすもの

花崗岩からなる六甲山地は、地震による崩壊や、土石流などの災害が多い。花崗岩は風化しやすく、はげ山になりやすい。風化は、節理の間隔によって異なる。



ロックガーデン



蓬萊峽

ロックガーデン（芦屋市奥山）：節理の間隔が広い。比較的硬い岩が積み重なり、トア（岩塔）ができる。
蓬萊峽（西宮市山口）：節理の間隔が狭い。風化した花崗岩が風雨にさらされて浸食され、切り立った地形になる。ガリーと呼ばれる溝ができる。

3. 有馬温泉のでき方

■有馬温泉の謎

花崗岩地帯（近畿～中国地方）は温泉が多い。温泉水の起源には、有馬型、グリーンタフ型、海岸型、火山性に分類される。有馬温泉の金泉は、有馬型温泉（銀泉は炭酸泉）。有馬温泉の起源は古海洋水で、何万年も前の海水が入り凝縮されて深い断層からあがってきていると考えられる。

活断層（有馬—高槻構造線）が高温の温泉をもたらしたと考えられる。はっきり有馬型温泉といえる場所は、有馬・宝塚・石仏・塩野・鹿塩の5カ所といわれている。

	金泉 有馬型温泉	銀泉 炭酸泉
温度	高 (90°C)	低
深さ	深い	浅い
ナトリウム	多い	少ない
カリウム	多い	少ない
鉄	多い	少ない
塩素	多い	少ない
二酸化炭素	少ない	多い

有馬温泉の金泉と銀泉の違い

六甲山の恩恵を活用しよう（まとめ）

六甲山の地質持性が、街に大きな影響を与えています。交通障害、地震や水害も起こりやすいが、天然のよい港や温泉、石材などすばらしいものもあります。六甲山は人と密接した山であり、気軽に入ることができる、使って楽しい山です。防災を考えると同時に、自然の恩恵をもっと活用すべきだと思います。

質疑応答など

質疑応答では、岩石についての質問や参加者が持参した石の鑑定と活発にやり取りが行われた。さらに、南極観測の経験もお話いただいた。

参加の感想 岩田 勝清さん

42年間六甲山ホテルにいました。本日の花崗岩についてのセミナーは大変参考になりました。最後の6年間は土作りをして、ホテルで使う野菜を作っていました。また、山菜がたくさん採れるのも、花崗岩のせいでしょうか？



◆参考・配布資料など

- ・スライド（3種）
- ・岩石見本（約20種）
- ・レジュメ
- ・企画案内チラシ
- ・ひとくセミナーガイド
- ・ひとく通信ハーモニー



兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL：079-559-2001 FAX：079-559-2007
URL：http://hitohaku.jp/ Mail：root@hitohaku.jp

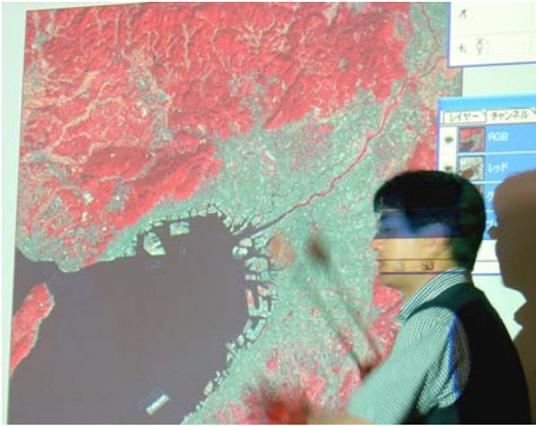
◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・花崗岩と災害や温泉の関係がよく理解できた。
- ・有名なみかげ石の話は、興味深かった
- ・持参した石の鑑定もして頂け、有り難かった。
- ・自分の足の下（地下）の歴史にとっても感動した。

◆参加者：25名（順不同・敬称略）

先山 徹 八木 浄 村上 定広 大谷安規永
久保 紘一 石田 澄子 中垣内 博 泉 美代子
岩田 勝清 山口 紀子 川口嬉子 光宗 智子
兼貞 力 澤田 俊哉 岩島 年子 山田 良雄
舟木 冴子 山本 悟而 久保 順一 尾崎 尚子
遠井 方子 堂馬 英二 米村 邦稔 中川貴美子
小野 律子

第14回テーマ：宇宙からみた六甲山



上空700キロから眺める

講演内容

- ①物理：赤外放射強度
宇宙からみた六甲山
- ②歴史：風水学の発達
京の鬼門、神戸の鬼門
- ③地理：地形と気候
六甲風と阪神タイガース
- ④数学：ベクトル 内積
- ⑤家庭：六甲風と脳梗塞

実施日：平成16年5月15日（土）
午後1時～3時55分
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：^{みやまき}宮崎 ^{ひろし}ひろ志さん
プロフィール

1959年神戸市東灘区生まれ。神戸大学工学部環境計画学科卒業。博士（工学）、一級建築士。現在、兵庫県立人と自然の博物館研究員、兵庫県立大学講師。専攻は建築学、都市環境計画学。

総会後の記念講演はひとほくの宮崎さん

新緑がまぶしいさわやかな六甲山で、当初初めての平成16年度総会を開きました。午前中は会員が集合し、事業報告や会則等について話し合いました。

総会終了後、午後からは記念講演として県立人と自然の博物館研究員の宮崎さんにご出講いただきました。宇宙からというこれまでにない大きなスケールで六甲山を見つめることができました。

六甲山は真っ赤だった

人工衛星からの映像に写る六甲山にビックリ！なんと真っ赤でした。驚きながらも話を聞いていくと、この赤は緑地を表示しているということでした。神戸は六甲山のお陰で国際レベルの緑地を持っていることを改めて理解し、安心と同時に六甲山の重要さを確認しました。宮崎さんのフランクな感じと優しい語り口により、難しい内容を理解しつつ、和やかな時間を過ごしました。



六甲山の強烈な赤にくぎづけ

参加交流が板についてきた

市民セミナーの回数を重ねるうちに、参加者同士の交流が見えてきました。会員の泉さんが昼食時におにぎりと手作りの煮物を持ってこられ、おいしく頂いたりするなど、知らずのうちに六甲山上での交流と楽しみができ、嬉しく思いました。

また、今回当会の赤字運営を助けていただきたく、茶菓子コーナーにカンパ箱を設置しました。ご協力いただきありがとうございます。皆様のご厚意に感謝します。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

参加の感想

山内 邦子さん

宇宙から世界各地の緑の分布と比較しながら六甲山の緑の多い画像を見せていただき、その重要性和私たちが無意識のうちにその恩恵に預かっていることを改めて再認識しました。もし、明治のはげ山のままであったらと想像すると、次代のためにも緑を守り育てなければと考えさせられました。

1時間目から予備の時間まで、先人の知恵のすばらしさや、野球の解説にもないような六甲風のお話など、身近な例を取り上げて分かりやすくお話をしていただき楽しませていただきました。

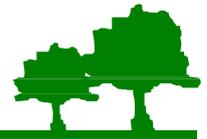


主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会



テーマ：宇宙からみた六甲山



第14回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:10
2. 講演：13:10～14:40
3. 質疑応答：14:50～15:15
4. 懇談会：15:15～15:55

講演

- ①物理：赤外放射強度～宇宙からみた六甲山
- ②歴史：風水学の発達～京の鬼門、神戸の鬼門
- ③地理：地形と気候～六甲風と阪神タイガース
- ④数学：ベクトル 内積
- ⑤家庭：六甲風と脳梗塞

授業仕立てで
進めます！

講演のあいさつ(宮崎 ひろ志さん)

今日のレジュメを見て何をするのか不安かもしれませんが、気軽にお聞き下さい。

今、地球人口は一日に20万人増えています。このまま街を作り続けていくと、地球はパンクしそうです。人が自然を壊さずに生活するにはどうしたらいいのか考えてみたいと思います。



講演内容

■ 1時限目：物理 赤外放射強度

人工衛星ランドサットがとらえた神戸の映像写真。上空700キロ、2001年に撮影したものである。宮崎さんの学生時代にはこの種のデータが48万円で売られていたが、現在は10万円位。しかし今回はアメリカのGLCF(メリーランド大学)サーバから無償でダウンロードしたもの。

(<http://glcfapp.umiacs.umd.edu:8080/esdi/index.jsp>)

赤色の部分が緑地である。六甲山が五助谷断層を境に、2つの山塊から成っているのが分かる。大阪市の緑被率6.7%、車窓などから緑が多いと感じる東京都区部はなんと6.5%で、実は大阪のほうが緑は多かった。



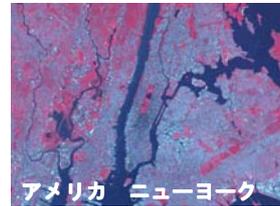
真っ赤な六甲山

(衛星画像は緑地を見やすくするため赤色で表示する)

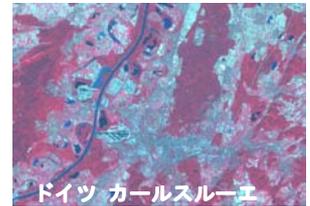
外国と比べてみる

アメリカ：大都会ニューヨークは緑が多い。

ドイツ：森の中に原子力研究所がある。屋上緑化が多い。ベンツ社のビルの屋上も緑だそう。



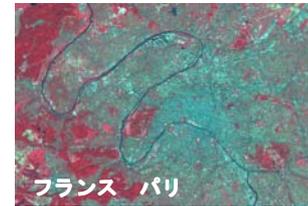
アメリカ ニューヨーク



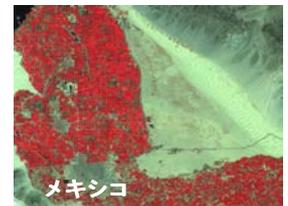
ドイツ ガールスルーエ

フランス：パリ市内にも大きな緑地が残されている。

メキシコ：真四角の耕地が整列する。右ははげ山で草が生えている程度。明治時代の六甲山みたい。



フランス パリ



メキシコ

神戸は緑が国際レベル並にある。六甲山は神戸にとってありがたい存在なのである。

2時限目以降は問題形式で始まった。(答えは次のページにあります。)

■ 2時限目：歴史 風水学の発達

[練習問題]

左右の語句のうち関係するものを線で結べ。

表鬼門・	・南西
裏鬼門・	・北西

表鬼門、裏鬼門など一般に広まっている家相は京都の人が考えた。鬼門にはトイレと釜戸を作るなどという。家相をかりて先人の知恵を伝える。京都では、裏鬼門は比叡山、表鬼門は淀川で、どちらかの方向に風が吹く。

■ 3時限目：地理 地形と気候

[準備問題]

甲子園名物「浜風」は次のうちどちらか。

- (ア) センターからバックネット方向に吹く風
- (イ) ライトからレフト方向に吹く風

六甲山に沿って東西に横風が吹く。

■ 4時限目：数学 ベクトル

〔山勘問題〕

次のベクトルのうち、内積が0とならないものはどれか。

- (1) 白雪と剣菱 (2) 呉春と白雪
(3) 呉春と剣菱

ヒント：二つのベクトルが直交するとき、内積は0になる。白雪（伊丹） 剣菱（御影） 呉春（池田）

おいしいお酒の理由

発酵した酒を冷ます技術は、風に当てること。（寒づくりはおいしさの秘訣。）おいしいお酒の条件とは、①六甲おろし、②山田錦、③宮水の3条件である。六甲嵐があるから冷ませる。ちなみに呉春は猪名川の風で冷ますそうだ。

■ 予備：家庭 六甲嵐と脳梗塞

「脳梗塞になりやすい環境」とは？

断熱のない家は脳梗塞になりやすいそうだ。立った時に頭の温度と足下の温度差が5度以上違うと危険。足の血管が縮まり、血液が頭の方へ上昇する。冬、暖かい居室から寒いトイレや風呂場へ行くときの温度差が原因で亡くなる人も多い。これをヒートショックという。予防方法は、①頭の温度を下げる、②床暖房にする。ストーブ類（空気を暖める器具）はやめた方がいい。（暖かい空気は上昇するため）

質疑応答

ビル風のしくみ、風を循環させるには暖炉がおすすすめ等、家の中での風の利用方法について説明していただいた。



ビル風のしくみを解説

2時限目の答え：表鬼門ー北西、裏鬼門ー南西

3時限目の答え：(イ) 4時限目の答え：(1)

◆参考・配布資料など：

- ・レジュメ配布「これが宇宙から見た六甲山」
- ・問題用紙

兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL：079-559-2001 FAX：079-559-2007
URL：http://hitohaku.jp/ Mail:root@hitohaku.jp

◆カンパに感謝！ありがとうございました。

カンパ箱へのご協力誠にありがとうございました。集まりました金額1,352円については、次回の市民セミナーの茶菓子代にさせていただきます。

◆報告書4月号(vol.13)の訂正

第13回の市民セミナー報告書につきまして、2ページの上段顔写真が井上和子さんとなっておりますが、正しくは稲田晴紀子さんです。また、同じく2ページ小坂さんの参加の感想につきまして、8行目に秋の庭とありますが、正しくは私の庭です。訂正と同時に詫言申し上げます。

新たな顔ぶれ～感想文をお願いしました～

参加の感想 村上 定広さん

幼少から少年期を過ごした六甲山は、常に気になり、「六甲山」の言葉の響きを聞くたびに、その一瞬は自分の少年時代に立ち返る。そんな六甲山でボランティア活動につられて参加したのですが、宇宙から見た六甲山の凄い映像を拝見出来感動致しました。随分と緑の多さに安心しましたが、同時に子供の頃に山肌をみせた斜面で水晶拾いをしたことも思い出されました。そしてこのセミナーの事を友人達に知らせねばと手紙を書きました。



参加の感想 岡井 敏博さん

初めて参加させていただきました。久しぶりの六甲山で俗世の仕事を離れてリフレッシュできました。さて、「授業」は宇宙から六甲山を見るとどうなるかというテーマでしたが、六甲山があつてこそ、風が吹き、水が流れ、お酒もタイガースも人の生活も歴史も左右されるということで、改めて六甲の存在の大きさが鮮明になった気がしました。昔からなじんできた「登る山」とは違う楽しみ方が発見できました。ありがとうございました。



参加者の声 アンケートより

◆セミナーの感想

- ・時間割と優しい語り口で、小学生に戻ったような気分だった。
- ・世界の各都市と神戸を緑化状況から比較し、六甲山の役割が非常に大きいことがよくわかった。
- ・酒蔵の位置が風の方向に関係して異なっているのは面白かった。
- ・今回のテーマからどんな難しいお話かと思っていたが、とても分かり易く興味深い話だった。
- ・住居に関する生活の智恵は役立ちそう。

◆参加者：28名（順不同・敬称略）

宮崎ひろ志	澤田 中	石田 澄子	小坂 忠之
村上 定広	三村栄三郎	西尾 智明	荒井 貴夫
近藤 佳里	山内 邦子	岡井 敏博	戸田 清彦
泉 美代子	兼貞 力	山本 悟而	八木 浄
北山健一郎	青木 光子	高光 正明	堂馬 英二
米村 邦稔	松井 光利	小野 律子	中川貴美子
遠井 方子	藤井宏一郎	中野 一	菖蒲 美枝



六甲山から望む市街地

第22回テーマ： 都市環境と六甲山

講演内容

- ①都市と自然から見る六甲山
- ②郊外居住と自然から見る六甲山
- ③地球環境時代から見る六甲山

実施日：平成17年1月15日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山YMCA
里見ホール



さわき 昌典さん
講師：澤木 昌典さん

プロフィール

1957年生まれ。1982年大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了。1992年兵庫県立人と自然の博物館研究員・兵庫県立大学助手。2004年9月大阪大学大学院教授。

瞬く間に銀世界になった

この日の六甲山には、大晦日に降った雪がまだ残っていました。記念碑台周辺の散策路には10センチくらいの霜柱やつららなど、市街地では見られない光景を目に、冬本番を実感しました。

23名の熱心な参加者が里見ホールに集まりました。今や恒例となった暖炉で焼いた焼き芋を片手に、ざくばらんにお話を聴きました。講演が始まるにしたがい雪がどんどん降り積もり、マイカーで参加された2名の方は、下山が危険なので途中で帰られました。



どんどん降り積もる雪

地震の積み重ねでつくられた六甲山地

澤木さんは、都市環境デザイン学がご専門で、都市計画やまちづくりなどを研究されています。今回は、都市から六甲山を見つめるという切り口でお話いただきました。今年は阪神大震災10周年で、澤木さんが撮影されたスライドを見ながら震災の様子を振り返りました。神戸にはたくさん活断層がある、六甲山は100万年以上をかけて地殻変動を繰り返し、形成された山であるとの解説に、大自然の脅威を痛感しました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
 後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
 灘区役所 神戸市教育委員会

恵まれた環境を持つ阪神間の居住地

阪神間は瀬戸内海に面し、六甲山の南斜面に位置する郊外居住地の先進地域です。明治半ば以降、快適な環境を求めて都市から郊外へと人が集まり、郊外化の進行と同時に様々な環境問題も発生してきました。

コンパクトタウンを目指す神戸

コンパクトな生活圏の集まりで市街地を構成し、周囲に自然環境を保全していく形が神戸のあり方と澤木さんは話されました。澤木さんからの冷静な投げかけには、地球環境から見つめる100万年のあり方、私たちのあり方について啓示を受けた1日でした。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 田中 有司さん

山の鼓動、木々の息づきを感じると静寂の中、凍てついた山の小道を歩いたとき、遠い子どもの頃のことを思い出しました。

一方教室では、澤木先生の話を一言も聞き漏らしたくないと伺い、皆さんの熱心な様子、好を同じくする人達の集いの素晴らしさに感激しました。

そして、しんしんと降る雪、ほかほか焼きいも、暖炉で燃える薪の香がこの一日の新しい記憶として残っています。



【助成金をいただいている機関】

灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ：都市環境と六甲山



第22回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:10
2. 講演：13:10～14:50
3. 質疑応答：14:50～15:10
4. 懇談：15:10～15:30

講演

- ①都市と自然から見る六甲山
- ②郊外居住と自然から見る六甲山
- ③地球環境時代から見る六甲山



神戸市街地と六甲山を境する阪筋山断層（出典1）

講演のあいさつ(澤木 昌典さん)

私の専門は都市環境デザイン学で、都市計画やまちづくり等、人間にとって何が快適か、いい街にするにはどうすればいいかを探求しています。

都市や都市空間、地域のあり方を考える中で、環境・自然・人の調和（共生）という視点に立ち、研究・教育に取り組んでいます。

今日は、都市との関わりの中での六甲山の話、地球環境的視野も広げながらお話ししたいと思います。



澤木 昌典さん

講演内容

1. 都市と自然という観点から六甲山を見る

■阪神大震災を振り返る

今年で震災10周年。震災当日に六甲山の中腹から見た景色や御影周辺の様子など、澤木さんが撮られた写真で当時を振り返った。そして、地震が起こる断層について説明を聞いた。兵庫県地震を引き起こした断層は、逆断層で横ずれ断層であった。

地震の起きるメカニズム

正断層	横に引っ張られて起きる
逆断層と横ずれ断層	両方から圧縮されて起きる

■200万年前の六甲山地はなだらかな丘陵地

たくさんの断層がある六甲山地は、約200万年前、高い山ではなくなだらかな丘陵地であった。

約100万年前から活断層は大きく崩れ動き、六甲山地を上昇、大阪湾を沈降させた。約50万年前になると、上昇した六甲山地は河川によって激しく浸食された。その後、後退して阪神間に扇状地が形成され、その扇状地も活断層によって持ち上げられ、台地になった。

六甲山の段丘面には、大阪湾の海底にある地層と同じ年代のものが、相当多くの大震災の繰り返しにより形成された。



100万年前の六甲山地周辺(出典1))

2. 郊外居住と自然という観点から六甲山を見る

■居住地として恵まれた資質をもつ阪神間

都市に住むということから六甲山を見てみると、郊外居住の歴史はたかだか100年位である。阪神間や神戸は住宅地として非常に発達しており、日本全国から見ても先端の地域であった。

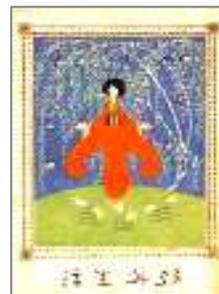
<阪神間の恵まれた条件>

- ・南向きの斜面（六甲山を背山）
- ・日当たりよし（瀬戸内式気候）
- ・明るい（真砂土＝六甲山の風化花崗岩から）
- ・海と山という自然が接近
- ・空気がきれい
- ・大阪に近い（神戸にも近い）

もとは都市の中に住んで、自分の家やすぐそばに働く場所があった。明治半ば以降、農村から都市へたくさんの方が集まってきた。都市の居住環境の悪化と同時期に鉄道が発達し、郊外に交通機関が整備された。海外からの影響もあり、郊外に住むことが憧れの文化生活となり、明治の後半から急速に広まっていった。

■阪神電鉄や阪急電鉄が宣伝

阪神電鉄は、大正初期に雑誌を発行し、郊外生活がいかに楽しいかを提示。六甲山がつくってきた阪神間のいい気候風土の中で、人間らしい健康的な生活をしていこうと呼びかけた。



阪神鉄道発行 月刊「郊外生活」→

■郊外住宅の事例

戦前、六甲山南山麓には、理想郷に近いような自然環境を活用した地域づくりがあった。

(芦屋・六麓荘)

イギリスの租借地をモデルにしている。自然の風致を損なわないように開発思想の中に六甲山の南斜面、松林を中心とする自然風致を残していこうとする意図が見られる。

(住吉村)

多くの富豪が大阪から阪神間に移り住んできた中で一番著名なのは住吉（昔の住吉村）である。旧住吉村の財産管理は、幼稚園や小学校、病院などをつくって、今も続いている。

3. 地球環境時代という観点から六甲山を見る

■環境問題の発生

20世紀後半から様々な環境問題が起き、90年代から地球環境問題が指摘された。従来の環境問題は害を出す発生源(加害者)がはっきりしているが、現在は誰が悪いと言えないような大きな問題が起きている。すぐには被害が出ず、被害は後世代に及ぶ。また、人間の生活を便利にするための化学物質が、人体に健康被害を及ぼすことも認識されてきた。

<20世紀後半から見る環境問題の移り変わり>

1960年代	産業公害	公害病
70年代	高速交通公害	空港、新幹線公害
80年代	生活公害	洗剤、ゴミ公害
90年代	地球環境問題	酸性雨・オゾン層
95年以降	化学物質問題	ダイオキシン他

■コンパクトシティ

先進国など環境負荷をかけてきた都市は、地球環境に負荷をかけない形の持続可能性のある都市をつくらうと考えている。そのひとつがヨーロッパで議論されている、コンパクトシティである。コンパクトシティは、分散した都市ではなく、密度の高い多様な機能を持って自動車に依存しない都市をつくっていくのが一つの流れ。ヨーロッパ、特に大陸の都市は、もともと都市を単位に自律的に発達してきたので、このような形の都市を考えている。

■ニュー・アーバニズム(アメリカ)

アメリカは、エネルギーの使用量、一人あたりの二酸化炭素排出量が世界で最も高い国である。新しい都市をつくる発想に、ニュー・アーバニズムがある。徒歩圏の規模で、住宅・商業・文化施設等の複合機能、周囲の自然環境や歴史的環境の保全、環境配慮などが考えられ、近隣周辺にグリーンベルト等の自然を残そうとしている。

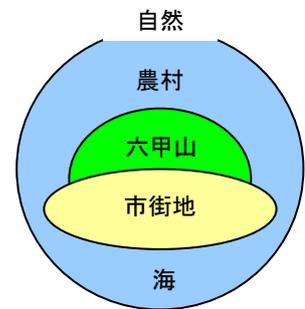
■神戸でもコンパクトタウンを構想

震災後、神戸市は、ヨーロッパのコンパクトシティのようなコンパクトという言葉を使った街を目指そうとしている。

わがまち意識を育てる地域のまとまりの中で、住民の日常生活がある程度可能で、そうしたコミュニティに自律性を持たせる。住民は自らの町のあり方を発想し、地域の自然や歴史、文化などの個性を大切にしまちづくりを自ら実践していくことによって、安全で安心して快適に暮らすことのできる生活圏を築いていく。安全・安心については、震災で人々のつながりが非常に大切なことに気づいた。このようなコンパクトな地域のまとまりの中で、自立したまちを神戸市内につくっていくという構想である。

澤木さんのまとめ

六甲山は、神戸市をはじめ山麓の都市から見ると、非常に貴重な場所になる。都市からの環境負荷を減らすことを前提としながら、コンパクトな生活圏の集まりから構成される市街地部分と周囲に豊かな自然環境を保全する、このような形が神戸市のあり方だと思う。



3つの大きな資源
都市(市街地)・農村・自然

六甲山と阪神間の都市は、まさにセットになっている。さらにその六甲山の背後(神戸市北区や西区など)には農村地域もあるので、都市と農村と六甲山の自然、この3つの大きな資源を包含した地域循環も築くことができるのではないかな。

(図出典): 1) 兵庫県立人と自然の博物館編
「兵庫県南部地震を考える」(1996.3)

◆参考・配布資料など:

- ・スライド(澤木さん持参)
- ・レジュメ

※現在『都市環境と六甲山』の講演記録を作成しています。ご希望の方は事務局までお申し出ください。



天候を気にしつつ記念撮影

◆参加者の感想 ~アンケートより~

- ・非常にわかりやすい講演であった。特に六甲山の成り立ちがよくわかった。
- ・人が快適に暮らすことだけを考えるのはあつかましいことだと感じた。
- ・銀世界の六甲山がとても新鮮だった。

◆事務局より

大雪の中での下山は大変でした。お車の方(小笠原さん、近藤さん、桑田さん)、便乗させていただきありがとうございました。

◆参加者: 23名(順不同・敬称略)

澤木 昌典 八木 浄 村上 定広 藤當 和子
北山健一郎 大谷安規永 新木 里志 高光 正明
小笠原康人 久保 紘一 田中 有司 中垣内 博
白岩 卓巳 久保 順一 近藤 佳里 柴田 正生
堂馬 英二 桑田 結 中川貴美子 小野 律子
藤井宏一郎 中野 一 菖蒲 美枝

第26回テーマ:六甲山の

景観計画を考える



改修中の自然保護センター

講演内容

- ①日本庭園の美
- ②六甲山は世界の都市林
- ③六甲山の景観計画を考える

実施日:平成17年5月21日(土)
午後1時～3時40分
場 所:六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師:中瀬 勲さん

プロフィール

1948年大阪府生まれ。大阪府立大学農学部卒業、同大学院農学研究科修士課程修了。カリフォルニア大学客員研究員等を経て兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授、兵庫県立人と自然の博物館副館長。

さわやかに3年目の踏み出し

六甲山は初夏を思わせるさわやかなお天気でした。自然保護センターは屋根や外壁を改修中で、六甲山ガイドハウスの完成に続いて記念碑台の様子が変わりつつあります。

午前中は当会の総会を開催し、3年目の事業活動を本格的に稼働しました。午後からは、来賓でお越しいただいた県立人と自然の博物館副館長の中瀬勲さんに記念講演をお願いしました。

あずまやの前でテーブルを敷いて、
のんびりとお弁当を楽しむ皆さん

「体当たりでの勉強」を重視

中瀬さんは『みどりのコミュニティデザイン』他、多くの著書がある景観計画分野の第一人者です。専門家として行政からの委嘱やNPO支援でもご活躍です。

今回は、日本庭園の美意識や外国の景観事例等を前段にして、六甲山の景観計画のあり方についてお話いただきました。中瀬さんは「私の教育技法は体当たりでの勉強だ」と、実践の大切さを強調されていました。気さくなお人柄にはとても親近感がわき、皆で楽しくお話を聴きました。

景観計画はみんなで作るもの

質疑応答も活発に行われました。中瀬さんは、これまで景観に関わる計画は行政がつくっていたが、これからは参画と協働の緑づくりが大切で、一般市民がビジョンや運営を考える時期に来ていると話されました。六甲山はみんながつかう山、みんなで提案をしようと投げかけられました。

考える方向がわかってきた

今回のお話で自然との共生や公園のバリアフリー化など、海外の景観づくりの先端事例も知りました。これからの六甲山の景観計画を考えるヒントを得たように思います。今後の市民参画について大いに励ましていただきました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 福永 一登さん

中瀬先生のお話をいろいろと聞かせていただいて、今後の六甲山の姿がいかにあるべきかを自分の中でも考えるきっかけになったと思います。

特に日本庭園やドイツでのピオトープの取り組み方や、小さいときからの環境教育の徹底などの話を聞いたときには、本当になるほどなあと思うことしきりでした。これからも六甲山の景観をよくするために自分も何らかの形で関わりたいと思います。



主催:六甲山自然保護センターを活用する会
協力:兵庫県立人と自然の博物館
後援:兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会



テーマ：六甲山の景観計画を考える



第26回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:15
2. 講演：13:15~14:40
3. 休憩：14:40~14:55
4. 質疑応答：14:55~15:40

講演

- ①日本庭園の美
- ②六甲山は世界一の都市林
- ③六甲山の景観計画を考える



いろいろな事例を聞く

講演のあいさつ(中瀬 勲さん)



中瀬 勲さん

私は30数年間造園学、景観学を勉強しています。博物館の宣伝ですが、生涯学習や環境教育を応援していきまして、たくさんのセミナーを行っています。講義内容は濃密ですので、是非参加してください。

講演内容

スライドを用いて日本庭園の美や外国の景観事例等を解説いただきました。そして、事例を参照しながら六甲山の景観計画についてお話を進めていただきました。

1. 日本庭園の美

■日本人の美意識

日本人の美の対象は大木や山々、雷など自然への恐れや神秘であり、自然をDNAとした美意識を持っている。

日本民族は桜が大好きだが、それは桜が散るからである。外国でお花見をしている人を見かけるが、大半が日本人である。こうした美意識の背景には、仏教や死の概念などが存在する。

■日本庭園のデザイン ~借景と縮景~

借景は日本のオリジナル。六甲山を考えた場合、神戸の街を借景していると言え、逆に神戸は六甲山を借景しているとも言える。神戸から六甲山を取ってしまうと面白くない街になってしまう。

縮景とは、距離を縮めて五感を通じて美を感じ取る技法。距離が近くなった分、触覚や嗅覚で感じ取ることができる。

日本庭園にはストーリーがある。映画は短いカットを時系列化したものだが、日本庭園では視線を灯笼に注目させるなど、景色の一部を意図的に隠すことで部分(カット)に分けられていて、全体のストーリーが構成されている。

■景観は五感で感じる

景観は「見る」だけではない。水琴窟やししおどしなど、「聞く」景観もある。日本庭園を歩けば足の裏でも感じる。触る、匂う、聞くなどいろいろな感覚を使う。桂離宮や修学院離宮などの庭園は、世界の宝物である。



修学院離宮



桂離宮

2. 六甲山は世界一の都市林

■神戸の魅力は六甲山

「日本の庭園は世界で最も美しいのに、なぜ街は汚いのか。」と、外国人の留学生によく聞かれる。私たちは街の汚さに慣れてしまっている。では六甲山はどうするべきなのか。

六甲山は、神戸近辺の人達にとっての原風景かもしれない。海外の山のない街に行ってみると、神戸が六甲山によっていかに魅力的になっているかがわかる。

音や香りも全部景観の一部である。英語の「ランドスケープ」は「見える」が基本で、ドイツ語の「ランドシャフト」は「地域的な広がり」を指す。六甲山ではこの2つを採り入れて考えたい。

■世界に通じる都市林

日本の観光地は、松島や天橋立など海際であったが、明治以降、内陸へ拡大した。六甲山は元々里山ではなく奥山であり、それが都市林へと変わった。六甲山の開祖と呼ばれるA.H.グルーム氏が森林の楽しさを日本に紹介し、内陸の美意識を教えてくれたのである。六甲山は日本の近代レクリエーション発祥の地である。

世界の名だたる都市には都市林がある。ニューヨークにはセントラルパーク、パリにはフォンテーヌブローの森、神戸には六甲山である。

六甲山は世界一の都市林であり、六甲山を活用すればするほど都市林としての価値は大きくなるだろう。



日本初のゴルフ場

3. 六甲山の景観計画を考える

■住民参加で考えたい

六甲山の景観計画は、今までは専門家や欧米人が担ってきた。これからは我々市民が考えなければならぬ。観光をレクリエーション、レクリエーションをエコと呼びかえるだけではいけない。

ウィーンの森は、平日働いた人が健康を取り戻す場所である。六甲山も同じだ。環境教育や生涯学習の拠点となってもいい。

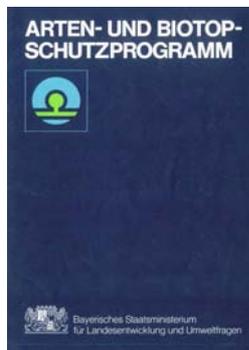
六甲山グリーンベルトの構想は、住民参加でなければいいものがないかもしれない。また、山頂や山腹にどんどん増えている住宅地との兼ね合いは課題である。動物は住まいをつくるのに、自然を利用してちゃんとつくる。人間の方が家づくりは下手かもしれない。動物の身になることも必要だ。

■ドイツでは生き物を含めた土地利用計画

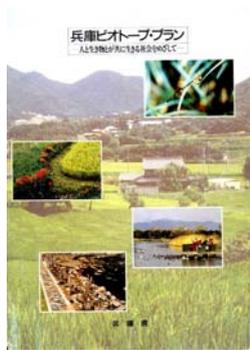
ドイツには緑の党の流れがあって自然保護が当たり前になっており、「生き物を含めた土地利用計画」=ABS Pがある。ABS Pは市民参加でつくられ、高層住宅地や工業地域から軍用地まで、地域全体がビオトープとされている。

ドイツのミュンヘン空港には、真ん中に大きなグリーンベルトが通っている。開発工事をする前に生き物への対応が考えられている。

日本の場合、ABS Pが無い状態で、ケースバイケースで意見を言うから進展しにくい。六甲山でも生き物のためのビオトーププランをつくるべきだ。



ドイツのABS P



兵庫のビオトーププラン

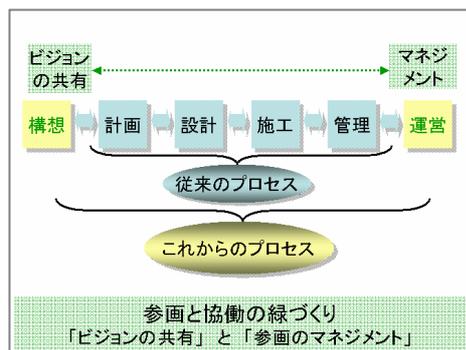
質疑応答・感想など

ビオトープの意味は？：B I O（生き物）+ T O P（空間）で生き物の住む空間。日本ではトンボの池や学校の池など、矮小化されてしまっているが、本来は地域全体を含むものである。

景観計画は、一市民としてどうやって作ればいいのか？：いろいろな人を呼んできてチームをつくり、NPOが提案すればいい。但馬・丹波など都市計画がないところには緑条例があって、集落の人が「こうしよう」という提案に行政が合意するという仕組みになっている。六甲山でも勉強会を開いて、行政の担当者に話を聞いてもらい提案していけばいい。
老若男女が楽しめる公園はあるか？：シドニーの公園やニュージーランドの幼児教育が先進事例。

六甲山のビジョンをつくろう（まとめ）

今まで公園づくりにおいても、構想と運営が欠けていた。昔はグルーム氏のように「個人」の六甲山のビジョンがあった。しかし現在は、六甲山をどうしようという「共通」のビジョンがない。ABS Pみたいなものを皆さんでつくっていったら素晴らしいのではないだろうか。



事務局より

今回、景観計画に関する国内外の事例をたくさん知ることができました。六甲山の景観計画を考える上で参考情報やヒントを得ました。みんなで考え、提案することを考えていきたいと思えます。

◆参考・配布資料など

- ・スライド、レジュメ
 - ・県立人と自然の博物館案内パンフレット
 - ・ひとはく手帖（2005年セミナーガイド）
 - ・プチシンポジウム3報告書
- 『21世紀の六甲山を見渡そう』

兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL: 079-559-2001 FAX: 079-559-2007
URL: <http://hitohaku.jp/> Mail: root@hitohaku.jp

◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・各地の日本庭園を気持ちよく拝観しているが、精密に縮景や借景が配慮されていることに感動した。
- ・ニュージーランドの幼児の自然教育は感心した。
- ・懇親会はファミリーな雰囲気です話ができ楽しかった。

◆参加者：28名（順不同・敬称略）

中瀬 勲 八木 浄 村上 定広 大谷安規永
小坂 忠之 浅井 審一 澤田 中 鈴木 武
青木 孝子 泉 美代子 田中 有司 久保 順一
中垣内 博 北山健一郎 新木 里志 田中 弘子
山口 紀子 中務 勝子 福永 一登 堂馬 佑太
堂馬 英二 桑田 結 米村 邦稔 松井 光利
小野 律子 中川貴美子 藤井宏一郎 菖蒲 美枝

第3回テーマ：六甲山の森づくり



森林整備事務所

講演内容

(1) 森林

林業・森林・林学
(森林科学)

(2) 六甲山の緑化と活用

～六甲山の緑を育てる

六甲山の100年

そしてこれからの100年



講師：高橋 敬三さん

プロフィール

昭和21年生まれ 神戸・西宮育ち
鳥取大学大学院卒業後神戸
市就職、森林整備事務所勤務
平成14年より4月から
神戸市建設局公園砂防部

実施日：平成15年6月21日(土) 午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内 レクチャールーム

梅雨の晴れ間で定員一杯の盛況

この日は梅雨時に珍しい好天に恵まれ、記念碑台と自然保護センターを訪ねてくる人が多かった。「六甲山の森づくり」という格好のテーマや講師の高橋さんに惹かれてか、市民セミナーへの参加者も32名となり、定員の30名を越えた。準備した資料が不足したり、当日の参加申し込みを受け入れられなかったり、予想以上の盛況に戸惑った。募集定員を増やすことを考慮する弾みを与えていただいた。



講演に聞き入る参加者

森づくりにかける高橋さんの情熱

神戸市に採用後、公園緑地部緑地課自然公園係(今の森林整備事務所)に配属されて六甲山を歩き回った青年時代、そして今、同事務所の所長として100年の歴史を踏まえて六甲山のこれからの100年を構想されている。高橋さんにとっては六甲山の森づくりはまさにライフワークだ。一貫して大好きな六甲山に関わってこれたのは幸せなことでもあり、そこに打ち込まれる深い情熱には感動を覚える。

六甲山の森づくりの課題を知った

六甲山の100年におよぶ植林、治山の歴史を紹介していただいた。戦国時代の禿山、明治中期の居留外国人の開発、「森林美学」を踏まえた植林の開始、昭和13年の大水害後の砂防、戦後の大規模植林など、六甲山が緑に包まれるようになった経緯を見渡すことができた。禿山に人の手で緑を回復した世界的にも誇れる植林活動。



森づくりの活動

これからは「(優良な森林を育てるために)木を伐って伐って伐りまくる」ことも含めて、楽しめる、そしてより豊かな六甲山の森をつくる課題に直面している。

専門家揃いで論議が賑わった

国土交通省六甲砂防事務所長の星野さん、神戸県民局県土整備部の釜谷さんなど行政の専門家。県立人と自然の博物館の鈴木さん、兵庫生物学会会長の白岩さん、兵庫県の生活創造センター所長の西川さんなど研究者や教育関係者が参加された。ブナを植える会やひょうご森の倶楽部、自然観察指導員の常連の方々。間伐材の活用や自然環境の保全に見識をお持ちの方など、多彩な顔ぶれであった。講師とのやりとり、参加者同士へと活発に論議が交わされた。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局

兵庫県立人と自然の博物館



テーマ:六甲山の森づくり



第3回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 講演準備: 13:00~13:15
2. あいさつ: 13:15~13:20
3. 講演: 13:20~14:30
4. 質疑応答: 14:30~15:20
5. 懇談会: 15:40~16:10

講演

- (1) 森林
林業・森林・林学(森林科学)
- (2) 六甲山の緑化と活用
～六甲山の緑を育てる
六甲山の100年 そしてこれからの100年

- ・六甲山の森を育てる
- ・大規模植林の開始など
- ・六甲山グリーンベルトなど
- ・市民の参画と協働

講演のあいさつ(高橋敬三さん)



高橋敬三さん

今日は森の達人がたくさんおられて、僕なんかじゃしゃべると釈迦に説法みたいですので、話題提供してその後で皆さんに色々ご意見を伺いたいと思います。

講演内容

これからの50年が勝負

花粉症などでよく話題になる日本のスギ、ヒノキの人工林は戦後植えられたものが多いので、100年の森にするにはあと50年の関わりが大事である。

明治35年に始まった六甲山の森づくりに、「森林美」への造詣が深かった本多静六先生が関わったのは、ひとつの大きなポイント。

六甲山の北側にたいしやくたんじょう帝釈丹生山系というのがある。里山としての利用が昭和30年代まで続いていたのは帝釈丹生の方である。大都市がなかったら六甲山も丹生山も同じような山だったろう。

六甲山はハゲ山だった

神戸は、京都と西国九州を結ぶ交通の要所であるため、度々戦乱に巻き込まれ街が焼き払われた。その戦災復興のために木材が使われ、過剰な需要に自然の回復力が追いつかなくて山が荒れていった。だからすでに戦国時代には六甲山は禿山だったといわれる。その後も農用林いわゆる里山として過剰な利用が続いた。



禿山の植林



再度山の現在



『森林美学』新島善直／村山醸造共著

レクリエーション利用のはじまり(明治中期)

六甲山では禿山に植林を始めるのと同時期にレクリエーションの利用も始まった。その活動の中心は神戸ゴルフ倶楽部を日本最初のゴルフ場として開拓したグルームさん。彼はまた、山荘にきた兵庫県知事や神戸市長に、荒れた山への植林の必要性も説いた。

植林の始まり(明治35年)

明治30年ごろ、国土保全に必要な基本的な法律が整い、砂防法や森林法というような法律が時期を同じくしてできた。完成した布引の貯水池に大雨の度に土砂が流れ込むのを防ぐために、そして水源を緑化するために、明治35年に六甲山の再度山付近で計画的な砂防植林が始められた。

昭和13年の大水害

昭和13年の阪神大水害が、国土交通省の六甲砂防事務所ができるきっかけになった。まわりの村が神戸市に編入され、旧村の山林が神戸市に移管された時期である。昭和12年に神戸市有山林を所管する部署が拡充されて、山林管理の体制が充実しかけたころに大水害が起こった。その後始末に追われているうちに戦争の影響が色濃くなっていった。明治半ばの第1期の造林後は、大水害まで手入れ刈りと補植以外あまり手入れがされない状態が続いたようである。

大規模植林(戦後)

戦争後、昭和36年頃から、マツクイムシの被害地の植林が始まり、昭和42年から森林改造事業という大規模な植林が始まった。毎年大面積に植林を続けた時代が10年程続き、いまは樹種転換が主になっている。これは戦災復興のためにスギ、ヒノキという建築材の植林が奨励された国の政策が背景にあった。



植林され森に

美しい森づくり

本多先生の時代にもいろんな木を混植して、街から見ても四季が感じられる、山の中に入ってもレクリエーションを楽しめる気持ちの良い森を作りたいという考えがあったのではないかな。現在も神戸市の森林整備は、昭和42年から植えてきたスギ、ヒノキの間伐を行い、林の中に広葉樹を植えて針広混交林に変えてゆく作業を進めている。

ニセアカシアの処理作業

砂防造林のために植えられたニセアカシアの林は早く緑化するが、林の移り変わりがなく20年位経つと根こそぎ倒れることが多い。土を持って倒れるので、それが土砂崩れの原因になる。そのために春先から花が咲く頃に幹の皮をまるく剥いで立ち枯れさせる。しかし、結構労力のかかる仕事なのでなかなか進められていない。

利用の森にしよう

森を植えて育てるところから、さらに切った木を使って家具を作るなど、利用するところまでやる。ハイキングコースの補修や王子動物園のパンダが寝ている床にも六甲山の木を使っている。森で育てた木を、目に見える形で利用することになれば、六甲山の森が生活の中にも見えるものとなっていく。



六甲山の木を利用

市民の力が大きく影響

六甲山の場合は、常に緑化に市民の力というのが加わっている。(例：グルームさんやワーレンさんの私財提供。阪急百貨店の清水社長の呼びかけで六甲を緑にする会が発足、その寄付で行政機関が植林、六甲山緑化基金など。) そういう市民の力が常にバックになって六甲山の緑は育ってきている。裏を返せば市民の方々の六甲に寄せる思いが強い。

質疑応答

様々な意見が飛び交った

- ・六甲砂防事務所の星野所長にグリーンベルト構想や防災についての質問が集中した。
- ・ニセアカシアの有用性や木を切って森林に光を入れることが論議された。
- ・遠藤さんから間伐材の利用について提言があった。
- ・街中のイノシシと共生するという意見もあった。



質疑の様子

卒業生の森の提案

六甲山をどう活用するかということを考えていきたい。学習の森には、葺合中学や生田中学などの卒業生が植えた森がある。彼らが大人になって世界中飛び回るようになったときに、神戸に帰って故郷意識を感じる一番の元になってくる。県も市も良く考えて、基本的な六甲山をどう活用して思い出の故郷にするかということを考えていくべき。(白岩)

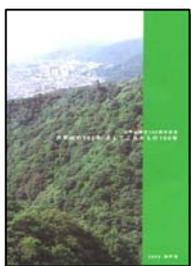
高橋さんのまとめ

六甲山は今後もレクリエーションの山として、都市の背景の山として整備を続けていくことになる。100年後に良い六甲山が残ったなあと言われるようになったらいい。市民懇話会の座長の田辺真人先生から「一緒に六甲山緑化200年史書こう」と言われているので、あと100年間は死ねない。

※お詫び：高橋さんが用意されたパワーポイントの資料を映写できませんでしたことをお詫びいたします。同時に、講演準備の間、アジサイの話をして頂いた米村さんにお礼申し上げます。

◆配布資料：

- ・『森林美学』からの「解題」部分
- ・頒布資料（500円以上の寄付）『六甲山の100年 そしてこれからの100年』 → 一六甲山緑化100周年記念報告書一（お問い合わせは下記）



神戸森林整備事務所（「森の小学校」併設）
所在地：〒651-1102
神戸市北区山田町下谷上中一里山 再度公園内
TEL：078-371-5937 FAX：078-371-1087
<http://www.portnet.ne.jp/~patapata/ms01.html>

◆懇談会：

講演参加者の約半数の方が引き続いて懇親会に参加された。初参加の方からは六甲山に関心を深めたという意見があった。アリマノウマノスズクサの研究者である白岩さんと記念写真を撮られたり、鈴木さんから「ひととはくキャラバン」の展示の紹介もあった。



河本さん

山西さん



アリマノウマノスズクサの白岩さん

講演テーマから発展して、同席の専門家のお話に親しむこともでき、多様な交流の場になった。(記録協力：高橋直樹)



懇談会の風景

◆参加者：32名（順不同・敬称略）

高橋 敬三	山西 一平	小笠原晋子	八木 浄
山田 良雄	内海 薫	大谷安規永	中川貴美子
遠藤 博	河本あゆ子	星野 和彦	西川智恵子
小野 律子	河津 幸生	松島 朋子	前田 清子
松井 光利	釜谷 正博	三上加津子	岩井百合子
青木 光子	高橋 直樹	堂馬 英二	西谷 実
富永 邦夫	前田 和子	前田 節子	米村 邦稔
宮島 敦子	白岩 卓也	岩浅 敬由	鈴木 武

第10回テーマ：六甲おろし ～今昔物語～



暖炉を囲んで

講演内容

- ①現在の六甲おろし
・阪神タイガース応援歌考
- ②古典から見る六甲山系
・百人一首他
・黄葉するネザサ
- ③六甲山の植物

実施日：平成16年1月17日（土）
午後1時～3時40分
場 所：六甲山YMCA 里見ホール



講演者：近藤 浩文さん
こんどう ひろぶみ

プロフィール

昭和6年 神戸市魚崎生まれ
昭和27年神戸大学教育学部
卒業、京都大学植物学教室で
研修。環境カウンセラー（環
境省）、兵庫県環境審議会委
員、兵庫県自然保護指導員

今年一番の大雪に恵まれた！？

セミナーの前夜からどんどんと冷え込み、翌日の積雪の対応に苦慮しました。天気予報の通り、六甲山は一面雪景色となりました。25名の熱心な参加者が揃い、「雪の六甲山はすばらしい」と異口同音に感激。「よくぞ皆さん来てくれました」と、スタッフ一同も感謝の気持ちでいっぱい。最高の雪景色と参加者に恵まれた一日になりました。



里見ホールのテラスで雪だるまづくり

近藤さんの軽妙な語り口

阪神大震災の9周年の日ということで、全員で1分間の黙とうを捧げ、講演へと進みました。スピーカーの近藤浩文さんは植物学を専門とされ、六甲山通として有名な方です。また、環境保全活動に対する助言などを行う環境カウンセラーとしても活躍されています。震災、阪神タイガース、六甲おろし、和歌、笹、六甲山の植物など幅広い知識と話題を紹介していただきました。

特に植物については、もっとご紹介いただきたいのですが、時間切れとなりました。近藤さんの軽妙な話しぶりに魅せられ、含蓄と専門知識の豊かさに引き込まれた1時間余りでした。

六甲山の思いを新たにしました

講演の質疑応答に入る前に休憩をしました。里見ホールの暖炉を囲んだり、窓の外の雪景色を眺めたりしてくつろぎました。新年で特別に用意した、おしるこ、甘酒等も味わっていただきました。終盤の懇談会では、それぞれが自己紹介をしながら六甲山についての思いや魅力など語り、六甲山への愛着を一層強めました。熱心な聞き手に集まっただき、また当日入会していただいた方もおられ、この市民セミナーが着実に歩んでいると実感しました。

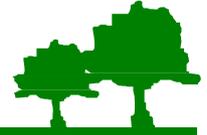
参加の感想 あけびグループ 中務勝子さん

六甲山上は一面の銀世界。部屋の中は赤々と暖炉の火、窓の外は降りしきる白い雪とまるで別世界でした。平安時代の和歌の中にも六甲嵐が詠まれていて、1000～1200年前から六甲嵐を肌で感じて使っていた等、和歌の中に詠まれている笹や植物などの見本を手にとりながら、名前の由来や種類などユーモアたっぷりのお話に、私達もつつこみをいれたり、ボケたりと参加者と先生と一体化し、あっという間に時が過ぎ、六甲山の冬の楽しさ、美しさ、厳しさを感じた一日でした。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所



テーマ：六甲おろし～今昔物語～



第10回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親 : 12:15~13:00
2. 挨拶案内 : 13:00~13:20
3. 講演 : 13:20~14:40
4. 質疑応答 : 14:50~15:15
5. 懇談会 : 15:15~15:40

講演

- ①六甲おろしとは
- ②現在の六甲おろし
・阪神タイガース応援歌考
- ③古典から見る六甲山系
・百人一首他 ・黄葉するネザサ



講演のあいさつ(近藤 浩文さん)



軽妙な近藤節

1月に冬の六甲山の講演ということで何を話そうかと困りました。昨年は阪神タイガース優勝でファンは何百回と「六甲おろし」を絶唱しましたが、この「六甲おろし」について、今と昔の様子をご紹介したいと思います。

有間山おろすあらしの吹きよせて
ゐなの笹原もみじしにけり 藤原堅隆(夫木和歌抄)

有間山とは六甲山のこと。おろすあらしはまさに「六甲おろし」である。ゐなのは現在の伊丹周辺の台地。六甲おろしが吹いて、猪名野の笹原が一面黄色くもみじしたと詠んでいる。その笹は六甲山麓一帯に多く自生し、秋から冬の木枯らし「六甲おろし」で黄葉するネザサと考察できる。黄葉するネザサを「ささもみじ」という。枯れたとは言わずにもみじするというのは風情豊か。



黄葉するネザサ

講演内容

六甲おろしとは

「六甲おろし」とは「比叡おろし」「伊吹おろし」などのように、晩秋から初冬にかけて遠い北の大陸から吹き出した寒風が、それぞれの山を越えて吹き下ろす強風のこと。天気図で見れば、「西高東低」冬型の気圧配置の時に吹く風が「六甲おろし」といえる。(風速8m/s以上の木枯し)

約千年前の当時のこの付近の自然環境が推察できる貴重な短歌だ。

六甲山系のササ

ミヤコザサ :

冬、葉のふちに白い隈どりができるので 通称クマザサと呼ばれている。葉の裏面に毛が密生する。標高500~600m以上に多く自生。

スズタケ :

太平洋側のブナの林床に多く、六甲山では紅葉谷や住吉谷、徳川道などで見られる。



ミヤコザサ



スズタケ

ミヤコザサとスズタケの違い :

節が丸々としているのがミヤコザサ、節から枝が出て枝分かれしているのがスズタケ。

有間山ゐなのさきはら風吹けば
いでそよ人を忘れやはする 大貳三位(百人一首)
吾妹子に猪名野は見せつ名次山
角の松原いつか示さむ 高市黒人(万葉集)
しなが鳥猪名野を来れば有間山
夕霧立ちぬ宿はなくして 読み人しらず(万葉集)

さらに、六甲山系に関係する様々な歌、万葉時代の西宮の地形、えびす神社、広田神社の由縁等々を詳しくお話しいただいた。

西高東低の気圧配置



阪神優勝の号外

現在の六甲おろし ～阪神タイガース応援歌～

♪六甲嵐に颯爽と、蒼天翔る日輪の～♪阪神タイガースの歌、通称「六甲おろし」。しかし、「六甲おろし」は晩秋から吹く風で、ペナントレースが終わる頃。作詞をされた佐藤惣之助さんはきっと日本一になることを想定して作られたのではないだろうか考える。(近藤さんの説、笑い)

ちなみに昨年の9月15日、10月23日も西高東低の気圧配置で、天気図までも阪神タイガースのユニホームの縦縞模様になったとは…。

昔から詠まれていた六甲おろし

「六甲おろし」を歌っているのは現在の阪神タイガースファンだけかと思いがちだが、実は、今は昔、平安から鎌倉時代の日本古来の和歌集でも詠まれている。

六甲山の植物を紹介

続いて、サルトリイバラ、サネガズラ、ヤブツバキ、サルナシ等、六甲山の植物を、現物を見せながら、名前の由来などを説明いただいた。

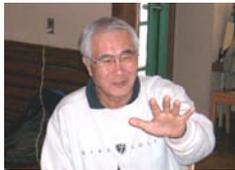
時間の都合により、話を途中で切り上げることになり、続編をお聞きしたいという声があがった。



名前の由来を説明

近藤先生のとまめ

21世紀の今日、多くの阪神タイガースファンが絶唱した「六甲おろし」ですが、実は、すでにはるか万葉の時代、そして平安～鎌倉時代の人々によって肌身に感じて詠まれていたのです。冗談を交えながらの講演でしたが、いくつか覚えて帰ってもらえればと思います。ありがとうございました。



山西 一平さん



三村 栄三郎さん

懇談会

自己紹介の後、それぞれの六甲山についての魅力や楽しみ方等、意見を交わし新年の思いを新たにさせていただいた。

※参加者主体という特色を強めるために、今回はお二方に感想をお願いしました。表紙記載の中務さん、山田さん、ご協力ありがとうございました。

参加の感想 山田 良雄さん

「六甲おろしと植物のお話」どうつながるのかと講演をお聞きしていると、小倉百人一首～ありまやま～を切り口に、六甲の笹の種類・高度差による植生の観察、と素人には大変わかりやすいお話で嬉しくお聞きしました。



講演後の懇談会は、幹事の上手な司会で全員が発言し、こもごも山と自然への愛着による参加動機が語られました。野次馬の私は「面白そう」の不純な動機ながら、見当違いの発言にも丁寧に教えていただけるのを楽しんでいます。

◆参考・配布資料：

講演レジュメ配布

～書籍紹介～

『六甲山の植物』 近藤浩文（共著）
神戸新聞総合出版センター
2300円（税別）

『六甲山』（登山・ハイキング案内）
近藤浩文（共著） 山と溪谷社
六甲博物誌（四季の花）
解説・写真担当・執筆
1200円（税別）



近藤さんへのお問い合わせは当会事務局にご連絡下さい。



近藤さんを囲んで記念撮影

参加者の声 アンケートより

◆セミナーの感想

近藤さんの博識と笑いを交えた話に感心した。平安時代、万葉集の話が良かった。軽妙な語り口と文学・歴史・自然学と幅広い話題で、あっという間に時間が過ぎてしまった。全ての事が耳新しく面白く居眠りの間がなかった。

◆冬の六甲山の印象など

子供の頃の耐寒ハイクを思い出した。裏六甲と表六甲の景色（雪）の違いに驚いた。六甲山の雪景色は初めての体験で感動した。足跡のない雪道、何の音もしない静けさに感激。

◆阪神大震災9周年について一言

何年経ってもあの時の「恐さ」を忘れない。よくここまで立ち直ったと思う。災害はまたやって来る。心の準備・物の準備・人のつながりを大切にしたいと改めて思った。人間に出来ない事はないような錯覚をしているが、実は大自然の前には何とも無力なものであることを再確認すべき。

◆参加者：25名（順不同・敬称略）

近藤 浩文	石田 澄子	青木 孝子	中務 勝子
山田 良雄	山西 一平	三村栄三郎	西尾 智明
山本 悟而	山田 勇	八木 浄	朝比奈 洋
兼貞 力	長尾 雅人	松島 朋子	村岡 義博
山脇 俊哉	堂馬 英二	米村 邦稔	松井 光利
那波 昌彦	小野 律子	藤井宏一郎	中野 一
菖蒲 美枝			



第29回テーマ： 六甲山の清掃運動と 水質調査

講演内容

- ①六甲山から
ゴミを一掃する運動
- ②六甲山における
水質調査と植樹



講師：岡 敏明さん

プロフィール

1947年兵庫県加西市生まれ。神戸大学経済学部卒、日本ペイント(株)勤務。1997年兵庫県勤労者山岳連盟傘下摩耶山友会入会、兵庫県勤労者山岳連盟理事(自然保護担当)

実施日：平成17年8月20日(土)
午後1時～3時30分

場 所：六甲山自然保護センター
レクチャールーム

記念碑台周辺の清掃整備を見直した

六甲山はとても涼しく夏の終わりを感じました。自然保護センターの展望テラスから見晴らしが良く神戸空港も見えていました。

午前の清掃整備ボランティア活動では、神戸市森林整備事務所の高橋所長から活動についての指導や助言を受けました。記念碑台周辺の散策コースを高橋所長と10名のメンバーと一緒に歩きながら、整備清掃の進め方を話し合いました。

兵庫労山のゴミを一掃する運動を知った

岡敏明さんは、兵庫県勤労者山岳連盟(略称：兵庫労山)に加盟している摩耶山友会の会員で、兵庫労山では理事(自然保護担当)をされています。今回は清掃登山運動「六甲山からゴミを一掃する運動」と六甲山系の水質調査を中心に、スライドや調査マップを用いてお話いただきました。清掃登山運動は27年間も続いており、環境大臣賞を受けるなど社会的に高く評価されています。セミナーには岡さんと同じく兵庫労山の仲間も参加され、積極的な発言で場を盛り上げていただきました。



27年間にも及ぶ運動に感動

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

飲み水の決め手は大腸菌の有無

兵庫労山では六甲山系の水質調査を自主的に定期調査されています。最近の実施結果や調査時の工夫や苦労話などを伺いました。コップが置いてあっても飲めない水場があることに驚きました。六甲山系の水は飲めるか飲めないかという話題で、大腸菌の有無が判断の基準になるとのことでした。

全市民にクリーン運動を呼びかけたい

六甲山で活動している団体や一般市民と一緒にあって、大々的な六甲山の清掃運動「10万人クリーン作戦」をしたらどうかという声がありました。今回をきっかけに何か試みを考えていきたいと思えます。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 根岸 真理さん

山歩きが好きな私にとって、六甲山は地元の山として一番身近な存在。以前からゴミを拾いながら歩いているグループをよくお見かけしましたが、今回兵庫労山さんの長年にわたる取組みについてお話を伺うことができて改めて感服しました。地道なご活動がハイカーのモラル向上などにも影響を与え、「よい循環」を作り出しているように思います。今後も更に多くの人を巻き込んで「六甲山のよき習慣」となればいいですね。



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山の清掃運動と水質調査



第29回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:10
2. 講演：13:10～14:40
3. 休憩：14:40～15:00
4. 質疑応答：15:00～15:30

講演

- ①六甲山から
ゴミを一掃する運動
- ②六甲山における
水質調査と植樹



講演のあいさつ(岡 敏明さん)

兵庫労山が27年間続けてきた運動についてご紹介します。私が携わってきたのは8年位になります。



岡 敏明さん

講演内容

兵庫県勤労者山岳連盟の自然保護の活動について、スライド、「六甲クリーン&グリーン地図」、水質調査の結果一覧表などを用いて解説していただきました。

はじめに：勤労者山岳連盟(労山)の紹介

労山とは勤労者山岳連盟の略で、1960年に創立された。登山技術の向上や遭難防止活動、山岳自然保護を目的として活動しており、約2万人の会員がいる。労山には各都道府県に支部があり、兵庫労山は会員数約2500人で東京に次ぐ規模。兵庫労山は50の山の会で構成されている。

1. 「六甲山からゴミを一掃する運動」

■「ゴミがなくなるまで半永久的に取り組む」

1974年に全国労山の呼びかけで、年1回、全国一斉に清掃登山が行われるようになった。当時、六甲山は深刻なゴミ問題を抱えており、兵庫労山では登山者のモラルが良くなり、「ゴミがなくなるまで半永久的に取り組む」ことを決めた。以来1978年から27年間に渡り、兵庫県のみは毎年11回の清掃運動を続けている。(現在は年6回)

■集めたゴミは350トン

兵庫労山の各会で六甲山の清掃区域を決めている。各会の責任でゴミを集めて、缶・ビン・粗大ゴミ・燃えるゴミに分別して処理している。集めたゴミは毎月集計する。27年間で集めたゴミは計350トンで、参加者は延べ12万人にのぼる。



ゴミ拾い



ゼッケンを付けて呼びかける

■六甲山からゴミが減ってきた

長年清掃活動を続けてきた成果で、ゴミの量は減った。登山者から「ゴミが減った」という声も聞くようになった。1998年には兵庫県知事賞、2004年には環境大臣賞を受賞した。賞をもらうためにやっている訳ではないが、多くの人に評価してもらったことを喜んでいる。

■六甲山から兵庫県全体へ

登山道のゴミは減ったものの、車道などではポイ捨てがあったり、家庭の電化製品などの大型ゴミの不法投棄があったり、ゴミの質が変化してきている。また、六甲山以外に汚れた山がまだまだあるので、2004年からは「兵庫の山からゴミを一掃する運動」という名称に変えて活動している。

2. 六甲山における水質調査と植樹

清掃以外の取り組みとしては、水質調査や植樹をしている。2002年からはハイカーが好んで利用するような湧き水の水質調査を行っている。検査を専門機関に依頼すると1回で7、8000円かかるので余り多くの場所ではできない。



植樹活動



水場の看板

■大腸菌が一番問題

水質調査ではCOD(化学的酸素消費量)や酸性かアルカリ性かを見るpHなどを調べるが、一番重要なのは大腸菌。大腸菌がいると、赤痢菌や疫痢菌が入っている可能性が高いことが問題になる。

■水質は時季で変わる

湧き水の水質は時季によって変わる。1回検査をして問題がなくても、2回目でだめな場合もある。たまに飲む程度なら大腸菌がいたからといって死ぬことはないが、六甲山の湧き水を飲む場合は基本的に沸かして飲んだ方がいい。

兵庫労山が実施した六甲山系の水質調査
(六甲クリーン&グリーン地図より)

場所	検査日	大腸菌	一般細菌 (100ml中)
1.武庫川廃線跡右岸 [×]	02年2月4日	陽性	65個
	02年7月22日	陽性	3個
2.宝塚塩尾寺下 [○]	03年1月27日	陰性	2個
	03年7月14日	陰性	4個
3.宝珠水(荒地山下) [×]	03年1月27日	陰性	5個
	03年8月26日	陽性	9個
4.芦屋ゴルフ場 (雨ヶ峠下蛇口) [○]	03年1月27日	陰性	なし
	03年7月14日	陰性	なし
5.五助堰堤上 [×]	02年2月4日	陽性	1個
	02年7月22日	陽性	400個
6.逢山峡キャンプ場 [○]	03年1月27日	陰性	なし
	03年7月14日	陰性	なし
7.石切道分岐下 [×]	02年2月4日	陽性	3個
	02年7月22日	陽性	67個
8.有馬紅葉谷降り口 [○]	02年2月4日	陰性	1個
	02年7月22日	陰性	2個

■植樹活動

阪神大震災で被害を受け、荒らされた山肌を直すため植樹活動も行っている。グリーンベルト構想の一環としての活動でもあり、森林整備事務所の指導を受け、主にクリーンハイクコースに植樹をしている。

質疑応答

清掃運動に行政はどう関わっているのか? : 行政は集めたゴミの回収やゴミ袋、軍手などを提供してくれる。行政は申請さえすれば協力してくれる。

自前の水質検査はどうやるのか? : 東急ハンズなどで売っている試薬を使う。2.5パックで2、3000円程度。大腸菌はパックテストではわからないので12時間培養して検査する。(身体につけて)培養は難しく、個人差が出る場合もある。

労山の活動には横のつながりはあるのか? : 横のつながりは薄い。清掃ハイクも実践は山の会に任されているので、会によってやり方は大きく違う。今後は労山以外の団体も含めて横のつながりを強化することも課題になっている。



喜多 伸介さん



福井 壽彦さん

岡さんのまとめ

六甲山は昔に比べて確かにきれいになったが、ゴミがなくなったわけではない。今後とも自分たちだけが「ゴミを捨てない。ゴミを拾う」だけではなく、山に登るすべての人にも働きかけるよう運動を継続していきたい。

参加の感想 川原田 俊さん

おなじ仲間内として清掃運動に関わってきましたが、まとまった話を聞くことが出来、一区切りついた思いです。私は、初期から参加していますが、昨今ハイカーとしても拾うゴミは確かに少なくなってきました。今後の問題は大きな産廃です。これには行政の力を必要とします。労山より外の方の意見が少ないのは残念です。



事務局より

我々も六甲山の清掃をしています、大先輩がされている運動には感服しました。ハイカーのマナーは良くなりゴミの問題から環境保全へ発展してきています。市民が積極的な関わりが出来るように啓発する大事さを感じました。これからも進んで活動していこうと触発されました。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ、スライド
- ・「六甲クリーン&グリーン地図」
- ・資料
 - ①「自然保護運動の歩み」
 - ②「自然保護とゴミに対するモラルについて」
- ③水質調査結果一覧表



六甲クリーン&グリーン地図

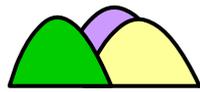
兵庫県勤労者山岳連盟
〒651-0095 神戸市中央区旭通3-4-12
TEL : 078-222-2463 FAX : 078-222-2109
URL : http://www.nextftp.com/hyogo-rousan/

◆参加者の感想 ~アンケートより~

- ・水質に関する内容が興味深かった。六甲山系の至る所に湧き水が出ることは驚きだった。
- ・兵庫労山の27年間の活動に感動した。六甲山での関わり方として地味な姿だが、とても大事なことを改めて認識しました。

◆参加者 : 25名 (順不同・敬称略)

岡 敏明	浅井 審一	大谷安規永	村上 定広
青木 孝子	八木 浄	北山健一郎	福井 壽彦
喜多 伸介	久保 順一	酒井 醇一	根岸 真彦
澤田 中	岡本 武蔵	尾崎 尚子	大塚 正勝
柴田 正生	川原田 俊	栄 和美	森本 順三
堂馬 佑太	堂馬 英二	藤井宏一郎	菖蒲 美枝



2. 六甲山を巡る

～歴史と文化～

①六甲山地に埋められた宝物 P 27～29



谷 正俊
神戸市教育委員会文化財課
学芸員
第25回市民セミナー講演
2005年4月16日

⑤名所図会から見た 六甲山と神戸 P 39～41



田原 直樹
兵庫県立人と自然の博物館
主任研究員
第11回市民セミナー講演
2004年2月14日

②六甲山南山麓の歴史 ～歴史探遊と講演～ P 30～32



豊田 實
神戸歴史クラブ
理事長
第2回市民セミナー講演
2003年5月17日

⑥グルームと神戸外国人居留地文化 P 42～44



桑田 優
神戸国際大学経済学部
教授
第7回市民セミナー講演
2003年10月18日

③六甲山北山麓の歴史 ～歴史探遊と講演～ P 33～35



豊田 實
神戸歴史クラブ
理事長
第6回市民セミナー講演
2003年9月25日

⑦六甲山開発史 P 45～47



森地 一夫
ボーイスカウト
西宮地区役員
第31回市民セミナー講演
2005年10月15日

④摩耶詣について P 36～38



伊藤 浄巖
摩耶山天上寺
貫主
第21回市民セミナー講演
2004年12月11日

六甲山の歴史といえば、グルーム氏をはじめとする明治時代の外国人による六甲山の開発が有名です。目を転じると、六甲山腹や山麓には縄文時代・弥生時代の遺跡もあり、中世や近世の歴史も豊富です。昭和初期の六甲山開発は現在にも大きく影響しています。六甲山は古来より山麓の生活文化と直結し、地元の産業との関係も深い「利用の山」です。

「六甲山物語」の第2段は「六甲山を辿る」というくくりで、六甲山にちなむ歴史や生活文化という視点で、2000年以上にわたる人間との関わりの変遷に焦点を当てます。

谷さんには古代の埋蔵物や生活について、唯一2回ご登場の豊田さんからは六甲山を南北に縦断して山麓の歴史を案内していただきます。伊藤さんには摩耶山の文化と歴史、田原さんには江戸時代の名所図会から当時の様子を紐解いていただきます。桑田優さんにはグルーム氏など居留地外国人の活動ぶり、そして森地さんには意外に知られてない昭和初期の話題を提供していただきます。

第25回テーマ:六甲山地に
埋められた宝物



灘区桜ヶ丘出土銅鐸・銅戈
神戸市立博物館 所蔵

講演内容

- ①六甲山に埋められた
謎の宝物(銅鐸)
- ②山の上に弥生時代の
ムラを発見!
- ③海人たちも山を活用した

実施日:平成17年4月16日(土)
午後1時~4時
場所:六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師:谷 正俊さん

プロフィール

1960年生まれ。立命館大学文学部卒業後、1984年に神戸市教育委員会文化財課に所属。以来、神戸市内の埋蔵文化財発掘調査に従事し、市内各地の遺跡調査を行う。

小春日和の六甲山、ストーブに集結

六甲山に春がやってきました。ドライブウェイに咲く山桜、自然歩道で満開のアセビやクロモジなど、山は美しい装いでした。

11月末から冬期休館していた自然保護センターが開館し、4ヶ月ぶりにレクチャールームへ集合しました。外に比べて部屋の中は冷んやりしており、1台のストーブを囲んで暖を取りました。



ストーブを囲みながら談話

「僕は考古学ボーイ」と語る谷さん

谷さんは、神戸市西区の「神戸市埋蔵文化財センター」に勤務され、20年間埋蔵文化財の発掘調査や遺跡調査に従事されています。

講演の冒頭は、あまり紹介されていない発掘作業や文化財になるまでの一連作業の様子をご紹介いただきました。想像以上に細かく根気のいる作業内容を知って、大変驚きました。

古代人にとってかけがえのない六甲山地

灘区の桜ヶ丘や東灘区の渦が森などから発見されている銅鐸や遺跡を紹介していただきました。

弥生時代、人々は六甲山地の小高い丘に集落をつくり、外敵から身を守る一時避難場所として生

活していました。古墳時代では、瀬戸内海沿いに古墳が並び、高取山や甲山などが信仰の対象とされていたことを学びました。現在私たちが六甲山を活用するように、遙か古代の先祖も六甲山地と関わる生活をしてきたことを身近に感じました。六甲山のグリーンベルト地帯と山麓の遺跡が符合しているのに、奇縁を感じます。

足下にあった遺跡に感動

今回、自分達の足下にある遺物や遺跡に触れることができました。六甲山麓の古代史を知り、地元神戸に愛着が深まりました。

平成17年度第一弾の市民セミナーが快調に発信できました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 澤田 俊哉さん

神戸は、源平の頃と維新の開港以来の町、というイメージが強かったので、弥生時代の銅鐸などが出土しているというのは意外でした。また出土した場所が市街地ではなく山の中と聞き、古代人達がそこで何をし、何のために使ったのか、謎めいて面白いと思いました。

私の住まい神戸市西区の近くでも、たこ壺が見つかった遺跡があり、当時の生活ぶりが窺えるとともに案外現代にも通じるものがある気がしました。

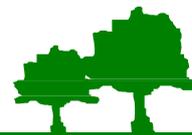


主催:六甲山自然保護センターを活用する会
協力:兵庫県立人と自然の博物館
後援:兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)



テーマ：六甲山地に埋められた宝物



第25回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13：00～13：10
2. 講演：13：10～15：05
3. 休憩：15：05～15：20
4. 交流会：15：20～15：50

講演

- ①六甲山地に埋められた謎の宝物（銅鐸）
- ②山の上に弥生時代のムラを発見！
- ③^{あま}海人たちも山を活用した



桜ヶ丘出土遺跡
「神戸市桜ヶ丘銅鐸銅戈調査報告書」
／兵庫県教育委員会編より引用

講演のあいさつ(谷 正俊さん)

神戸市内の埋蔵文化の調査を仕事としています。大規模な工事や公共工事によって、埋蔵物などが破壊される前に調査をしています。



谷 正俊さん

講演内容

神戸市埋蔵文化財センターのご紹介後、スライドを用いて、発掘作業の風景や文化財になるまでの一連の作業様子をご紹介いただきました。そして、神戸市内の遺物や遺跡、弥生時代の人々の生活、古墳時代の人々と六甲山地の関係をお話いただきました。

発掘から文化財になるまで

■根気のいる地道な作業

神戸市内は、震災による復興・区画整理などで発掘調査が増加した。他の自治体からの応援協力を受けて行っている。

＜現場作業＞

遺跡の表面まで土を、ショベルカー等で取り除く。
→遺跡の表面が近づいてきたら手作業で削り出す。
→溝や柱を削り出すと、黄色の土と黒の土の境界があらわれ、溝の底から土器などが出てくる。
→状況を記録にとり図面に起こす。→製図・記録。

＜遺物の整理＞

出土した遺物などは、埋蔵文化財センターへ運ぶ。
→出土品は土や泥だらけなので、水で手洗いする。
→土器の破片に1枚ずつ出土場所とその状況を墨で書く。→同じような部分で土器を分類。→破片の不足部分は石膏で埋めて、同系の色を塗る。→展示・報告書の作成後、展示などをする。

金属・木製品などの場合は、別の特殊な保存方法を使う。

金属の場合：錆具合をチェックし、ある程度錆をグラインダーで取り除く。手先の作業で慎重を要する。

木製品の場合：木の中に樹脂を入れる。日本では地下水に漬かった状態で見つかる。木の細胞膜に樹脂を注入して保存。水と樹脂をゆっくりと入れ替える。



作業の様子
神戸市埋蔵文化財センター
所蔵

1. 六甲山地に埋められた謎の宝物（銅鐸）

■銅鐸について

銅鐸は、コメづくりの始まった弥生時代（2300～1800年前）頃（中国でいうと、漢～三国時代）につくられた。外国にまったく同じものではなく、日本のオリジナルに近い。出土するのは山の斜面や頂上、谷の奥など変わったところで、ムラの中で出土することはほとんどない。何に使われたかは諸説があるが、確定していない。

■桜ヶ丘銅鐸（14本の銅鐸と7本の銅戈）

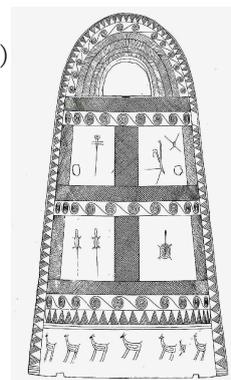
約50年前、現在の親和女子大学付近で花崗岩の崩壊した土を採取中に発掘された。終戦直後の時期で作業中に「カチン」とした音がしたため、最初は不発弾かと思われたが、周りを掘ると、いくつも出土。14個も出土するのは稀である。

銅戈は、もとは中国の武器で、馬の脚を引っ掛けて倒す武器である。日本には馬が少ないので、祭りの道具として使われた。

■表面に美しい模様

表面に細かい模様（流水紋）がある。四角の区画の中にシカや亀の模様などをレリーフのように施している。絵画をレリーフにしたものは少ない。絵画の意味は神話とも物語とも思われるが不明。

※「神戸市桜ヶ丘出土銅鐸銅戈調査報告書」（昭和47年兵庫県教育委員会刊）の桜ヶ丘4号銅鐸実測図よりB面を引用した。



銅鐸に描かれたレリーフ

■見る銅鐸へ変化

青銅の出土品は青色だが、当時は光り輝いていた。銅鐸は実際に鐘として使われていた跡がある。4～500年間使われた。

時代によって装飾が豊かになり、巨大化するなど形や大きさが変化した。聞く銅鐸から見る銅鐸＜御神体＞へと変化した。



最も大型の6号銅鐸A面
神戸市立博物館所蔵

2. 山の上に弥生時代のムラを発見！

■小高い丘にムラの跡

狩猟採集の縄文時代は、争いは少なかったが、弥生時代には、田をつくるための土地や水の争いが起こり、人間同士の殺し合いも増えた。

平地や小高いところにムラがつくられた。ムラには溝がめぐらされた。(環濠集落)見晴らしがよく、外敵がよく見えることから、山の上に集落(=高地性集落)をつくったが、常時人が住んでいたわけではない。敵から身を守る一時的な避難場所とした。

3. 海人たちも山を活用した

■海に面して並ぶ古墳

古墳時代は、1800年前～7世紀頃まで、各地に古墳がつくられた。神戸や瀬戸内海では海に面したところに古墳が多い。海に近い古墳は海人たちの有力者の墓ではないかと考えられる。

五色塚古墳(長さ194m、兵庫県下最大)、東求女塚古墳(東灘区)、処女塚古墳、西求女塚(400年前の地震で崩壊。三角縁神獣鏡が出土)

蛸壺や製塩土器など海との関わりの深いものも出土されている。

(製塩土器は、土器の中に海水を入れ、沸かして塩を作る使い捨ての土器)



五色塚古墳

神戸市埋蔵文化財センター所蔵

■山は海で生きる人にとって目印

保久良神社、高取山、砂(いさご)山、甲山などは、海から良く見える特徴的な山で、灯台のような役目をしていた。いずれも神社と関わりが深く、海に生きる人にとって目印

(漁場のポイント、天候)となり、信仰の対象となった。外洋に出られる構造船をつくり、朝鮮半島へと向かった。海人とは、丸木船や準構造船を造った人々のことをいう。



保久良神社の「灘の一つ火」

質疑応答・感想など

出土された遺物は地元のもの? : 地元産だけでなく、四国や山陰などの土器も神戸で発掘されている。交流があったと推測される。

古代の神戸の人口や集落規模は? : データの積算根拠がなく不明。集落は、大規模でなくこじんまりとした小さいものが多い。

自分たちの足下に歴史がある(まとめ)

自分たちの足下に歴史があることを知ってもらいたいです。教科書の歴史は、中央の人たちがつくった歴史。奈良、平安、鎌倉時代など政治の中心者の歴史です。実際には、それぞれの地域にたくさんの方が生活をしていて、地元には歴史があることを理解してほしいです。神戸市内の遺跡は今でも見つからないのが多く、当時の人口やムラの数は特定できていません。今後も調査を続けていきます。

事務局より

今回は六甲山地の古代史を学び、市民セミナーで紹介されてきた六甲山地の歴史が繋がってきました。参加者の皆さんも感心され、もっと多くの人に伝えたいという声が多かったです。六甲山の麓から中腹は、古代の歴史文化が埋もれていて大変興味深いです。六甲山麓のグリーンベルト沿いに歴史探遊するのも面白そうですね。

参加の感想 霜田 泰功さん

六甲山地の麓から、数多くの銅鐸が2300年～1800年前(弥生時代)に創られ各地で出土された。銅鐸を造る技術のみならず、彫られている文様のすばらしさと文化がしのばれます。又、時代が進むに従って、銅鐸が大きくなり祭りが行われるようになったのも、面白いです。

今日あるのも、昔の人達の生活文化の発展があってこそだと歴史を見ると感じられます。出土近くに行くことがあれば、覚えて現場をのぞきたいと思います。



◆参考・配布資料など

- ・スライド(3種)、レジュメ
- ・神戸市埋蔵文化財センターパンフレット
- ・企画展案内チラシ

※掲載写真等は、神戸市立博物館、兵庫県教育委員会調査報告書、神戸市埋蔵文化財センター他の所蔵・発行物より転載(改訂版出典)。神戸市埋蔵文化財センターは入館無料。

神戸市埋蔵文化財センター
〒651-2273 神戸市西区糀台6丁目1
TEL: 078-992-0656

◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・桜ヶ丘に住んでいながら遺跡のことを知らなかった。
- ・私たちが生活している身近な場所で、遺物や遺跡が発見されていることに感動した。
- ・少し花冷えでしたが、ストーブの周りのティータイムが楽しかった。

◆参加者: 19名(順不同・敬称略)

谷 正俊 八木 浄 村上 定広 大谷安規永
久保 順一 青木 孝子 中垣内 博 泉 美代子
浅井 審一 澤田 俊哉 新木 里志 霜田 泰功
福谷真知子 堂馬 佑太 堂馬 英二 米村 邦稔
小野 律子 藤井宏一郎 菖蒲 美枝



祥竜寺にて

第2回テーマ：
六甲山南山麓の歴史
～歴史探遊と講演～

★セミナー1：歴史探遊

(10:15～11:55)

六甲ケーブル下駅(土橋)発→大土神社→神戸大学入り口(赤松城跡)→伯母野山下→巖嶋神社→祥竜寺→六甲八幡宮→阪急六甲バス停

〔阪急バス乗車→六甲山自然保護センター着→昼食〕

★セミナー2：講演

六甲山自然保護センターにて

(13:30～16:10)

実施日：平成15年5月17日(土)



とよだ みのる
講師：豊田 實さん

プロフィール

大正15年神戸市生まれ
神戸歴史クラブ理事長
昭和59年神戸市立福住小学校校長、昭和62年神戸市立総合教育センター主任指導員、平成5～9年日本教育新聞社関西支社兵庫支局長

セミナー1：歴史探遊

(六甲川沿いに下る、2時間弱のコース)

マンションばかりの山麓に別世界を発見

六甲ケーブル下の土橋駅をスタートし、狭く急な車道を下ってしばらくで、大土神社の石垣をくぐって境内に入ります。一瞬で静寂の中に踏み込みタイムスリップしたかのようです。さらに、水車のあった六甲川に下ると、きれいな水の流れに出会って感動しました。

ケーブル下駅から
都賀川までが六甲川

急峻な六甲川の周辺には、弥生時代の遺跡



六甲川勝雄橋、松蔭女子大学へ

や摩耶合戦の砦跡もあります。学校やマンションが建ち並ぶ場所で、遠い昔に思いを馳せました。

4つの社寺を訪ね廻った

六甲川を下りながら、大土神社、巖嶋神社、祥竜寺、六甲八幡宮を次々訪ねました。いずれも由緒があり、歴史の趣が豊かでした。

豊田さんの名調子に感激

歴史探訪の熟達者である豊田さんの熱のこもったお話しに感銘したり、大笑いしたりの楽しい2時間でした。

お陰様で、12名の参加者は六甲山麓2000年の歴史に魅入られました。

セミナー2：講演

(六甲山自然保護センターで13:30から開講)

冒頭で豊田さんは「午前中に六甲山の南斜面を歩かれて、もう一度誰かと行きたいと思ってもらえれば試みは成功です」と。「これからさらに、六甲山を取り囲む環境および祖先の生活を振り返りながら、素晴らしい六甲山を紹介したいと思います」と述べられ、疲れを見せず熱弁をふるわれました。

◆講演内容：

1. 修験道場の山六甲山
2. 赤松円心則村と摩耶合戦
3. 倭大乱と高地性住居
4. 酒造りと水車業
5. 六甲山開発の恩人(アーサー・ヘスケス・グルーム氏)

締めくくりで「歴史が好きになったのは母親に処女塚に連れて行ってもらった時」と語られた豊田さん。

郷土史をライフワークにされる背景を知り、共感を深めました。



熱弁をふるう豊田さん

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局

兵庫県立人と自然の博物館

テーマ：六甲山南山麓の歴史

セミナー1：歴史探遊 六甲川沿いの2時間足らずのコースをご案内します。

**1. 六甲ケーブル
下駅を出発**
(10:15)



参加者12名で六甲川の左岸の狭い車道を下っていく。



2. 石垣をくぐって境内に
車道から石垣をくぐり抜けて静寂の境内に入って驚いた。クスの木の葉をふむ音がより一層神社の雰囲気を出す。



静寂の大土神社①

水車新田村の鎮守で有名。一帯が市民の森に指定されている。かえる石もある。



水もきれいな六甲川

音ヶ平の25輛の水車小屋があった六甲川は河川公園になっている。花崗岩でできた水車の「臼」の話を聞く。



3. 幻の赤松城跡②を思う

神戸大学の入り口付近での説明。670年前頃、赤松円心則村が後醍醐天皇を奉じて砦を築き、六波羅軍と戦った。

急峻な六甲川をのぞく (表紙に写真)

六甲川を渡り松蔭女子大学へ。深い谷あい、ダム(段差)で川の勢いを弱めている。大きな青サギが飛んだ。



4. 伯母野山下の道端③

昔の高地性住居、今は高級住宅地。安藤忠夫設計のマンションを背にして、弥生時代の高地性住居の話聞く。



5. 由緒ある巖嶋神社④

神戸有数の急な坂道、六甲学院の生徒に混じって下る。規模は小さいが、1180年平清盛創建の格式が見られる。



6. 臨済宗の祥竜寺⑤

(表紙にも写真) 鐘楼の楼門と水天宮を備えた清楚な庭園。本尊は地藏菩薩、赤いよだれかけのいわれ。神戸大学生も座禅で利用。「鈴木よね」の胸像。「寺水」を毎日汲む人がいる。

お地藏さんを訪ねつつ八幡の森へ⑥

六甲川沿いにバス道を越え、地藏や五輪塔に出会う。摩耶合戦の戦死者を供養したもの。



7. 森の中の六甲八幡宮⑦

八幡の合戦の地。灘の酒を江戸に運んだ樽廻船、こま犬の土台に刻まれた寄進者の名。色鮮やかな「厄神さん」をお参りし締めくくり。

8. 阪急六甲バス停に到着・解散 (11:55)

2時間足らずの歴史探遊を終了し、いったん解散。



一増山さんと延地さん
82才の延地さんは「大満足、また参加します」

順路マップ①～⑦



参考資料「ヤマケイ関西ブックス六甲山」

セミナー2: 講演「六甲山南山麓の歴史」



セミナーでの和気あいあいとした様子

1. 修験道場の山六甲山

「六甲山には天狗岩がやたらに多い」

六甲山系が造山運動で押し上げられた際にでき風化した岩が多い。岩の上で修行する修験者や行者を村人は天狗と呼んでいた。天狗岩をはじめ修行に使われた岩場が随所にある。唐櫃の四鬼さんは役行者の子孫。千年前から六甲山は素晴らしい修験道場だった。



「自然保護センターの名前を変えよう」八木さん

2. 赤松円心則村と摩耶合戦

「六甲山麓に合戦の歴史」

上郡から出た地方豪族の赤松円心が後醍醐天皇を奉じて、六波羅軍と戦った。摩耶山に碑があるが神戸大学内にも砦の跡がある。魚崎の雀の松原、御影の浜の戦い、八幡の林でも合戦した。芦屋には大楠公の碑がある。楠正成が天皇に忠誠を尽くしたのに対し、赤松円心は報償の不満から足利側に寝返り反逆の罪に問われた。後には円心も出家している。

3. 倭大乱と高地性住居

「古代の住民の生活もうかがえる」

紀元前500年頃、神武天皇の東征以来、倭大乱でこの辺りも荒れた。松蔭女子大学の辺りから伯母野山下が住みやすかった。男は昼間海に魚介類を捕りに行き、女子供は安全のために高地性住居で生活した。高地で農耕作業をしたのが高地性住居の時代。

4. 酒造りと水車業

「江戸時代に灘の樽酒が大人気」

江戸時代に幕府は勝手酒で酒づくりの認可。

昔はどぶろく、御影の「沢の井」の水で酒

を作ったら清酒になった。六甲山の水と米と空気と麴の四つが美味しさの要件、吉野杉の樽も付け加えたい。吉野杉を新宮から筏で新在家まで運んで酒樽を作った。江戸時代にはこも被りの素晴らしい4斗樽が来たと喜ばれた。

私の家は職業で樽作りをしていた。



松島・小笠原・小野さん

5. 六甲山開発の恩人(アーサー・ヘスケス・グルーム氏)

「六甲山の開発を再考する」

六甲山の歴史は2千年以上も辿ることができる。明治の居留地の外国人が六甲山を開発したのが始まりではない。親日家で六甲山にゴルフ場や別荘を造ったグルームさんは、開発の恩人である。自分たちの娯楽だけでなく、当時禿げ山であった六甲山に植林することに着手すればさらに良かった。

(質疑応答で、神戸事件や兵庫大仏の建立など、居留地で威張る外国人と日本人との軋轢にも話が及んだ)



「六甲川はきれいな水だ。また行きたい」新木さん

★豊田さんのしめくり

「人間味のある歴史を学んで欲しい」

地域に即したいろんな掘り起しをしていくことがこれからの楽しい歴史を学ぶひとつ。歴史が好きになったのは母親に処女塚に連れて行ってもらったとき。聞かされた話に「何でやねん」と疑問を持った。

歴史は自分の生活に直結した時に、もういっぺん行ってみようかと思う、その時から学習が始まる。

(記録協力: 中野 一)

◆配布資料:

- ・「六甲山南山麓探遊歴史ウォーク」(ポケットガイド)
- ・「六甲山探遊物語(六甲山の語り部)」

※「神戸歴史クラブ」:

生涯学習の一環として、高齢者の方々の健康と知識の拡充を目的として活動をしています。

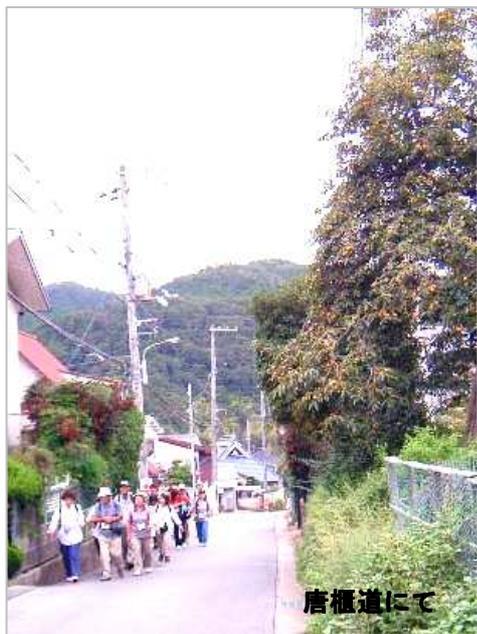
連絡先: 神戸歴史クラブ 豊田 實
神戸市須磨区平田町 1-1-16 八ヶ代ビル内
TEL: 078-861-4923 FAX: 078-861-4923

◆参加者の声・質疑応答・懇談会(提案):

施設利用や案内チラシについての意見、自然保護センターを無料休憩所としてはどうかと施設周辺の環境をアピールしてはという意見で盛り上がりを見せました。

◆参加者: 14名(順不同・敬称略)

豊田 實 松井 光利 小野 律子 新木 里志
八木 浄 出口 延之 延地 義一 小笠原晋子
増山 良子 藤井宏一郎 松島 朋子 堂馬 英二
島崎 渉 中野 一



唐櫃道にて

第6回テーマ：
六甲山北山麓の歴史
～歴史探遊と講演～

★セミナー1：歴史探遊
(10:00～13:40)

神戸電鉄六甲駅発→山王神社→
四鬼家→唐櫃道→シュラインロード
(野仏三十三体)→行者堂(昼食)
→前ヶ辻→自然保護センター

★セミナー2：講演
六甲山自然保護センターにて
(14:00～15:30)

実施日：平成15年9月20日(土)



とよだ みのる
講師：豊田 實さん

プロフィール

大正15年神戸市生まれ
神戸歴史クラブ理事長
昭和59年神戸市立福住小学校校長、昭和62年神戸市立総合教育センター主任指導員、平成5～9年日本教育新聞社関西支社兵庫支局長

セミナー1：歴史探遊

(雨の中の六甲越え・唐櫃古道、修験道者の気分でコースを楽しむ)

雨にも関わらず元気にスタート

今回は神戸電鉄六甲駅に集合。スタッフは事前に下見をして準備万端で本番を迎えました。当日は小雨が降り不安定なお天気でしたが、元気な顔が続々と集まりました。「唐櫃古道、シュラインロードを歩きながら、影に隠れた昔の生活の歴史を感じて欲しいと思います。」と豊田先生の言葉を念頭に出発しました。

心に残る四鬼家でのお話

四鬼(しき)家に到着。庭の中へ入ると、四鬼さんご夫婦が暖かく迎えてくれました。当主の四鬼啓二さんのお歳は90歳。四鬼さんの子供の頃のお話を伺い、六甲山の池の氷を挽く時に使用したのこぎりも拝見。お話の後「道中氣をつけて」とお茶を一本ずついただき、全員感激しました。
(※詳しくは2ページ参照)



四鬼ご夫妻

シュラインロードで野仏を拝む

石仏は全部で三十三体ありシュラインロードの左右に点々と祀られています。この道で野盗等に襲われた人の供養や、道中無事、商売繁盛を願って建立されたとのこと。そのうちの九体は裏六甲ドライブウェイの道路工事のために国土交通省により一箇所にまとめられました。六甲山を歩いたイギリス人がこれらを見て感激し、この道を聖なる道“シュラインロード”と名付けたとのことです。皆で番号を確認しながら上っていきました。

行者堂で一息入れる

雨に濡れながらやっとの思いで行者堂に到着し昼食をとりました。昼食後も豊田先生の軽妙な話を聞き入り、充実した歴史探遊をしました。皆様お疲れ様でした。



やっど一息、ランチタイム

セミナー2：講演

(六甲山自然保護センターで14:00から開講)

雨の中の歴史探遊を無事終えて、温かいお茶で一息ついた後、講演は始まりました。講演から4名が新たに参加しました。今回は大半が朝からの参加者だったので、話が重複しないように六甲山北山麓に限定せず進めていきました。脱線めいた話もあり、盛り上がりました。豊田先生は「古老、四鬼さんから聞いた話が皆さんの心に一番残ったと思います。直接話を聞くことが一番の収穫です。歴史の本では数行でしか書いていない。今日

はずばらしい物が手に入ったと思います」と冒頭で述べ、歴史探訪の成果を共感しました。講演内容：お地蔵さんのよだれかけの話、灘の酒樽の話六甲の財産区の話他。



セミナーの様子

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局
兵庫県立人と自然の博物館

テーマ：六甲山北山麓の歴史

セミナー1：歴史探遊 六甲越え・唐櫃古道、シュラインロード、約3時間のコースをご案内します。

1. 神鉄六甲駅を出発 (10:13) 順路マップ①～⑨ (参考資料「山と高原地図 53」)



小雨の中、参加者18名で六甲越え・唐櫃古道の歴史探遊へ出発。

2. 山王神社に到着 (10:16)
「鎮守の森」と言われ、境内は兵庫県の環境緑地保全地域に指定されている。

3. 四鬼家に到着 (10:35)



4. 九体仏 (11:35)



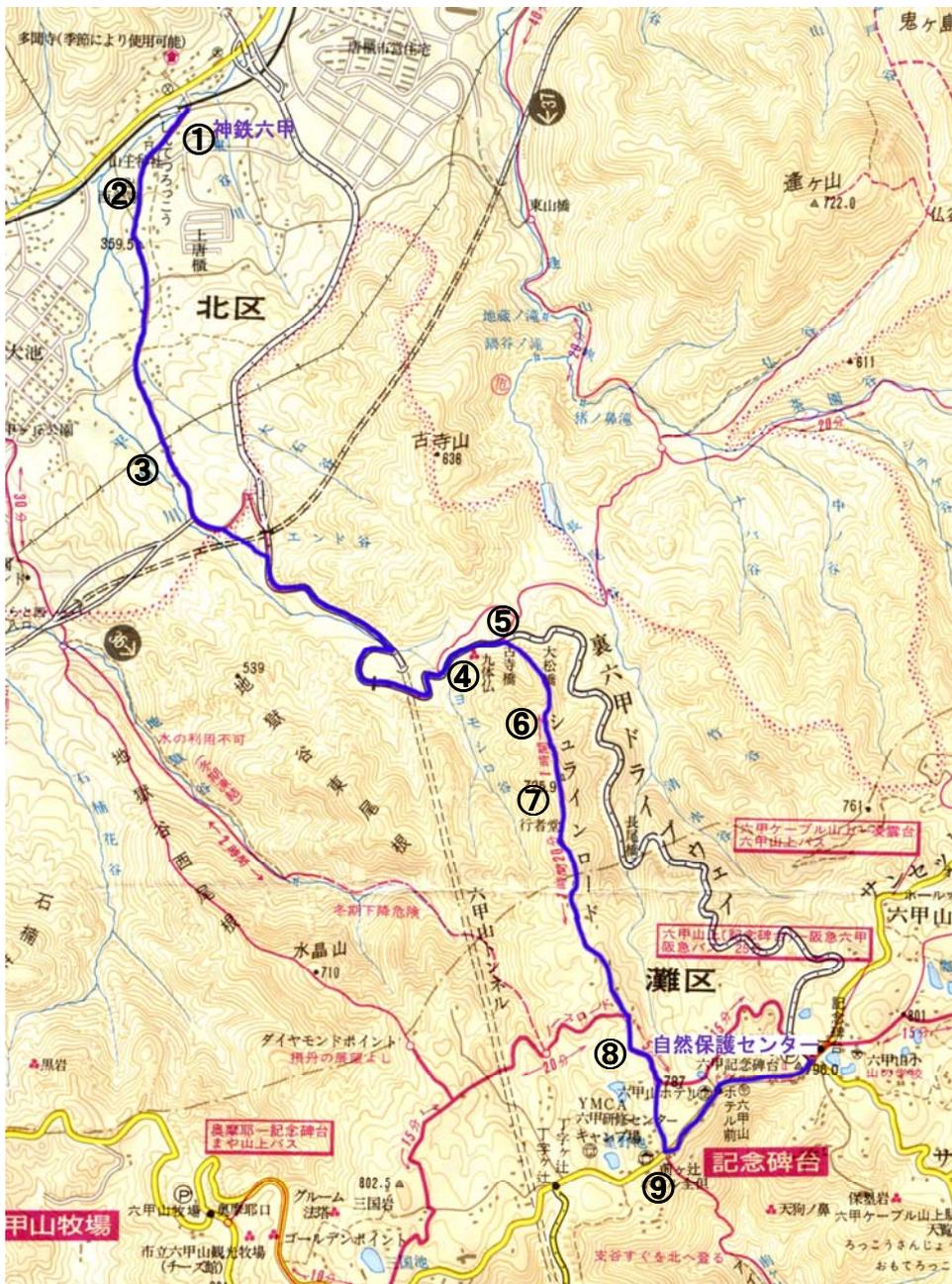
5. シュラインロード入口



6. シュラインロードの野仏



三十三体の観音菩薩はそれぞれ顔や姿が違う。



7. 行者堂に到着 (12:15)



ここで役行者が護摩を焚いて祈願をした。

8. 雨の中を歩く



雨が一層趣き深い雰囲気を出してくれた。

9. 前ヶ辻 (13:10)



シュラインロード終点。アイスロードの降り口。

四鬼家をお訪ねして

四鬼さんは役行者の弟子の子孫。代々唐櫃の地に住み古くから信頼を集めている家柄。人々は無事に闇夜の山越えが出来るよう四鬼家を訪ねて一服し、魔よけとして火縄とちようちんを授かり出発したとのこと。

子供の頃のお話を伺った。「昔から唐櫃の人は役行者を信仰しておりました。先達は7、8歳くらいの子供を連れて大峰山へ役行者参りをします。そこに西ののぞきという所があり、先達は子供をそののぞきから前に出して『お父さんとお母さんの言うことをちゃんと聞くんやで。先祖を大事にするんやで。』と言い聞かせます。子供は一途に守り、これが唐櫃の習慣となっていました。唐櫃の人は役行者を神様として崇めており心の中に溶け込んでいるのです。」全員が感激しました。



六甲山の池の水を抜く時に使用した「のこぎり」をもって記念撮影

セミナー2: 講演「六甲山北山麓の歴史」

お地蔵さんのよだれかけ

シュラインロードには観音菩薩の野仏が並んでいるが、六甲山には他に地蔵菩薩も祀られている。地蔵菩薩にはよだれかけがしてある。よだれかけは、子を守る母親の思いからつけられたそうだ。次のような話がある。

江戸時代の初期頃飢饉があり、疫病が流行った。疫病で乳呑み児を亡くした母親は我が子が三途の川でいじめられない様に地蔵にお願いした。



黒田さん・石田さん・青木さん

すると地蔵は「その子の香りがほしい」と呟き、母親は乳呑み児のよだれかけを地蔵の首にかけた。地蔵はそれと同じ香りの子を守り、見届けてくれたそうだ。

灘の樽酒の話

大吟醸の灘の生一本、これを“下り酒”という。樽廻船で灘から江戸へ4、5日かけて運ぶが、10隻のうち3隻は沈没していたようである。当時江戸へ向かうことを「下る」としており、江戸に下る物は上等、下らない物は下等とされた。灘酒は輸送の過程で、吉野杉の香りと酒が混ざり熟し、江戸の酒より旨いと人気があった。

樽酒には薦（こも）が巻いている。船で運ぶ際ショックで樽が壊れないようにつけたものである。

六甲媛神社とは？

心経岩と雲ヶ岩の間にある。お堂の裏にご神体岩磐（いわくら）が祀ってある。六甲山全体を守るやきもちやきの女神とのこと。



河津さん、松島さん

六甲の財産区とは？

財産区とは、地方自治体に定められた特別地方公共団体のこと。旧住吉村の財産を自主的に管理する財団法人で有名な住吉学園がある。終戦後、住吉村に別荘を持ち住んでいた大会社の重役達（観音クラブ）が知恵を出し、住吉学園という財団法人をつくった。現在、住吉学園は六甲山の南面の土地を大きく所有し、別荘や保養所は借地で運営されている。

豊田先生のまとめ

歴史というのは、自分が歩いて証拠をつかむべき。実際に歩いてみないとわからない。年代覚えだけでは意味がない。汗を流して体験し、もっと知りたいと思うことが大切である。今日の体験や学んだことをぜひ自分の子供や孫に話をして伝えて欲しい。



今日の話に皆に伝えたいと山本さん

◆配布資料：

- ・「六甲山物語（六甲山の語り部）」

※「神戸歴史クラブ」：

生涯学習の一環として、高齢者の方々の健康と知識の拡充を目的として活動をしています。

連絡先：神戸歴史クラブ 豊田 實
神戸市須磨区平田町 1-1-16
ハヶ代ビル内
TEL：078-861-4923 FAX：078-861-4923

◆参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・唐櫃台に住んでいるのに初めての事ばかりでとても有意義な一日だった。・小雨の歴史探遊も趣き深い。
- ・北から登るのは初めてで魅力を再発見した。・また秋に行きたい。・参加しやすい雰囲気楽しかった。

◆参加者：22名（順不同・敬称略）

松島 朋子	河津 幸生	青木 孝子	菖蒲 一枝
山本 悟而	門 昭子	門 真郎	藤坂 公子
八木 浄	仁木智恵美	北野 孝子	鞆本 益子
石田 澄子	黒田 郁子	白岩 卓巳	坂本 豊子
戸田 清彦	島崎 渉	豊田 實	堂馬 英二
中野 一	菖蒲 美枝		

第21回テーマ： 摩耶詣について

講演内容

- ①六甲三山（六甲山、摩耶山、再度山）の自然と歴史、文化と宗教
- ②摩耶山と文人・墨客の交流
- ③西国の奇習・奇祭「摩耶詣」

実施日：平成16年12月11日（土）
午後1時～3時50分

場 所：六甲山YMCA
里見ホール



講師：伊藤 浄厳さん

プロフィール

昭和13年神戸市生まれ
昭和47年高野山大学大学院文学研究科博士課程修了。昭和49年高野山大学文学部仏教学科専任講師。平成8年高野山専修学院能化。昭和50年より摩耶山天上寺貫主。



天上寺参道

六甲山YMCAの暖炉と再会

8ヶ月ぶりに会場を六甲山YMCAに移しました。敷地内ではシジュウガラ、メジロ、ジョウビタキが樹木を飛び回り、師走の寒さも感じませんでした。講演前には暖炉がある里見ホールで、伊藤貫主と一緒に参加者がカレーライスを食べながら懇談をしました。講演では焼きいもをいただきながら、質疑応答も活発でした。そして、再度お話を伺いたいという要望が集まりました。

西国の名刹「切利天上寺」

今回は六甲山上の西にある、摩耶山天上寺の伊藤浄厳貫主にご講演いただきました。天上寺は、大化二年（西暦646年）、インドの高僧法道仙人が開創された由緒あるお寺です。弘法大師が釈迦の生母摩耶夫人尊を天上寺に奉安され、摩耶夫人の昇天された「切利天」の名にちなんで寺の名を「切利天上寺」と号し、これが略されて「天上寺」と呼ばれているそうです。

天上寺が略名であったことに大変驚きました。最盛期には、約三千人の僧を擁する摂津地方第一の大寺であったなど、興味深いお話を伺いました。



天上寺に関心を高める参加者

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

全国的に知られた民俗行事「摩耶詣」

摩耶山は俳句が有名で、「摩耶詣」は春の季語として歳時記に載っています。摩耶詣とは、飼馬の無難息災を祈るために馬を連れて天上寺を参拝する西国の珍しい行事です。摩耶詣には蕪村ほか、有名な文人や俳人が訪れており、俳句から当時の摩耶山の賑わいの様子を偲びました。

神戸で伝統や文化を大切にしよう

天上寺では摩耶協議会の主催で「摩耶詣祭」を毎年開催し、民俗行事を伝統文化として守っています。伊藤貫主が、神戸は一過性行事になる傾向があり、文化が長続きしないと問題を提起されました。伝統や文化を定着していく大切さを改めて考えました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

参加の感想 半田 陽生さん

六甲山YMCAの暖炉のある部屋で、薪の燃える匂いの中、博覧強記の伊藤浄厳貫主のお話は「摩耶詣」にとどまらず、神戸人気質の新しいものを受け入れる良さの反面、古いものを大切にしない等、的をいたお話に同感あり反省ありでした。

思いがけず石焼きいもを作ってください熱々をご馳走になり、スタッフのお心配りにお礼申し上げます。

四季折々の摩耶六甲を訪ねて俳句を作りたいものと改めて思いました。



【助成金をいただいている機関】

灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ：摩耶詣について



第21回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:10
2. 講演：13:10～14:50
3. 休憩：14:50～15:00
4. 質疑応答：15:00～15:50

講演

- ①六甲三山（六甲山、摩耶山、再度山）の自然と歴史、文化と宗教
- ②摩耶山と文人・墨客の交流
- ③西国の奇習・奇祭「摩耶詣」



講演のあいさつ(伊藤 浄厳さん)

キリスト教のYMCAで話をしているのかと思われませんが、実は古くから交流があります。日本や外国で「世界宗教者会議」が行われ、比叡山や高野山などで世界の宗教者が集まります。



伊藤浄厳さん

講演内容

由緒ある「摩耶山天上寺」

天上寺は、飛鳥時代の大化2年(西暦646年)、孝徳天皇の勅願により、インドの高僧、法道仙人が開創された由緒あるお寺である。最盛時には比叡山、高野山、摩耶山と並べられ、伽藍が三百、僧数は三千人という大寺であった。(江戸時代には50ヶ寺、幕末には10ヶ寺、現在は4ヶ寺)

ご本尊はお釈迦様が自ら造られたといわれる、「十一面観世音菩薩像」で、大きさ一寸八分(約6cm)の黄金の仏像。秘仏でありご本尊の胎内に納められている。法道仙人が中国を経て日本に伝来し八州(摂津、播磨、淡路、河内、和泉、紀伊、但馬、丹波)の守護仏とされた。



法道仙人の像



仏母摩耶夫人尊

■仏母摩耶夫人尊

平安時代に弘法大師が、唐に留学した際に当時中国で女人守護の御仏として盛んに崇拝されていた摩耶夫人(まやぶにん)像を、日本に請来され天上寺に奉安された。摩耶夫人はお釈迦様の生母であり、仏教の聖母とされている。以来、当山を「仏母摩耶山」(略して摩耶山)、寺名を「切利天上寺(とうりてんじょうじ)」と号するようになった。「切利天」は須弥山の上にかかっている天で、その上にある寺の意。天城通の上にある寺ではない。(笑)

仏母摩耶夫人尊は、女性のあらゆる難病や苦しみを救い給う女尊であり安産と子育て、子授かりの守護仏として全国的に知られている。日本で最初に安産腹帯を授けた寺として有名である。



仏母摩耶山切利天上寺匾額

摩耶詣 ～まやもうで～

摩耶詣とは、江戸時代から旧暦2月の初午の日に近隣の人々が馬を連れて天上寺に参詣し、飼馬の息災を祈願した。

「摩耶かんざし」と呼ばれる花かんざしを馬に飾り、土産に若狭から運んだ昆布「摩耶昆布」を糸に通して持って帰ると言う珍しい風習。「摩耶詣」は俳句の春の季語として歳時記などで紹介されている。

■人も動物も共に生きる「生活共同体」

馬は人間に役立つ物でなく、馬は共に働き生活する生き物「生活共同体」とされていた。人間だけでなく馬にも慰労をして厄除けをしに詣でた。家に帰って神棚に摩耶昆布を吊り下げ、子どもには摩耶かんざしをつけ「生活共同体」を知らせながら遊んだ。遊びながら子供に教え、行事を伝えていった。

摩耶山は庶民により親しみやすく開かれた山として、摩耶山信仰は神戸や大阪を超え広がっていた。明治末頃からは近代化で馬が少なくなり、必要もなくなって、摩耶詣も廃れていった。山の馬道もなくなった。

■摩耶詣の復活

天上寺では摩耶協議会の主催で、神戸の伝統文化として守り続けるために昔の習わしを再現した「摩耶詣祭」を毎年お彼岸の中日に開催している。

六甲山牧場の馬を借りて行っている。大きい馬は扱いが大変なので、小さな馬を使っている。木曾馬や与那国馬などの小馬たちである。



摩耶詣祭

摩耶山を訪れた俳人や文人墨客

「摩耶詣」「摩耶参」「摩耶昆布」が俳句の季題に選定されことにより、摩耶山は俳句の山で有名になった。天上寺にある碑には下記のような句歌が書かれている。



蕪村句碑

菜の花や
 月は東に
 日は西に

山の名を仏の母ときくからは
 これぞまことの慈悲のみなかも
 花山院歌碑

極楽はこころよ春の切利天
 横むきに仏を拝むさくら哉
 窓雨一音句碑

筒鳥の鳴く摩耶の坊借りにけり
 五十嵐播水句碑

なつかしの濁世の雨や涅槃像
 阿波野青畝句碑

仏母たりとも女人は悲し灌仏会
 橋本多佳子句碑

たんぼぼや少年の日のいつかなし
 林大馬句碑

■近松門左衛門

近松門左衛門の、さきがけの作品である『仏母摩耶山開帳』を本堂落慶記念に皆さんに贈呈した。尼崎や西宮から研究家が天上寺を来訪するが、神戸の人には全くといっていいほど知られていない。

■泉鏡花

摩耶山を舞台にした伝奇小説『峰茶屋心中』。山々を自由自在に描写。泉鏡花は明治人であったが、発想豊かで巧みな日本語で摩耶山を表現している。

興味の尽きないお話

- ・奇数は縁起の良い数字で3や7は特にいい数字。安定する数字、成就数。3は永遠数、7は完成数。人には1礼、神には2礼、仏は3礼。(3回繰り返す)
- ・摩耶山は原生林が残っているので摩耶道を歩き面白い発見につなげてほしい。
- ・六甲山・摩耶山は江戸時代の百名山に入っている。
- ・ヨーロッパ人は、海、港、町、田園の4つの風景が揃っていると理想的な都市文化がつけると言う。神戸はまさに当てはまる。
- ・六甲山はグルーム氏が開祖といわれているが、それ以前から里山として開かれていた。等々

神戸に伝統文化を～伊藤貫主～

神戸は人口移動が激しく、定住して代々住む人は非常に少ない。現在の世界的な近代都市国家の流れと考えられる。およそ30年交替で建物が建て変わる、「掘り起こし」が神戸の特徴。これでは文化が育たない。また行事を宣伝しないとすぐに忘れてしまい、一過性行事になる傾向があり、なかなか長続きしない。京都のように恒例行事を生活文化にして欲しい。



質問に答える

一気に大きなことをしようとせず、このセミナーの主旨のように、地道に参加してもらいながら魅力を知ってもらうことが大切だ。

六甲山の「不易流行」を実感～事務局～

今回のお話で天上寺を改めて見つめ直し発見がありました。改めて、天上寺にてお話を伺う機会を設けたいと思います。来年の摩耶詣を見物できるのが楽しみです。そして、神戸の伝統文化を大切にしていきたいと思います。

◆参考・配布資料など：

- ・摩耶天上寺パンフレット
- ・摩耶山天上寺絵図
- ・摩耶詣『図説俳句大歳時記・春』より抜粋
- ・各種行事案内パンフレット

◆天上寺へのアクセス

交通：JR三宮駅、六甲道駅、阪急六甲駅から神戸市バス18系統に乗り「摩耶ケーブル下駅」で下車、まやケーブル・ロープウェイで山上「星の駅」へ。自然観察園を通り徒歩にて約10分

摩耶山天上寺
 〒657-0105 神戸市灘区摩耶山町 2-12
 TEL：078-861-2684
 FAX：078-801-2200

※参加者の皆様へ：カンパ箱へのご協力ありがとうございました。



◆参加者：32名（順不同・敬称略）

伊藤 浄厳 小坂 忠之 八木 浄 村上 定広
 澤田 中 浅井 審一 浅井 康枝 呂
 北山健一郎 石田 澄子 大谷安規永 新木 里志
 高光 正明 吉松 昌紀 霜田 泰功 水谷 真平
 久保 紘一 山本 悟而 小林 俊彦 半田 陽生
 渡辺 洋 常見甲子次郎 三島 嘉浩 小久保 晃
 下村 光子 門 昭子 尾崎 尚子 白岩 卓巳
 堂馬 英二 小野 律子 藤井宏一郎 菖蒲 美枝



西国名所図会

第11回テーマ:

名所図会から見た六甲山と神戸

講演内容

- ①名所図会を読む
- ②名所図会に見る地域の変貌
- ③名所図会が教えてくれる
二百年前の植生
- ④昔の里山は豊かだったのか?

実施日:平成16年2月14日(土)

午後1時~3時40分

場所:六甲山YMCA 里見ホール



講師: 田原 直樹さん

プロフィール

昭和28年生まれ 大阪大学大学院工学研究科博士課程修了。専門は都市計画、環境計画。建設会社、青年海外協力隊等を経て研究者の道へ。現在兵庫県立人と自然の博物館主任研究員

灘区長もひょっこりご出席

寒さが和らぎ、六甲山YMCAの星野池の氷もほとんど溶けていました。開講時に灘区長の小川雄三さんがひょっこり顔を出され、皆驚きました。

里見ホールのマントルピースで焼き上げた焼き芋を頬張りながら、気軽に講演を聞ける雰囲気小川さんも感心されました。そして、発足した「灘百選の会」を抜かりなくPRされました。



灘区長 小川雄三さん

田原さんは異色の経歴の持ち主

田原さんは、青年海外協力隊でアフリカのマラウイに行かれてカルチャーショックを受け、建築会社の技術者から開発途上国の都市計画の研究に転進されました。そして「ひとはく」の設立時から運営に参画されています。自然が売り物の「ひとはく」では自然が一番遠い存在だと自称され、名所図会から植生の変遷を探るといふ比類のない研究をされています。

名所図会の「ひもとき」にビックリ!

「ひとはく」所蔵の「空飛ぶ絵師の鳥瞰図」が特徴の「西国名所図会」と、「摂津名所図会」を「旅行ガイド」に、200年前の江戸時代にタイムスリップしました。「江戸時代の裏六甲は樹木があったが、表六甲は禿山だった」という結論への、ま

るでパズルを解くような緻密な解析に一同が惹き込まれました。お寺と神社には当時の景観や植生が残っていること、湊川神社や生田の杜の変遷、明治維新から50年で市街化した神戸、失われた松原を探すなど、興味の尽きないお話でした。

冬季の市民セミナーにも確かな手応え

市民セミナーも11回を経ました。定員近くの参加者が集まって、お互いに交流を図りこれまで以上に盛り上がりました。六甲山の楽しみ方も板につき、参加者主体で運営するという取り組みも着実に展開していると、勇気づけられています。

八木さんには講演記録のテープ起こし、山口さんと山本さんには感想文を引き受けていただき、ありがとうございました。

参加の感想 あけびグループ 山口紀子さん

年が明け、はじめて六甲山に登ってきました。当日は日差しが暖かく感じられ、春の芽吹きも感じられました。名所図会を現在の景観と対比させ、ほぼ同じところも多いということにはとても興味深く新鮮な驚きでした。200年も前に描かれた図、時々何気なく目にするものも、こういった観点で見るととても面白いものです。生田神社の松ぎらいのエピソードや神戸の町並み等、名所図会と合わせて見ると楽しいものですね。歴史をたどるウォークをしてみたいです。

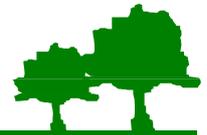
主催:六甲山自然保護センターを活用する会

後援:兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館

灘区役所



テーマ：名所図会から見た六甲山と神戸



第11回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親：12:15～13:00
2. 挨拶案内：13:00～13:20
3. 講演：13:20～14:30
4. 質疑応答：14:30～15:10
5. 懇談会：15:10～15:40

講演

- ①名所図会を読む
- ②名所図会に見る地域の変貌
- ③名所図会が教えてくれる
二百年前の植生
- ④昔の里山は豊かだったのか？



講演のあいさつ(田原 直樹さん)



名所図会とはどんなものなのかを知って頂きたいと思います。そこに描かれた地域がどのように変わったか、またその地域の山に生えていた植物がどのように変わったかをご紹介します。

講演内容

名所図会は現在の旅行ガイド

名所図会は、江戸時代中期に作られた名所案内記のことで、現在のガイドブックにあたる。大衆向けに作られ、たくさん普及したもので、やさしい文章や多くの挿絵などで構成されている。

次の「西国名所図会」と「摂津名所図会」の原本は、人と自然の博物館が所蔵している。

「西国名所図会」：屏風のように裏表に20枚位の絵がある。出発点は大阪の安治川で、船で瀬戸内海を二十箇所寄港しながら萩へ到着する。作者は五雲亭貞秀（横浜浮世絵の第一人者）で、鳥瞰図という上から見下ろした風景が得意で「空飛ぶ絵師」と呼ばれた。



西国名所図会

「摂津名所図会」：かなを用いて文章がたくさん書かれているのが特徴。複数の絵師が描いた挿絵もたくさんある。



摂津名所図会

二百年前の六甲山遠望と神戸

名所図会を見ると、自然状態、人の暮らし、景



西国名所図会 六甲山遠望

観などについて描かれた頃と現代の違いがわかる。大阪の安治川の川口から見た六甲山は、当時、武庫山と呼ばれていた。

大げさに強調して表現されているが、案外写實的に描かれている。何処から見て描いたのか判らないといわれるが、あちこちから見たものを合成したようで、全体としては想像図になっている。

次の図には湊川神社になった楠正成公の墓がある。当時湊川には、街道沿いと川の両側に松がいっぱい生えていたことが判る。楠公の墓や湊川神社の廻りは、全部田であったと読みとれる。



西国名所図会 湊川周辺

失われた松原を探す

江戸時代、鎮守の杜といえば松と思えば良かった。現在その松が残っている所が少ない。比較的松がよく残っているのは、住吉神社や西宮神社。広田神社は、非常に珍しい長い松の参道が今も残っている。昔の神社のイメージは、今の西宮戎神社みたいなものだった。現在、楠が中心になった鎮守の杜は、明らかに明治以降のものである。

二百年前から現在の植生への変遷

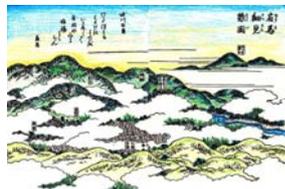
江戸時代の名所図会は「松の絵巻」といえるくらい、植物的観点から見ると松ばかり描かれて、松しかなかったと思われる程である。

ところが、松の世界がだんだん終わりつつある。大阪の市内にはとにかく松や名所がいっぱいあった。その名所を調べてみたら全然松がない。記述を見ると、昭和の初期まではあったが、ほとんど排気ガスで駄目になった。

里山に関しては、植生はむしろ良くなっている、と言ってよい。松は失われて、だんだん照葉樹林に変わりつつある。結果的に、生物の多様性としては高くなっている。だから「昔は、人手が入らなくて里山は豊かだったけど、人間が手を加えたから、だんだん貧しくなった」というのは、全体の話としては正しいのだが、江戸時代までの話としては、決してそうでなくて逆に植生は豊かになっている部分がある。

裏六甲は禿げていなかった？

禿げ山のように描かれている六甲山に対して裏六甲山は、斑点がいっぱい描かれている。斑点は樹木を表現しているとすると、六甲山の表は禿げていたが、裏は樹木がありそれほど禿げてはいなかったと解釈するのが一番理にかなっていると思われる。



田原先生から「実際に歩いて下さい」

名所図会に描かれているものが今どうなっているかを実際に訪ねて歩く「町歩きセミナー」を「ひとく」で行っていますので、興味のある方はご参加いただければと思います。(まとめ)

六甲の歴史がつながった

今年度の市民セミナーの講演では、万葉時代(第10回)、平安・鎌倉時代(第2・6回)、江戸時代(第11回)、幕末明治(第7回)、昭和初期(第3回)が語られた。六甲山に関する自然環境や生活文化の変化が見え、歴史がつながってきた。

懇談会

講演後の質疑応答では、なぜ今は松でなく楠なのか、名所図会の松は赤か黒か?その他名所についての話が交わされた。



初参加の西崎さん

参加の感想 山本 悟而さん

今回で3回目の参加となります。毎回素晴らしいお話に感動して満ち足りた気分です。帰りのバスに乗っています。今日もまた驚きの連続でした。名所図会は当時の景観を知るための貴重な情報源であるということの他、多くのことを教えて頂きました。年1回くらいはもっと集まりやすいところで、六甲山自然保護センターを活用する会のPRも兼ねて市民セミナーを開催されてはいかがでしょうか。小人数で聴くにはもったいない話ばかりです。



◆参考・配布資料:

講演レジュメ、名所図会(カラーコピー)配布

~書籍紹介~

自然環境ウォッチング

「六甲山」

兵庫県立人と自然の博物館

「六甲」研究グループ・編

神戸新聞総合出版センター



※現在講演記録を作成しています。ご希望の方は事務局までお問い合わせ下さい。

町歩きセミナーのご案内

名所図会にある場所を実際に訪ねて歩く「町歩きセミナー」があります。大阪編:5月22日、6月19日、神戸編:10月16・30日、11月6・20日。

※詳細は下記の人と自然の博物館までお問い合わせください。

兵庫県立人と自然の博物館

〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目

TEL:079-559-2001 FAX:079-559-2007

URL:http://hitohaku.jp/ Mail:root@hitohaku.jp

参加者の声 アンケートより

◆セミナーの感想

- ・阪神間の歴史と植木の関係が理解できた。
- ・今後も自分で勉強してみたいと思う。
- ・今、名所図会が昔を知るためにこれだけ役立っていることに感動した。
- ・図会から見た松の植生は本当に貴重な話であった。
- ・江戸時代と現在の対比が特に面白かった。

◆冬の六甲山の印象など

- ・前回は一面の雪だったが、今回は春を感じた。
- ・六甲山YMCAのペチカは心温まり、とても素敵。下界との温度差を実感した。
- ・冬の六甲山もなかなかいいなと思った。

◆参加者:25名(順不同・敬称略)

田原 直樹	山田 良雄	山西 一平	高光 正明
兼貞 力	村岡 義博	三村 栄三郎	石田 澄子
青木 孝子	中務 勝子	山口 紀子	田中 弘子
白石 郁子	山本 悟而	山田 勇	八木 浄
小川 雄三	西尾 智明	杉本 和彦	西崎 俊一郎
堂馬 英二	米村 邦稔	松井 光利	中川 貴美子
菖蒲 美枝			

第7回テーマ : グループと



神戸外国人居留地文化

講演内容

- ①神戸外国人居留地
文化の成立
- ②居留地にやってきた
イギリス人たち
- ③グループの活動

神戸外国人
居留地跡の碑



くわた まさる
講師：桑田 優さん

プロフィール

昭和20年神戸市生まれ
昭和60年八代学院大学（現：
神戸国際大学）経済学部教授、
現在に至る。平成5年、オックス
フォード大学日産日本問題
研究所研究員、平成9年同研究
所客員所員、平成13年ケンブ
リッジ大学東洋学部客員研究員

実施日：平成15年10月18日（土）午後2時～5時
場所：六甲山自然保護センター内 レクチャールーム

今年最後のセンターでのセミナー

この日は素晴らしい秋晴れで、自然保護センターの入口前にはコスモスやススキが揺れており、たくさんの方が訪れていました。センターでの市民セミナーは今回が今年最後となりました。（来月からは六甲山YMCAにて開催します）参加者32名が揃い、神戸市立成徳小学校の先生や生徒さん、婦人大学卒業生「あけび」の会の皆さん他、多彩なリスナーが集まり充実したセミナーを開催することができました。



成徳小学校の生徒さんも参加

居留地というものがあった

今回は神戸のイメージの一つにある外国人居留地に注目しました。居留地成立の歴史や建設、また居留地に関わる外国人達、その中の1人、六甲山開祖、アーサー・ヘスケス・グループの活動についてご紹介いただきました。六甲山の開発は居留地文化が源流にあり、六甲山開発の背景や文化を知ることができました。

グループの出生・死亡届を見た

本邦初公開！グループの出生届、死亡届を拝見することができました。桑田さんは、神戸国際大学経済学部の教授であり、他面では駐日英国外交官について研究されていて、神戸外国人居留地研究会の事務局長をされています。資料入手のため毎年イギリスへ出かけるそうです。この度、神戸外国人居留地をはじめ、イギリス人であるグループに関するたくさんの貴重な資料を集めていただき、スライドにて紹介していただきました。桑田先生の資料収集力ならびに追求する熱心さにとても感動しました。講演へのご配慮に感謝いたします。



旧居留地38番館

懇談会にもぎわった

質疑応答の後、お茶を飲みながら和やかな雰囲気懇談会へと進みました。成徳小学校の4年生担当である福谷先生より総合的な学習に対する方針をご紹介いただき、皆で聞き入りました。懇談会は参加者同士へと活発になり意見が交わされました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局

兵庫県立人と自然の博物館



テーマ: グループと神戸外国人居留地文化



第7回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ: 13:15~13:20
2. 講演: 13:20~14:30
3. 質疑応答: 14:30~15:20
4. 懇談会: 15:40~16:10

講演

- (1) 神戸外国人居留地の成立
- (2) 居留地の建設
- (3) 居留地にやってきたイギリス人たち
- (4) A. H. グループの活動

※講演用に作成されたパワーポイントで多くの写真や資料を紹介していただきました。

講演のあいさつ(桑田 優さん)



桑田 優さん

私は、江戸時代の古文書を読むのが専門ですが、海外に留学するためのネタとして、外交官居留地の研究をしています。今日は外国人が日本にやって来た110年位前の話をしたいと思います。

講演内容

幕末の開国

嘉永6年6月3日(1853年7月8日)アメリカのペリーが来航。翌年3月3日に幕府は日米和親条約を結ぶ。

安政5年正月12日下田の領事ハリスとの交渉により日米修好通商条約を結ぶ。長崎、神奈川、兵庫、新潟の四港の開港と江戸・大阪の二市の開市が決定した。

神戸外国人居留地

(数字は居留地の区画番号)



原図はジャパン・クロニクル紙ジュピリーナンバー「神戸外国人居留地」(堀博・小出石史郎訳、土居晴夫解説より神木哲男・崎山昌廣『神戸3/4世紀』(1993年 神戸新聞総合出版センター))

5年遅れて兵庫開港

日米修好通商条約の交渉において最初は京都近辺の堺を開港場としていた。しかし堺の近辺には皇室の古墳や天皇家の古墳があり、そういった堺を開港場にすると外国人の遊歩区域内に古墳の場所が入ってしまう。これを恐れて幕府は堺をやめて兵庫に変更した。

堺の港は大和川からの土砂により浅瀬のため、大きな船が入れないということで、アメリカは兵庫への変更をすんなりと受け入れた。

1863年の1月1日の開港予定であったが、当時幕末攘夷活動が盛んで、京都に近い兵庫の開港を予定通り行くと非常に危険であるということで、幕府は使節をイギリスに派遣し、5年間の延期を求めた。この文久2年5月9日(1862年6月6日)ロンドン覚書により、慶応3年12月7日(1868年1月1日)に兵庫開港となった。

神戸村に神戸外国人居留地の成立

慶応3年4月13日、「兵庫・大阪規定書」として外国行使団との間で兵庫の開港についての取り決めが行われた。その中で、貿易を行うためにやって来た外国人を居住させる場所として神戸村を居留地に定めた。

居留地の範囲(約26ヘクタールの広さ)

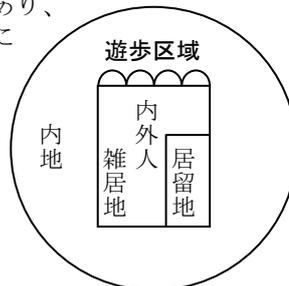
- 東: 旧生田川 (現在のフラワーロード・市役所東側)
- 西: 鯉川 (現在の鯉川筋・大丸西側)
- 北: 西国街道 (現在の丸大丸神戸店北側、三宮神社の間の道路)
- 南: 海岸線 (現在の国道2号線)

明治3年より競売が行われるが、価格はどんどん上昇。国別ではイギリスが圧倒的に多かった。

居留地以外に山手異人館などの雑居地

幕府によって建設が進むが、完成したのは運上所と番所だけでまだ人が住める状態ではなかった。そのため居留地以外のところに外国人が住む事を許した。これが雑居地であり、山麓の山手異人館もこれにあてはまる。

兵庫にやって来た中国人は条約の締結国ではないので居留地内には住めなかったため、中国人達は居留地の近くに「南京町」をつくり居住した。



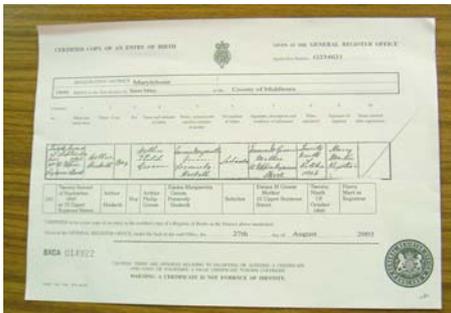
A.H.グループの生い立ちと活動

1846年ロンドン生まれ。父は弁護士。明治4年(1871)、グラバー商会を退社、神戸の善照寺の離れに下宿し、住職の媒酌で日本人宮崎直と結婚する。居留地の英101番に商館を建て、貿易商社を経営、日本茶を輸出しセイロン紅茶の輸入をはじめた。明治13年ごろから横浜へ進出し、生糸の輸出もしていたが、明治23年に神戸に帰り、居留地の播磨町34・35番に商社をかまえ茶の輸出を継続する。明治29年に80番館のオリエンタルホテルの取締役として、明治33年には社長となる。



A.H.グループ氏

出生地：メルルボーン



グループの出生届

桑田さんがイギリスのファミリーレポートセンターに行って死亡届と共に入手されたものです。(初公開)

六甲山開発～明治末には63戸の別荘

グループ氏は、明治28年、六甲山の三国池近辺の土地を借り、〈101番屋敷〉と名乗る平屋2棟の別荘を建てた。明治34年六甲山上に4ホールのゴルフ場を開設、明治36年、9ホールに増設して日本最初のゴルフクラブの神戸ゴルフ倶楽部を創設。六甲の山頂生活も宣伝した。明治43年にはイギリス人28戸、日本人12戸、ドイツ人、フランス人各9戸、アメリカ人4戸、ベルギー人1戸、計63戸の別荘が建ち並び、彼は「六甲市長グループ」と呼ばれるようになった。明治45年、長年の功績に対し、「六甲開祖之碑」が山頂に建てられた。

事実確認の質疑応答

居留地という言葉の意味や条件について踏み込んだ質問がありました。また、グループの功績について質問があり、米村さんから補足説明をいただきました。

桑田さんのまとめ

今回は、神戸外国人居留地文化がメインとなり、時間切れで足りない部分もあったと思います。本当は写真だけではなしに六甲山とグループの関係などをもう少し話が出来れば良かったと思います。今後さらに研究を進めたいと考えています。



セミナーの様子

※事務局としては、外国人居留地文化について初めて知りました。多くの方に知ってもらいたいです。

◆参考・配布資料：

講演レジュメ配布

～書籍紹介～

『近代における駐日英国外交官』

桑田 優 著

(敏馬書房 6000円)



連絡先：神戸外国人居留地研究会
 神戸市東灘区向洋町中9-1-6
 神戸国際大学桑田研究室
 TEL&FAX：078-845-3315

◆アンケート：

*居留地とグループと六甲山のつながりが分かった。
 *居留地成立の由来が分かった。神戸文化の原点を見直した。
 *居留地の跡をたどってみたい。
 *次回はグループの個人的なエピソードが聞きたい。

◆懇談会：

- ・神戸市立成徳小学校4年生担当の福谷先生より総合的な学習の方針の紹介
- ・婦人大学卒業生「あけび」より六甲山の活動紹介
- ・兵庫県生物学会白岩先生よりホームページの案内

※今回の講演記録を作成中です。ご希望の方にはお分けしますので事務局までお問合せください。

◆参加者：33名(順不同・敬称略)

桑田 優	米村 邦稔	白岩 卓巳	八木 浄
戸田 清彦	桑田 結	青木 孝子	澤田 俊哉
石田 澄子	霜田 泰功	植松富士子	光宗 智子
白石 郁子	山口 紀子	田中 弘子	藤本 武子
川口嬉預子	中務 勝子	福谷真知子	北山健一郎
藤田 一豊	藤田 昭子	山田 良雄	伊沢 信雄
伊藤 邦生	三代地 光	川植菜亜子	安喜 茜
大上 紗璃	堂馬 英二	藤井宏一郎	中野 一
菖蒲 美枝			

第31回テーマ：
六甲山開発史

講演内容

- ①昭和初期の六甲山
阪神・阪急の開発競争
- ②戦後の六甲山
国立公園化
- ③記念碑台の移り変わり
(フィールドワークの案内)

実施日：平成17年10月15日(土)
午後12時30分～3時
場 所：六甲山自然保護センター
レクチャールーム



講師：森地 一夫さん

プロフィール

1960年生まれ。関西学院
大学理学部卒業、神戸大学大
学院理学研究科数学専攻理学
修士。コンピューター・ソフ
トウェア会社に勤務。ボーイ
スカウト西宮地区役員。HP
「祖父の見た六甲山」を開設。



六甲登山ロープウェイ跡
を背に解説

実践こうべ学第2回と併催

今回の市民セミナーは、「実践こうべ学」の第3回講座と併催しました。県立神戸生活創造センター、県立人と自然の博物館と当会の三者が共催で実施しているものです。自然保護センターに総勢48名が集まり、レクチャールームは満員で賑わいました。雨が降ったりやんだり天気は不安定でしたが、「それも六甲山の自然の魅力だ！」と雨や霧の景色を楽しみました。

森地さんの探求心に感服

講師の森地一夫さんはホームページ「祖父の見た六甲山」を開設しています。六甲山の開祖といわれるA. Hグループ氏以降の六甲山開発について調べている卓越したフィールドワーカー(オタク?)です。講演では、阪神と阪急の開発競争をひも解かれ、意外と知られていない昭和初期の六甲山開発の様子を解説していただきました。また六甲山に関する本や地図など貴重な資料もたくさん紹介されました。小さな疑問を大切にする森地さんの探求心には感服しました。



レクチャールームは満員状態

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

昭和初期の賑わいを辿る

開発の概要の話に続いて、4つのグループに分かれてフィールドワークをしました。探訪マップをもとに記念碑台周辺を歩き、昭和初期の写真と現在とを見比べました。六甲山ホテルの旧館や六甲登山ロープウェイ跡地など六甲山開発の名残を確かめながら、当時の賑やかな様子に思いを馳せました。

六甲山スローライフ探検隊が踏み出した

六甲山開発の歴史を探求する興味が募りました。これからの六甲山への関わりを考えるには、昭和初期の六甲山を知ることは重要です。森地さんの実践に学びながら、六甲山でのスローライフが賑わった時代に注目していきます。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 戸次 寿一さん

普段何気なく眺めていた六甲山、開発当時のことも考えたことはありませんでした。今回参加して、明治時代から戦前にかけて、山に想いをかけた人々の努力によって開発が進んだことを解説いただき、その一端をうかがい知ることができました。また、開発当時の痕跡を、実際にフィールドを通して知ることができたことも有意義でした。



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山開発史



第31回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：12:30～12:45
2. 講演：12:45～13:25
3. フィールドワーク：13:25～14:25
4. 質疑応答：14:25～15:00

講演

- ①昭和初期の六甲山～阪神・阪急の開発競争
- ②戦後の六甲山～国立公園化
- ③記念碑台の移り変わり～フィールドワーク



大阪毎日新聞の石碑

講演のあいさつ(森地一夫さん)

ホームページ「祖父の見た六甲山」を開設しています。祖父は六甲山ホテルの支配人を務めた人で、祖父の残した六甲山の昔の地図がきっかけで六甲山の歴史を調べ始めました。分からないことを調べるうちにだんだんとはまっていき、六甲山オタクになりました。今日はオタクの心意気を皆さんに感じていただきたいと思います。



森地 一夫さん

講演内容

1. 昭和初期の六甲山～阪神・阪急の開発競争 ■昭和初期～にぎやかな六甲山



関西山小屋「六甲山特輯(しゅう)」(昭和12年)には「およそ六甲ほど変化に富んだ山はなく、六甲ほど多種多様の登山者を見る山はない」とある。「パラソルを差して美しい和服の麗人」や「葉巻をくゆらし、ゴルフパンツをはいた肥満ブルジョア氏」、「リュックサックにセーラー服の女学生」、「ニッカボッカに登山靴の実業登山団」などなど色々な人たちが賑わっていた。

■明治のころの六甲山

グループが六甲山に惚れ込んで開発を始めた。家を建てて道を整備し、居留地にいる外国人を誘った。明治43年頃の六甲山の地図に住民の名前が書かれているが、40数軒中、一人を除き全員外国人。

当時はカゴで山に登った。山麓の五毛や大石はカゴの出発点として賑わった。山上には茶店があり、ホテルより安く泊まることができた。

明治の終わり頃に「六甲開祖之碑」が建てられ、その場所が「記念碑台」と呼ばれるようになった。

■昭和初期の六甲山開発

第1次大戦が起って、外国人はどんどん帰国。一時さびれたが、代わりに軍需景気で成金になった日本人が急激に増えた。代表格は天王寺で鉄鋼所を経営した奥村氏。儲かって仕方がないので社員にボーナスを33ヶ月分出し、丁字ヶ辻の辺りに家を建てて、昭和4年に自費で道路(表六甲ドライブウェイの戦前版)を建設。兵庫県に寄付した。

六甲山は麓住民の里山として、氷や薪・山菜などの天然資源を供給してきた山で、共有物として使われてきた。その利用権(入会権)が大正15年に解消され、昭和からの一大開発ラッシュにつながった。



■阪神によるインフラ整備

昭和2年に阪神が有野村から山上の広大な土地を購入し、開発に着手した。阪神は山上を住宅別荘・水源・森林・遊園・商業の五区に分けて開発計画を立て、貸し別荘やオリエンタルホテルを建設。六甲越有馬鉄道(六甲ケーブル)を建設し、昭和8年には六甲山回遊道路を整備した。

■阪神・阪急の開発競争

山麓での対抗意識を山上に持ち込む形で阪急が開発に参入。六甲山ホテルや六甲登山ロープウェイを建設した。阪神と阪急の競争は「まるで早慶戦その儘一山の神聖を患ふる葺合署」という新聞記事になるほどだった。

山上には数百の別荘ができ、土日にはドライブウェイを高級車が砂煙をあげ疾走。昭和12年頃には100万人以上六甲山に上ったという。

六甲山の賑わいは絶頂を極めたが、開発は無駄が多く、節操を欠いたものになった。



■体位向上の山

戦時中はこの活気も軍靴の足音に消され、六甲山は銃後の備え「体位向上の山」としての役割を担うことになった。排英運動の高まりを受けて、昭和15年(17年?)に「六甲開祖之碑」は撤去された。ロープウェイは金属回収のために昭和19年に撤去。今はアイスロードの脇にその廃墟だけが残る。

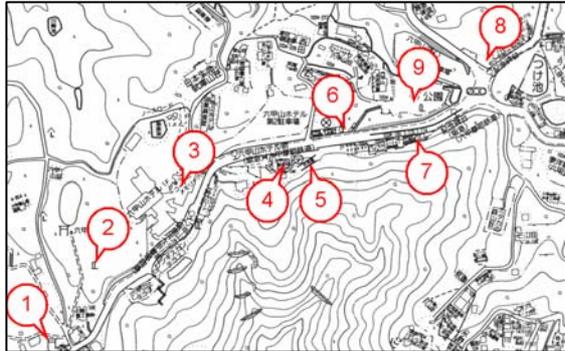
2. 戦後の六甲山～国立公園化

■戦後の六甲山

戦争を経て六甲山は荒廃し、六甲山ホテルが昭和26年に再開業したものの、茶店は13軒ほどに減っていた。六甲山を愛した阪急の小林一三氏は朝日新聞(昭和27年)に「六甲山は泣いている」という一文を投稿している。さらに神戸市との折衝を進め、表六甲ドライブウェイの再建に出資、国立公園化に向けて中心的な働きをした。ロープウェイを復活させるという話もあったが、小林氏は「これからはモータリゼーションの時代」と一蹴したという。

3. フィールドワーク

開発史の話の後、森地さんから記念碑台周辺の探訪マップを渡されて野外調査に向かった。①～⑨の記号が付けられた所に昔の遺跡を求めて探検した。



探訪マップ

あいにくの雨、欲を出して方々を見て回り、気づくと予定の30分を大幅に過ぎてしまっていた。

■探訪マップで取り上げた場所

- ①白髭神社②六甲山開発記念之碑③六甲山ホテル
④六甲山郵便局⑤月見橋⑥お地蔵さん⑦六甲銀座
⑧六甲山廻遊道路之碑⑨記念碑台

<探訪マップの解説の一部>

- ③六甲山ホテル：森地さんの祖父、高岡勇さんが描かれた六甲山の鳥類の絵を発見。六甲山にいないはずの「キタタキ」の絵が描かれているのは謎。
⑤月見橋：阪急のロープウェイ駅の名残。ロープウェイは函館山ロープウェイも手掛けた川浪知熊氏的设计。高い技術力が注目され、海外からも依頼。



③六甲山の鳥類の絵
(六甲山ホテル)



⑥お地蔵さん
(道路沿い)

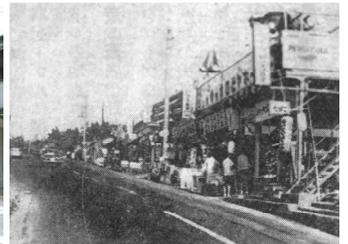
⑥お地蔵さん：アイスロードでは昔、牛を引いて上っていた。牛車で荷物を運ぶ途中落ちた死傷者を祀ったもの。アイスロードから移してきた。

⑦六甲銀座：戦後、観光客が増えるにしたがって、みやげ物や食べ物屋などが立ち並び、「六甲銀座」と呼ばれて賑わった。

⑧六甲山廻遊道路之碑：昭和7年に建立。阪神が建設した六甲山廻遊道路は全長約7キロメートル



現在の六甲銀座



昔の六甲銀座

まとめ

一気に多くの話題をお話したが、六甲山にはまだまだわからないことがある。

●昭和初期の六甲山の様子はどうだったか？：写真を発掘し、当時の地図と現在を比較して調べることも必要だ。

●六甲山開発の動力は？：誰がイニシアチブを取っていたか。山上の住人はどう関わったか。生き証人へのヒアリングも必要だ。現在の動きはどうか。

●小さい疑問へのこだわり：六甲開祖之碑はどこへ？100万ドルの夜景っていつから？六甲山頂の楠公像はどこへ？など。

●今後の六甲山はどうあるべきか？：何も考えずに利用すると戦前の節操のない開発と同じだ。戦後は国立公園になったが、自然との共生の中でどのように利用するかを考えなければならない。

事務局より

森地さんのフィールドワーカーとしての心意気に感服しました。何気なく通り過ぎていた景色の中にもそれぞれ歴史があり、往時の六甲山の繁栄振りを想像しながら、今後の六甲山のあり方を考えていきたいと思いました。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ ・スライド
- ・年表
- ・地図（昭和11年版
六甲山頂明細地図）
- ・参考図書、資料等
- ・フィールドワーク
探訪マップ



六甲山開発をたどる貴重な資料

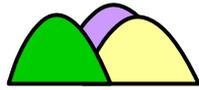
ホームページ「祖父の見た六甲山」

<http://www2.osk.3web.ne.jp/~morichi/rk/>

◆参加者：48名（「実践こうべ学」受講者20名）

（順不同・敬称略、ゴシック字は実践こうべ学受講者）

森地 一夫	森地 洋子	久保 順一	大谷安規永
久保 紘一	白岩 卓巳	半田 陽生	嶋谷 敏明
浅井 審一	泉 千代子	澤田 中	戸次 寿一
門脇 正宏	尾崎 尚子	大上 卓男	福永 一登
坂本勝比呂	吉岡 至浩	高橋 敬三	村田 佳子
竹田 明子	村上 定広	八木 浄	小坂 忠之
石田 澄子	中務 勝子	伊藤 邦生	植松富士子
栗原 徹	栗原 隆	香西 直樹	小林 秀樹
芝崎 康子	津村 駿三	長尾 勝彦	長田 勝彦
原田 正造	藤本 武子	藤野 拓二	前田とし子
前田 康男	岩浅 敬由	竹田 充志	宮崎ひろ志
鈴木 武	堂馬 英二	堂馬 佑太	菖蒲 美枝



3. 六甲山の植物を知る ～六甲山の生物～

①六甲山の植生

P 49～51



武田 義明
神戸大学発達科学部
人間環境科学科助教授
第34回市民セミナー講演
2006年1月28日

④六甲山のアジサイ

P 58～60



米村 邦稔
六甲山のアジサイを育てる会
会長
第4回市民セミナー講演
2003年7月19日

②六甲山のブナについて

P 52～54



松井 光利
ブナを植える会
副会長
第1回市民セミナー講演
2003年4月19日

⑤六甲山のシダ植物

P 61～63



鈴木 武
兵庫県立人と自然の博物館
研究員
第19回市民セミナー講演
2004年10月16日

③六甲山とツツジ

P 55～57



白岩 卓巳
兵庫県生物学会
会長
第13回市民セミナー講演
2004年4月17日

⑥六甲山の苔

P 64～66



秋山 弘之
県立人と自然の博物館
主任研究員
第27回市民セミナー講演
2005年6月18日

六甲山の山頂は1000メートル近い標高で南斜面が急峻という地形です。特殊な地形ですので六甲山には数多くの種類の植物が生育しています。明治時代には植物学者の牧野富太郎氏が調査・研究するなど、六甲山においては植物の研究が盛んです。

「六甲山物語」の第3段は「六甲山の植物を知る」というくくりです。六甲山の自然観察、特に植生や植物の観察は大きな魅力です。六甲山の代表的な植物について各分野の専門家の方々に語っていただき、貴重な自然環境である六甲山を彩っている植物についての理解を進めます。

六甲山の植生研究のオーソリティである武田さんには「六甲山の植生分布」について、「六甲ブナ」の発見者の松井さんには六甲山に自生するブナの育樹など、アリマウマノスズクサの研究で有名な白岩さんにはツツジのお話、米村さんには六甲山の花であるアジサイのお話やシダダンカの挿し木をご紹介します。身近であっても見落としがちな植物のシダやコケについては、シダ類の専門家の鈴木さん、コケ類の専門家の秋山さんに解説をしていただきます。



六甲山の植生の由来を知る

第34回テーマ： 六甲山の植生

講演内容

- ①六甲山の植生の由来
- ②六甲山の主な
現存植生と植物
- ③種多様性と森林管理



講師：武田 義明さん

プロフィール

1948年生まれ。1971年3月神戸大学農学部卒業。1972年2月神戸大学教育学部文部技官。1995年12月神戸大学発達科学部助教授。2005年10月神戸大学発達科学部教授。

実施日：平成18年1月28日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山YMCA 里見ホール

冬本番を実感！

今年最初に登った六甲山は美しい雪景色でした。気温マイナス1度の寒さにも負けず、ノースロードから記念碑台まで散策路を清掃しました。お昼にYMCAへ戻って、熱々の鍋焼きうどんと天ぷらをいただいて心身共に温まりました。

午後は21名の熱心な参加者が揃いました。新しい顔ぶれもあり、和やかに講演が始まりました。



散策路の点検と整備について検討

六甲山の植生のオーソリティー

武田義明さんは、六甲山の植生について30年以上も調査研究を続けられています。その他ご自宅近くの里山である吹田紫金山の環境保全活動にも取り組まれているそうです。

講演では、明治以降の六甲山の植林や自然回復の変遷、ブナやシイなどの現存する植物群落を垂直分布の階層に分けて、わかりやすく解説いただきました。また、深い知識と経験に裏付けられた内容は大変興味深く、植生調査研究の重みを感じました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

六甲山の植生の様相を知った

六甲山は炭や建材による伐採など、人の手が入った山で、特にブナは樹の根際から複数の幹が出る「株立ち」が多く見られるそうです。これまで管理していたところが放置されて、植生や種多様性などの問題が起きていることを知りました。

質疑応答では、六甲山で実際に自然保全に取り組む人たちの具体的な意見も出て充実しました。その他、今後の森林管理についても話しました。

手を入れた以上は管理し続ける

今回のお話で、六甲山の自然は放置できない状況であることがわかりました。これまでの自然の変遷を理解し、植生を維持することの課題や管理の必要性を認識できました。次世代に残すためにも私たちは何ができるのかを考えてみたいのです。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 小野 涼子さん

六甲山の現状植生だけでなく、100年前のはげ山からスタートした植生の経過について、写真等を交えながら説明して頂きました。また、人の手が入らなくなったことで淘汰されつつある種を、どのように保全していくのかという、今後の森林の管理のあり方など興味深く聞かせて頂きました。



里見ホールの暖炉の暖かさと薪の燃える良い香りがとても心地良い、普段とはひと味違った講義も魅力のひとつでした。

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山の植生



第34回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親：12:15～13:00
2. あいさつ：13:00～13:10
3. 講演：13:10～14:15
4. 質疑応答：14:35～15:00
5. 懇談会：15:00～15:30

講演

- ①六甲山の植生の由来
- ②六甲山の主な現存植生と植物
- ③種多様性と森林管理



もはや名物！中川亭のやきいも

講演の挨拶(武田義明さん)

神戸大学で植生の研究をしています。最近では里山保全の観点から話をすることが増えています。

植生とは、地表面を覆っている植物群落のことです。



武田義明さん

講演内容

1. 六甲山の植生の由来

■明治時代に植林

六甲山は江戸時代にはハゲ山だったと言われている。六甲山は人間の手が入る以前は、おそらくシイ・カシの林だった。人間が燃料や墨、建材として伐採し、やがてアカマツやコナラの林になった。さらに伐採を続けて土壌が劣化・流出し、ハゲ山になった。大雨が降ると洪水が起こるようになり、明治時代に植林がされることになった。



明治時代の植林(再度山)

■植物群落の遷移

植物群落は時間とともに変化していく。はじめ、裸地から一年生草本群落となる。ススキやイタドリなどの背の高い植物が入り、多年生草本群落となる。やがてよく日の当たるところに育つ、マツなどの陽樹の林になる。続いて日陰でもある程度育つ陰樹のカシやシイが入ってきて、最終的には陰樹の高木の群落「極相」になる。

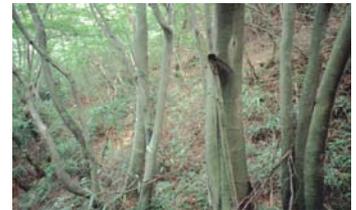
2. 六甲山の主な現存植生と植物

■六甲山の垂直分布

六甲山は日本全体の潜在自然植生では照葉樹林帯だが、六甲山は標高によって植生が分かれている。大まかに、標高約750m以上はブナ林、450m以上はカシ林、それ以下はシイ林となる。



■ブナ林：ブナは六甲山に約130本あるが、次の世代が育っていない。六甲山はブナが生息できるギリギリの標高であり、地球温暖化が進むと六甲山からブナがなくなる可能性が高い。



ブナ林の内部

六甲山のブナは株立ちが多い。昔から切られていた証拠だ。ブナは普通株立ちしないのでよく残ったと思う。

イヌブナは数が多く、調査しただけで1500個体はあった。イヌブナはブナと違って稚樹もあるので更新していくだろう。

ブナ林の代表的な植物：オオカメノキ、ゴヨウツツジ、ベニドウダンなど。

■シイ・カシ林：西区の太山寺の裏山のシイ林は、近畿でも有数の広さで20ヘクタールある。

シイ・カシ林の代表的な植物：スダジイ、アカガシ、ウラジロガシなど。

■アカマツ林：陽の当たるところが好きなのでハゲ山は格好の生育場所だった。植林から時代を経て、コナラ林などに変わっているところが多い。

3. 種多様性と森林管理

■東おたふく山の草原

かつて東おたふく山は茅場であり、山火事でときどき燃えたので、ススキ草原が維持されていた。今は、人の背丈より高くなったネザサがびっしりと生えて、地表には他の植物がない状態になった。

神戸市は草刈をして背の高さを低く抑えているが、予算不足で全部はカバーしきれない。管理をしないと、他の草原性の植物がなくなってしまう。



1970年代の東おたふく山

■外来植物の持ち込み

最近、湿地などに外国の植物を持ってきて植える人がいる。本人は良かれと思ってやっているようだが、いったん生えてしまうと退治できない。既に動物では外来種の問題が大きく言われている。植物でも今後、大きな問題になるだろう。

■湿地の移植

垂水にあった湿地は工事で潰されることになり、表土を剥ぎ取って移植をした。3年後、一見湿地は復元できたが、肝心の貴重な植物は消えて、強い植物だけが残った。移植は元の環境と違う場所ではほとんどうまくいかない。

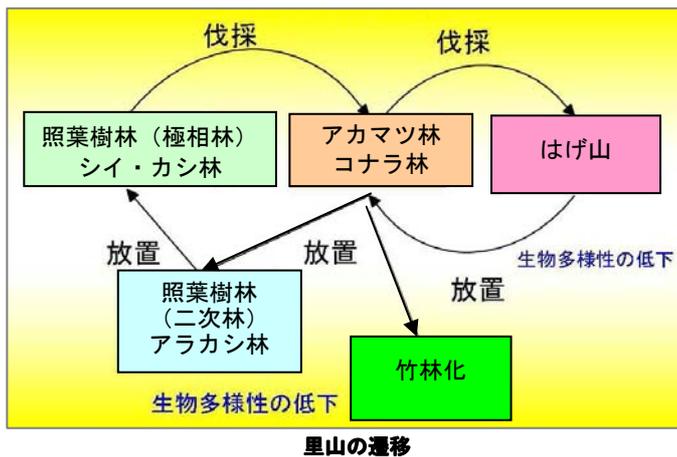
■松枯れ

実はマツクイムシという虫はいない。マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウという線虫がマツに入り、松枯れを起こすと言われる。

松枯れの原因には、土壌の質の変化や酸性霧説などもあり、どれが正解かはわからない。六甲山では松枯れは南側に多く、標高の高い場所のマツはよく残っている。松枯れには複合的要因があると思う。

■再度山での30年間の植生変化

再度山の10m四方のある場所を30年間定点調査しているところがある。30年で植物の種類数はだんだん減る傾向にある。落葉樹が減り気味で、常緑樹が増えてきている。里山は人の手をいれず、放置すると変化していく。



■身の回りの環境保全活動

私は自宅の近所にある里山、吹田紫金山の手入れをしている。常緑樹を切ってコバノミツバツツジだけを残すようにすると、春にはキレイに咲くようになった。

◆参考・配布資料など

- レジュメ、スライド
- 図書紹介『六甲山の植物』
武田義明（共著）
神戸新聞総合出版センター
（2300円税別）



武田さんへのお問い合わせは当会までお願いします。

神戸大学発達科学部人間環境学科
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-1-1
TEL: 078-803-7753 FAX: 078-803-7761
URL: <http://www.h.kobe-u.ac.jp/>

質疑応答

◆植林で植える木はどのような基準で選んだのか？

はげ山に強い木。早く緑化できるようにハゲシバリとの異名をとるオオバヤヤシャブシなどを植えた。

◆紅葉谷に大きなブナがあるが、伐採は？

伐採されている。戦後伐採されなくなったので残ったのだと思う。ブナの寿命は2~300年だが六甲山のブナはまだ若い。

まとめ（武田さん）

生態学では小地域の変化はほとんど影響を及ぼさないが、それが重なると全体に影響を及ぼすと言えます。自然の保全は、できるところから肩肘張らず始めていきたいですね。六甲山は身近なみんなの山。豊かにしていければと思います。

参加者の横顔（武野さんと本間さんは初参加）



泉美代子さん



武野真也さん



本間尚子さん

参加の感想 野口 裕美さん

常に一定だと思っていた森も10年~20数年で気付かないうちに変化していつていることを知り、森も生きていることを実感しました。

地球温暖化という地球規模の変化が身近な六甲山にも影響を与えていることにも驚きました。



事務局より

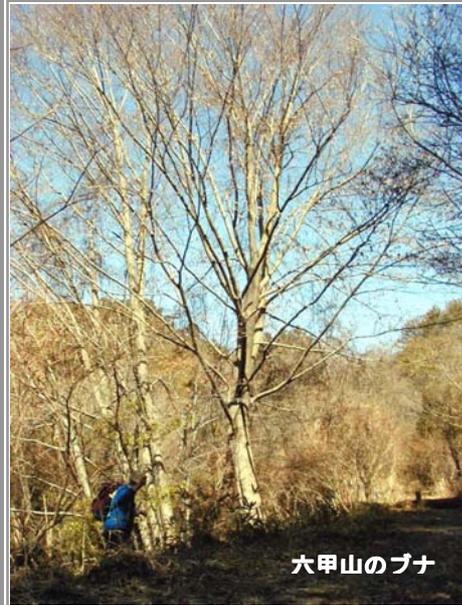
昔から人間の手を入れてきた六甲山は、常に管理しないと自然を保全しないことを知りました。できるところから自然の保全をはじめていきたいと思っています。

◆参加者の声~アンケートより~

- 特にブナ関連の話は興味深かった。
- 現在の六甲山の状況を理解できた。
- 地元で活動する人の話が聞けてよかった。
- 次回は野外でお話してほしい。
- アットホームな雰囲気ですごくよかった。初めて暖炉を見て興奮した。

◆参加者：22名（順不同・敬称略）

武田 義明 村上 定広 浅井 審一 浅井 康枝
石田 澄子 中務 勝子 藤本 武子 泉 美代子
福永 一登 武野 真也 本間 尚子 小野 涼子
遠井 方子 岡 敏明 福井 壽彦 山本 悟而
野口 裕美 堂馬 英二 中川 貴美子 小野 律子
堂馬 佑太 菖蒲 美枝



六甲山のブナ

第1回テーマ： 六甲山のブナについて

講演内容

- 1：ブナを植える会の紹介
- 2：ブナの樹とは
- 3：ブナを通して多くの人との出会い
- 4：六甲のブナへのかかわり
- 5：六甲山ブナ林の保全増殖
についての私見

実施日：平成15年4月19日（土）
午後1時～4時
場所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



まつい みつとし
講師：松井 光利さん

プロフィール

昭和11年1月20日生まれ
サラリーマン歴40年
現在、ブナを植える会 副会長
日本自然保協会・自然観察指導
員登録・ひょうご森の倶楽部・
森林ボランティア（親林派）登録

風雨の六甲山でストーブを囲む

六甲山上は濃霧に加えて風雨が激しく、傘もさせない風雨の中を熱心な参加者が18名集まりました。定刻に開始し、ストーブで暖を取りながら進行了しました。

トップバッターは「六甲山のブナ」

「六甲山魅力再発見市民セミナー」を月例で定期開催しました。無期限で地道に継続を重ねて、講演記録は「六甲山魅力再発見ガイド」としてまとめる予定です。第1回市民セミナーは、100年～200年後の六甲山を考えて、六甲生まれのブナを植樹されている、「ブナを植える会」の副会長で通称ブナおじさんと親しまれている松井光利さんをお願いしました。「ブナを植える会」からは立派な看板をご寄贈いただき、前途を祝していただきました。

「六甲山の豊かな自然？に親しみ、楽しく語り合しましょう」

六甲山生まれのブナの種子の発見と苗作りから植樹。六甲山緑化植林の歴史を振り返りながら、六甲山の豊かな自然の中に親しみを見つけて、楽しみ方を話し合しましょう。（テーマについてのメッセージ）

VTRでブナの生態に感動

ブナを熟知している方から、六甲山もよく知らない方まで様々。世界遺産で有名な白神山地のブナの四季や、六甲山のブナの植樹でブナを植える会の活躍ぶりがVTRで紹介されました。自然のバロメーターと言われるブナの醸し出す雰囲気誘いに込まれました。

雪崩遭難防止で「ブナを植える会」が発足

昭和5年のハチ高原スキー場での雪崩遭難事故の50周年に、皆伐されているブナ林を目にした仲間がブナを植えていくことを決意し、ブナを植える会を結成しました。以来24年、但馬や六甲山で11000本以上のブナを植林しています。

六甲山にブナを植える、熱い思い

六甲山頂部にはブナとイヌブナの天然林が100本前後残っています。樹齢100～200年くらいで後継樹となるはずの種子、実生苗、若木も見あたらず、絶滅が危惧されていました。しかし、平成5年秋に「六甲ブナ」として初の実入りの種子が松井さんたちによって大量発見され採取されました。六甲生まれのブナを植えて、100～200年後には六甲山にブナ林を実現したい、という松井さんのライフワークが始まったわけのです。



六甲山自然保護センター

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局

兵庫県立人と自然の博物館

テーマ：六甲山のブナについて

第1回市民セミナーの流れ

1. 市民セミナー開催の主旨説明

六甲山に活力を取り戻す活動の拠点として「県立六甲山自然保護センター」を有効活用しましょう。市民セミナーを継続開催することによって六甲山上に市民の関心を集めて行きます。皆さんの積極的なご協力を期待します。(堂馬英二さん)



セミナーの準備風景

2. 講演

①あいさつ

②VTR鑑賞：13：10～13：40

③講演内容：13：40～14：30

④質疑応答：14：40～15：20

講演やVTR鑑賞での質疑応答

3. 懇談会(提案)：15：30～16：00

1. 講演のあいさつ(松井光利さん)



松井光利さん

今回のセミナーで、六甲山生まれのブナの種子発見と苗作りから植樹を通して、六甲山緑化植林の歴史を振り返ります。六甲山の自然に興味を持つきっかけ作りを目指しました。

2. VTR鑑賞

参加者の中には「ブナの木」についてご存知ない方もおられたので、ブナの講演に先立ってVTRで視覚的に「ブナの木」を印象付けられたことは、講演を通して「ブナの木」を慈しむ気持ちも深まるのではないかと思います。

ブナにからんだVTR(テレビ放映された数編を松井講師が録画編集したもの)を鑑賞しました。

- ・「ブナ」～『白神山地 命育てる森』
- ・『六甲山のブナ』→山頂付近に100本、絶滅が心配
- ・『和泉葛城山のブナ』→大阪みどりのトラスト協会
- ・『六甲山で一番立派なブナ』
→200年以上、「根性ブナ」と命名



VTRを鑑賞中の様子

3. 講演内容

六甲山生まれのブナの種子の発見と苗作りから植樹。六甲山緑化植林の歴史を振り返ると共に、今後の六甲山ブナについても考えました。

◆要旨

ブナの起源：

ブナの木は縄文時代からの生き残りの樹木であります。

ブナ林帯：

山の8合目から上の「深山、奥山」と呼ばれる人が踏み入ることを戒めてきた処にあります。

「ブナを植える会」結成動機：

昭和5年のハチ高原スキー場での雪崩遭難事故にあります。50周年に当たる昭和55年に集まった当時の仲間達が遭難現場周辺のブナ林が開発のために皆伐採されていたのを見て「皆でブナを植えて行こう」と「ブナを植える会」を結成しました。

ブナを植える会連絡先

所在地：神戸市兵庫区和田山通 1-2-25 D102

TEL：078-652-7624 FAX：078-652-7625

HP：http://www.bunawouerikai.jp

六甲のブナ林：

六甲山でブナやイヌブナの生えているところには人手の加わらない原自然が残っています。

アカマツ、ヤシヤブシ、ニセアカシヤ等の砂防林で緑を回復させたとされている六甲山系にも小規模ながらもブナとイヌブナの天然林が残っております。しかしそこには、樹齢100～200年位で直径20cm～80cm位のもものが大小合わせて100本前後しかなく、後継樹となるはずの種子、実生苗、若木も見当たらず早晩絶滅するのではないかと危惧されていました。

六甲ブナの植林：

ところが幸いなことに平成5年秋に「六甲ブナ」として初の実入りの種子が大量発見され採取することができました。

ブナは役に立つ！



ブナの語源を解説

採取した種子は『神戸市立森林植物園』、『人と自然の博物館』等に送り、大勢の有志でブナの苗木作りに挑戦して、六甲ブナ初の苗木が4～6年かけて育ち始めました。

平成10年～12年の3年間に六甲山上の旧極楽茶屋周辺の市有地に六甲ブナ初の実生苗150本を植樹することが出来ました。また平成14年には六甲山最高峰頂上に六甲ブナ10本を植樹しました。

六甲ブナの育樹：

今後「六甲ブナ」の苗の苗木の成長を助けるために、下草刈りやりやツル切り等の育樹作業を続けていかなければなりません。

六甲のブナ林の増殖拡幅：

豊かな自然の象徴である「六甲のブナ林」の100年～200年先を見据えて、兵庫県民、神戸市民の財

産ともいえる『六甲のブナ林』の保全増殖に向けて皆さんと共に残し伝えていきたいと願っております。



米村・尾崎さん



遠井さん

4. 質疑応答

講演やVTR鑑賞での質疑応答

※回答要旨のみ

- ・ブナの苗木成長は3年で10cm位になる。(松井)
- ・ブナの種子は笹の上に落ちると地面に届かないので駄目。(松井)
- ・米が凶作の年はブナの種子が豊作のようで、平成5年は東北地方が冷害となり六甲ブナの種子は豊作であった。この周期は7～8年に1回。(松井)
- ・ブナの成育適温は最高25℃。六甲山頂にはブナ林を再現できるかもしれない。(米村)
- ・六甲山は混植が多く、ブナは他の木に負けてしまうかもしれない。(米村)
- ・樹木の種は6万のうち育つのは1個。(米村)
- ・ブナの芽は、最初は貝割れ大根と同じ双葉。雪が多くて湿潤な所が凍りつかなくてよい。(松井)



竹内さん



近藤さん



富士水さん



長田さん



都築・数井さん



河本さん

◆配布資料：

- ・「六甲山自然保護センターを活用する会」の挨拶文
- ・六甲山魅力再発見市民セミナー第2回案内パンフレット
- ・「ブナを植える会」活動紹介資料

松井さん手作りブナの→
絵葉書もプレゼント



◆懇談会（提案）：

自然保護センターを使った感想や今回のセミナーに対する意見が活発に発表されました。そのような盛況の中、16時になり第1回セミナーを閉会しました。

◆参加者：18名（順不同・敬称略）

松井 光利	米村 邦稔	鈴木 英之
河本 昌子	小野 律子	黒田 健次
都築 純子	数井 郁子	重野遊佐子
富士水英一	遠井 方子	尾崎 尚子
長田 英利	藤井宏一郎	近藤 佳里
堂馬 英二	戸田 清彦	山内 邦子

アンケートの集約

参加者にお願ひしましたアンケートの結果を集約してご報告します。

設問1 - ①講演会についてのご感想

- ・講師がやさしく語るブナの話に満足
- ・ブナへの思いを新たにしたい
- ・ブナの木の前で話を聞きたい

設問1 - ②懇談会についてのご感想

- ・活発な意見交換がありよかった
- ・今後の活動が楽しみ

設問2 当センターをご利用になった感想

- ・資料が貧弱。此处にあれば六甲山がよく分かるようになればうれしい
- ・場所の標記を分かり易くして欲しい
- ・世代間交流の場として生かして欲しい

設問3 「六甲山自然保護センターを活用する会」に対するご意見・ご要望

- ・静かな自然の中の環境を活用する活動をして下さい
- ・子供、幼児、主婦まで幅広く利用しやすい会にできればと希望します
- ・六甲の自然について色々教えて下さい

記録：藤井宏一郎

第13回テーマ：六甲山とツツジ



ツツジの花を手に観察する

講演内容

- ①六甲山はツツジの生える山
- ②六甲山を彩るツツジの各種
- ③ツツジの受粉
しくみの不思議

実施日：平成16年4月17日（土）
午後1時～3時50分
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：白岩 卓巳さん
プロフィール

1934年生まれ
神戸大学教育学部卒業
神戸市小学校教員（神戸市
立住吉小・港島小校長）
日本植物分類学会、兵庫県
生物学会会長、神戸親和女
子大学講師

平成16年第1回が好スタート

鶯も鳴く気持ちのいい春の陽気の中、平成16年度第1回目の市民セミナーが開幕しました。冬季休館であった自然保護センターがこの4月から開館し、久しぶりで新鮮に感じます。記念碑台の一部も補修され、参加者の皆さんはセミナー開始の時間まで、広々した記念碑台から素晴らしい景色を楽しまれていました。

これから六甲山を彩る美しいツツジ

アリマウマノズクサや水生シダなどの研究で有名な白岩さんに、六甲山の春を彩るこれからのシーズンのツツジについてご紹介いただきました。いろいろなツツジ科植物のスライド紹介、実物を見ながらしくみを説明していただきました。スライドで見て、花を手にとつての講演で、感心と納得の連続でした。



久しぶりの自然保護センターに集う

講演で休憩を入れて、お茶を飲みながらのざっくばらんな雰囲気、質疑応答へと進みました。

今回からボランティア活動にも着手

講演に先立って午前中に、記念碑台及び周辺の整備・清掃に取り組むボランティア活動を行いました。今回13名に参加していただき、散策用のマップを手に、センター管理人のお話を伺い、ボランティア活動の主旨を確認。散策ルートと記念碑台を下見し、ゴミ拾いをしながら課題を確認しました。（4ページの「六甲山の広場」参照）

市民セミナーの講演後の懇談会では、午前中の下見で気づいた点も含めて、意見を交わしました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

今回は中務勝子さんにレポートをお願いしました。

参加の感想 青木 孝子さん

エーッ！アセビがツツジの仲間なの？アセビに始まりホツツジに終わるといふ、1年を通じてツツジの季節。驚きました。「六甲山はツツジの山」というのも頷けます。甲虫「ハナムグリハネカクシ」による受粉の話、吸蜜の話等、色鮮やかな幾種ものツツジのスライドと併せて、心豊かに過ごせた時間でした。これからの季節、幾つのツツジにめぐり合えるでしょう。とても楽しみです。午前の部のボランティア活動も参加者の話し合いを基に進められるのは、とてもいい事だと思いました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所（「地域力を高める」手づくりの活動・事業助成）

開花に合わせてふ化するジャコウアゲハ

アリマウマノスズクサを食草とするジャコウアゲハ。モチツツジはジャコウアゲハの蜜源。モチツツジは標高によって開花が遅くなるので、開花に合わせてジャコウアゲハは山の上へ移動し、年に2～3回ふ化する。



ツツジはジャコウアゲハによって受粉する。ジャコウアゲハは毒を持つので敵に襲われないため、ゆっくりと飛んでいる。

ハナムグリハネカクシを発見！？

約20年前、油こぶしの岩のところにアセビがいっぱい咲いていた。虫が見あたらないのに虫の音をする。こんな細い花に受粉が出来るのだろうか、考えられない。これを調べても参考書にも載っていなかった。小さい虫の飛ぶ音、ハナムグリハネカクシという甲虫が、花の中に入ったり出たりしているのを発見。羽を広げて飛び、花の中へ入って暴れまわり受粉する。図鑑だけではなく実際に見て確かめないと駄目。

自然を見つめよう

六甲山は花崗岩で植物の育ちやすい山です。以前、標高が932.1mで、クサニイチバン（草が一番）と覚えたほどです。現在の高さは、931.25mとなってしまいました。

1日ごとに移り変わる四季。ものすごいテンポで変わっています。自分を見つめるのと同じくらい自然を見つめましょう。人と自然の共生を考える、見て、触れていくと自然に関心を持つようになります。参考までにツツジを歌った和歌集を配ります。俳句も花のことを知っているとちょっと歌の奥深さが分かりますよ。

熱心に講演を聴かれる皆さん



富永 邦夫さん



磯田 晴紀子さん



荒井 貴夫さん



寺本 君子さん



澤田 中さん

参加の感想 小坂 忠之さん

シュラインロードを経てセンターに到着。表六甲を眺めながら握り飯を食べる。六甲山についてもっと知りたいと思っていったところ、中川さんより当セミナーの紹介があり参加させていただきました。私の庭にツツジやサツキがあり、白岩先生のレクチャーを楽しく拝聴いたしました。これからのセミナーもバラエティがあり楽しみです。当セミナーに参加して六甲を知り、六甲の自然を少しでも保護できればと思います。



◆参考・配布資料など：

- ・レジュメ配布
- ・牧野富太郎氏 資料
- ・六甲山のツツジ花ごよみ
- ・ツツジを歌った和歌集

～参考図書～

『六甲山のツツジ』

神戸市立教育研究所（絶版）



白岩さんへのお問い合わせは当会事務局にご連絡下さい。

◆参加者：30名（順不同・敬称略）

白岩 卓巳 高井 登 山田 勇 井上 和子
山下 潤治 磯田晴紀子 寺本 君子 青木 孝子
澤田 中 前田 和子 中務 勝子 山西 一平
兼貞 力 山本 悟而 八木 浄 中村 年枝
三村栄三郎 小坂 忠之 荒井 貴夫 西崎俊一郎
西尾 智明 富永 邦夫 堂馬 英二 米村 邦稔
松井 光利 小野 律子 中川貴美子 遠井 方子
藤井宏一郎 菖蒲 美枝

参加者の声 アンケートより

◆セミナーの感想

- ・漠然と六甲山を歩くのではなく、ツツジ等テーマを絞って楽しむのも大きな喜びがある。
- ・ユニークに展開する面白い話であった。
- ・いつも見慣れているツツジにも不思議な秘密があるなんてビックリ。
- ・ハナムグリハネカクシはしばらく流行語になりそう。

◆懇親会はいかがでしたか？

- ・親しみが持てて良かった。
- ・六甲山をどのようにしていくべきか有意義な意見が聞けた。
- ・六甲山の自然を再確認した。
- ・六甲山を本当に愛している方が多いのに驚く。
- ・世界的に観光客が来る六甲山だが、昔と比較すると今は輝きが少なくなったように思っていたが、皆感じていることは同じだった。



第13回テーマ:六甲山とツツジ



第13回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ: 13:00~13:15
2. 講演: 13:15~14:40
3. 質疑応答: 14:50~15:00
4. 懇談会: 15:00~15:50

講演

- ①六甲山はツツジの生える山
- ②六甲山を彩るツツジの各種
- ③ツツジの受粉 しくみの不思議



講演のあいさつ(白岩 卓巳さん)

六甲山について幅広い観点で説明したいと思います。ツツジを見ると、六甲山の1年の様子やサイクルがわかります。ツツジを柱として六甲山を歩いて欲しいと思います。



ツツジを柱に六甲山を歩こう

講演内容

六甲山はツツジの生える山

六甲山にはツツジがたくさん生える。六甲山は花崗岩で非栄養地(やせ地)の山なので、水はけが良く、陽も良くあたるためツツジが育ちやすい。

いろいろな種類のツツジ

ツツジ科はたくさんの種類がある。ほぼ咲く順番に紹介していく。

◆アセビ

11月に花芽をつけ、寒い冬を越して4月に花を咲かせる。

◆コバノミツバツツジ

コバ→小さい葉、ミツバ→花の下の葉が3枚。山桜と一緒に山上で咲く。咲く期間が短い。理学博士の牧野富太郎氏は西宮の群落は日本一と記す。



アセビ



コバノミツバツツジ

◆ヤマツツジ

六甲山の名花。最高峰、縦走路までの道で見られる。2~3人ほどで静かに観賞して欲しい。

◆モチツツジ

手で花を触るとモチモチとしている。蜜が多いのでがく片に虫が付く。



ヤマツツジ



モチツツジ

◆ミヤコツツジ

ヤマツツジとモチツツジの雑種。

◆サツキ

街で植えているのでよく見られるが、それらは植栽で、サツキは現在、絶滅危惧種となっている。溪流に沿って生える。水際が本来の自生地。



ミヤコツツジ



サツキ

◆シロヤシオ(ゴヨウツツジ)

六甲山の名花。ゴヨウ→花の下に葉が5枚。紅葉谷から小川谷に降りるところに何本かある。

◆ベニドウダンツツジ

紅葉も美しいが現在では気候の変化の影響か紅葉は見られない。最高峰の近く、極楽茶屋付近、雲ヶ岩で見られる。



シロヤシオ



ベニドウダンツツジ

◆リョウブ

大きなツツジの仲間であるが、ツツジ科に載っていない場合もある問題のある花。穂状に花をつける。幹の皮がはがれる性質がある。戦時中、新芽をゆでてごはんに入れてかさを増やした。

◆ホツツジ

合弁花が多いツツジの中、これは花弁が分かれている。ツツジ科で最後を飾るのがホツツジ。紅葉も見事。250m位、住吉谷の岩場で見られる。



リョウブの花



リョウブの幹



ホツツジ



「シチダンカ」の挿し木実習

第4回テーマ： 六甲山のアジサイ

講演内容

- 1：六甲山で発見されたシチダンカ
・シーボルトの記した「日本植物誌」
で紹介された幻の花「シチダンカ」
- 2：六甲山のアジサイあれこれ
・六甲山はアジサイの宝庫
・アジサイの栽培に適した六甲の土壌
- 3：シチダンカの挿し木をプレゼント

実施日：平成15年7月19日（土）
午後1時～4時

場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



よねむら くになり
講師：米村 邦稔さん

プロフィール

昭和4年、丹波篠山町生まれ。
昭和29年、西宮市公立小学校教諭。
昭和44年から8年間、タキロン
保養所管理人を勤めた後、
岩谷産業山荘の管理人。六甲山
のアジサイを育てる会会長。
兵庫県神戸地域ビジョン委員。

みごとなアジサイの中、当日参加者も多数

「あと数日で梅雨明け？」と気象庁の声が聞こえる中、正午を少し過ぎた時自然保護センター前のベンチに腰を掛けていました。するとセグロセキレイが姿を現し又ケーブル山頂付近でもコゲラ、シジュウガラの声も聞こえていました。市民の森、六甲山とさえづつているようでした。

さて、本日の市民セミナー参加者が楽しみに待っていました「六甲山のアジサイ」の話が始まります。

六甲山がアジサイでいっぱい

六甲山に暮らして33年の米村さんが、保養所のゴミ置場付近にアジサイを植えられました。ゴミ置場の周りは青々と育ったアジサイがその場を飾りつくしました。

昭和50年「花と市民の協定」条例第1号として5年間で2万本のアジサイを植えられ、まさにアジサイづくしに花が咲きました。

又その昔、氷が作られていたツゲ池は三分の一が歩道になり信号機も設置されました。



講演に聞き入る参加者
(左：尾崎さん)

そのツゲ池前に「アジサイ園」を作られ今では各種のアジサイを楽しむ事ができます。と淡々と話されている内に、六甲山のアジサイの歴史に全員が入門していました。

アジサイについて博識になった

アジサイの殆どは鑑賞用とされていますが、栽培されているものは日本原産種でした。アジサイの本種は15種～16種で、園芸種は500種～1000種にも至ります。六甲山地は夏でも25℃～30℃までの気温で霧が多く適度な湿度等、アジサイの育つ条件に適しているそうです。六甲山の酸性地ではブルーのアジサイが今年も見事に咲いていました。(中略)

- ・アジサイの家系図って何？
- ・アジサイって何色？
- ・米村美穂さんの観察記録
- ・挿し木実習など



アジサイの観察記録の紹介

ああっ…と言う間に

米村さんのアジサイに於ける熱弁は参加者一同、納得と満足に心打たれ、帰り道では、おそらく来た時以上に「六甲山のアジサイ」に愛情を持って見守って戴ける事間違いなしといった所で会を終了しました。

(※尾崎さんにレポートを提供して頂きました。)

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局
兵庫県立人と自然の博物館



テーマ:六甲山のアジサイ



第4回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 講演準備: 12:50~13:05
 2. あいさつ: 13:05~13:15
 3. 講演: 13:15~16:05
- ※ 懇談会: 今回は挿し木の実習に替えました。

講演

- ① 15年前のVTR鑑賞
- ② 六甲山で発見されたシチダンカ
・シーボルトの記した「日本植物誌」で紹介された幻の花「シチダンカ」
- ③ 10年前のVTR鑑賞
- ④ 六甲山のアジサイあれこれ
・六甲山はアジサイの宝庫
・アジサイの栽培に適した六甲の土壌
・米村美穂さんの観察記録
- ⑤ シチダンカの挿し木をプレゼント

講演のあいさつ(米村邦穂さん)



米村邦穂さん

今日は雨降り予報で人数も10人ぐらいと書いておりましたので、材料も前日に持ち込みました。ラフな格好で失礼します。

保養所の管理人をして34年目になります。

町内会副会長などいろいろ役をしてきましたが4月には終え、これからは自然系のものに注力します。

六甲山にアジサイを植える

懐かしいVTRを鑑賞

神戸の花であるアジサイの名所などを収録のビデオ。シーボルトが海外に、数が少なく幻のアジサイと言われている「シチダンカ」を紹介している。

六甲山のアジサイ名所案内
・六甲山ゴルフカンツリー
・新池遊園地・全山縦走路
・ケーブル付近



『日本植物図鑑』 FLORA JAPONICA

また、六甲山の雨の酸性雨を測定した10年前のVTRも鑑賞した。2つのVTRを鑑賞して、六甲山のアジサイにかかる米村さんの粘り強いご努力に、参加者一同が敬服した。

六甲山にアジサイがきたのは?

六甲山のゴミは野生動物などを寄せつけないようにコンテナに入れられている。それが昭和48、49年頃、景観を損ねないように綺麗にしようということで六甲山にアジサイが植えられた。さらに、昭和50年には、『花と市民の協定』条例第1号として5年間で2万本のアジサイを植えることを約束。道路も改修され、その空き地を利用して花壇が作られた。

記念碑台前のツゲ池の「アジサイ園」では各種のアジサイを楽しむ事ができる。また、企業も環境事業の一環として参加しており、関西電力は春秋100株づつ植えている。

アジサイのいろいろについての解説

アジサイの原産地はどこ?

アジサイの殆どは鑑賞用とされているが栽培されているものは日本原産種である。

アジサイの本種は15種~16種で、園芸種は500種~1000種にも至るが残念なことに研究家がが少ない。挙げるとすれば、山本武臣「日本アジサイ協会」。六甲山地は夏でも25℃~30℃までの気温で霧が多く適度な湿度等、アジサイの育つ条件に適している。

アジサイの家系図って何? (山本武臣説)



※ユキノシタ科...アジサイ属の仲間。Hydragea はギリシャ語のHydro(水)とAngeo(容器)の合字。

アジサイって何色?

青、それとも赤

アジサイは土中のアルミの吸収度によって花の色が変化(酸性...青色、アルカリ性...ピンク色)するが、それだけでなく色素の酵素も働き、日照、温度、湿度等の条件で複合される。



米村さん持参のアジサイ

米村美穂さんの研究記録にビックリ

米村さんの娘さんが、小学3年から中学3年（神戸市長賞受賞）までの計6年間、アジサイを観察記録。

アジサイの葉のつき方（互生から対生のアジサイの葉を発見したことや、輪生と4枚が出てきたこと）など研究して詳細に記している。



うちの庭のアジサイしらべ

夏休みの宿題ですが、本格的に研究し疑問点を徹底して調べ上げている。研究記録（小学校時代は模造紙、中学になると画用紙）は米村家の家宝のように大切に保存されている。

シチダンカの話

長い間標本も実物もなかった「シチダンカ」は、六甲山小学校の荒木用務員が昭和34年、V字型の荒山のような六甲ケーブル沿線で見つかり、1株を持ち帰り校庭に植えた。それを、生物学会会長である室井さんが同定したのである。この荒木株は両性花が蕾のまま

落ちてしまうので種ができない。増殖は荒木株の最初の一株の挿し木からである。

荒木株で定着した「シチダンカ」は八重咲きの20種もの山アジサイの一つであるが、今まで荒木株以外に六甲山中で見つかった自生株がないことや、荒木種以外の山

アジサイの方がシーボルトの「シチダンカ」の図に似ていることなどから、荒木株が同定されたことには疑問も残る。しかし、何段にも咲くから“七”段花と名づけられたように非常に綺麗な花であるので、シチダンカ=六甲の名花として通っている。

幻の花「シチダンカ」の挿し木実習(天挿し)

1. 枝は新しく伸びた枝を挿し木にしましょう。2節を残し、葉は丸みをつけて愛情を持って半分に切る。
(1枚ずつ葉を半分に切っていくのは根が無いので蒸散を少なくする為)
2. 水中に5分程つけて置く。
3. 土の中に挿す(鉢は苗にあった大きさのものを選ぶ)



<注意>

- ・土は赤玉土又は鹿沼土
- ・2週間程で枯れなければ成功。
- ・脇芽から芽が伸び、下の根も張って伸びる。
(動かさないように!)
- ・直射日光は避ける。
- ・翌年は倍の大きさの鉢に植え替えよう。

挿し木の手順

◆配布資料:

- ・「アジサイの多様性を学ぶ」、「六甲山のアジサイ」
- ・六甲山の名花「シチダンカ」

六甲山のアジサイを育てる会 設立: 1984年
〒657-0101 神戸市灘区六甲山町北六甲 631
TEL: 078-891-0254 FAX: 078-891-0207



原田さんが三世代家族で飛び入り参加

◆参加者: 26名 (順不同・敬称略)

米村 邦稔	阿部小夜子	山田 良雄	呉本 永昌
長谷川陽子	齊藤美代子	松本 憲子	室橋 雄三
柏木 貢	堂馬 英二	中野 一	藤井宏一郎
原田八重子	萩原真理子	原田 恵里	平沙 弘史
西谷 実	鈴木 武	戸田 清彦	尾崎 尚子
山西 一平	青木 光子	根岸 真理	北山健一郎
近藤 佳里	山内 邦子		

◆参加者の声

今回は挿し木実習に時間がかかり、懇親会が行えなかったのは残念でした。しかし、参加者26名中16名と多くの方々にアンケートを提出して頂きました。

1. 講演会について
 - ・アジサイの多様性について知らないことが多く大変勉強になった。
 - ・注意深く植物を観察していきたい。
 - ・先生のアジサイへの想いが伝わってきた。
2. 自然保護センターについて
 - ・静かで勉強しやすい。
 - ・きれいに整理されている。
 - ・何か興味のあることを開催して欲しい。
 - ・いつも開放して欲しい。
3. 活用する会へのご意見・ご要望
 - ・内容の濃い話を多くの人に紹介することが望まれる
 - ・セミナーに参加することで六甲山が身近になった。

第19回テーマ：六甲山のシダ植物



記念碑台の石垣でシダの観察

講演内容

- ①シダ植物とは？
- ②六甲山のふもとのシダ植物
- ③実際に見てみよう

(現地観察)

実施日：平成16年10月16日(土)

午後1時～4時

場 所：六甲山自然保護センター内

レクチャールーム



講師：鈴木 武さん

プロフィール

1962年生まれ
東京大学大学院理学系研究科博士過程単位取得退学。1993年より、兵庫県立人と自然の博物館研究員。

秋なのに春みたいな六甲山

六甲山は度重なる台風で、塩害の影響を受けていました。木々は所々で落葉して新芽を出したり、山桜が花を咲かせていました。もみじの紅葉もあまり見られず、秋というのに春のような季節感で例年のない異様な状態でした。

笑顔ニコニコで解説される鈴木さん

講師の鈴木武さんは、県立人と自然の博物館の研究員で、絶滅危惧植物の保全やシダ植物研究を専門とされています。たくさんのシダ植物のスライドや標本、更に携行用の資料を配布され、シダの基本的な知識や各種の特徴を解説していただきました。シダ植物はあまり馴染みがないと思いますが、実は街中でも意外と見ることが出来ることを知りました。シダの精密な構造や分類に感心し、「これもシダ植物だったのか。」と驚きの声もありました。鈴木さんは優しい口調で、細かいところまで丁寧に教えて下さいました。



たくさんのシダをスライドで紹介

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館

灘区役所 神戸市教育委員会

現地観察では22種を確認

講演で得た知識をもとに、野外観察をしました。自然保護センターを出て最初の石垣で5種類を見つけ、葉の裏を見たりルーペで胞子を確認したりしました。観察途中で珍しいシダにも出会い、約1時間の観察で22種類のシダ植物を目にすることが出来ました。その後の交流会でもシダについての話は更に続き、有意義な時間を過ごしました。シダ植物の見分けは、なかなか難しかったのですが、関心を持ついいきっかけとなりました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

会員の尾崎さんにレポートをしていただきました。

参加の感想 北山 健一郎さん

中学生時代に生物教室で教わった時の頃を懐かしく思い出させてくれました。

鈴木先生は、平易な語り口で大変分かり易く、且つ写真をラミネートした立派な資料をセットして頂きました。

実習編では、実際に自生しているシダを手にとってみて、更に親しみが実感として伝わって参りました。

日常何気なく見過ごしていたシダに注意力を持って見る眼が開かれたことを嬉しく思います。



【助成金をいただいている機関】

灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲山のシダ植物



第19回市民セミナーの流れ

市民セミナー

あいさつ 13:00~13:15
 講演 13:15~14:10
 現地観察 14:10~15:20
 質疑応答 15:25~15:45
 懇親会 15:45~16:00

講演内容

- ①シダ植物とは?
- ②六甲山のふもとのシダ植物
- ③実際に見てみよう
(現地観察)



コシダの籠といろいろなシダ

はじめに(鈴木 武さん)

シダ植物はどんな格好をしていて、どんなものか、いろんながあると認識していただいたら結構です。まず、ホウライシダとヤブソテツの区別ができるのが条件です。(笑)

講演内容

シダ植物とは

種子や花がなく胞子で繁殖する。シダ植物の葉は細かく切れ込みが入っていることが多いが、全体で1枚。茎は地下にあるが、木のようになるものもある。湿った林の下に多いが、イワヒバのように乾いた岩の上でも育つものもある。

シダ植物はマツバラン類、ヒカゲノカズラ類、トクサ類、シダ類の4群が属する。(別表参照)

日本には約630種。兵庫県では約230種がある。小林禧樹の「六甲山地の植物誌」(1998年)では166種とある。六甲山地は但馬や丹波と比べるとシダの種類は少ないが、1日で20種近くを見ることが出来る。市街地でも、溝のある石垣に4、5種のシダが生えている。



体でシダの葉の切れ込みを表現する鈴木さん

神戸の街中のシダ植物

勾配地が多い六甲山南麓の神戸市内では、石垣などが多くいろいろなシダ植物がある。神戸市灘区神戸高校から阪急六甲駅の範囲で調べた分布では、ホウライシダやイノモトソウがかなり多い。その他にはトキワトラノオ、オニヤブソテツ、カクサ、トラノオシダなど。

- ◆ホウライシダ:神戸で見かける代表的なシダで、観葉植物のアジアンタムの仲間。
- ◆オニヤブソテツ:日本庭園に植えられることがある。



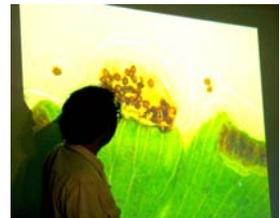
ホウライシダ



オニヤブソテツ

ホウライシダの胞子嚢(ほうしろう)

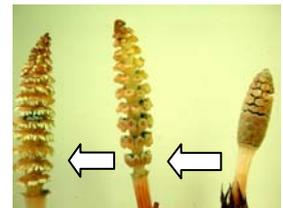
ホウライシダは、葉のへりが折り返していて、約0.1ミリの大きさで胞子を包んでいる胞子嚢がある。中に0.05ミリの胞子が32または64個入っている。一株で数千万の胞子がある。



ホウライシダの胞子嚢

ツクシの胞子

ツクシは、だ円形をした穂の袋の中に胞子がついている。はかまは葉である。化石では1メートル位の大きいものがある。



ツクシの変化

こんな話も知った(シダの豆知識)

- ◆デンジソウ(田字草):田の字から四つ葉のクローバー風。
- ◆イノデ:イノシシの手足のように毛が多い。
- ◆ウラジロ:葉の成長する様子が1、2年と段々に無限成長する強さから、代々繁栄するという縁起物として、正月のしめ飾りに使われている。
- ◆シダ植物の葉にある付け根の毛:春先の芽は毛むくじゃらで役割は、冬の寒さの保護、若い葉の保護、虫からの保護。
- ◆ヘゴ科のマルハチ:木になるシダ。地上に太い茎が直立して、その上に大形の葉が傘を広げた様な形をしている。茎についた葉のあとには丸の中に八の字が残る。だからマルハチ。
- ◆マツバラン:根も無く、葉も無く、原始的な植物と考えられている。

<別表>シダ植物に属する群

マツバラン類	日本にはマツバランのみ(布引の滝の辺りに生えているらしい。)
ヒカゲノカズラ類	クラマゴケはこの仲間
トクサ類	ツクシの仲間
シダ類	現生のシダ植物の種の95%以上はこの仲間

実際に見てみよう(現地観察)

スライドで得た知識と資料をもとに、現地観察へと出発。自然保護センターから六甲山小学校へ向かい、保養所間の道で観察をしながら、約1時間で戻った。



現地観察の経路

珍しいフユノハナワラビを発見!

観察の途中で見つけたフユノハナワラビ。胞子葉が3本出ている、これは珍しい! さっそく、鈴木さんは、標本として持ち帰られた。



フユノハナワラビ

自然保護センターへ戻って休憩後、みんなで見つけたシダ植物の種類を確認し合った。

質疑応答

シダ植物の名前は? : ○○シダとは限らない。コケ、ソテツ、ランなどが名前についてもシダ類。名前だけで種類を区別してはいけない。

まとめ(鈴木さん)

今日は家に帰ってシダ種類を3つくらい思い出せれば、十分普通の人です。(笑) 1歩進むと10種位見分けられるでしょう。街中にもあるので、散歩がてらに見てみましょう。

現地観察で見つけたシダ植物

クラマゴケ スギナ フユノハナワラビ
ゼンマイ イヌシダ トキワトラノオ
コバノヒノキシダ トラノオシダ
シシガシラ **オクマワラビ** ヤブソテツ
ゲジゲジシダ ベニシダ ヤワラシダ
ハリガネワラビ イヌワラビ **ヤマイヌワラビ**
ノキシノブ ヘビノネゴザ ハクモウイノデ
ホソバシケシダ **イワヒバ(栽培)**
合計22種(読み上げ順、囲んでるのは写真参照)



オクマワラビ



ゲジゲジシダ



ヤマイヌワラビ



イワヒバ(栽培)

参加の感想 舟木 冴子さん

エーッ!これが生えているところに金(きん)が出るの?お金に目がない私は「ヘビノネゴザ」と教えていただいたシダを特にチェックしました。ゲジゲジシダをはじめ22種類のシダを短時間でウォッチング出来てラッキーでした。



◆参考・配布資料など:

1. 携行用資料
(ラミネート加工)
①神戸のまちなかのシダ植物
②六甲山のシダ植物
2. スライド「シダ植物」
3. シダ植物の標本
4. コシダで作った籠



◆参加者の声~アンケートより~

- ・少し歩いただけでこんなにいろいろな種類のシダ植物があるとは思わなかった。
- ・レクチャーとフィールドのバランスが良かった。
- ・もっと時間が欲しかった。

☆参加者の皆様へ

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。

◆参加者: 27名(順不同・敬称略)

鈴木 武 遠井 方子 八木 浄 村上 定広
澤田 中 石田 澄子 青木 孝子 白岩 卓巳
北山健一郎 舟木 冴子 藤當 和子 星山 修
白石 郁子 近藤 佳里 山内 邦子 垣井 清澄
垣井 一美 戸田 信示 泉 美代子 兼貞 力
堂馬 英二 松井 光利 中川貴美子 小野 律子
藤井宏一郎 尾崎 尚子 菖蒲 美枝

兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL: 079-559-2001 FAX: 079-559-2007
URL: <http://hitohaku.jp/> Mail: root@hitohaku.jp

第27回テーマ:六甲山の苔



みんなで地面を見つめる

講演内容

- ①苔の多様さとその美しさ
- ②生きてゆく上での工夫
- ③六甲山の苔を実際に見てみる

実施日：平成17年6月18日(土)
午後1時～3時30分

場所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム
記念碑台周辺



講師：秋山 弘之さん
あきやま ひろゆき

プロフィール

1956年生まれ、大阪府出身。京都大学大学院理学研究科博士課程修了。平成6年より兵庫県立人と自然の博物館主任研究員。専門分野は苔植物の分類学。

コアジサイが可憐な花をつけていた

梅雨入りして心配だった天気も当日は快晴。散策路のところどころにはコアジサイが小さな花を開いていました。そのかわいらしい姿は午前中の清掃ボランティア活動に参加した10名の目を和ませてくれました。

自然保護センターの改修も進んでおり、建物の外装、階段や手すりなどが変わって全体的にウッディ調になっていました。



コアジサイ



スギゴケ

コケの分類を知った

今回は県立人と自然の博物館の主任研究員、秋山弘之さんに講演していただきました。秋山さんはコケ植物の研究がご専門です。子供の頃からの面白そうなものを拾い集める癖と登山の趣味が結びついて、植物採集や分類の研究がライフワークになったとのこと。

コケといえば、盆栽や庭園などで観賞するものふだんはあまり気に留めることのない目立たない存在です。実は様々な種類や生態があることを知りました。コケでないコケや変わった生態など、短時間でたくさんの種類を紹介いただきました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

ほんの小一時間で10種類以上を発見

講演での知識をもとに野外観察をしました。自然保護センターの周りや記念碑台の広場、駐車場の石垣、散策道等を見て回りました。センターからほんの数十メートルの範囲に10種類以上のコケを発見。花などを見る視点の数10センチ下にはコケの世界が広がっていました。土の上、木の幹、コンクリートの壁など、ルーペを使ってじっと見つめたり触ったりして楽しみました。



自然保護センターの前でコケを観察

もっと自然に目を向けてみよう

今回のセミナーでは、視界に入っていないものたくさんあることを教えていただきました。小さな自然に目を凝らすルーペの世界はとても面白いものです。庭の隅や道端など身近なところにひっそりと息づき、安らぎを与えてくれているコケの魅力を改めて見直すことができました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金



テーマ：六甲山の苔



第27回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:10
2. 講演：13:10~14:30
3. 現地観察：14:30~15:20
4. 質疑応答：15:20~15:40

講演

- ①苔の多様さとその美しさ
- ②生きてゆく上での工夫
- ③六甲山の苔を実際に見てみる



苔に興味あり！

講演のあいさつ(秋山 弘之さん)

人と自然の博物館ではコケの研究をしています。コケは人気がないので「ひとはくセミナー」ではキノコも担当しています。ぜひ参加してください。



秋山 弘之さん

講演内容

前半はスライドを使ってコケについての誤解や意外な知識をわかりやすく説明していただきました。後半は六甲山にどんなコケがあるのかを確かめるために野外観察に出かけました。

1. コケ植物とは

■コケ=コケ植物ではない

口でいう「コケ」と植物学的な「コケ」は違う。コケは茎と葉がはっきりしており、不定形のコケはない。

地衣類もコケと間違えられる。ウメノキゴケのように「コケ」の名がついた地衣類もある。地衣類は大体が白っぽい色で、ペンキのような色をしたものが多い。コケは光合成をするためのクロロフィルがあるので緑色である。

シダにも間違えられることもある。シダには根があるが、コケには根はない。根がないのでコケはしっかりと地面に定着しない。

■木に生える毛のようなもの？

コケという名前は、木に生える毛のようなもの「木毛(モケ)」に由来する。草木で最も小さいもの「小毛(コケ)」という説もある。コケは大和言葉で、中国の漢字から苔や蘿の字をあてた。

■豊かなコケの世界

コケ植物は世界に約18000種あり、日本には1667種ある。500種のシダ植物より多く、さらに毎年1種は増えている。日本はコケの研究が盛んで、戦後に優秀な研究者を多く輩出した。

蘚類 1030種	苔類 620種
・ミスゴケ類	・コマチゴケ類
・クロゴケ類	・ウロコゴケ類
・ナンジャモンジャゴケ類	・ゼニゴケ類
・マゴケ類	
[立つ] スギゴケの仲間	ツゴケ類 17種
[這う] ハイゴケ	

日本の苔の分類表

ボルネオ島のキナバル山周辺でコケ植物の調査を行った。1mほどの大きさになるナンヨウスギゴケが見られるなどコケ植物が豊富である。

ちょっと脱線~キナバル山~

キナバル山はマレーシアのボルネオ島サバ州に位置する。標高は4100mで3300mの地点に山小屋がある。大人も子供も登山を楽しむことができ1900mから3300mまで半日で登り、夜中に起きて頂上まで登る。ご来光を見た後は1900mまで一気に降りる。旅費は沖縄へ行くよりも安い。皆さんもどうぞ。

2. コケの生態と利用

■コケが生きていく工夫

マルダイゴケ：ギリシャ壺のような形。壺の細胞からハエを引き寄せる匂いをだす。

パラソルゴケ：ハエが止まれるようにパラソル状の形をしている。コケに寄ってきたハエに胞子が付き、そのままハエが別の糞に飛んでいってそこで発芽し増えていく。

イチョウウキゴケ：イチョウの形をしている。水に浮かび、倍々に増える。

ホンモンジゴケ：銅葺き屋根の下の雨水がかかる場所に生える。銅は生物には毒なので普通は雑草も生えない。京都の西芳寺(苔寺)などで見ることができる。



マルダイゴケ



パラソルゴケ

■苔の利用

コケは食料としては全く利用されていない。スギゴケをすりつぶすと吐きそうな臭いがする。コケは虫も食べない。食料にしないので苔庭以外では人との関わりは少ない。

コケを住処として用いる生物がいる。ゲンジボタルは水辺のコケに産卵し、オオルリやカワガラスはコケだけを使って巣を作る。コケに抗菌作用があるためといわれている。

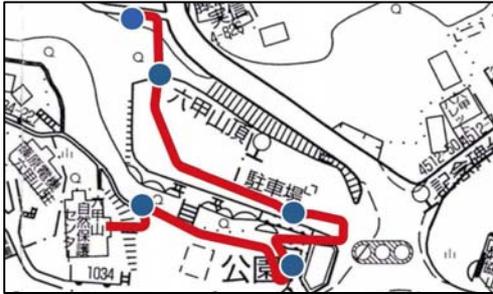


軒下のオオルリの巣

3. 六甲山の苔を実際に見てみる

■観察コース

講演の後、自然保護センター周辺で現地観察。センター前の広場、記念碑台の駐車場、周辺の散策路を回って約1時間で戻った。



野外観察の経路

■生命力にあふれるコケ

記念碑台駐車場の石垣にハマキゴケを発見。根がないので土のないところも平気である。コンクリートが大好き。

コケは体が小さいので茎や根に水分を貯められない。乾いたときには休眠する性質があり、体内の水分が5%以下になっても死なずに、コンクリートが朝露や雨で濡れるのをじっと待っている。



ハマキゴケ



じっと見つめて観察

＜観察したコケの種類＞

・ツヤゴケ・コモチイトゴケ・タチゴケ・ヤノウエノアカゴケ・スナゴケ・ネジクチゴケ
ハマキゴケ・マツゲゴケ(地衣類)・コツボゴケ・オオサナダゴケモドキ など

■六甲山で知られている貴重な苔

ハリミズゴケ(甲山湿原): どうやら消えてしまったらしい。アオゴケ(裏六甲紅葉谷): 一度見つけただけで再発見されていない。スギゴケ(山頂付近): 数十年前に一度見つけただけ。

質疑応答・感想など

君が代の「コケのむすまで」って? : 「悠久の間」という意。日本でのコケのイメージは「静」「悠久」そして「死」など。「苔の下」「苔の褥(しとね)」「苔の庵」などコケにまつわる言葉も多い。ミズゴケを輸入している業者が病気になっていると聞くがなぜ? : スポロトリウム病という。ミズゴケに付着している真菌が原因。命に別状はないがひどくただれる。ミズゴケに触ったら手を洗うようにすること。

参加の感想 松下 猛さん



苔のボーダーラインは素人には難しい。4年前から植物の名前を覚えだしたのだが、ダボハゼ方式で名前を調べ、身近の方に尋ね、記憶に留める様にしている。樹木、山野草から少し離れイネ科、カヤツリグサ科、シダ、コケとなると興味を示す人が少なく殆ど回答も返って来ない上に図鑑や写真集で判定するのも難しい。今日初めて苔とは蘚苔植物の総称でスギゴケで代表される蘚類1030種、ゼニゴケの仲間の苔類が620種、これにツノゴケ類17種が日本にあると識った。野外でも12種類の苔と地衣類を教えて戴いたが小さい為なのかなかなかその特長が握みにくい。根気が続くとよいが!

ルーペの世界を知った(事務局)

コケは食べられないから人の興味を惹かない。何気なく見落としているものへの関心を導いてくれた。今回をきっかけに小さな自然に目を凝らしたい。

◆参考・配布資料など

- ・スライド、サブテキスト
- ・ひとくセミナーガイド夏号
- ・『苔の話』秋山弘之著
中公新書(780円+税)



『苔の話』

～ひとくセミナーのご案内～

- ・秋のキノコ探検隊1: 10月1日
- ・秋のキノコ探検隊2: 10月2日

詳細は下記までお問い合わせ下さい。

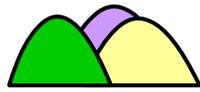
兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL: 079-559-2003 FAX: 079-559-2019
URL: http://hitohaku.jp/ Mail: root@hitohaku.jp

◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・苔をテーマにした講演等が少なかったので、とても関心があった。全体像がつかめた。
- ・『苔の話』を読んでセミナーを受けて、これをきっかけに関心を持つことにします。
- ・もう少し野外観察の時間がほしかった。
- ・注意力を持って見られる観察力への道筋を教えてくださいました。

◆参加者: 28名(順不同・敬称略)

秋山 弘之	八木 浄	村上 定広	大谷安規永
久保 順一	青木 孝子	泉 美代子	松下 猛
霜田 泰功	浅井 審一	小坂 忠之	山田 良雄
山本 悟而	前田 和子	遠井 方子	堂馬 佑太
垣井 清澄	島崎 涉	石光 暁子	岩井百合子
長尾 雅人	澤田 中	北山健一郎	堂馬 英二
米村 邦稔	小野 律子	中川貴美子	藤井宏一郎



4. 六甲山の動物を知る ～六甲山の生物～

①六甲山での野生動物との 共存を考える

P 68～70



坂田 宏志
県立人と自然の博物館
研究員
第33回市民セミナー講演
2005年12月10日

③六甲山の昆虫

P 74～76



八木 剛
県立人と自然の博物館
研究員
第5回市民セミナー講演
2003年8月16日

②六甲山の野鳥

P 71～73



松下 猛
日本野鳥の会
会員
第12回市民セミナー講演
2004年3月20日

④六甲山と昆虫たちの冬越し P 77～79



戸田 信示
神戸市立青少年科学館
指導主事
第23回市民セミナー講演
2005年2月19日

六甲山の動物といえば、あまりにも有名なのは餌付けされた野生のイノシシでしょう。最近では市街地に出没して人身被害を与えるため、神戸市では「イノシシ餌付け禁止条例」が施行されています。都市に隣接した自然環境である六甲山は植生の多様化が失われて、野生の生物や動物が生息しにくい環境になっています。六甲山の自然環境を構成する生物、特に野生動物とどのように関わっていくかを考える必要があります。

「六甲山物語」の第4段は「六甲山の動物を知る」です。ここでは、昆虫も含めて六甲山の動物についての理解を深めていきます。まず、坂田さんからは野生動物との共存についての現状や課題について、ツキノワグマ、イノシシ、アライグマなどとの関わり方などを語っていただきます。松下さんには「六甲山の野鳥」をテーマに、シュラインロードでの探鳥を案内していただいて、探鳥の進め方や楽しみ方を語っていただきます。

「ミヤマアカネ」をこよなく愛しておられる八木さんには、六甲山の夏の昆虫採集を案内していただきます。戸田さんには「昆虫の冬越し」をテーマに、椎茸のほたぎに生息する昆虫の幼虫探しを通じて、冬場も生き続けている生命について啓発していただきます。



クリスマスモードが
あふれる里見ホール

第33回テーマ： 六甲山での野生動物との 共存を考える

講演内容

- ①野生動物たちの今
- ②人と野生動物の
適切な関係とは？
- ③自然環境の恵みと
保全を考える

実施日：平成17年12月10日（土）
午後1時00分～3時45分
場 所：六甲山YMCA 里見ホール



講師：坂田 宏志さん

プロフィール

1968年生まれ。京都大学農学研究科博士後期課程修了。農学博士。現在、兵庫県立大学自然・環境科学研究所助教授、人と自然の博物館主任研究員。兵庫県森林動物共生室係長兼務。

久しぶりの六甲山YMCA

今月より来年3月まで六甲山自然保護センターが冬季休館のため、会場を六甲山YMCAの里見ホールに移しました。当日は快晴ながらも朝の気温は2度と低く、散策道は雪が残っていました。

講演の前に講師の坂田宏志さんと一緒に昼食懇親をしました。里見ホールの暖炉に火を入れると同時にサツマイモを火の中へ。焼き芋の出来上がりを楽しみにしつつ、講演を始めました。



雪道を歩きながらのボランティア清掃

兵庫県の野生動物対策について理解できた

坂田宏志さんは、県立人と自然の博物館の主任研究員で、兵庫県の野生動物対策にも取り組まれています。講演では2000年に六甲山の周辺をツキノワグマが徘徊した事例や、現在兵庫県が実施しているツキノワグマの学習放獣についてご紹介いただきました。自然のバランスが崩れている実態や生態系の仕組みを、図解を用いて分かりやすく解説していただきました。

六甲山にいる野生動物の実態を知った

六甲山にいる主な動物を紹介いただきました。タヌキの特徴をはじめ、話題となっている「イノシシ条例」やペットで飼われていたアライグマなどの外来生物の存在を確かめました。質疑応答では様々な意見が飛び交い、適切な関係で共生していくにはどうすべきかを考えました。

野生動物への愛情と責任を正面から考えたい

今回のお話で、野生動物の本来のあり方と我々の関わり方について考えさせられました。そして野生動物対策をしてくれる人がいるおかげで私たちは生活できているという事実を見直しました。動物への愛情と責任について私たちはどう関わべきかを正面から考えたいと思います。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 七目木 修一さん

兵庫県内の野生動物について現状を分かりやすく説明して頂きました。特にツキノワグマが人里に現れる回数と森の木の実の豊凶の関係が分かりやすいものでした。また、野生動物、外来種について、人が自然を理解しないと彼らを傷つけることにつながるのですね。勉強になりました。



ところで、自然からの贈り物、休憩時間の焼き芋はおいしかったですね。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山での野生動物との共存を考える



第33回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親：12:15～13:00
2. あいさつ：13:00～13:10
3. 講演：13:10～15:30
4. 質疑応答：15:30～15:50

講演

- ①野生動物たちの今
- ②人と野生の適切な関係とは？
- ③自然環境の保全と恵みを考える



昼食懇親

講演の挨拶(坂田宏志さん)

野生動物、特に農業被害・人身被害など、社会的な課題の多い大・中型哺乳類の研究をしています。六甲山については皆さんにも教えていただきながら進められればと思います。



坂田宏志さん

講演内容

1. ツキノワグマ

■ツキノワグマの生態

ツキノワグマは日本に1万頭ぐらいといわれているが正確にはわからない。地域的には絶滅が危惧される一方で人身事故も起こるので対策が難しい動物である。兵庫県では北部に生息している。2000年には六甲山系にも出没し、3ヶ月も徘徊した。六甲山でも暮らしていけるということで、また、出没するかもしれない。



ツキノワグマ

■クマと人の関係の変化

昔は狩猟もしていたし、クマは人間を怖がっていた。今、過疎化や高齢化が進む農村では、クマが出てきても何もできないことが多い。クマが人間を恐れず集落に出てくる頻度が高まると、人身被害の危険も高まる。



クマから逃げると



クマがやってきてしまう

■クマへの対策

今までは、クマの出没に対し、何もしないか、殺すかのどちらかしかなかったが、兵庫県では段階的な対応を取るようになった。具体的には、1. 山中などの目撃では注意喚起。2. 里に出てくる時は、誘因物の除去や防護。3. それでも出てきたら追い払う。4. それでも出でたら一旦捕獲して学習(お仕置き)放獣。5. それでも効果がなければ捕殺、という段階を踏む。

■学習放獣

学習放獣とは、集落に出没するクマを捕まえ、おしおきをして人里に来てはいけないことを学習させ、山に放すこと。昨年、学習放獣を行ったうち6頭は再び出没することではなく成功だったが、3頭は再度出没してしまいその内1頭は捕殺された。一方でイノシシのワナに間違っ捕まったりなど被害を出していないクマは、放獣しても人里には出て来なかった。このような結果を踏まえて対応を改善しなくてはいけない。



学習放獣の様子

2. イノシシ

■六甲山以外では人身被害はない

丹波や但馬地方ではイノシシといえば「農業被害」と「ぼたん鍋」のイメージ。六甲山ではイノシシに指を食いちぎられたり、追突されたり、といった「人身被害」もある。実は人身被害があるのは六甲山だけで、丹波但馬では一切ない。

■イノシシ餌付け禁止条例

餌付けによりイノシシが人に慣れ、接触する機会が増えて人身被害を起こすようになった。神戸市はイノシシの餌付けを禁止する条例を作った。罰則規定はないが、関係者の努力で餌をやる人は減っている。しかし、人の迷惑を考えず餌付けを続ける人がいるので、被害に遭う人は罰則を求めている。本来は法律で縛るよりも、地域で適切な動物との関わり方を実現するのが理想だが、必要なことが守られないのであれば規制も仕方がない。

■野生動物はペットではない

野生動物は、自然の中で餌をとるようになってきている。人間の食べ物を与えると動物は喜ぶが長い目でみると野生動物にいいことはない。自然の中で餌を捜さなくなり、人間で言う成人病にもなる。人身事故が起きれば駆除されることになる。子供のイノシシはかわいいが、一生面倒を見て、被害の防止や補償をするつもりがないのなら、餌はやるべきではない。小さくて追い払いやすいうちに、追い払ってやるのも愛情だと思う。



ブタのように太り、毛が薄くなったイノシシ

3. アライグマと野生生物との共存の課題

■アライグマ

北米からペットとして入ってきた外来生物。全国各地で数が増えている。見た目はタヌキと似ているが、5本指で物を掴め、手先が器用で色んなことができる。



アライグマは
指が5本

左アライグマ右タヌキ そっくり!

■外来生物法が施行された

2005年の6月に「外来生物法」が施行され、アライグマなどの特定の動物は飼うことも、放すことも禁止された。一度放されると影響も大きいので、罰則は厳しい。アライグマは根絶を目標に対策が行われることになると思うが、多くのアライグマを捕獲して殺すことになる。もし、これほど広がる前(80年代)に対策ができていれば、殺さなければならぬアライグマは少なかっただろう。

■野生動物の生息状況

山が荒れてきたから野生動物が人里に出てきたという人がいる。戦後からの地図や航空写真を見比べると、森林が回復した所もあり一概に山が荒れているとは言えない。自然環境や植生は、人と野生動物の関係に大きく影響するので、正しく現状を把握した上で対策を考えないといけない。

■生態系の仕組み

どんな生物も生態系の中で何らかの効果や影響を及ぼしている。ある生物が増えれば、別の生物が減ることもある。野生動物の死体のおかげで、死体食者や分解者、植物が生きている。生物資源や栄養分の循環、空気や水の浄化など、生態系機能は人間に様々な恩恵をもたらしてくれる。

■野生動物との共存の課題

まずは相手をよく知る必要がある。その上で被害対策として、農作物等を守り野生動物の人慣れや

里慣れを防ぐ。一方で、自然環境を保全して野生動物の生息環境の確保を行っていく。そして、動物によっては分布や個体数の増減を管理することも避けられない。野生動物との共存のための社会的な合意や体制作りも必要だろう。

まとめ(坂田さん)

動物を殺すことは良いことでしょうか、悪いことでしょうか? 私たちは、動物の肉や毛皮を利用します。動物を殺さずに米や野菜をつくることもできません。人の生活や他の生物に悪影響を与える動物たちもいます。誰かが自分の代わりに動物を殺してくれているおかげで、生活できていることは忘れてはいけなと思います。相手をよく知り、人間同士がよく話し合い、いやなことからも目をそむけないことが必要だと思います。

そして、熱のこもった質疑応答

ツキノワグマを集落に近づけないために、餌として山にドングリを撒くのは疑問がある。...



山田良雄さん

野生動物が悪いことをするといつて殺したらいいという気持ちにはなれない。... 私には2匹のアライグマの友達がいる。...



矢野文敏さん

六甲山というエリアは野生動物と一緒に生活しているところだ。...

事務局より

「動物を殺したい人は誰もいない。誰かの代わりに殺してくれる人がいて私たちが生活できる。」というお話が心に響きました。生命を大切にすることと、野生動物との共存という難しい課題に直面しました。

◆参考・配布資料など

- レジュメ
 - スライド
 - はく製・標本
アライグマ、タヌキ、
アライグマの骨格
- 博物館から持ってきて
いただきました。→



兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL: 079-559-2001 FAX: 079-559-2007
URL: <http://hitohaku.jp/> Mail: root@hitohaku.jp

◆参加者の声～アンケートより～

- 生息状況や生態系の実態把握が必要なことが分かった。栄養の循環(海と山)が理解できた。
- 自然(動植物)がうまくかつ厳しく関係を持ち共生していることが分かった。
- 里見ホールは趣があるが、寒かった。
- 中川さんのつくられた焼き芋がおいしかった。

◆参加者: 21名(順不同・敬称略)

坂田 宏志 村上 定広 久保 紘一 浅井 審一
八木 浄 澤田 中 北山健一郎 泉 美代子
山田 良雄 小坂 忠之 石田 澄子 矢野 文敏
福永 一登 高光 正明 大上 卓男 七目木修一
中川 典夫 堂馬 英二 中川貴美子 堂馬 佑太
菖蒲 美枝



六甲山YMCAを出発

第12回テーマ： 六甲山の野鳥

探鳥

六甲山YMCA周辺
山陽自然歩道（ノースロード）～
シュラインロード行者堂の往復

講演

- ①鳥合わせ
- ②六甲山に来る鳥たち

実施日：平成16年3月20日（土）
午前9時～午後2時30分
場 所：六甲山YMCA



まつした たけし
講師：松下 猛さん

プロフィール

昭和13年横浜市生まれ
昭和36年関西学院大学経済学部卒業後、丸紅株式会社
で繊維営業に従事。
日本野鳥の会兵庫県支部、大阪支部に所属。検定1級。

春の兆しを感じる六甲山

六甲山の木々は新芽で一杯です。桜の開花前線予想も速まる中、ネコヤナギはそっと日なたぼっこです。平成15年度の市民セミナーは第12回「六甲山の野鳥」で締めくくる事になり、世間を騒がせている鳥インフルエンザも消沈して、36名の熱心な参加者は、松下猛さんのお話を楽しみに、朝から六甲山YMCAに集合しました。

探鳥会では16種を確認

本日の探鳥は、六甲山YMCAからシュラインロードの行者堂を往復するコースです。立ち止まって鳥の鳴き声に耳を傾け、松下さんから興味深い説明を受けました。双眼鏡の使い方も学び、探鳥の要領を少しずつ身につけました。行者堂に着く頃には小雨が降り出し一気に寒さを感じて、帰りの道を急ぎました。



探鳥

熱気のこもった講演で交流

六甲山YMCAに戻ると里見ホールの暖炉に火が入り、温かい飲み物も用意されていました。昼食会は常連と初めての参加者の交流が進みました。午後からの講演は「鳥合わせ」から始まりま

した。松下さんの軽妙で含蓄豊かな説明に感心し、「六甲山に来る鳥たち」のスライドの美しさに魅入られました。

平成15年度のエンディング

懇談会では参加者ひとり一人が感想や意見を紹介し、六甲山への関心やセミナーへの期待を確かめました。今回で平成15年度の市民セミナーを大盛會に終わりました。神戸県民局、県立人と自然の博物館、灘区役所のご後援も受け、多くの方々のご支援をいただき、改めて感謝を申し上げます。

尾崎尚子さんにレポートをしていただきました。

参加の感想 門 昭子さん

初めて参加したシュラインロード越え（歴史探遊）の時も、今回の時も雨に降られました。2回とも天気には恵まれませんでしたでしたが、とても楽しかったです。野鳥も寒さに耐え、羽を濡らさないようにじっとしていたのでしょうか。鳥がよく見られなかったのは、残念でしたが、これも自然の摂理。

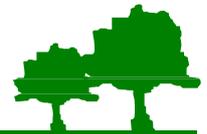
自然破壊が進む中、環境を守るため幅広く創造的な活動をされているのがよくわかります。松下さんのお話を聞かせていただき、もっと野鳥のことが知りたくなりました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所（「地域力を高める」手づくりの活動・事業助成）



テーマ:六甲山の野鳥



第12回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 探鳥 : 9:05~11:30
2. 昼食懇親 : 11:30~12:15
3. 挨拶案内 : 12:15~12:25
4. 講演 : 12:25~13:45
5. 懇談会 : 13:45~14:30

探鳥

六甲山YMCA周辺

講演

- ①鳥合わせ
- ②六甲山に来る鳥たち
(スライドによる解説紹介)



出発のあいさつ(松下 猛 さん)

探鳥リスト(冬鳥17種・留鳥36種)と、鳥のさえずり(声の聞き分け)が各自に配布された。「まず、声を聞いて、姿を見てアウトドアを楽しみましょう。」と松下さんを出発。



優しく説明

探鳥

キョロキョロと進む探鳥

六甲山YMCAの北側のキャンプ場を通過して、山陽自然歩道(ノースロード)を歩き、シュラインロードの行者堂をUターンする約1.5キロ、2時間弱のコース。この付近はリョウブ、ツバキ、コアジサイ、イヌツゲなどがあり、左右を見ながら進んでいった。

初めに会った鳥は?

何とハシブトガラス。ハシブトは海岸、山中、街中のゴミ収集場に多く見られる。ハシボソガラスは農耕地やハシブトと似た環境に生息するが、標高の高い山林や林には生息しない事から、田畑、川原のエサをあさると言う説明を聞いた。生態系も少しずつ来て来たのか、近頃我々の生活圏でもハシブトやハシボソはよく見られる。ハシブトはくちばしが大きく、ハシボソはくちばしが細く体も5センチ位小さいのが特徴。

続いて、「チチッ」と鳴き声が2回、「チッ」と鳴き声が1回聞こえた。「チチッ」はホオジロ、「チッ」はアオジの声(地鳴き)、そこへウグイスも鳴き出し、探鳥会はますます楽しくなってきた。

「鳥の鳴き声に慣れてくると探鳥が楽しくなり、奥も深いですよ。」と松下さんの笑顔。少しでも努力して鳴き声を聞こうと、皆が耳をすました。

シュラインロードへ進むと、「チチッ」と2回鳴き声。「これはさっきのホオジロです。」と松下さんが言われ、「うん、うん」とうなずき、殆どの人が「ホオジロの地鳴き」を覚えた。

鳥が鳴くのはどんな時?	鳴き方の種類
①巣をつくる時に鳴く	①地鳴き
②メスを求める時に鳴く	②さえずり
③縄張りを守る時に鳴く	③さえずり

双眼鏡の扱い方

- ①右目を閉じ左目で前方物を見て視点を合わせる。
- ②左目を閉じ右目で前方の同じ物を見て調整。
(左右の視力の違いから、双眼鏡は自分で合わせることが大切)

【野鳥を観察する時】

- ①双眼鏡は首から安全に注意してぶらさげる。
- ②肉眼で野鳥を探す。
- ③見つけてから双眼鏡を使う。色、形から姿を楽しみ感動を味わう。



静かに見つめる

リスの巣を発見!

4~5メートル上の1本の木に巣を発見。「何の巣?」松下さんの見上げる姿につられ、我々も見上げたが何の巣かわからなかった。すると「リスだ。リスの巣です。」「へー!」。六甲山のかわいいリスを想像した。これだから「発見は楽しいね。」とうなずき、うれしさも倍増。

風も冷たくなり、雨も降り出しUターンしてYMCAの裏に帰って来るとルリビタキの雌とヒガラが出迎えてくれた。



リスの巣

講演

鳥合わせ

松下さんは中学2年から大学まで鳥を見ながら歩いて来られ、伯父の小林桂助さんの影響を受け、鳥の観察を続けて来られた。その楽しさと発見の体験を通して今日の鳥合わせをして戴いた。

六甲山に見られる冬鳥や留鳥の探鳥リストから今日見た鳥・声だけ聴いた鳥など各自が印を入れたものを全員で確認した。(計16種を確認)

見た鳥	ハシブトガラス、エナガ、シジュウガラ、ヒヨドリ、ルリビタキ(雌)、アオジ、アトリ、ホオジロ
鳴き声だけ	コゲラ、カケス、カワラヒワ、メジロ、ヤマガラ、ヒガラ、ウグイス、シロハラ
その他	リスの巣(2個)

六甲山に来る鳥たち

松下さんのアシスタントの那波さんから、33種の鳥のスライドを提供して戴いた。松下さんの丁寧な解説といただいた資料を見ながら、より深い知識を得る事ができた。

・カワセミ (留鳥)

雄は求愛時に雌に餌を与えるが、雌のくちばしはオレンジ色である。住吉川の赤土のある土手に1~2メートルの穴をいくつも掘り、お気に入りの1つだけ巣づくりに選ぶ。



カワセミのプロポーズ

・カケス (留鳥)

声が悪いが頭は良く、鳥とは思えないような猫のような声を出す。六甲山で多く見られる。



カケス

・サンコウチョウ (夏鳥)

六甲山に渡って来て尾羽の中央2本が伸びる時、美しいハート形になる。



サンコウチョウ

※留鳥：季節にかかわらず移動しないで、一年中ほぼ一定の場所に住む鳥

新たに参加され、熱心に講演を聴かれる皆さん



大塚紀美子さん



脇坂昭生さん



山下潤治さん

◆参考・配布資料など：

- ・「鳥を見つけた」パンフレット
- ・探鳥リスト
- ・双眼鏡 (数台を貸与)

～情報～

以前布引ダムへよく来ていたオシドリが、今年の2月に鳥原池に約200羽訪れました。神戸新聞他多くの探鳥家が確認しており、写真に収められています。



オシドリ

～ご案内～

松下さんの伯父、小林桂助さんの鳥コレクション(絵画)が六甲山ホテルに飾られています。六甲山にお出かけの際は、是非お立ち寄りご覧下さい。

松下さんへのお問い合わせは当会事務局にご連絡下さい。

参加の感想 堀見 徹二さん

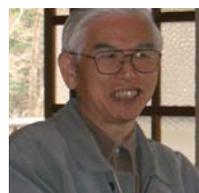
午前中は、周辺を探鳥。小鳥も雨で濡れるのはイヤだとみえて、出会えた鳥の数は、残念ながら少なかった。しかし地面に落ちたエサをついばむ愛らしいアトリの群れや印象深い模様のルリビタキ、シジュウカラなど、観察することが出来た。講師の丁寧で興味深い解説で、雨風や寒さ、時間も忘れさせてくれた。特に印象に残った言葉は、「姿を見ようとするのと同じくらい鳴き声を聞くことに神経を向けなさい」であった。

里見ホールの暖炉にくべられる薪の暖かい炎とパチパチと燃える音が、家族的で和気あいあいとした雰囲気を醸し出していたようでした。



貴会の六甲山の自然保護運動に賛同し、自らその先頭に立って活動されておられる姿に感心させられ、頭の下がる思いがしました。

懇談会



参加者全員にお話をお聞きする事ができた。それらの体験は自然との関わりを通した多くの発見や喜びと共に感動を共有し合い、心身健康な笑い声がいつまでも里見ホールを共鳴していた。

伊沢信雄さんの一句に拍手喝采！

「癒されて 耳そばたてる 春の山」

参加者の声 アンケートより

◆セミナーの感想

- ・毎回マニアの方々が集まり、話を聞くのが楽しい。
- ・探鳥は初めて。楽しかった。心が癒された。
- ・鳥の説明を聞きながら楽しく参加できた。
- ・今後のハイキングに探鳥の楽しみが追加できそう。

◆ボランティア活動としての清掃や整備について

- ・「都合が合えば参加したい」と言う意見が多数。

◆参加者：36名 (順不同・敬称略)

松下 猛	山田 良雄	八木 浄	三村栄三郎
伊沢 信雄	山下 潤治	杉本 和彦	尾崎 尚子
北山健一郎	西尾 延男	西尾 貴子	青木 孝子
山田 勇	池上由紀子	門 昭子	堀見 徹二
山本智愛子	脇坂 昭生	山口 敏子	岩島 年子
泉 美代子	高光 正明	丹治 英子	水田 桃代
三村 早苗	青木 光子	大塚紀美子	渡辺 洋
西岡 智恵	高井 登	堂馬 英二	那波 昌彦
中川貴美子	小野 律子	藤井宏一郎	中野 一



トンボ取りを終えて

第5回テーマ：六甲山の昆虫

セミナー内容

1. 解説
 - ①六甲山上のトンボとその見分けかた
 - ②日本でいちばん美しい赤とんぼ「ミヤマアカネ」について
 - ③六甲山上のいろいろな昆虫
2. 昆虫採集
3. 成果発表

実施日：平成15年8月16日（土）
午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：やぎ つよし 八木 剛さん

プロフィール

昭和43年大阪生まれ
神戸大学大学院農学研究科
修士課程修了
県立人と自然の博物館自然・
環境評価研究部
昆虫共生系研究グループ研究員

昆虫採集のあみをもって集合！

今年の梅雨は長梅雨、しかも雨量が多く沖縄、九州、北海道まで日本各地に残した被害は野菜、新米、酪農まで深刻な問題を残した。

さて、第5回目はお盆の送り火の翌日。夏休みを有意義に過ごす親子そして一般参加者が六甲山の昆虫とふれあっていただく夏のイベントです。

さあー昆虫採集あみをもって集合ー！

六甲山に住む昆虫は？

県立人と自然の博物館研究員である八木先生は、「六甲山にはどんな虫がいますか？」とか「図鑑はないのですか？」と聞かれるそうです。先生はピンヤリ！とお答えします。「そんなものありません」と。聞いた子供たちは目を白黒させていました。

その答えの理由は昆虫の種類が多い事、どこに居るのかと言う研究があまり進んでいない事、詳しく調べるのが大変な事などが挙げられます。

8月のおすすめ昆虫は3つ

スライドを見ながら六甲山の虫を紹介。今月のおすすめの昆虫は3つです。

◆ミヤマアカネ：日本で一番美しい赤とんぼ

トンボの仲間が一番うつくしいと言われている。羽の真中から外側に茶色い帯模様がついており非常に美しい。オスは尻尾の先から頭まで全身赤くなる。



ミヤマアカネ

◆エゾゼミ：格調高い高原のゼミ



何とも言えず格調高い虫。クマゼミより少し小さくアブラゼミより大きい。タイガースカラー（黒地に黄色）。ギーという単調な鳴き声。

高い山の上にならば分布しておらず、標高800mより上とされています。

◆イナゴモドキ：イナゴのようにイナゴでない

バッタの仲間はさらにイナゴとバッタに分かれ、イナゴモドキはそのバッタに属します。違いは前脚の間の突起（通称のどちんこ）で、イナゴにはあるけれども、イナゴモドキにはこの突起はないそうです。

家族単位で昆虫採集、昆虫リストができた！

いよいよ子供たちの出番！家族単位で出かけました。あみを高く持ち上げ、まるで空を切る様な姿で頑張っていました。

「見つけたよ〜！」それぞれが八木先生に昆虫の名前を教えてくださいました。

見つけた昆虫の居場所を地図に書き込んで昆虫リストの完成です。子供たちが見つけた六甲山の昆虫はどれも輝いて見えました。（※尾崎さんにレポートを提供して頂きました。）



アジサイ園前で採集

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局
兵庫県立人と自然の博物館



テーマ:六甲山の昆虫



第5回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 講演準備: 12:50~13:05
2. 講師挨拶: 13:05~13:20
3. 解説: 13:20~13:50
4. 昆虫採集: 14:00~14:45
5. 成果発表: 15:30~16:00

3. 解説

- ①六甲山上で観察できる昆虫の紹介
- ②六甲山で採れる今月のおすすめ昆虫
 - ・ミヤマアカネ
 - ・エゾゼミ
 - ・イナゴモドキ

- ③六甲山自然保護センター周辺での虫採りについてのアドバイス

講演のあいさつ(八木 剛さん)



みやまあかねの分布図

「今回は夏休みということもありますので、ちゃんとした勉強はしません。その代わりに皆さんには手と体を動かしていただいて昆虫採集をしていただこうと思っています。子供さんだけでなく大人の方も参加して頂こうと思いますので、その覚悟でお付き合いください」

「今回は夏休みということもありますので、ちゃんとした勉強はしません。その代わりに皆さんには手と体を動かしていただいて昆虫採集をしていただこうと思っています。子供さんだけでなく大人の方も参加して頂こうと思いますので、その覚悟でお付き合いください」

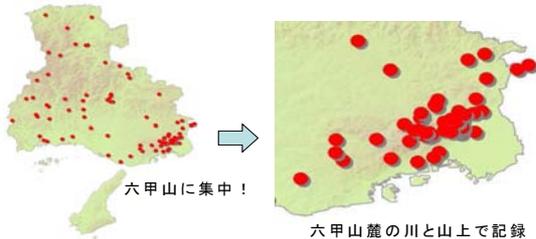
六甲山の昆虫についてのお話

六甲山の一部分だけで昆虫が1000種類も

六甲山全体では広すぎるので、極楽茶屋の北側の紅葉谷(国立公園 特別保護地区)という自然が豊かなところで2001年の5月~11月の半年間、月1回15~20名のメンバーで調査を行った。その結果、約1000種類(172科1013種類7865個体)の昆虫が見つかった。六甲山全体ではどれだけ見つかるのか?想像がつかない。

六甲山とミヤマアカネ

昨年からミヤマアカネを見つけたらお知らせくださいというキャンペーン(「みやまあかねリサーチプロジェクト」)を行ったところ、一番多かったのは六甲山周辺。



家族ごとのチームに分かれ昆虫採集

六甲山自然保護センターを中心とした周辺白地図を配布。これに記入してもらうことで、昆虫リストのようなもの下地ができる。

六甲山に多く見られるミヤマアカネ、エゾゼミ、イナゴモドキが採れるかもしれないという期待感を胸に昆虫採集に出発。思い思いの場所で楽しみながら、捕まえた場所を記入していった。



八木 剛さん



松本 英君、佐藤さんご家族



高永さんご家族



アジサイ園にて



昆虫採集した地域(六甲山自然保護センター周辺)

成果発表

自然保護センターに戻り、名前のわからない昆虫は八木先生に教えてもらった。

そして、各チームが白地図に記入したものをOHPシートに転記して発表した。

(結果は成果一覧表として右に示しました)



昆虫を見せ合う子供たち

本日の一番の収穫はアサギマダラ (浅黄斑)

吉澤和生君の採集したアサギマダラは白い部分にりんぷんがついていない透明で美しい蝶。南方系の蝶で、秋になると南へ帰る長距離の渡りをする蝶です。



吉澤 和生君

本日の成果一覧表

(自然保護センター周辺で目につきやすい昆虫リスト)

チョウ	クロヒカゲ スジグロシロチョウ コチャバネセセリ	キンモンガ アサギマダラ キマダラセセリ	キチョウ ジャコウアゲハ
トンボ	ウスバキトンボ オオアオイトトンボ	マユタテアカネ	モノサシトンボ
甲虫	ラミーカミキリ	ヒメコガネ	ミヤマクワガタ
セミ	エゾゼミ (ぬけがら) ヒグラシ (ぬけがら)	コセアカアメンボ	
バッタ	ヒメクサキリ (幼虫) イナゴモドキ (幼虫)	ヒナバッタ ヒシバッタ	
他の虫	ウシアブ		



ミヤマクワガタ

昆虫リストを作ろう

「このように記録しておく、去年はこんな虫が採れたと参考になる。集めてゆくと六甲山自然保護センターのまわりの昆虫という1冊の本ができる。

今日のようなお子さんも含めていろいろな方に探っただいた昆虫は目につきやすく、手にしやすい昆虫のリストとして非常に意味がある」 (八木)

◆お父さん・お母さんと一緒

今回は6組のご家族の参加がありました。子供さんにもアンケートに回答していただきました。

1. 講演会について

・昆虫のことは身近である割には、詳しいことまではわかっていない事を知りました。・普段の生活でも気をつけて観察すれば「新発見」ができるかもしれない。

2. 自然保護センターについて

・初めて来ました。また寄りたいと思います。
・景色も良く場所としても良かった。

【子供さん向けアンケート】

1. 今日のトンボとり、虫とりはどうでしたか?

・ミヤマアカネはいなかったけど、いろんな虫がいたのでおもしろかった。

2. 六甲山にのぼってみてどうでしたか?

・どこを見ても木ばっかして、きれいだった。
・暗くておもしろかったよ。・森がいっぱいでおもしろかったよ。

3. 今日楽しかったこと、よかったことは?

・色々な虫がとれてよかったです。・新しい虫の名前を教えてもらったのでうれしかった。



竹島さん、デジィ君、伴恵さん 尾崎さん、サイナンさん、松本さん

◆配布&参考資料:

- ・「六甲山の昆虫」・「周辺白地図」・「みやまあかねリサーチプロジェクト」兵庫県立人と自然の博物館
- ・「セミナーガイド」兵庫県立人と自然の博物館
- ・赤トンボの標本

兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546 三田市弥生が丘6丁目
TEL: 079-559-2001 FAX: 079-559-2007
URL: <http://hitohaku.jp/> Mail: root@hitohaku.jp

◆参加者: 31名 (順不同・敬称略)

竹島 智美/隆太/将太/晃太 松本 由貴/英
佐脇 天/星 高永 徹/美保/優衣/直樹
サイナン 成光子/デジィ/ジェナー 浮島 伴恵
吉澤 正浩/和生 北山健一郎 山田 良雄
松井 光利 桑田 結 中川貴美子 八木 剛
藤井宏一郎 堂馬 英二 平本 苗実 小野 律子
松島 朋子 尾崎 尚子 米村 邦稔
(幼児4名、小学生7名、大人20名)

第23回テーマ:六甲山と
昆虫たちの冬越し



朽ち木の中の昆虫探しを体験

講演内容

- ①命の教育について
～命をどう気づかせるか～
- ②六甲山(神戸)の昆虫
- ③六甲山へ行こう

実施日:平成17年2月19日(土)
午後1時～3時45分

場所:六甲山YMCA
里見ホール



講師:戸田 信示さん

プロフィール

1960年生まれ。仏教大学文学部教育学科通信教育課程卒業。神戸市立小学校教員として若草小、御影小、六甲山小、神戸市立神出自然教育園、本庄小に勤務後、現在神戸市立青少年科学館指導主事3年目を迎える。

新芽が出だして春の気配

朝から小雨が降ったりやんだり、不安定な天候の1日でした。先月と比べてかなり暖かくなってきています。午前中のボランティア活動で記念碑台周辺の散策コースを歩いていると、木々の枝に新芽を見つけました。六甲山に春が近づいていると感じました。



実習用の朽ち木を囲んでお話を聴く

越冬する昆虫の様子をスライドで観賞

講師の戸田信示さんは、神戸市立青少年科学館に勤務し、自然史系の企画展などに注力されています。自然大好き人間の戸田さんから、六甲山地の昆虫の冬越しの様子をご紹介いただきました。

昆虫は春から秋の季節には見かけますが、冬は山へ行ってもあまり目にすることがありません。冬の間、昆虫はどこでどうしているのかという素朴な疑問を切り口に話が進みました。約20種類の昆虫のひっそりと越冬の様子を、スライドや標本を見せていただきました。

主催:六甲山自然保護センターを活用する会
後援:兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

童心に返って夢中で昆虫探し

農家から使わなくなった椎茸栽培の櫛木(ほたぎ)をいただいて、昆虫探しを体験しました。櫛木を注意深く砕いていくと、クワガタやカブトムシの幼虫、コメツキムシが中にひそんでいました。全員が童心に返って取り組み、「見つけたー!」と歓声を上げながら熱中しました。

六甲山の自然に関わろう

越冬する昆虫を通じて生命の連鎖を学びました。小さな生き物に目を向けることが、六甲山の大きな自然に目を向けるきっかけをつくります。自然から学べるものは無数です。積極的に自然と関わり、次世代へも伝えていきたいと痛感しました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 南馬 進さん

小学生の頃、菊水山へよく登り、クワガタやカナブンのいる秘密の場所へ行ったものでした。スズメバチに気を付けながら、今日こそクワガタをと胸をワクワクさせていました。その頃をなつかしく思い出しながら、戸田先生のお話を聞かせていただきました。



自然を守る、豊かにするとは言っても難しいことがあるのだなと感じさせられる場面がお話の中がありました。人間も自然の一部になり、六甲山の自然と共に育っていかれたらと思います。(六甲山小 教頭)

【助成金をいただいている機関】

灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲山と昆虫たちの冬越し



第23回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ : 13:00~13:10
2. 講演 : 13:10~14:00
3. 実習 : 14:00~14:50
4. 交流会 : 15:15~15:45

講演

- ①命の教育について
～命を気づかせる～
- ②六甲山(神戸)の昆虫
- ③六甲山へ行こう

命の教育についてお話を聞いた後、パワーポイントで六甲山地に冬越しをする昆虫たちの様子をご紹介いただきました。

実習では、朽ち木の中の昆虫探し体験をしました。



講演のあいさつ(戸田 信示さん)

神戸市立青少年科学館に勤務しています。本来は小学校の教員です。自然に接する事が一番子供の教育にいいと思っています。青少年科学館は物理など理工系の施設です。理工系だからこそ、自然史系の展示が大切だと思います。昨年開催した企画展では、館内にビオトープもつくりました。



戸田 信示さん

講演内容

次々と質問を投げかけながら、明快な論旨でお話を進めていかれた。

1. 命の教育(命をどう気づかせるか)

■昆虫は好きですか?

「昆虫は好き?嫌い?虫を食べたことはありますか?」と問いかけ。約半分の参加者が「嫌い」の方に手を挙げた。嫌いな理由は、外観による気持ち悪さが多い。人間は自分の姿や形と比べて好き嫌いを決めていることが多い。外見にとらわれる差別感をなくしたい。

■命を気づかせる

昆虫は私たちと同じ様に命があり、生きている。動物や植物も同じ。私たちは命を食べて生かされていることを忘れてはならない。命のあるものに触れるなど生き物に接することは、命というものを気づかせる一つの手だてである。

～生き物と接する～

- ・育てる(成長をみる、世話をする、命の連鎖を知る)
- ・命の誕生による経験(喜び・苦勞)
- ・死との出会い(悲しみ・苦勞・思い出の中に生きる)

子供への命の教育にあたり、植物、動物などが教材にあげられる。特に昆虫は身近な生き物で、成長サイクル(寿命)や飼育観察が比較的容易などの点から適切な教材だといえる。

2. 六甲山(神戸)の昆虫～スライドと実習～

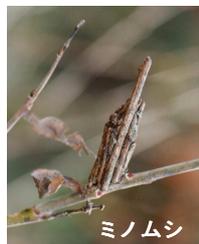
■冬は昆虫がいない?

昆虫の季節といえば春から秋で、鳴き声や動いているのをよく見かける。冬は山へ行ってもあまり見かけない。子供達の中には、冬は虫がいない

(みんな死んでしまった)と思っている子もいる。春に出合うということは、命の連鎖がある。昆虫は冬も生き続けている。

■スライド紹介1:昆虫の越冬

六甲山地の昆虫たちの様々な越冬形態をスライドで紹介していただいた。



ミノムシ



オオムラサキ

ひっそりと冬越しする昆虫たち

ミノムシ(ミノガの仲間):最近六甲山では少なくなつた。病気が広がった可能性がある。
カマキリの卵:積雪のある寒い時は、雪に埋もれないように木の上などの高い場所に卵をつくる。たくさん生まれても生き残るのは1~2匹。生まれた時から親と同じ姿。ゴキブリに近い。

オオムラサキ:幼虫の背中に4つの突起がある。エノキの葉の裏に幼虫がついている。(エノキはたくさんの昆虫を育てている。)

ゴマダラチョウ:背中に3つの突起がある。幼虫はオオムラサキと似ている。違いは突起の数。

ギフチョウ:蛹で越冬。

ヤゴ・ミズカマキリ:水の中で越冬する。

キベリハムシ:ビナンカズラに卵がつく。他府県に広がっていない。神戸にはメスしかいない。単位生殖をする。

マヤサンオサムシ:摩耶山の名前がついている。

冬に虫はいないと思いがちだが、昆虫は動かさずじっとして目につかないところで越冬をしている。季節に関係なく生存競争は起きている。

■スライド紹介2:朽ち木の中の幼虫

最近農家の椎茸栽培方法が変わってきている。楢木(ほたぎ)で育てず、チップ(おがくず)で育てている。楢木は重くて運ぶのが大変だが、チップは軽くて扱いやすいという理由で移行。チップはサクラなど色々な樹種が混ざっている。



キベリハムシ

■実習：朽ち木の中の昆虫探し

農家の使わなくなった椎茸栽培の椀木の朽ち木を使って、昆虫探しの実習をした。朽ち木の表面に、クワガタが産卵をしたマーク（図）がある。そこを目印にドライバーで注意深く砕いていくと、中にクワガタやカブトムシなどの幼虫やコメツキムシが出てきた。



昆虫探しに熱中!



産卵マーク



幼虫を発見!→

コメツキムシ：肉食でクワガタの幼虫を食べる。大きなコメツキムシがいると、幼虫は食べられてしまっている可能性がある。

クワガタとカブトムシの見分け方

幼虫のお尻で見分ける。縦線があるとクワガタ、横線があるとカブトムシ。

雄雌の見分け方

カブトムシのオスは、お尻から数えて2本目と3本目の線の間にはV字がある。クワガタのメスは、2本目と3本目の線の上に卵巣が見える。

今回紹介された昆虫の種類（紹介順）

ノコギリクワガタ・コクワガタ・ミヤマカマキリ・カブトムシ・ミノムシ（ミノガの仲間）・カマキリの卵・オオムラサキ・ゴマダラチョウ・ギフチョウ・エダシャクの仲間・ルリタテハ・ヤゴ・ミズカマキリ・マヤサンオサムシ・キベリハムシ・ベニカミキリ・ツチイナゴ・コメツキムシ・タママシ・カミキリムシ
以上20種類

<幼虫を大事に育てよう>

飼育方法（一つの瓶に1匹ずつ育てる）

- ①朽ち木を空き瓶に固く詰める。（市販の昆虫マットでもよい。）
 - ②いっぱい詰めたなら、少し穴を開けて幼虫を置きふたを閉める。
 - ③直射日光が当たらない静かな涼しい所におく。
 - ④幼虫が瓶の底に見えたら、瓶ごと逆さまにする。
- ※瓶には、採集した日と場所を記しておく。

教材の宝庫 六甲山へ行こう（まとめ）

今日はスライドをはじめ、昆虫探し体験をし、朽ち木の中で命の戦いを目にしました。幼虫を取り出したからには、責任を持って家で幸せに育ててください。オスメスで卵を産ませて、自然へ放しましょう。昆虫だけでなく自然は関わり合いです。調べれば調べるほど面白いものです。教材や図鑑だけでなく、本物を見るために六甲山へ出かけましょう。ゆとりを持って、普段何気なく六甲山を見る習慣をつけ、自然環境を空間として楽しんでほしいです。

参加の感想 井上 勝弘さん

静かに土に帰るかと思った椎茸原木を剥いで行くと、真っ先に小さなコメツキムシ。「ああー、この虫に原木が全てを託して」と思いきや、いやいやチャント居ました。素敵な寝室に木屑のカーテンをして、クワガタとカブトムシの幼虫が。コメツキムシに自分たちの存在をカムフラージュさせていたかもしれない。一本の椎茸原木にも、大きな地球の営みを実感させられる。



◆参考・配布資料など：

- ・スライド（2種）、標本
- ・レジュメ
- ・実習教材
（朽ち木、ドライバー、空き瓶）
- ・青少年科学館の案内パンフ
- ・新聞切り抜き2枚



◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・自分のライフスタイルに「昆虫」はなかった。命の大切さを再確認できた。
- ・実習が良かった。子供に帰ったような気持ちになった。
- ・持ち帰った幼虫を大事に育てて、孫に成長の様子を見せたい。

◆事務局より

戸田さんには、今回のために標本や朽ち木を農家より手配していただくなど、大変お手数をお掛けしました。ご尽力に感謝します。

◆参加者：21名（順不同・敬称略）

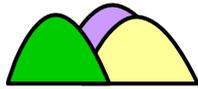
戸田 信示 八木 浄 村上 定広 大谷安規永
石田 澄子 青木 孝子 高光 正明 南馬 進
小坂 忠之 久保 紘一 中垣内 博 浅井 審一
浅井 康枝 泉 美代子 井上 勝弘 遠井 方子
堂馬 英二 米村 邦稔 松井 光利 藤井宏一郎
菖蒲 美枝

神戸市立青少年科学館からのお知らせ 春の企画展Ⅱ「神戸の遺跡が語る災害の記録」

開催期間：平成17年3月19日～5月8日
神戸の遺跡からわかる災害史を、地層のはぎ取りや埋蔵物など貴重な資料から科学的に考察します。

神戸市立青少年科学館

〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-6
TEL：078-302-5177 FAX：078-302-4816
ホームページ：http://www.ksm.or.jp
ボランティアも随時募集（詳細は科学館まで）



5. 六甲山のくらし・学び

～生活文化と環境学習～

①六甲山小学校の総合的な学習

P 81～83



高光 正明
六甲山小学校
校長

第8回市民セミナー講演
2003年11月15日

④六甲山における野外教育 ～六甲山YMCAの活動～

P 90～92



池田 勝一
六甲山YMCA
所長

第35回市民セミナー講演
2006年2月18日

②六甲山を子供達の遊び場に

P 84～86



越智 正篤
フィールドオブ・ゆう
代表

第17回市民セミナー講演
2004年8月21日

⑤六甲山と環境教育

P 93～95



岩木 啓子
ライフデザイン研究所
FLAP 代表

第15回市民セミナー講演
2004年6月19日

③出る杭をのばす教育の実践

P 87～89



**ランネット・
グローバルスクール**
第30回
市民セミナー講演
2005年
9月17日

⑥六甲山に生涯学習の 場を求めて

P 96～98



**あけグループ
婦人大学卒業生**
第20回
市民セミナー講演
2004年
11月20日

六甲山の平坦な山頂部には保養所や別荘、ホテルなどの施設があり、山上で生活を営んでいる人たちがいます。六甲山はかつて避暑地として賑わいましたが、夏場のシーズンには多くの観光客も訪れます。六甲山の自然環境は生活文化という面を併せ持っています。街中の喧噪から離れた別天地で静寂な自然環境に溶け込む、六甲山上での「くらし」は自然環境の中で体験から「学ぶ」ことにもなります。

「六甲山物語」の第5段は「六甲山のくらし・学び」というくくりで、生活文化と環境学習に焦点を当てています。高光さんには「六甲山小学校での総合学習」として地域に密着した学校生活をご紹介します。越智さんには六甲山での幼少児の自然学習、ランネット・グローバルスクールの皆さんには六甲山上での「創造性を育む教育」、池田さんには日本の教育キャンプの発祥地である六甲山YMCAの「野外教育」を語っていただきます。「生きる力」や「創造性」を育む六甲山上での多彩な教育活動が理解できます。

岩木さんには環境学習の入門編と六甲山での試みに導入していただき、あけびグループからは生涯学習の実践活動と成果をご紹介します。



火入れ式

**第8回テーマ：
六甲山小学校の総合的な学習**

講演内容

- ①六甲山小学校の特色
- ②六甲山小学校の行事紹介
- ③総合的な学習「山の子学習」
- ④六甲山小学校のこれから

実施日：平成15年11月15日（土）
午後1時～3時30分
場 所：六甲山YMCA



講師：高光 正明 さん

プロフィール

昭和23年 明石市生まれ
昭和46年大阪体育大学体育学部卒業、昭和48年神戸市立長田小学校着任、神戸市内7校を経て平成13年度より六甲山小学校校長 教員生活30年

六甲山YMCAで初めて開催

11月10日から来年3月末頃まで県立六甲山自然保護センターは休館のため、セミナー会場を今回より六甲山YMCAに移しました。池田所長に大変ご配慮いただきました。

六甲山YMCAでは昼食手配が可能ということで、一部の方と一緒に昼食をしました。セミナー参加者の中には、午前中に六甲山へ上がり散策をして、六甲山YMCAで昼食をとった後この市民セミナーに参加するというスケジュールを組んで来られた方もいらっしゃいました。



六甲山YMCA

会場には六甲山小学校の活動掲示物を展示しました。今回の参加者は18名。和やかなムードでセミナーは始まりました。

「遊び」を説く高光校長

今回のスピーカーは神戸市立六甲山小学校の校長、高光正明さんです。高光校長は平成13年度より六甲山小学校の校長に就かれています。今年で教師勤続30周年を迎えられました。講演では「遊び」をキーワードに六甲山小学校の特色や総合的な学習についてご紹介いただきました。笑ったり共感したりの内容で、最高のパフォーマンスをご披露いただきあっという間の1時間でした。

六甲山小学校はまるごと総合的な学習

六甲山小学校は、神戸市内から最寄りの交通機関で約1時間の位置に本校があり、標高約795メートル、杉の木立に囲まれた緑の中の学校です。

現在の児童数は27名で、平成14年度より校区を広げて小学生を受け入れる制度「小規模特認校」となっています。1年生と2年生が単式学級、3・4年生と5・6年生が複式学級の計4学級からなり、11人の教職員が家族的な雰囲気の中で日々教育を進めています。昼休みには児童全員が一緒になって遊びます。

保護者や地域の方を含めた人間的なふれあいを大切にされる行事も多く、六甲山小学校がまるごと総合的な学習であると痛感しました。

六甲山小学校のファンになった！

講演後の懇談会では、六甲山小学校の父兄である稗田さんより、お子さんの学校生活の様子や体験談をお話いただき、質問も飛び交いました。学校と父兄との信頼や厚いつながりに感銘を受けました。

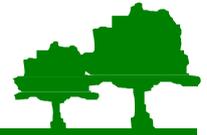


教育についてじっくり考える

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局
兵庫県立人と自然の博物館



テーマ:六甲山小学校の総合的な学習



第8回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親 : 12:00~13:00
2. あいさつ : 13:05~13:10
3. 会場案内 : 13:10~13:15
4. 講演 : 13:15~14:40
5. 懇談会 : 14:50~15:30

講演

- ①六甲山小学校の特色
- ②六甲山小学校の行事紹介
- ③総合的な学習「山の子学習」
- ④六甲山小学校のこれから

※六甲山YMCAにてセミナーを開催しました。食堂で昼食をとった後、研修室で講演

講演のあいさつ(高光 正明さん)



小道具もバッチリ準備

神戸の**高い**山、六甲山から教育を**光**らせる、5時から**は(も)**、**正**しく**明**るく生きる、ハイライト高光正明です。

私は遊ぶことが好きで、遊びから学ぶのが一番であると思っています。これは六甲山小学校の教育目標にもなっています。



二宮金次郎像



毎日が速足気分のケーブル通学

講演内容

六甲山小学校の歴史

昭和24年に唐櫃小学校の分教場として開校し、3年後の昭和27年、六甲山小学校として独立して現在に至る。標高795メートルに位置し、気候は青森県とよく似ており、冬にはマイナス10度になることもある。児童数は昭和33年の73名をピークに一時は11名まで減少し、現在は27名となっている。すぐ隣には幼稚園もあり園児の数は2名。幼稚園を含めて15名の職員で児童を見守る。

二宮尊道さんが校歌を作詞

小学校の校歌は二宮金次郎の5代目である二宮尊道さんが作詞をしている。学校の隅には、二宮金次郎の銅像があり、二宮金次郎が愛した言葉「誠」という字が刻まれている。

全国唯一のケーブル通学

児童の大半は通学にケーブルを利用しており、ケーブルで通学する小学校は、全国でも六甲山小学校だけと非常に珍しい。

小規模特認校とは

六甲山小学校は、自然環境に恵まれ、全児童参加での魚とりやチューリップ・椎茸栽培、六甲山での地域行事への参加、スキー教室など、特色ある取り組みをしている。一般的には児童生徒の通学する学校は教育委員会で定めた校区による。豊かな自然環境の中で心身の健康増進を図り、豊かな人間性を培うことを目的として、保護者・児童が特に希望する場合には、一定の条件を付して、他の校区から六甲山小学校への入学・転学を認める制度である。現在この特認制度で入学している児童は19名で市外・県外から6名が来ている。

先生とくらす小学校

3年生以上は複式学級で3・4年生と5・6年生に組まれる。授業は、3年生は3・4年生の教科を、5年生は5・6年生の教科をすることがある。体育の授業は、1・2年生が一緒、3年から6年生が一緒に受ける。

給食の時間には、教職員・児童全員がランチルームで一緒に食べる。食事の時間が一番家庭の様子が見える。昼休みには児童全員が運動場いっぱい広がって遊ぶ。一緒にくらすことで教職員と児童の心は自然と通い合ってくる。

ふれあい行事

毎年5月に全児童を対象としたキャンプを六甲山YMCAで行う。期間は2泊3日で、入学したばかりで落ち着かない時期に行われるため、親はとても心配する。カヌー遊びなどを通じて、上級生が下級生の面倒を見たり、お互いに我慢することを学んだりする。ここで全学年の仲間づくりが始まる。

子供が主役の「火入れ式」

六甲山の恒例の行事として、ストーブへの火入れ式がある。秋になると毎年、報道関係から日程等の問い合わせがあり全国に紹介される。毎年、二十四節気・霜降の日に行い、児童一人ひとりの手作りの道具を用いて火をおこし長い冬をともにするストーブに感謝し点火する。今年も10月24日に行われ、取材陣に囲まれた。



自分の力で火をおこす

「総合的な学習」とは

「生きる力」の育成を目指し、各学校が創意工夫を生かして、これまでの教科の枠を超えた学習などができる時間を平成14年度より新設。これまでと全く画一的といわれる学校の授業を変えて、①地域や学校、子どもたちの実態に応じ、学校が創意工夫を生かして特色ある教育活動が行える時間、②国際理解、情報、環境、福祉・健康など従来の教科をまたがるような課題に関する学習を行える時間とする。

(文部科学省ホームページより抜粋)

「遊び」から学ぶ

総合的な学習とは簡単にいうと「世の中が変わったから生きる力を養おう」ということ。これは授業でなく「遊び」を通じて成り立つのではないだろうか。

六甲山小学校に通っていたら、「生きる力」は自然と身につけている。子供たちが自然を相手にしながら、自然から学んで、そこで身についた知恵をどんな風に援助するかが教師の役目であると高光校長は述べられた。



高光校長の話に感動した岩島さん

質疑応答

六甲山小学校と幼稚園にお子さんを通わせている稗田さんに実際の様子をお話いただいた。

◆学校を知ったきっかけは…インターネットで見つけた。先生の人柄や話をうかがって、ここならやっていると思った。大阪の豊中から鶴甲へ引越し、毎日送り迎えをしている。

◆トラブルは?…トラブルはチャンスだと思いい子供の変化を楽しんでいる。喧嘩もコミュニケーションのいいきっかけだと思う。

後日、稗田さんをお願いして原稿を寄せていただきました。ありがとうございました。



体験を語る稗田さん

高光校長のまとめ

現在、生徒数が250名以下の学校は、統廃合しようとする考えが神戸市の方向となっている。もっと小規模のメリットや特色をアピールして学校を売り込みたい。私の夢は六甲山で幼稚園、小学校、中学校の校長をすること。一流の教師になる前に人柄の良い一流の人間になろうという考えで今後も努力する。

「六甲山小学校に子供を通わせて」 ～ 稗田 尚美さん ～

六甲山小学校の行事は、よく雨が降る。山上は天気の悪い日が多いのだ。でも、実は校長先生が雨男なのではという噂もある。6年生とのお別れ遠足も小雨に見舞われた。

「飯盒炊さんどうするんやろう。」

「校長先生のことやからやるかもしれへんで。」
案の定、小雨決行。炊事棟は屋根があるとはいえ、大丈夫だろうか。

「やっぱりやったでえ。」

どろどろでニコニコ帰ってきた息子。湿った木に火をつける難しさ。煙ばかりでなかなか大きくならない火に悪戦苦闘した話を聞く。みんなで協力してやっとできたカレーのおいしさを子供たちは忘れないだろう。

トラブルは無いよりあった方がいいと私は思う。六甲山小学校でも喧嘩はある。少人数だからこじれると気まずい。でも、やはり支えあわなければやっていけない。低学年の面倒も見なければならぬし、園児から六年まで一緒に遊ぶのには工夫もいる。一人ひとりが皆のことを考えなければ上手くいかない。そうして、皆が主役になれる。

校長先生はおっしゃる。「雨が降るときは降る、濡れるときは濡れる。それでええんや。」先生方は、答えを急がず子供たちの成長を待ち、見守ってくださる。

ぐちゃぐちゃの子供達の靴は、職員室のストープの周りで湯気を立てていた。

◆配布&参考資料:

- ・神戸市立六甲山小学校要覧
- ・レジュメ「六甲山小学校」、新聞切抜き(火入れ式)
「未来に光きらめく小学校」
- ・掲示物、閲覧ファイル

神戸市立六甲山小学校

〒657-0101

神戸市灘区六甲山町北六甲4512-42

TEL/FAX: 078-891-0328

URL: <http://www.kobe-c.ed.jp/rks-es/>

◆アンケート

・六甲山小学校のあり方、高光校長の生き方が勉強になった。・教育の原点が知らされた思いがした。・学歴社会の中で見失われがちな人としての教育が、ここでは自然の中で遊びを通じて学び取れるように思う。
・稗田さんの体験エピソードが実に心にしみた。

◆参加者: 18名 (順不同・敬称略)

高光 正明 岩島 年子 泉 美代子 青木 孝子
石田 澄子 吉松 昌紀 菖蒲 一枝 新崎 利文
小笠原康人 稗田 尚美 鈴木 武 池田 勝一
堂馬 英二 米村 邦稔 越智 正篤 藤井宏一郎
中野 一 菖蒲 美枝

第17回テーマ：六甲山を子供達の遊び場に



野外で自由に遊ぶ

講演内容

- ①山の中っておもしろい？
- ②子供達って勝手に遊ぶもの？
- ③大人ってどう関わるの？

野外活動

記念碑台付近で遊ぶ

実施日：平成16年8月21日（土）
午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：越智 正篤さん

プロフィール

1956年神戸市生まれ。
大阪体育大学体育学部卒業。
幼稚園職員を経て、1989年、
有限会社ワールド・オブ・ゆうを設立。
2003年、NPO法人Spaceを設立。

「おっちゃん」と2人のお兄さん

街中の30℃を超える暑さに比べて自然保護センターは25℃と爽やかでした。快晴の中、予定通り野外活動も行いました。参加人数は40名でレクチャールームは子供の元気な声で賑わいました。

講師の越智正篤さんは「僕のことをおっちゃんと呼んでな」と、気さくな挨拶をされて講演は始まりました。講演の間、退屈しかけた子供達は、越智さんのところに所属する男性スタッフの坂田さん、金坂さんと一緒に外で遊び、保護者は、じっくりと話をきくことが出来ました。

「知覚動考」って何て読むの？

六甲山麓での野外保育で活動する子供の姿をビデオで紹介いただきました。越智さんが活動の軸とされている「知覚動考」の言葉を知りました。

大人の「危ない、汚れる」の一言が子供の遊びを制限していることに気付き、体験から学ぶ大切さ、経験を積む過程の重要性を見直しました。「小さなケガはさせても大きなケガはさせない」最小限の援助や関わり方について目を開きました。



親子で熱心に話をきく

小さな冒険を見守るのも冒険

全員で野外活動に出発しました。自然保護センターから東へ約10分の位置にある、山崎さんの雑木林をお借りして遊びました。子供達は、最初は斜面を恐る恐る登っていましたがすぐに慣れ、池に石を投げて遊ぶ等、夢中で楽しむ姿がありました。越智さんとスタッフは子供達の挑戦を傍で見守り、親達もいつもの口は出さず、離れたところでじっと見守りました。親子共に、いつもとちょっと違う体験ができ、満足の一時間半でした。

遊べる雑木林が見つかった

今回の講演にあたり、越智さんは六甲山上で活動できる場所探しに苦労されました。山崎さんのご好意で最適地に出会いました。ハイキング道から外れたところにある魅力ある環境を再発見できたことが、今回のセミナーの大きな成果です。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

参加の感想 石橋 雅子さん

「六甲山の秘密基地おもしろかった！」と今も思い出しては息子が話してくれます。今どきのおもちゃや道具がなくてもこんなに楽しめるんだということを改めて実感しました。

「知覚動考（ともかくうごこう）」、これを機に子供だけでなく親も実践していきたいと思います。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、
コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



第17回テーマ:六甲山を子供達の遊び場に



第17回市民セミナーの流れ

市民セミナー

あいさつ 13:00~13:15
 講演 13:15~14:05
 野外活動 14:05~15:25
 懇親会 15:30~16:00

講演内容

- ・山の中っておもしろい?
- ・子供達って勝手に遊ぶもの?
- ・大人ってどう関わるの?

野外活動



はじめに(越智 正篤さん)



おっちゃん

「僕のことを、おっちゃんと呼んでなー。」ニコニコ顔で子供達に自己紹介。27~8年間、子供と一緒に好き勝手に遊んでいます。野外活動は20年以上になりますが、アウトドアの専門家ではありません。この活動の中で、子供から教わった事はいっぱいあります。

「知覚動考」私はこの言葉が好きで、大事にしています。さて、なんと読むのでしょうか?考えてみて下さい。後でお話ししますが、ちょっと頭の隅に置いていて下さい。

講演内容

同じところへ行くおもしろさ

山の中って、本当におもしろい?「汗をかく、しんどい」大半の人がそう思いがち。また、景色を見て「きれいだった」で、そのまま帰ることもあるが、得られる感動はそれだけか疑問に感じる。同じところへ子供を何回も連れて行くと、そのうち親が違う場所へ連れて行って欲しいと言いつつ、同じところでもいいと思う。故郷と一緒。同じ場所だからといって同じものを目にするとは限らない。季節や天候によって見えるもの、聞こえるもの全てが変わる。この違いを感じとれる感性を持つことが大切であり、価値があると思う。

遊びから育つ子供達の事例紹介

越智さんは、幼児学童を対象に自然体験の実践を進められている。今回は活動地の一つである御影山手の北、坊主山でのユニークな活動をビデオで解説を交えながら紹介いただいた。

2~3歳の子のガケ登り。自分で登り出す。スタッフは、子供が大げがをしないように見守る。服が汚れることを気にしないこと。

降りる時も、スタッフは最小限の援助。支えたり手を持ったりはしない。



自分の力で登る/事例

毎年挑戦して、失敗でも成功でも自分なりに納得する。落ち葉が積もった坂道をすべりながら降りる。最初は恐くても遊びに変わってくる、この経験が大事。

雨の日でも元気に遊ぶ。雨ならではのおもしろさがある。雨の方が生き物にも出会うチャンスも多く、晴れの日とは違う環境に発見がある。



お尻ですべて降りる/事例

子供が遊びを選択する

いつも遊ぶ場所をどこにするか、子供達と相談をして現場に行く越智さん。決してスタッフから遊びの誘いはしない。この前遊んだ場所がどうなったのか、確かめに行くのも遊びの一つ。自然には偶然の出会いしかない。その時にしかない発見を大事にしたい。

危ないことを知らないのが危ない

親が危ないことをさせないと、子供は何が危ないのか分からなくなる。危なさの限度を知らないことが、本当に「危ない」のである。

「何で遊ぶのか?何をしてくれるのか?」と最近子供が受け身になりすぎている。現場へ行って体験する事が大事。プロセス(過程)の繰り返しが成長につながる。

小さなケガはいい、大人は大ケガだけさせないように最小限の援助の関わり方をしよう。最近、学校の管理問題を過剰に問うなど、安全を気にしすぎなのではないだろうか?



ビデオをじっと見る
谷口こもちゃん

「知覚動考」~ともかくうごこう~

「知覚動考」を活動の軸にしている。ともかくうごいてみる。失敗したら工夫を考える。大人は子供が理屈抜きに動くことを、勝手に止めてしまっている。大人の関わりはどのようにするのが、とても重要。遊ぶことの大切さや、親の関わり方を改めて考えて欲しい。

野外活動

山崎さんの雑木林に到着

越智さんと子供達を先頭に、自然保護センターを出発。六甲山小学校を過ぎたところにある山崎さんの敷地の雑木林に到着。子供達は、最初は様子を見ながら、少しずつ慣れて斜面を登りだした。

2歳の谷口聡碩君も斜面登りにチャレンジ。池に大きな石を投げて遊んだり、伐採した木で基地を作ったりと、大はしゃぎの1時間であった。

この間、保護者はじっと子供達の行動を見守った。

「エンジンかかってきたところやけど、時間やからセンターに帰るよー。」と越智さんの掛け声。もう少し遊びたい気持ちを抑えて、渋々、自然保護センターへ戻った。



伐採した木で基地づくり

センターへ戻って ～越智さんのまとめ～

今日やったことは、昔の子がしていたことをただけです。昔は野外で遊び、親が放っていても遊んでいた。しかし今は、その環境を見つけることも難しい。昔の環境がなくなったことを問いかけて。また昔は遊びにお金はいらなかった。ところが今は、遊ぶのに何かと費用がかかる。これはおかしいと思う。お金なしで遊べる環境が欲しい。公園でも遊具だけで遊ぶのではなく、遊具の周りで遊ぶことが大切。横道をそれて欲しいですね。

今回は、雑木林の持ち主の山崎さんに承諾を得て私有地を使わせてもらった。山崎さんが良い方で、伐採した木をそのままにしておいて下さった。

六甲山はフェンスや柵があって、道から外れたところにいけない。ちょっと外れたところに小さな冒険のできる場所がある。今後、私有地の理解を得られれば活動が広がる。この遊びを維持出来るように支援をお願いします。

参加の感想 寺田 由香さん

越智先生のビデオを拝見し、「あれ、うちの子と同じことしてる…」スクリーンの中のスタッフは見守る姿。それに比べて私とえば、大人の目線で怒る姿でした。



実際外に出て何もない山の中で楽しそうにして走り回る息子。今までちょっとした坂道でさえ、手をつないで離そうとしなかった娘が、自分から急な坂道を登ったり下ったり。そんな姿を見て、何か忘れていたものを思い出した様な、そんな気持ちになりました。

環境の時代も変化して、子供達が安心して真の姿で遊び学べる場所が少なくなったのは事実ですが、子供の心をいつまでも大切にしたいと感じました。

参加者の声

孫と一緒に参加しました。自分も一緒に遊んでしまいました。(中務勝子さん)

他の野外体験プログラムを見て、スタッフの意図が出過ぎて、子供達の自然に対する感性を育む障害になっているのではないかと疑問を抱きました。越智さんの実践内容を参考にしたいと思い、参加しました。(高橋敬三さん)



優花ちゃん和中務さん



高橋 敬三さん

事務局より

今回のセミナーで、40人が「良かった」と感動した。枠にはめたカリキュラムの実行にこだわらないこと、子供を見守る勇気を大切にしたい。

◆参考・配布資料など：

- ・園外保育で運動遊び
月刊「保育とカリキュラム」2000年10月号より一部抜粋
- ・活動紹介のファイル(回覧)

越智さんへのお問い合わせは下記まで

連絡先：有限会社フィールド・オブ・ゆう
〒657-0816 神戸市灘区国玉2-8-3ル・パレ国玉3階
Tel(Fax)：078-882-7234
E-mail fieldyou@osk4.3web.ne.jp
http://www.fyou.co.jp/index.html

☆参加者の皆様へ

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。

◆参加者：40名(順不同・敬称略、子供はゴシック)
越智 正篤 坂田 喜一 金坂 尚人 八木 浄
小坂 忠之 村上 定広 高光 正明 青木 孝子
石田 澄子 安永 純子 安永百合子 澤田 中
谷口のりえ 谷口喜太郎 谷口こもよ 谷口 大和
石橋 雅子 石橋 航大 山本 大貴 佐藤 昌枝
中務 勝子 中務 優花 寺田 由香 寺田 伊織
寺田 まな 谷口 純子 谷口美咲子 谷口 聡碩
泉 美代子 岩島 年子 高橋 敬三 小柴 康子
小柴 元哉 萩野 由美 堂馬 英二 米村 邦稔
中川貴美子 小野 律子 藤井宏一郎 菖蒲 美枝

第30回テーマ：
出る杭をのぼす教育の実践



六甲山のびのびロッジ

講演内容

- ①スクールの理念
- ②カリキュラムの特徴と
具体的事例
- ③テーマ学習体験

実施日：平成17年9月17日（土）
午後1時～3時50分
場 所：六甲山自然保護センター
レクチャールーム



講師：ラーネット・
グローバルスクール

プロフィール

1996年4月設立（代表：炭谷俊樹）。1998年4月全日制
小学クラス開校。同年9月六甲
山上で本格スタート。2000
年4月幼児クラス、中学クラス
開設。2001年4月モンテッ
ソーリ幼稚園バンビーナ設立。

散策道整備に着手した

六甲山上は9月に入り朝夕は涼しいものの、日中はまだまだ暑く汗ばむ陽気でした。

整備清掃活動は9名が集まり、散策道のゴミ拾いや枯木の伐採をしました。記念碑台バス停付近にある昭和7年に建てられた「六甲山廻遊道路」の碑の周りを草刈りして見やすくしました。

「自ら学ぶ力」を育てる学校

今回は、ラーネット・グローバルスクールのナビゲーターである吉岡至浩さん、石川朋子さん、中野真季さんにお話をいただきました。学校の「六甲山のびのびロッジ」は六甲山カンツリーハウスの近くにあります。少人数クラスや独自のカリキュラムの導入など、既存の小中学校とは異なる新たな仕組みを取り入れています。スライドやビデオで学校の特長や、子供たちが自ら集中してのびのびと学ぶ様子をスライドでご紹介いただきました。参加者は魅力ある学習スタイルに感心し興味津々でした。



子供たちの学習事例を聴く

カリキュラムづくりを体験

講演後はグループに分かれてワークショップを行いました。「六甲山」を素材に子供たちに伝えたいことを話し合い、カリキュラムづくりを体験しました。最初は意見も控えめでしたが、徐々にいろいろな意見が出て盛り上がりました。グループ発表では歌も飛び出すなど楽しく、和気あいの雰囲気でした。

今日の出会いを今後に生かしたい

懇親会では教育についての意見交換が活発に行われました。同じ山上にある六甲山小学校の先生との対話もあり、地域のつながりも深まりました。このセミナーをきっかけに新しい交流も生まれ、大変嬉しく思いました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 八木 浄さん

六甲山上にふたつの学校があるとは驚きでした。ユニークな（デンマークでは当たり前）教育理念にはとても羨ましく思いました。自己表現が出来るとともに、周りの人の気持ちも理解できる大人に育って欲しいものです。フリップチャートを使っているカリキュラム体験は、10才くらい若返った気分になりました。



もし、ラーネット・シニアスクールがオープンされたら、ぜひとも入学をしたい…と思いました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
（財）大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）、（財）ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：出る杭をのぼす教育の実践



第30回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00～13:15
2. 講演：13:10～14:30
3. 学習体験：14:30～15:10
4. 休憩：15:10～15:20
5. 懇親会：15:20～15:50

講演

- ①スクールの理念
- ②カリキュラムの特徴と具体的事例
- ③テーマ学習体験



講演のあいさつ(ラーネット吉岡さん)

ラーネット・グローバルスクールは六甲山上にあり、岡本には幼稚園があります。今日はスクールの理念と独自のカリキュラムなどをお話します。皆さんにテーマ学習のカリキュラムづくりを体験してもらいます。



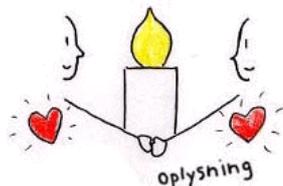
ナビゲータ 吉岡至浩さん

講演内容

1. スクールの理念

■Oplysning (オプリュスニング)

スクールは Oplysning (オプリュスニング) を理念にしている。デンマーク語の教育を表わす言葉で、「自分を照らし、相手も照らし、お互いに成長する」という意味。



■設立はデンマークの幼稚園での経験から

創設者の炭谷俊樹さんがデンマークに滞在中、娘さんを現地の幼稚園に入れていた。人見知りでおとなしかった娘さんが、子供の特長を伸ばす教育によって、次第に活発になり、自分からどんどん発言する子になっていくのを目にした。帰国後、日本でも同じような学校を探したが、日本にはなく、それなら自ら学校を設立しようと思立った。

■スクールの4つの特長

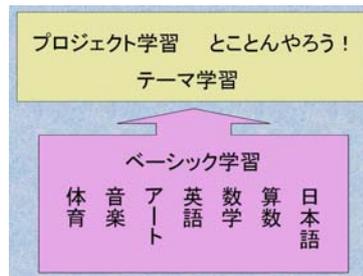
- ◇表現と対話を重視：自分の意見をしっかりと持ち、それを自分の表現の仕方でも相手に伝え、意見の違う相手の話もしっかりと聞き入れて、認めることができるコミュニケーション力。
- ◇主体的に学ぶ：自ら課題を発見し、試行錯誤を繰り返しながら、解決に向かっていく力。もちろん読み書き計算等の基礎学力も系統立てて身につける。
- ◇出る杭をのぼす：個人が持つ好奇心、探究心を満たし、それぞれが持つ強みをより伸ばして、そこから得る自信とエネルギーで、様々なこと、困難にも向かっていける、チャレンジしていく力をつける。
- ◇本物で学ぶ：本やテレビ、インターネットで得る知識では不十分。現地や博物館などに積極的にでかけたり、作ったり、実体験を通して学ぶ。また、様々な分野の人との出会いも大切にし、頭だけでなく、心と体も使って学ぶ。

■先生ではなく「ナビゲータ」

子どもの学習を側面から支援するという意味で、先生でなく「ナビゲータ」と呼んでいる。ナビゲータは社会人経験があり、それぞれの豊富な経験を活かしている。子ども一人ひとりの特長を観察し、主体性や集中を妨げないように接する。ナビゲータは、自分が興味をもつ社会分野との関わりを大切にしながら、常に学び続けている。

2. カリキュラムの特徴と具体的事例

カリキュラムはベーシック学習とプロジェクト学習・テーマ学習の総合的な学習で成り立っている。



ナビゲータ 中野真季さん

■ベーシック教育

- ベーシック教育では体育・アート・音楽・英語・日本語など基礎学力を身につける。
- ◇書道：決まった言葉ではなく、自分の好きな言葉表現する。
- ◇算数・数学：問題を解くだけではなく、球を転がしたりすることで概念としての算数を学ぶ。
- ◇音楽：歌うだけでなく、プロの生演奏を聞いたり、競演したりする。学期の終わりには発表会をする。

■テーマ学習

社会や理科などのホットな話題を総合的に学ぶ。「つくる」「話し合う」「まとめる」という考え方をしている。本物に触れることを重視して、積極的に出かける。例えば、パン屋さんを見学して自分たちもパン作りを体験したり、保育園に行つて保育さんとして働く体験をしている。

■ラーネット紹介ビデオ

子供たちが制作したスクールの紹介ビデオを見た。映像や音楽も素晴らしく、子供たちだけで作ったとは思えない出来映えにみんな感心！



ビデオの紹介 (ちょっとトラブルが発生)

第35回テーマ：六甲山における野外教育
～六甲山YMCAの活動～



六甲山YMCA 星野池

講演内容

- ① YMCAとの出会い
- ② YMCAの紹介
- ③ 六甲山YMCAについて
- ④ 今の子供たちの様子
- ⑤ 野外体験の必要性
- ⑥ YMCA野外教育

実施日：平成18年2月18日(土)
午後1時～3時50分

場所：六甲山YMCA 里見ホール



講師：池田 勝一さん

プロフィール

1955年生まれ。大阪体育大学体育学部卒業。1978年4月大阪YMCA入職。2001年11月大阪YMCA六甲研修センター(現六甲山YMCA)所長

六甲山に春が迫っている

六甲山は先月にあった雪がなくなり、すっかり様変わりしていました。時々吹く風は冷たいものの、日差しは暖かくどことなく春の気配を感じました。今回午前中の参加者は5名と少なめでしたが、いつもの清掃活動に加えて散策路沿いの樹木の種類を確認しました。歩行の安全面について、散策路の階段の状態なども検討しました。

青少年教育キャンプ場開設から50余年

六甲山YMCAは、戦後の荒廃から立ち直り始めた頃、1951年に日本初の青少年教育キャンプ場を創設し、以来、六甲山における代表的な野外活動の拠点となっています。子供たちが安全で楽しく、体験学習を通して「生きる力」を育てることに注力されています。

所長の池田勝一さんからYMCAのこれまでの歴史や活動についてお話いただきました。約50年前に六甲山上のキャンプの様子を映したビデオも見せていただきました。



知られざる六甲山YMCAの歴史を紹介

「野外教育は自分の力を養う」と池田さん

学生時代から現在にわたる池田さんのYMCAとの関わりや、青少年教育の意義を語っていただきました。施設再建の思いや、事業や経営の工夫についてもお聴きしました。YMCAの理念に共鳴しながら活動する池田さんに、生涯かけて取り組む熱意を感じました。子供たちが自分の力を養う上で、野外教育がいかに重要かを見直しました。

六甲山の活動を互いに支えよう

六甲山YMCAは、キリスト教の精神に基づいて活動していますが、宗教団体ではなく教育団体です。この誰でも使える六甲山上の貴重な施設を、みんなで活用できるように協力していきたいと思いました。池田さんたちの4年間の熱心な活動にもエールを送り、さらなる展開を期待したいです。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 吉松 昌紀さん

サッカーの勇として学生時代を過ごされた後、YMCA組織に入られました。

六甲山YMCAの長い歴史の中における所長として、使命感および人生感をもって体験学習即ち野外活動学習を通じて、現代の教育の不備を補っておられます。「生きる力を育てる」為の造詣の深さ、熱意をお話を伺いながらひしひし感じました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山における野外教育



第35回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親：12：30～13：05
2. あいさつ：13：05～13：15
3. 講演：13：15～14：50
4. 質疑応答：15：10～15：30
5. 懇談会：15：30～15：50

講演

- ①YMCAとの出会い
- ②YMCAの紹介
- ③六甲山YMCAについて
- ④今の子供たちの様子
- ⑤野外体験の必要性
- ⑥YMCA野外教育



貴重な記録ビデオを視聴

講演の挨拶(池田勝一さん)

YMCAに入って30年になります。六甲山YMCAの所長を務めて4年になります。話が苦手でもどこまで話せるかわかりませんが、仕事に対する自分の思いも含めお話ししたいと思います。



池田勝一さん

講演内容

1. YMCAとの出会い

■サッカーに夢中の毎日

中学生の頃は勉強が嫌いで、スポーツさえしていれば勉強をしなくても先生になれるのではないかと考えていたが、現実には学力が必要であることを大学に入学し痛感した。

大阪体育大学ではサッカー部に所属し、日々、ボールに汗しながら将来は教職を志していた。YMCAに入職したのは、ゼミの教官(YMCA体育研究所委員)の紹介で受験したのがきっかけである。

2. YMCAの紹介

■YMCAの設立

Young Mens Christian Associationの略で、キリスト教青年会と称し、キリスト教精神に基づく、種々の活動を幅広く展開している。YMCAは1844年、ジョージ・ウィリアムズら12名の青年が、ロンドンにYMCAを創立したのが始まりで、現在128の国と地域で活動を展開している。

■大阪YMCAの概要

大阪YMCAは1882年に設立された。創設以来キリスト教精神を基盤として、地域の人びとと共に活発なボランティア活動を展開し、国内・国外において多くの社会的貢献を行ってきた。

現在公益法人として、体育・野外活動などのウェルネス事業および宿泊研修事業を財団法人で、高等学校・専門学校・予備校・語学教育などの教育事業および幼稚園教育事業を学校法人で、特別養護老人ホームおよびデイサービスなどの社会福祉事業を社会福祉法人で行っている。

さらに、2006年4月にYMCAとさぼり保育園(認可園)を開設する。21世紀に入り、社会の仕組みが大きく変わろうとしている今、「大

阪YMCAの使命」によって、「青少年の育成」に重点を置き、時代の変化が生み出す課題に引き続き、「ボランティア」と「生涯学習」が統合された「ネットワーク型福祉社会」を形成すべく、多様な活動を展開している。

3. 六甲山YMCAについて

1951年に教育キャンプ場として六甲山YMCAが開設された。星野行則氏(第4代大阪YMCA理事長)所有の別荘に加えて、阪神電鉄から土地を購入した。建物の殆んどは多くの個人・団体からの募金・寄付金で建てられている。

暖炉のある「里見ロッジ」は、里見純吉第5代理事長(元大丸社長)を記念して命名された。

六甲山の冬は厳しいため、年間を通じて利用ができるように現在の宿泊館が1975年に建てられた。現在は改修に手をかけている。



炊飯場



ファイヤー場

4. 今の子供たちの様子

■集団に入れない子供たち

核家族で育った子供たちは、言葉遣いや礼儀作法が身につけていないことが多いようだ。今の子供たちは屋外で集団(群れ)で遊ぶことが少なく、どちらかといえば友達と家でテレビゲーム・ゲームボーイをしていることが多い。

本来は、実体験を通して学ばなければならないことがバーチャル化(実体験不足・運動不足)している。また、一人遊びが多いために対人関係が希薄で集団遊びやコミュニケーションの取り方が苦手。

最近、利用していただいている団体客の希望は段々と個室を希望し、大浴場に入らないで個室の風呂(特に女子大生)に入る傾向になっている。だから大自然の中で集団(群れ)で遊ぶこと、そして、協力しながら生活することが大切だ。

5. 野外体験の必要性

■キャンプでの体験学習

六甲山YMCAが主催するファミリーキャンプに来られたお客様にあえて伝えるようにしていることがある。それは、本来は家では何**不自由**なく身近に物があり**不足・不便**を感じたりすることは少ないが、この施設ではお困りになることがあるのではないかということだ。

何故かというホテル・旅館と勘違いしてこられるお客様が居られるからだ。YMCAはあくまでも教育施設である。

六甲山YMCAが管理している呼子キャンプ（鳥取県日南町）で、子供たちは川の水を汲むのに苦労している。水が、下の町まで流れていくことを考えて、**汚してはいけない**ということ学ぶ。**不便・不自由な生活体験**の中で、それを不満に思うのではなく、どうしたら良いかと**工夫**すること、足りないものがあれば、自然にあるものを代用するようになり自分たちで**創る**という**知恵**をはたかせることができるのが自然の中でのキャンプだ。

また、普段家庭ではいかに便利な生活をしているかという気づき、感謝にもつながる。キャンプで大変さを体験した子供が、家に帰ってから部屋の電気を消しまわったという報告をいただいたことがある。

6. YMCA野外教育

■YMCAキャンプの願いは『生きる力をともに育む』こと

YMCAは多くの青少年に精神、知性、身体、社会性のバランスのとれた人間像をめざして、プログラムを提供してきた。それぞれの時代、社会状況とともに、プログラムの形態は変化してきたが、今も、変わらないことがある。

それは、人間の持っている欲求『**認められたい、認めたい**』に応じることだ。私たちは、青少年に関わりあい、関わり大切さを共に学び、育み続けてきた。『**自分を生かし、活かされている、受け入れられている**』という情緒の安定を基盤にして、『**生きる力**』を育んでいきたいと願っている。

YMCAキャンプの理念

1. 自然の生活に適応する能力を育成する。
2. 良い習慣を育て実践させる。
3. 健康のための知識と経験を与える。
4. 生活を豊かにする技術を学び、創造力を育成する。
5. よき友人を見出す機会を与え、友情を深める方法を学ばせる。
6. 民主的なグループ経験を通じて、社会における責任感を養う。
7. 神の恵を知らしめ、感謝の心を養う。

まとめ（池田さん）

私は、ただ場所を貸すだけでなく、ここで体験したことを指導・実践して、皆さんとともにやっていきたいと思っています。施設を有効に使ってもらうのが使命です。気軽に入って利用していただけたらな、と思います。

参加の感想 久保 順一さん

最近の子供たちは自然体験はもとより、生活体験、自ら行動を選択・実践する意欲が不足している。

直接体験の不足が問題で、キャンプなど野外活動を通じて体験させる事が重要である。

社会体育教育に関して熱く語って頂き、野外活動の重要性を認識できました。子供たちに限らず、大人のためにも野外活動の機会を増やせていけたら、すばらしいと思いました。



事務局より

六甲山YMCAは誰でも使える六甲山上の貴重な施設です。積極的にPRして活用したいと思います。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ
- ・冊子
『六甲山YMCA 50年のあゆみ』
- ・1950年代のビデオ
- ・六甲山YMCA紹介ビデオ



六甲山YMCA

〒657-0101 神戸市灘区六甲山町北六甲 875
TEL : 078-891-0050 FAX : 078-891-0054
E-mail : rokko@osakaymca.or.jp
http://www.osakaymca.or.jp/camp/rokko/

◆参加者の声～アンケートより～

- ・YMCAの歴史を知ることができた。
- ・昔の六甲山をビデオで見られておもしろかった。
- ・池田さんの熱心さに感動した。
- ・昼食のボリュームが多かった。若者向け？
- ・もっとイベント広報をして利用を促して欲しい。

◆参加者：18名（順不同・敬称略）

池田 勝一 寺岡 進 村上 定広 浅井 審一
浅井 康枝 泉 美代子 七目木修一 小野 涼子
八木 浄 吉松 昌紀 久保 順一 清水 愛子
土井すみ子 増田みよ子 笠原かず子 堂馬 英二
堂馬 佑太 菖蒲 美枝

第15回テーマ：六甲山と環境教育

～フィールドとしての
六甲山の可能性を考えよう～



記念碑台広場で体験学習

講演内容

- ①環境教育って何だっけ？
- ②環境教育の考え方
- ③体験学習を体験してみよう！
- ④体験学習について

実施日：平成16年6月19日（土）
午後1時～4時

場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：岩木 啓子さん

プロフィール

1956年12月生まれ
1979年お茶の水女子大学
家政学部食物学科卒業。
生活協同組合コープこうべ
で組合員活動支援の企画業
務に従事。現在、ライフデザ
イン研究所FLAP代表。

環境教育に触れるいい機会になった

台風6号が接近し、野外活動の実施を危ぶみましたが、運良く晴天に恵まれました。今回は六甲山上での環境教育を考え、短時間でもワークショップを体験するという、当会では初めての試みです。神戸市内の小・中学校や行政機関などで総合的な学習や環境教育に携わっている方々にも参加を呼びかけました。約30名の参加者が集まって、密度の濃い体験をしていただきました。

環境教育は問題解決の学習だ

岩木啓子さんは、参加・参画・体験の支援を専門とされています。環境とは「つながり、循環、バランス」であり、「人間が生きていく条件として考える」ことで、「切り口は自然よりも、まちや生活が主体です」と紹介されました。

また、「環境教育は問題解決学習で、解決策を考え、行動変容につながる学びである」と核心を語られました。そして、環境教育の現状を懸念して「価値・意味とらえ直し型」を強調され、体験的に学ぶことを端的に説明されました。

記念碑台でちょっと体験学習

2時間半という短時間の中でしたが、記念碑台広場に出て「探検！発見！六甲山」という体験学習も行いました。中高齢者も多かったためか、鈍った感性を研ぎながら、普段目に見えないものや体感できないものを困惑しつつ再発見しました。

各自各様に体験したことを交流しながら、さらに理解を深めて、「わかったことを日常に生かす」思いを強めました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

スタートは大成功！継続して進めたい

六甲山上での環境教育の実践に向けて、継続して集まりを持つことを問いかけた結果、全員が参加または検討すると回答されました。

岩木さんの見事なサポートで、環境教育を体験的に学ぶことができ、皆さんの参画意欲が高まりました。これをきっかけにして、活動の輪を広げてネットワークを築く可能性を膨らませました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

参加の感想 三村 栄三郎さん

環境教育という高いレベルのテーマに短時間で全員が参画できるようにされていました。自己紹介を兼ね、誕生日の順番に任意？に並び、なごやかな雰囲気づくりからスムーズに本題に入りました。



環境問題を解決する3つのE（技術、規制、教育）は、時代において対応策も大きく変化して行くものである事は理解できました。

五感の違いを示す「探検！発見！六甲山」では参加者それぞれの感性の違いが明確となり、問題の正解となるものは無いが、それぞれが正解であり、環境教育も押し付けで無く体験学習で理解度を高める事が必要です。

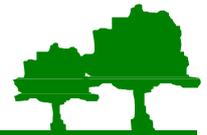
美しい地球を守る為には、一人一人が日常生活から見直すことが重要なことを再認識いたしました。

【助成金をいただいている機関】

生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲山と環境教育



第15回市民セミナーの流れ

13:00: あいさつ

13:10: ■オリエンテーション
自己紹介(誕生日順に)

13:20: ■セッション1
環境教育って何だっけ?
(一言ラベルの貼り出し)

13:40: ◇おはなし
環境教育の考え方

14:10: ■セッション2
体験型環境学習を体験
してみよう

15:10: ◇おはなし
体験学習について

15:45: ■ふりかえり・わかちあい

今回は、ワークショップ体験を踏まえて解説を行った。自己紹介と環境教育についての一言をラベルに書き出すなど、随所で時間短縮を工夫し密度の濃い内容になった。

講演のあいさつ(岩木 啓子さん)

私は、参加・参画・体験の支援を専門としております。人が主体的に動き、みんなが関われる様に支援しています。



やわらかな口調で説明

本日のねらいとしては、理解する、つながる、やる気になる、以上の3つです。

- 理解する:** 環境教育の大枠を理解して下さい。
- つながる:** 今日の出会いをきっかけに、六甲山でフィールドを作る新たなネットワークを作ります。
- やる気になる:** 今日で終わるのではなく、今後の実践に向けて取り組んでみて下さい。

■オリエンテーション(自己紹介)

参加者それぞれが知り合うために、無言で誕生日順を想定して並んだ後、一人ずつ名前と環境教育や六甲山との関わりについて自己紹介をした。

これで初対面の人とも親しめるきっかけができ、一挙に緊張感を解きほぐした。

効果的なアイスブレイキングの手法でセミナーへの関心が高まってきた。



各自思いを持って集合

■セッション1(環境教育とは)

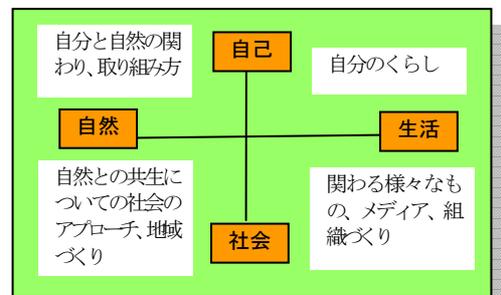
次に、それぞれが考えた環境教育のキーワードを、各自が読み上げながらボードに貼りだしていた。強気で真ん中に貼る人、控え目に周縁に貼る人がいて、笑いを誘った。

環境教育って何だっけ? 発表の一部を紹介

- つながりさがし
- お金で買えないもの
- 自然環境と人の関わりを感じる
- ひとづくり
- 今よりも美しく
- 生活の見直し
- 周囲を知ること
- 地球市民の全人的な教育
- ほっとできる場所
- 自然と共生
- など

◇おはなし

皆さんが頭に思い描くキーワードは実に様々でした。環境教育とはこういうものと確定されてはならず、人それぞれのいろいろな関わりの中でとらえられています。次のように整理できるのでは。



環境教育に答えはない

◇環境問題とくらしのつながり

「環境」の概念のキーワードは、つながり・循環・バランスで、人間の活動によりバランスが崩れると環境問題が起こります。自然界では分解できない物質の誕生による**質的問題**と、乱獲や石油などの生産と消費・廃棄と分解のアンバランスによる**量的問題**の2つがあります。人間の生きていく条件としてどうなのかが、環境問題には外せません。産業公害型から都市生活型へ、北の国と南の国という構造もあります。

【環境問題を解決する3つのE】

- Engineering (技術) 例: 空気を汚染しない車や家電の開発技術
- Enforcement (規制) 例: 排水規制や京都議定書などのルール作り
- Education (教育=共育) 例: 皆で情報交換をして、やることを拡大していく

◇環境教育は問題解決学習

学校の教科教育と違う。正解を教えるのではなく、解決策を考える、行動変容につながる学びです。環境教育で学ぶのは知識・情報のみでなく、感覚・マインド、態度・価値です。

現状は、知識・情報偏重型、行動指針提示型、非日常癒し型が見られます。「価値・意味とらえ直し型」が必要であり、内在的な価値創造を目指して、体験的に学ぶ(体験学習法)ことが有効です。

■セッション2 (探検！発見！六甲山)

五感を動員して、たくさんのもを発見してみよう！と、全員が記念碑台広場に出かけた。ワークシートを手に、**まるいもの** **生命力を感じるもの** といった項目について、目や耳さらに手を使って感じ取ろうと歩き回った。

「どきどきワクワクしない」とこぼしながら、さわやかな風に吹かれて結構楽しそうだ。



■それぞれが感じた五感をわかちあい

自然保護センターに戻って、3人のグループに分かれ体験学習で得たものを紹介し合った。ワークシートの内容が各人各様なのに感心し、お互いに触発されながら、賑やかな対話が飛び交った。

グループの代表から体験交流で気づいたことを発表した。小さな体験学習であったが、交流することにより、さらに気づきが深まる手応えを感じた。

◇参加体験型の学び

体験的に学ぶとは、「する」→「みる」→「考える」→「わかる」の繰り返し。このステップで何を感じたのか互いに話し合い刺激を受け合う。通常は「する」で終わってしまう。「わかる」は人それぞれ、日常に生かすことが大切です。

(続いて参加体験型学習プログラムの導入→本編→まとめの基本構成や、学習者が自ら学ぶことを促進するファシリテーターの役割と態度の説明。さらに、様々な実践事例の紹介をしていただいた)



体験学習の事例を紹介

参加の感想 岩浅 敬由さん



兵庫県環境政策課に平成8年に赴任した時、地球環境サミットが開かれて5年が経過していたものの、環境教育は主要課題ではなかった。それから、6年間の任期中、こども環境会議、エコフェスティバルの開催など環境教育の普及に取り組んできた。

3年前からは神戸生活創造センターで生涯学習の推進に取り組んでいる。

今回、講師の岩木さんにお願ひがあり、良い機会だと六甲山魅力再発見市民セミナーに参加した。産業型、都市生活型公害など懐かしい言葉が行き交う。アイスブレーキング、体験型学習、振り返り、昔を思い出しつつ、受講した。岩木さんとは、10数年来の付き合いだが、ワークショップを受けるのは初めて。参加者を飽きさせない、短時間で“肝”を外さない講座の進め方は流石だ。

しかし、参加者の熱意に比べ、六甲山自然保護センターの周囲に魅力を感じなかったのは私だけだろうか。行政として責任を自覚した次第である。

◇岩木さんのまとめ

今回皆さんには、思いついたことをラベルにしたり、提案をシートに書いてもらいました。これから六甲山をフィールドとした環境教育を考えるプログラムを実践したいと考えております。今日をきっかけにネットワークをつくっていきたいと思いますので、今回限りでなく、どうぞこれからもお付き合い下さい。

※事務局の抱負

「みんなで築こう！六甲山上の生涯学習ゾーン」の手掛かりがたくさん出ました。賛同してくれる人も大勢集まった。これからの活動を広げネットワークをつくっていきます。岩木さん、これからもよろしく。

◆参考・配布資料など：

- ・レジュメ「心に響く環境教育のつくり方・考え方」
- ・体験学習ワークシート「探検！発見！六甲山」
- ・参考：『地域を活かした環境学習』
大阪府環境情報センター発行

ライフデザイン研究所FLAP
〒658-0065 神戸市東灘区御影山手1-10-10
TEL・FAX：078-842-3637
URL：http://www.flap-web.com/
E-Mail：kei-iwaki@nyc.odn.ne.jp

◆カンパに感謝！ありがとうございました。

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。集まりました金額1,259円については、次回の市民セミナーの茶菓子代にさせていただきます。

◆シチダンカの挿し木をおみやげに

神戸市立六甲山小学校より、六甲山のアジサシチダンカの挿し木を参加者につづつご提供いただきました。この度のご配慮に感謝いたします。



大事に育てましょう

◆参加者：30名 (順不同・敬称略)

岩木 啓子	小坂 忠之	西川 文雄	三村栄三郎
村上 定広	西尾 智明	石田 澄子	青木 孝子
八木 浄	山西 一平	澤田 中	高光 正明
南馬 進	小笠原康人	岩浅 敬由	高畑 正
越智 正篤	金坂 尚人	福谷真知子	垣井 清澄
山下 潤治	中川 勇二	浅見 真一	堂馬 英二
米村 邦稔	松井 光利	中川貴美子	藤井宏一郎
中野 一	菖蒲 美枝		

第20回テーマ：
六甲山に生涯学習の場を求めて



紙芝居「やまのゆうびん屋さん」

講演内容

- ①六甲山の
歴史と楽しみ方
- ②紙芝居
「やまのゆうびん屋さん」



講師：あけびグループ

プロフィール

2003年神戸婦人大学
文化学科卒業生。同年4
月に12名で「あけびグ
ループ」を結成。

実施日：平成16年11月20日（土）
午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム

ストーブ3台を用意

自然保護センターでの今年最後の市民セミナーとなりました。（暖房設備のないセンターは12月から来年3月まで冬眠？に入ります。）日中は好天に恵まれて暖かく、センターにあるストーブ2台をお借りしました。寒さ対策に持ち込んだストーブ3台は使わずに過ごせました。

生涯学習2年間の成果発表

今回は六甲山をフィールドに活動している、神戸婦人大学卒業生の「あけびグループ」12名の皆さんに実践発表をお願いしました。「六甲山の楽しみ方」をテーマに六甲山全体を見渡した活動の要点を簡潔に紹介いただきました。そして今後の活動テーマとして、次世代の子供達に六甲山の魅力を伝えようと作られた紙芝居を披露していただきました。



若い山脈も合唱

呼吸はぴったり！チームワークと演出

お揃いのベストを身につけた12名の発表の呼吸はぴったりで、時間配分も完璧！その光景には

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

参加者の長老澤田さんは「ボーッとしていました」と、松井さんは「六甲山の二十四の瞳」と感心するなど、あけびグループのリズムに引き込まれました。また、手作りの押し花ファイルのおみやげもいただき、心配りに感服しました。

市民セミナーの持ち味

生涯学習の実践例としてあけびグループに発表していただきましたが、この度のように専門家だけでなく一般の参加者も研究発表を行い、参加者同士で幅広く意見交換することが、市民セミナーの持ち味だと考えています。今回を生かして市民の交流を盛んにできるように取り組んでいきます。

※詳しくは1～2ページをお読みください。

参加の感想 藤堂 和子さん



今日は、神戸婦人大学の卒業生の「あけびグループ」の方々とお会い出来ることを楽しみに出かけました。

六甲山は近くにあるのに遠くにある、という存在でした。

六甲山の歴史ハイキングの発表では、とても詳細に説明していただき3つのコースの特徴がよくわかりました。ぜひコースを歩こうと思います。今まで自分の知らなかったことが学べて本当に楽しい1日でした。

【助成金をいただいている機関】

灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲山に生涯学習の場を求めて



第20回市民セミナーの流れ

市民セミナー

あいさつ	13:00~13:15
実践発表	13:15~14:10
紙芝居	14:10~14:25
休憩	14:25~14:45
質疑応答	14:45~15:50

講演内容

- ①六甲山の歴史と楽しみ方
- ②紙芝居
「やまのゆうびん屋さん」



アケビのつるで編んだ籠

はじめに(あけびグループ代表:石田さん)

みんなでアケビのつるで籠を編んだことから、グループ名を「あけび」と名付けました。

私達は、六甲山に関わることが毎日の暮らしの「やさしさ、元気、安らぎ、厳しさ」を学ぶ生涯学習の道ではないかと考えています。



石田さんと青木さん

神戸婦人大学について

神戸婦人大学は、女性が自らの生き方を発見し、社会のあらゆる分野における活動に参加並びに参画するための基礎的な能力を身に付けることを目的として設置された3年制の学習の場。昭和52年に開校。卒業生は4,500人を超える。

実践発表

あけびグループの神戸婦人大学卒業論文「六甲山の楽しみ方」を基に、実践内容を紹介された。多岐にわたる六甲山についての研究内容を要約して、スライドも使ってメンバーの方が分担しながら解説された。まさに、六甲山の全容をつかめる最適のダイジェスト版といえるものだ。解説された項目と、その一部を紹介してみる。



緊張して出番を待つ皆さん

六甲山の概要: 名前の由来、地理、地質、砂防事業、六甲山の開祖、唐櫃村のお話、川向家

<唐櫃村のお話>

唐櫃は六甲山の北側に広がり、昔は炭や材木など六甲山から得られる収入で成り立っていた村で、様々な昔話が語り伝えられている。

<川向家>

源平合戦での唐櫃村は平家の支配下にあったが、庭先で源氏平家の区別なく、けが人の世話をした。「川向家」は300年前前に建てられ、萱葺屋根の農家で「ヤリガンナ」や「チョウナ」などの、古い大工道具で作られた戸や柱が残る立派な建物で、県の指定文化財として保存されている。

歴史ハイキング:

- ①三国池~ダイヤモンドポイント~記念碑台~アイスロード
 - ②六甲最高峰~有馬
 - ③摩耶山方面
- 以上の3コースの見どころを紹介。



コースの説明

施設めぐり: ホール・オブ・ホールズ六甲、六甲高山植物園、(元)NTT天文通信館、森林植物園、六甲ガーデンテラス、六甲山牧場、穂高湖、有馬、六甲山ゴルフ場

<六甲山ゴルフ場>

六甲山ゴルフ場は、六甲山に別荘を建て神戸を愛したイギリス貿易商人のアーサー・ヘスケス・グルーム氏によって1901年に作られた。4ホールのコースから始まり、2年後には9ホールに増設され、神戸ゴルフ倶楽部が発足。当時の原型をとどめているのは現在の2番ホールのみ。

物づくり体験: 山菜摘み、押し花、アケビの籠作り、ガラス瓶工芸

<ガラス瓶工芸>

記念碑台から徒歩約8分にある、阪井保宏さんのガラス工房「六甲木まぐれ」でガラス瓶工芸を体験。色々な形のカラフルな空き瓶をリサイクル利用で作品を作る。



空き瓶をリサイクル

調べる: 神戸市立六甲山小学校、六甲山の緑化

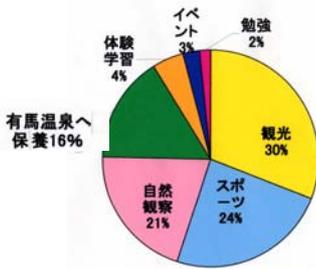
<六甲山小学校>

昭和24年4月、西六甲天主教会堂に唐櫃小学校の分教場としてでき、昭和27年に神戸市立六甲山小学校として独立。今年で55年目にあたる。平成14年度から小規模特認校制度をうけ、校区以外からの通学が認められ、児童数も増えている。

<六甲山の緑化>

明治35年再度山で植林が始まり、補植を含め500万本の苗木が植えられたのが六甲山の緑化の始まりで、一昨年に100年を迎えた。平成18年に、瀬戸内海国立公園編入50周年を迎える。

六甲山についてのアンケート調査



平成14年神戸婦人大学生300名を対象にアンケートでは、六甲山は8割が神戸の象徴というイメージ。六甲山へ行く目的は、観光やスポーツが多く、生涯学習は意外と少なかった。

紙芝居～やまのゆうびん屋さん～

あけびグループの今後の新たな活動として、次世代の子供達に神戸市民のふるさとである六甲山を語り伝えようと紙芝居を作成した。

この紙芝居は、今から40年位前、六甲山郵便局で勤務されていた方をモデルにした絵本「やまのゆうびん屋さん」をもとに作成。全て自分たちで描いた手づくりの紙芝居である。

軽快に拍子木が打たれ、参加者全員が童心に返って楽しんだ。



はじまり、はじまりー！

＜六甲山郵便局＞

明治43年、神戸中央郵便局の分室として設立。昭和6年より現在の場所に電話局を併設して開設された。平成14年にログハウス調に改築。



郵便局のスケッチ（浅井さん提供）

「青い山脈」を合唱！～エンディング～

昭和24年に西条八十氏が、車窓から六甲山の山並みの美しさを見てつくった詩に、服部良一氏が曲をつけた歌。改めて六甲山に親しみを込めながら、全員で合唱した。

まとめ（石田さん）

私達はまだまだ青春！近くて遠い六甲山が子供たちにとってふるさとの山として、少しでも近くに感じるように、これからも六甲山をフィールドとした生涯学習の道を歩みたいと思います。いつもは聴く側のリスナーでしたが、今回は講演する側のスピーカーになりました。今日のこの体験が、私達の活動の大きな糧になります。

質疑応答・発表の感想

- ・グループが長続きする秘訣は？：六甲山に対する思い入れの共通と、優秀なリーダーに恵まれたから。（代表の石田さんは照れ笑い）
- ・楽しく活動していらっしやるのがよく伝わった。
- ・とても分かり易く、上手な発表。学校や文化祭などでやって欲しいと思います。
- ・女性らしい気配りが発表内容に表れていた。

参加の感想 浅井 審一さん

「青い山脈」世代の私達の若い頃のように純真に課題に取り組まれている「あけびグループ」のすがすがしさに、暗いこと悲しい事の多い中にしばし心洗われるひとときでした。



「やまのゆうびん屋さん」の紙芝居の絵にも、大変お手間をかけておられることもスケッチを楽しんでいる私にはよくわかりました。私の「山の郵便局」のスケッチです。（左）3～4年前に改築された時の様子です。お互いに前向きに、楽しくがんばりましょう。

今回は活発な交流ができて大成功でした。市民セミナーで、参加者の方に共同研究をしていただいたり、発表していただけるよう運営を工夫していきたくと意を強くしました。（事務局より）

◆参考・配布資料など：

1. 手製押し花のファイル、2. レジュメ・六甲山の四季、4. 「青い山脈」歌詞、5. 物づくり体験での創作物、6. 神戸婦人大学卒業論文



記念撮影

◆参加者の声～アンケートより～

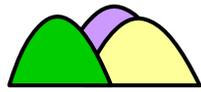
- ・誰でも接することの出来るコースや施設など、六甲山をより身近に感じる事が出来た。
- ・紙芝居はとても上手。子供達にぜひ伝えたい。

★参加者の皆様へ

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。

◆参加者：33名（順不同・敬称略、ゴシック字はあけび）

石田 澄子	青木 孝子	植松富士子	川口喜預子
黒田 郁子	白石 郁子	田中 弘子	中務 勝子
西川 節子	藤本 武子	光宗 智子	山口 紀子
澤田 中	八木 浄	村上 定広	小坂 忠之
泉 美代子	兼貞 力	高光 正明	福谷真知子
水谷 真平	高橋 敬三	阪井 保宏	寺田 充
藤當 和子	浅井 審一	浅井 康枝	呂 少珍
堂馬 英二	松井 光利	小野 律子	藤井宏一郎
菖蒲 美枝			



6. 六甲山に親しむ

～スポーツからレジャーまで～

①六甲山全山縦走大会の 生いたちと歴史

P 100～102



中島 龍
兵庫県山岳連盟
会長
第18回市民セミナー講演
2004年9月18日

④六甲山で草玉を作ろう P 109～111



伊東 吉夫
三田山草会
会長
第9回市民セミナー講演
2003年12月13日

②六甲山を楽しもう P 103～105



桑田 結
ブナを植える会
会長
第36回市民セミナー講演
2006年3月18日

⑤六甲山を描いて P 112～114



浅井 審一
画家
(えんぴつスケッチ画)
第28回市民セミナー講演
2005年7月15日

③六甲山でハーブを楽しもう P 106～108



高畑 正
神戸市公園緑化協会
公園緑地課長
第16回市民セミナー講演
2004年7月17日

⑥六甲山で俳句をつくろう P 115～117



半田 陽生
九年母俳句会
第32回市民セミナー講演
2005年11月19日

六甲山を訪れる観光客は阪神大震災以来大幅に減っていますが、ハイキングで上山する人は着実に増えています。熟年の登山者が増えていることもあるでしょうが、六甲山はもともと健康増進の適地として有名です。明治時代には居留地の外国人がゴルフやハイキングなどを広め、様々なスポーツの日本における発祥の地になっています。自然環境と上手に接してスローライフを味わうことこそ、六甲山の魅力の醍醐味になると思われます。

「六甲山物語」の最後の段は「六甲山に親しむ」というくくりで、スポーツからボランティア活動、そして創作活動やレジャーまで、幅広い楽しみ方をご紹介します。

中島さんには日本全国から注目されるスポーツ・イベントである「六甲山全山縦走大会」について、桑田結さんからは「登山、自然環境保全のボランティア活動」などの体験を語っていただきます。高畑さんには多彩な「ハーブ」の楽しみ方、伊東さんには山野草の「草玉作り」をご紹介します。浅井さんには「えんぴつスケッチ画」、半田さんには「俳句をつくる」という六甲山での創作活動を手ほどきしていただきます。これらの様々な楽しみ方は六甲山上で心豊かに時を過ごすことを触発するでしょう。



高取山の全縦記念碑

第18回テーマ： 六甲山縦走大会の 生いたちと歴史

講演内容

- ①縦走大会が生まれるまで
- ②縦走大会の移り変わり
- ③縦走大会に関わるボランティア

実施日：平成16年9月18日（土）
午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



なかじま りゅう
講師：中島 龍さん

プロフィール

1936年芦屋市在住
サラリーマン歴45年（公
務員41年、民間4年）
現在、六甲山縦走市民の
会会長、兵庫県山岳連盟会
長として活躍。

30年の積み重ね

台風が近づいては通り過ぎてと繰り返す、少し不安定な天候の中、18回目の市民セミナーを行いました。今回は神戸のスポーツ文化として有名な、六甲山縦走市民の会の「六甲山縦走大会」について、主宰者である中島さんにお話しいただきました。昭和50年より開催され、今年は大会30周年で大きな節目の年にあたります。蓄積した歴史背景や現在の運営の話を知って、参加者は全縦への関心を大いに高めました。

神戸から全国に発信しているスポーツ文化

「六甲山縦走大会」は、六甲山系西の須磨浦公園から東の宝塚までの56キロを、1日で歩くハードな行事です。毎年11月に2回開催され、第29回までの参加者は約10万人で、ほぼ85%の人が完走しています。最近では約6割が神戸市外や全国各地からの参加者となっています。大都市神戸の背山で、登山道からすぐに市街地に出られるという、類のない環境が活かされています。参加者だけでなく主催者やボランティアの力で大会を支えられています。神戸が全国に誇れる代表的なスポーツ文化であると確信しました。



歴史背景について耳を傾ける

主催：六甲山自然保護センターを活用する会
後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

完走は次の人生への起爆剤

中島さんは、完走認定証を最後の一人まで手渡すことを喜びにされています。「完走者は皆、不思議と心優しい人になります。気力体力を確かめ、奮い立つ自信をうかがえます。」と中島さんは確信を持って締めくくられました。

縦走大会は自分を鍛える大きなきっかけとして前向きな生き方に勇気づけていることを知り、まさに全縦は生涯学習なのだ実感しました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。
会員の尾崎さんにレポートをしていただきました。

参加の感想 渡辺 洋さん

以前から六甲山縦走大会に興味がありましたが、なかなか完走に自信がなく参加出来なかったのです。

縦走大会が生まれてからの歴史や、縦走大会のボランティアの皆様の苦労話を興味深く聞かせていただきました。これからの課題として、山でのマナーをどうすればよいのかについて考えさせられる話でした。

完走された方の気力、体力が次の活動への出発点となることでした。中島先生から、予行演習として、全縦走行程を分けて歩いてみたらどうかとのアドバイスをいただきました。次回はぜひとも参加したいと考えております。



【助成金をいただいている機関】

生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲全山縦走大会の生いたちと歴史



第18回市民セミナーの流れ

市民セミナー

あいさつ	13:00~13:15
講演	13:15~14:15
質疑応答	14:15~14:55
休憩	14:55~15:15
懇親会	15:15~16:00

講演内容

- ①縦走大会が生まれるまで
- ②縦走大会の移り変わり
- ③縦走大会に関わるボランティア



菊水山から鍋蓋山へ

はじめに(中島 龍さん)



温厚な中島さん

全縦市民の会のお世話をさせていただいております。六甲全山縦走の話ですが、全縦をされた方はいらっしゃいますか？(2名の手が挙がった)
今年も11月14日と23日の日程で行います。今日はそもそも全縦とは何なのかをお話したいと思います。

登山会にボランティアをしてもらっている。このようにそれぞれの山岳団体が独自に六甲山系を利用して大会を開いていた。

余暇の活用から縦走大会の開催へ

昭和40年代後半、世の中が落ち着き、日本が豊かになった。神戸市では市民の余暇を考える、余暇開発課を設置した。登山、ハイキングの需要と、六甲山の活用が浮かび上がった。状況は違うが課題は現在と似ており、時代は繰り返している。そして、六甲山系を縦走してみたいが一人では不安という市民を対象に、全縦大会を開こうと話が進んだ。個人にチャンスを与える大きなきっかけとなった。

最初は神戸市が主催者で、昭和50年の勤労感謝の日に「第1回六甲全山縦走大会」を開催した。56kmという長距離を大勢が1日で歩くということで、安全面からの検討を重ねた。その結果、参加対象を神戸市在住または在勤者に限った。

第3回から全縦市民の会が発足し、神戸市と共催になり、大勢の参加者が集まり賑わった。

講演内容

居留地外国人のハイキング文化が発端

明治以降、六甲山の開祖であるグルーム氏など、神戸居留地外国人達によって、山を歩くというハイキングの文化が神戸に入り、毎日登山へとつながった。毎日登山の発祥は善助茶屋である。その後、数多くの登山団体が生まれ、六甲山系を自由自在に踏破していった。谷や尾根、いろいろなルートをつくりそれらをつないで、須磨から宝塚まで歩こうとなった。

六甲全山は主な山で数えると、14ぐらいある。高低差を足すと全部で約3000m、距離は起点の須磨から宝塚の終点までで56kmある。

最初の縦走は大正14年

文献によると、最初の縦走は、神戸徒歩会の会長であった直木重一郎氏他2名が、大正14年11月に須磨浦公園の敦盛塚から宝塚まで行った。翌年の大正15年に「第1回六甲山脈大縦走」として、宝塚から須磨への逆縦走で開催した。

その後、昭和41年からヒヨコ登山会が大会を開催。神戸市よりも9年も早く開催しており、縦走大会については大先輩にあたる。現在もヒヨコ

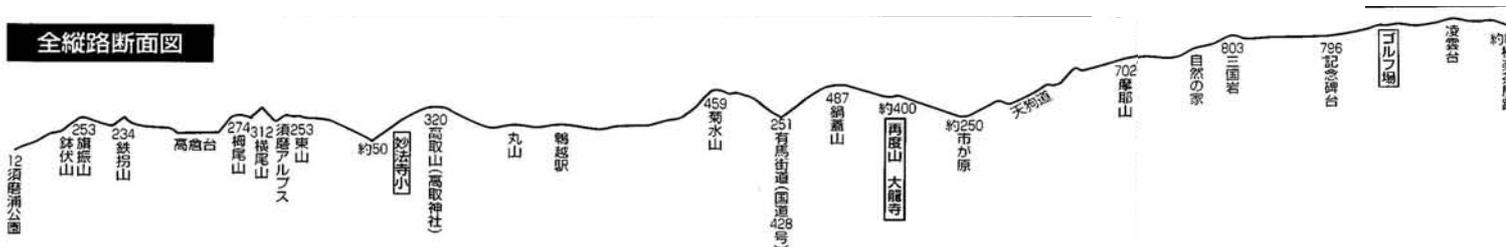


須磨アルプス

約6割が神戸市外の参加者

第9回から参加者が減少したため、第12回以降、神戸市外の参加者も受け入れている。六甲山への憧れか、北海道から沖縄まで全国から集まり、約6割が神戸市外の参加者である。また当初の主旨では初めての参加者を優先にしていたが、回数制限もなくなった。

全縦路断面図



自己責任～自分の力で歩く～

全縦大会には、ボランティアはなくてはならない存在である。朝から晩まで参加者のために協力する。チェックポイント係や誘導班他、毎回150名のボランティアが集まる。住民の方も温かく見守っているという点でボランティアといえる。

摩耶山を守る会のホットレモンサービスも第1回から続いており、他には森林整備事務所、兵庫県山岳連盟、ヒヨコ登山会、毎日登山が協力している。参加者に呼びかけ「緑の募金」も行い、縦走路の整備や道標の新設に役立てている。アンケートには、ボランティアへの感謝の言葉も多い。

第28回で、全縦市民の会がこれまでやってきた安全を重要視する手取り足とりの対応に、参加者の甘えが出てきたと反省した。自己責任で自分の力で歩く力が失われてきたと考え、大会のあり方を見直した。

第29回からチェックポイントの数を減らし、装備の確認も自分の力で歩くのだから自分で管理すべきと、責任を持ってもらうようにしている。

自分を鍛える大きなきっかけ

終点では、完走認定証と記念盾が手渡しされる。完走者は1日の辛さも忘れ、達成感を味わう。縦走大会で自分の気力、体力を試して完走したら、次の人生へと奮い立つ自信が生じ、前向きな生き方につながるようだ。



輪越の道標

参加者だけでなくボランティアも喜び楽しんで協力している。いろいろな力があってこそ大会は成り立つ。とても感謝している。今後も末永く続け、神戸の誇るべきスポーツ文化を次世代に伝えていきたいと中島さんは語った。

参加の感想 大谷 安規永さん

富士山を見ながら高学年の方々に導かれて、大宮国民学校へ通いましたが、戦争が激しくなり、山梨に疎開をしました。あの雄大な美しい富士は、頭の中にだけあります。



現在、六甲山の麓に居住できて嬉しく思いながらも登ることは殆どなく、この度は喜んで上山しました。空気はおいしいですし、心身共に清まり、特に緑は目が癒され安らぎます。あまりにも近すぎて、素晴らしいお山を忘れていたと思わせていただきました。山を愛し大切に皆さんと共に護らせていただきたく考えています。

参加者の声～アンケートより～

- ・六甲全山縦走大会に来年は参加したい。
- ・ボランティアの皆さんに感謝したい。
- ・神戸の街のイベントが全国展開してうれしい。
- ・市民の大きな財産を後世へ伝えたい。



岡 敏明さん



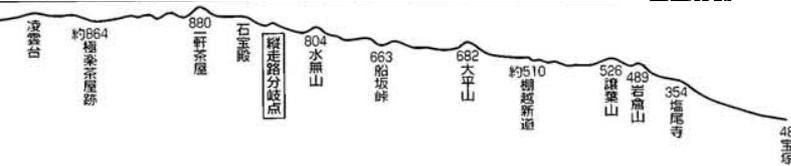
津田 實さん

事務局より

穏やかな中島さんと活発なやりとりが出来て、楽しい1日でした。次回挑戦したいとの声もあがり、盛り上がりました。

六甲全山縦走は
わがロマンティック街道
根性の血が滾り
友情の花が咲く
ここ 天と地の狭間に
全山は 火と燃える
昨日から今日へ そして
希望の明日へと繋がる
この真摯な切点の只今
切なる想い 哀歓を凝縮して
わが市民は
高らかに歌い上げる
まこと 六甲は
われら市民の
生活の糧 生活の詩
六甲全縦市民の会
初代会長 大西雄一

全縦の詩



◆参考・配布資料など：

1. 座談会「25周年を迎えた六甲全山縦走大会」
2. 六甲全縦とともに27年
(1.2とも『月刊神戸グー』より一部抜粋)
3. 『市民グラフこうべ』特集「六甲全山縦走」(回覧)
4. 六甲全山縦走マップ、縦走関係冊子の頒布

六甲全山縦走大会の問い合わせ先

神戸市生活文化観光局生活文化部文化交流課内
「六甲全山縦走大会係」

TEL：078-322-5166

☆参加者の皆様へ

カンパ箱へのご協力、ありがとうございました。

◆参加者：21名(順不同・敬称略)

中島 龍	八木 浄	小坂 忠之	村上 定広
澤田 中	石田 澄子	青木 孝子	尾崎 尚子
渡辺 洋	岡 敏明	前田 康男	森本 隆夫
澤田 俊哉	大谷安規永	津田 實	北山健一郎
山田 裕之	堂馬 英二	松井 光利	藤井宏一郎
菖蒲 美枝			

■プロジェクト学習

自分で取り組むテーマを決める。疑問や知りたいこと、伝えたいことを深く追究する。インターネットや本、図鑑を用いて分かったことを自分でまとめる。ここでは問題解決能力を身につける。

■とことんやろう！

子供たちが自分の好きなことにとことん取り組む。自分で目標を立て、達成するにはどうすればいいかを考える。漫画を10冊描いた子や、裁縫が好きで小物入れを作った子。クッキーをたくさん焼いた子など、さまざま。自分でテーマを決められない子はナビゲータと一緒に取り組む。



プロジェクト学習の様子



ナビゲータととことんやる

3. カリキュラム作りを体験

ラーンネットでのテーマ学習を参加者で考えた。まず取り組んでみたいテーマを出し合ったが、大人になると子供のようにどんどん意見は言えないもの。六甲山の「古道」、「蜂」、「食べられる植物」をテーマに決めて、グループごとに模造紙を囲んで意見を出し合った。まとまった意見はグループの代表者が発表した。六甲山小学校の南馬先生は歌も交えて発表するなど楽しい発表会になった。



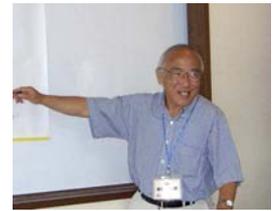
グループに分かれて話し合う



「古道」：青木孝子さん



「食べる」：南馬 進さん



「蜂」：藤井宏一郎さん

質疑応答

ラーンネットで働こうと思った動機は？：幼稚園で保育をしていたが、やりたいことをやり切れなかった。そんなとき本でラーンネットを知って、ボランティアとして働き始めたのがきっかけ。自分のいいところを伸ばせられる学校だと思う。だからこ子供も伸びるのだと実感している。（石川さん）

まとめ

スタッフはお金为目的ではなく子供たちが元気でのびのびとやってくれたらいいと思っている。テストだけではできるような優秀な人ではなく、堂々と話のできる人に育って欲しい。

感想 ナビゲータ：石川朋子さん

初のセミナーで、私達が感じたことは、「楽しかった〜！」でした。その楽しさの素は、そこに集まって来られた「人」でした。当スクールのテーマ学習体験をして頂き、「六甲山」を素材に「古道」「食べる」「蜂」といったアイディアを聞かせて頂きました。六甲山をこよなく愛し、楽しもうとしている方々と交流を深める場が持て、そこで「仲間」の輪が広がったことがとても嬉しいセミナーでした。



事務局より

今回は、ラーンネット・グローバルスクールの紹介をもとに教育についてのいろいろな意見を交換することができました。この出会いをきっかけに今後も積極的に交流していきたいと思ひます。

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ ・スライド
- ・スクール紹介ビデオ
- ・資料①「無限の可能性を引き出す学校をつくる！」
- ・資料②スクールの紹介
- ・参考図書『第3の教育』
炭谷俊樹著 角川書店



『第3の教育』

◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・スクールの存在を初めて知った。
- ・子供達一人一人を理解しナビゲートする重要さ、ナビゲーター自身も子供と一緒に成長していくのだなと感じた。
- ・新しい小・中教育の一つとして注目したい。
- ・ナビゲータの皆さんが元気がつらつで頼もしい。

◆参加者：18名（順不同・敬称略）

吉岡 至浩	石川 朋子	中野 真季	大谷安規永
村上 定広	八木 浄	青木 孝子	小坂 忠之
南馬 進	兼貞 力	石田 澄子	泉 千代子
高光 正明	堂馬 佑太	堂馬 英二	中川貴美子
藤井宏一郎	菖蒲 美枝		

ラーンネット・グローバルスクール

〒658-0072 神戸市東灘区岡本 2-8-14
 TEL : 078-436-8575 FAX : 078-436-8576
 URL : http://www.l-net.com/

第36回テーマ：六甲山を楽しもう



六甲山最高峰でブナを植樹

講演内容

- ①山とともに六十余年
- ②「ブナを植える会」を
支えて25年
- ③六甲山への思いは健在、
これからの六甲山を考える

講師：^{くわた} ^{むすぶ} 桑田 結さん

プロフィール

1935年生まれ、神戸市出身。関西大学法学部卒業。関西大学山岳部。1980年「ブナを植える会」設立時に入会、1998年第5代目会長に就任。

実施日：平成18年3月18日(土)

午後1時～3時45分

場 所：六甲山YMCA 里見ホール

桑田さんは自然に関わる名東ね役

当日は季節はずれの小雪がちらつきました。今回は六甲山の麓で暮らして70年になる、桑田結さんを講師にお招きしました。桑田さんは「ブナを植える会」の第5代目会長で、日本山岳会の関西支部にも所属され、登山や自然環境などの東ね役として活躍されています。幼少期から現在にわたる六甲山との関わりや今後について熱く語っていただきました。



桑田さんのブナへの思いに耳を傾ける

「ブナを植える会」は環境保全の代名詞

「ブナを植える会」は、兵庫県の自然環境の保護・育成を目的として森づくりに関わっている代表的な市民団体です。会員は350名で、但馬地方や六甲山を中心にブナの植樹や育樹の活動をされています。桑田さんは設立時のメンバーで、25年間にわたる様々な活動についてご紹介いただきました。ブナは育ちにくく、成長も遅い樹木だそうです。数十年後のことを考えて植樹する息の長い活動に感心しました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

六甲山を生かすアイデアも豊か

講演の後、恒例の焼き芋の他に、ケーキやアルコールなど沢山の差し入れをいただきました。みんなで楽しく懇親し、盛り上がりました。

交流会では当会の活動報告をしました。桑田さんから六甲山上を東部・中央部・西部の3つに分けてそれぞれを楽しむ構想もお話され、六甲山を生かす議論で賑わいました。

盛りだくさんの3周年記念

平成17年度最後の市民セミナーも盛況に終わり、36回の継続開催を達成しました。新しい参加者が加わり大変充実しました。

交流会で挙げたアイデアのいくつかの実現を検討し、六甲山を楽しめる環境を整備していきたいと思います。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 平林 英二さん

セミナーにはじめて参加しました。ブナ育樹の話はもちろん大変興味深く伺いましたが、集っている皆さんが六甲山に対してそれぞれ大変熱い思いを抱かれ、大切にされていることに感銘を受けました。「神戸に住まいはじめた新しい世代が、自然散策などで六甲山の環境に気軽に親しみ、豊かさを体感して欲しい」という皆さんの願いの実現に向けて、自分も少しでもご協力差し上げたいと思います。
(人と防災未来センター 企画ディレクター)



【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山を楽しもう



第36回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親：12:30～13:05
2. あいさつ：13:05～13:15
3. 講演：13:15～14:50
4. 質疑応答：15:10～15:30
5. 懇談会：15:30～15:50

講演

- ①山とともに六十余年
- ②「ブナを植える会」を支えて25年
- ③六甲山への思いは健在、
これからの六甲山を考える



ブナを植える会の活動紹介パネル

講演の挨拶(桑田結さん)

「ブナを植える会」の第5代会長を務めています。「活用する会」の幹事も務めています。今年で71歳になります。三宮辺りで生まれ、3歳から六甲山の洗礼を受けて以来、約70年六甲山に親しんでいます。大学で山岳部に入り、昭和28年頃から50年間、登山をしています。



桑田 結さん

講演内容

1. 登山生活50年

■登山で鍛えた体力と精神力

登山を始めた当時は化学繊維もなく、装備が悪かった。毎日が辛抱の連続のような山登りで、苦しみながらやってきた。インスタント食品が無い時代で、食料は前もって洗った米か、ビスケットだった。生鮮食料品もなく、耐乏生活の極で、早く山を降りないと栄養失調で死んでしまう、というような山登りだった。

大学3年のときには厳冬期に40日かけて北アルプスの稜線を縦走した。今でもこの記録は破られていない。山での経験から自然の厳しい環境に耐える体力と精神力ができたと思っている。

■ブナの存在は知っていたが・・・

山登りを通じて、ブナの木の存在は知っていたが、特に気に留めていなかった。だが山肌一面、ブナを切って建材のために造林するという場面にたびたび遭遇していた。当時は反対運動はまだなかった。

普通ハイキングではブナ林まで登ってこないで、雑木林を切られて、針葉樹が植えられていることがわからない。山登りでの経験が、今でも植樹地を見るとき役に立っていると思う。

2. ブナを植える会

■ブナの会は25年前に発足

ブナを植える会は今から25年前に結成された。スキーの遭難事故の慰霊に鉢伏高原に行った岳友が、山にブナがほとんどなくなっているのを目にした。「『ブナを切るな』と言っても手遅れだから、それなら植えていこう」ということでブナを植える会が結成された。



ブナの若葉

県の林務課に行って交渉し、鉢伏高原に植樹することになった。1000本のブナの苗木を購入して植樹した。

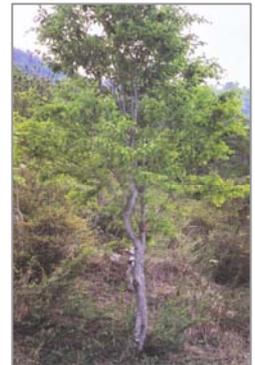
■ブナの会の植樹活動

活動は但馬地方を中心に進めている。会員は現在350名だ。昔と比べると、環境に対する一般の方の関心も高くなり、自然保護団体は一層頑張らないといけない。現在は油コブシの登山口でHAT-Jとタイアップした植樹活動なども展開している。

名称は「ブナを植える会」だが、ブナだけでなく、落葉広葉樹であれば良いと思っている。ブナは存在感がある木で、みんなに通じやすい。

■ブナは森のダム

ブナは日本の脊梁山脈の頂上部分、標高2000m前後が植生に適した高さだ。ブナは根が幅広く張って、根自身に保水力がある。落ち葉は積み重なって腐葉土に変化し、水を蓄えることができる。森のダムという呼び名もある。



植樹後のブナ

■植樹は息の長い作業

ブナは育ちにくい上に、成長が遅い。最初に植えた1000本のうち、50本ぐらいしか育たなかった。今は苗畑で育てて、60cm程度に生長してから植樹している。夏場の下草刈りも欠かせない。広葉樹を植えて育てるのは本当に大変だ。

20年以上前に植樹したブナでも、7～8m程度の高さになっているだけで、花も咲かせていない。ブナを植えた人は、その木が花や実をつけるのを見ずに亡くなっていく。木を植えるのは本当に息の長い大変な作業だ。サクラを植えて4、5年で花見ができる感覚とは違う。数10年後のことを考えて植樹する計画性も重要だ。



最初の植樹(1980年)



2005年の様子

■植樹が地域活性にもつながっている

植樹では農山村の住民との交流も一つのテーマとしている。最初は「緑がいっぱいのところに、何でブナを植えるんだ」と、怪訝な顔をされた。次第に広葉樹の重要性を理解していただくことができ、2、3年経つと地域の方と一緒に活動をするようになった。ブナの植樹の際には模擬店や餅つきが行われる。さながら地域の運動会で、地域の活性化にもつながっている。

■六甲山のブナ

平成5年に六甲山のブナが実をつけた。300個ほど拾って森林植物園の苗畑で育てた。半分ほどは生長し、紅葉谷や六甲山の最高峰周辺に植樹した。現在六甲山のブナは全部で130本程度が確認されている。

ブナは毎年実をつけず、早いサイクルでは3年周期ぐらいで実をつける。種がない「シイナ」だけのこともよくある。六甲山では平成5年以降、種ができていない。そろそろ種ができて良い頃だが、なかなか思うようにいかない。



ブナの発芽

3. これからの六甲山

六甲山は大まかに3つの区域に分かれる。最高峰から東は登山の区域、最高峰から摩耶山までのレジャーや自然を楽しむ区域、摩耶山から西は自然が豊かで教育施設のある地域だ。中央部は市民が自由に楽しめる地域であってほしい。

◆桑田さんからの提案

公共の広場やハイキングコース：六甲山上には公共的な広場がほとんどなく、後は私有地と道路ばかりだ。子供たちがわあわあ言って遊べる広場がない。公衆トイレも六甲山に少ない。ファミリー向けに1日遊べるハイキングコースが必要だ。

自然観察のフィールド：きれいな花があると聞くと、すぐちぎって持って帰る人がいる。できればそういうことなしに、観察する気持ちが欲しい。自然保護センターの北側の散策路を「自然観察フィールド」として活用してみたい。本当に自然のままを観察できるようなフィールドが欲しい。

ボランティア活動のフィールド：六甲山上に広場や事務所のような、人が集まれる場所が欲しい。ボランティアの人や、自然に親しむために六甲山に登ってきた人たちの憩える場所も必要だ。

質疑応答

◆六甲山のブナの植生範囲は増えているの？：下に笹があると新しい木が育たず、発芽しても2年目に消えてしまう。自然の幼木は無いようなので今のまま行くと減っていく。

◆ブナはどのぐらいの大きさになるの？：村岡町には直径1m以上、高さ約20mのブナがある。六甲山の紅葉谷にある次郎ブナは直径80cmか1m程度あり、樹齢は200年以上だと思う。

まとめ（桑田さん）

「六甲山自然保護センターを活用する会」の活動は、自然保護センターだけにとらわれず、「六甲山をどないするんですか」という大きな捉え方で、今後の活動を展開する必要があると思います。

事務局より

「ブナを植えた人は、花や実をつけるのを見ずに亡くなっていく。」ひとりの一生の規模を越えて、数十年先の子の代、孫の代を考えた活動に感銘を受けました。市民セミナーの活動の持続や、自然観察フィールドづくりに注力したいと思います。



3周年を記念して、全員で記念撮影

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ
- ・参考資料（2種）
- ・ブナを植える会の活動紹介パネル
- ・創立25周年記念誌、測樹データ集計表 ほか



記念誌や会報など

ブナを植える会

〒652-0884 神戸市兵庫区和田山通 1-2-25
D-102 (有) 桑田製作所内 桑田結
TEL : 078-652-7624 FAX : 078-652-7625
<http://www.bunawoerukai.jp/>

◆参加者の声～アンケートより～

- ・今とは違う昔の登山の話がおもしろかった。
- ・植樹するという作業がいかにかに将来を見据えた遠大なものであるかを実感した。
- ・ブナの特徴がよくわかった。
- ・懇親会は年代の違う人と交流ができて良かった。

◆参加者：28名（順不同・敬称略）

桑田 結	村上 定広	浅井 審一	浅井 康枝
泉 美代子	八木 浄	福永 一登	武野 真也
七目木修一	小野 涼子	山田 良雄	森澤 富江
宇佐見勢都子	岡 敏明	小笠原晋子	山本 茂
板脇 道雄	里山 文英	向山三年子	平林 英二
兼貞 力	久保 順一	久保まゆみ	田路 弘
堂馬 英二	藤井宏一郎	堂馬 佑太	菖蒲 美枝

第16回テーマ：六甲山でハーブを楽しもう



香りいっぱいのハーブを囲んで

講演内容

- ①ハーブとは
- ②世界のハーブ・日本のハーブ
- ③五感でハーブを味わおう
におう・さわる・食べる

実施日：平成16年7月17日（土）
午後1時～4時
場 所：六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師：高畑 正さん

プロフィール

1953年生まれ。1975年大阪府立大学農学部卒業。神戸市役所に勤務。現在（財）神戸市公園緑化協会公園緑地課長。農都ネットこうべ代表、前布引ハーブ園長。

梅雨明けのさわやかな六甲山

六甲山はとても涼しく、街中と5℃の気温差がありました。登る途中には、紫のブッドレアがぶどうのような房をたらし、ねむの木はピンクの花を左右に揺らしていました。道行く人に扇で風を送る様な、爽やかな初夏の訪れを感じました。

「本当の豊かさ」を説く高畑さん

講師の高畑正さんは、今年3月まで神戸市立布引ハーブ園長を務められ、現在は（財）神戸市公園緑化協会の公園緑地課長をされています。エコアップやトンボサミットなど、自然関係で活躍される中心的存在です。今回は短時間で、たくさんのハーブの紹介と実演をご披露いただきました。



たくさんのハーブが並ぶ

いろいろなハーブを五感で味わえた

50種類以上のハーブを、一枚一枚手にして匂ったり、触ったり、かじったりして味わいました。

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所 神戸市教育委員会

ハーブの香りが漂い全員がリフレッシュ。ハーブティー、ケーキやクッキー、フェイシャルスチームと盛りだくさんの体験をしました。懇親会でも、高畑先生を囲んでハーブの育て方やジャムの作り方、更に楽しいハーブの味わい方などいつまでも話が弾みました。

豊かなひとときを大切にしたい

今回はハーブを入り口に、自然との密着や結びつきというものを追求しました。常に「本当の豊かさ」を求めていくことが根本にあり、生涯学習をライフスタイルに反映させるヒントも得ました。これを契機に、市民セミナーのテーマや運営に「本当の豊かさ」を味わえる彩りを取り込みたいと痛感しました。

※詳しくは1～2ページをお読みください。
尾崎尚子さんにレポートをしてもらいました。

参加の感想 青木 光子さん

神戸市街を横目に眺めヒグラシの涼しげな声をききながら、猛暑を忘れて様々なハーブの芳香をかぎ、味わい、五感をよく使いました。ローズマリーやゼラニウム入りのケーキやクッキー、ハーブティーの試飲で心身共に満足の後でした。

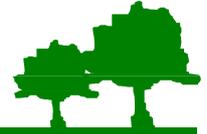


【助成金をいただいている機関】

生活復興県民ネット・地域活動推進講座、灘区「地域力を高める」事業、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金、コベルコ自然環境保全基金



テーマ:六甲山でハーブを楽しもう



第16回市民セミナーの流れ

市民セミナー

あいさつ 13:00~13:10
 おはなし 13:10~13:50
 五感で味わい、楽しむ
 13:50~15:25
 懇親会 15:35~15:50

講演内容

- ①ハーブとは
- ②世界のハーブ・日本のハーブ
- ③五感でハーブを楽しもう
 におう、さわる、食べる、を体験



はじめに(高畑 正さん)



やわらかな口調で説明

ハーブは外国のおしゃれなイメージがありますが、「これがハーブ」と特定の植物ではなく、定義もはっきりしたものではありません。ハーブという意味が分かるということではなく、楽しみ方、暮らしに取り込めたらいいと思います。

まず、ハーブの関心を確かめた

3種類のハーブの香りを当てながら、自己紹介をした。ハーブについて詳しい人から植物にあまりなじみのない人までと様々であった。

神戸は自然と融合できる街だ

六甲山という山を中心にして神戸がある。150万人の大都市の中に1,000m級の山があることは珍しい。市街地と融合出来るセントラルパークである六甲山や郊外の田園部で発生した生き物は、市街地にとんでいく。自然と融合できる街が人にとっても住みやすい街だと考えやってきたと語る高畑さん。

生きる知恵からハーブが定着

ラテン語のHERBA(ヘルバ)からハーブと言う英語になった。緑の草、野草という意味。人間の文明の発生と同じ地中海沿岸から広がった。本来人間は、肉や野菜他すべて自然から採集していた。薬も知恵から知識に変わり生活の中へ入ってきた。医者もない昔は草を摘み、ヨモギ、ヤロウ(ノコギリソウ)を血止めに使った。その他、狩猟した動物の臭み消しや人間の体臭消しに、風呂へ入れたり石鹸にしたり、服の繊維の染色など、文化の発展、発達とともにハーブは使われた。

ヨーロッパから日本へ

植民地主義の時、ヨーロッパは、香辛料(コショウなど)を手に入れた。乾燥した物をスパイスとし、生はハーブとして、食生活は豊かになった。その後、石油が出だすとハーブ離れになり、価値は下がった。

ベトナム戦争の頃からヒッピー族がハーブティーを飲みはじめた。歴史として20~25年になるが、本当のハーブとしてはわからない物もある。例えばセージ、サルビアの仲間を使い方がわから

ず(中南米、ブラジルの文化がわからないまま入って来ている)歴史がないための物もある。「ハーブとは、料理、薬、医療、クラフトなど生活に役立つ香りのある植物」として定義される。

日本固有のハーブとしては、山椒、どくだみ、わさび、よもぎ等があり、文化となっている。

~五感で味わい・楽しむ~

ハーブの葉を一枚一枚手にしながらそれぞれの香りを楽しんだ。

ペニーロイヤルミント: 苦味のある匂い、石目地に植え込み芝生の代わりに使用。

レモンバーベナ: レモンに近い上品な香り。

ラベンダー: におい袋に使う。安眠効果あり。

バジル: トマトとの相性が良い。トマトの横に植えるとトマトの甘みが増すといわれている。

ラムズイヤー: 羊の耳のような手触り。絆創膏代わりに使う。

ローズマリー: クッキー、お茶、肉料理に最適。美容にも効果があり、若返りのハーブ。



エキナセア



コパノランタナ

エキナセア: 和名はむらさきばれんぎく。アメリカの代表的なハーブ。薬用で人気。

コパノランタナ: 年中花の咲く小灌木。香りがよい。



モナルダ



フェンネル

モナルダ: 別名ベルガモット、和名はたいまつばな。アメリカの代表的なハーブ。ティー用。

フェンネル: 和名はういきょう。魚料理のハーブの代表。ガーデニングや生花の材料としても有用。

ナスタチウム: サンドイッチやサラダに最適。種もビールのおつまみに合う。

ルッコラ: 大根の仲間。売っているものより地植えの方が苦みがある。花も食べられる。

今回紹介されたハーブ（一部）

- におう**：ミント類（スペアー、パイナップル、アップル他）、レモン系（レモングラス、レモンバーム、レモンハーベナ他）、ラベンダー類（フレンチ、レース、デンタータ他）カモミール、バジル、ローレル、ローズマリー
- さわる**：ラムズイヤー、メキシカンブッシュセイジ
- 食べる**：ナスタチウム、フェンネル、ディル、ルッコラ、チャイブス、他
- 飲む**：マロウ、カモミール、レモングラス、ウコン、ミント、クロモジ
- その他**：オレガノ、ノコギリソウ、ポットマリーゴールド、セイジ他

■インスタントフェイシャルスチーム

洗面器にローズマリーを入れて、沸騰した湯を注ぎ、香りの高い湯気を顔に当てて実演。お肌の若返り効果大。

■ハーブティーを試飲

マローティー（うすべにあおい）：サプライズティーといい、青色の茶にレモンを絞ると赤色に変化した。
レモングラスティー：冷凍したものを使用。甘味料を入れると飲みやすい。



■ハーブケーキとクッキーの試食

尾崎さんより、ローズマリーのケーキとゼラニウムのクッキーをご提供いただいた。

■樹木系のハーブ（六甲山地域で活用するハーブ）

松井さんからクロモジティーの紹介。その他マツブサ（ウシブドウ）、タムシバのつぼみ等をご紹介いただいた。



尾崎さんと松井さん

◆参考・配布資料など：

- ・レジュメ
- ・ハーブ各種
- ・ハーブの加工品
(右写真手前から、ラベンダースティック、ラベンダーアイピューロー、ラベンダーサシェ)



第14回ハーブサミット神戸大会のお知らせ

開催日：平成17年5月27、28、29日
会場：布引ハーブ園、ポートピアホテルなど市内一円
主催：第14回ハーブサミット神戸大会実行委員会
市民実行委員を募集しています。詳細は下記までお問い合わせ下さい。
第14回ハーブサミット神戸大会実行委員会
〒654-0163 神戸市須磨区緑台
TEL：078-795-5656 FAX：078-795-5544

★参加者の皆様へ

カンパ箱へのご協力ありがとうございました。

参加の感想 宗岡 摩佐子さん

本で読んだ知識も、現物を見せていただくことによって納得。貴重な体験でした。

お茶の話が楽しかったです。今、植物を生活に取り入れることに凝っているのが、大変有意義な1日でした。「本当の豊かさとは何か？」を考えさせられました。



高畑さんのまとめ

今便利な生活が世の風潮となってしまっています。日本の豊かさは世界9位とされ、いつでも何処でも何でも食べられますが、それが「本当の豊かさ」なのか考えてみたいです。

震災で苦勞し自然の恐さと恵みを体験しました。自然は花の香りなど、心の傷を癒してもくれます。震災後10年の節目に、いくつもの豊かさを探りつつ、体験や発見をしてみたいでしょうか。自分で育てて入れたハーブティーでおもてなしをする豊かさも良いものです。来年にはハーブサミット神戸大会を開催しますので、ぜひお越し下さい。

事務局より

六甲山という自然環境の中で、ハーブを楽しみ、自然の恵みを素直に感じることができました。今回のセミナーを通して、私達が暮らしてきた生活を自然界から考え直すきっかけとなりました。私達が携わっている生涯学習とボランティア活動をとおして、「本当の豊かさ」に目を向けることを進めていきたいと考えました。



ハーブを片手に記念撮影

◆参加者：25名（順不同・敬称略）

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 高畑 正 | 岩木 啓子 | 小坂 忠之 | 村上 定広 |
| 石田 澄子 | 青木 孝子 | 八木 浄 | 澤田 中 |
| 宗岡摩佐子 | 白石 郁子 | 尾崎 尚子 | 岩井百合子 |
| 神野 和代 | 中尾文三江 | 大谷安規永 | 松本 久雄 |
| 森山 弘 | 青木 光子 | 堂馬 英二 | 米村 邦稔 |
| 松井 光利 | 中川貴美子 | 小野 律子 | 藤井宏一郎 |
| 菖蒲 美枝 | | | |



草玉づくり

第9回テーマ： 六甲山で草玉を作ろう

講演内容

山野草を楽しむ

- ①山野草の栽培と増殖
- ②絶滅危惧種の増殖へのチャレンジ
- ③山野草の栽培環境づくり

草玉づくり

- ①草玉の作り方説明
- ②実習

実施日：平成15年12月13日（土）
午後1時～3時40分

場 所：六甲山YMCA



講師：伊東 吉夫さん

プロフィール

昭和21年生まれ
千葉県出身、三田市在住
ノバルティスファーマ株式会社勤務 薬剤師
NPO法人人と自然の会理事
三田山草会会長

クリスマスムードの六甲山YMCA

セミナー前日の12日、六甲山で初雪がありました。去年に比べ1ヶ月程遅い冠雪とのことです。

六甲山YMCA本館2階の里見ホールを初めて利用しました。ホールには暖炉があり、素朴さと由緒を感じさせます。クリスマスの飾りつけもされていました。昼食懇親から暖炉に火を入れて、和やかな雰囲気を盛り上げました。



昼食懇親の準備

大人気の草玉づくりを体験

草玉は山野草等を、苔を張った玉に植え込んだもので、インテリア小物の感覚で現在人気を呼んでいます。参加者は男性6名、女性22名と圧倒的に女性が多く、年末にもかかわらず大勢集まり、草玉づくりへの関心の強さがうかがえました。

講師は三田山草会会長の伊東吉夫さん。セミナー前日までに伊東さんと中川貴美子さんが材料を準備してくれました。正月の飾り等、各自思いを込めて一心不乱に草玉作りにチャレンジ。1人2つの草玉を心弾ませ持ち帰りました。

六甲山ならではの創作活動

六甲山での創作活動を今回初めて試みました。六甲山は国立公園なので植物を採取できないため、今回山野草を持ち込み準備して創作活動に取り組みました。

帰りのバスまでの待ち時間、暖炉を囲みながら歓談をしました。4時を過ぎて外に出ると、今年2回目の雪がちらほらと降り出しました。帰りは雪に見送られ、風情ある六甲山の冬を楽しみながらの下山となりました。

街中での趣味の活動と比べて、六甲山という自然環境の中での創作活動は、別世界のようなと感じました。今後は六甲山での創作活動をもっと取り上げていきたいと思っています。生涯学習としての市民セミナーをもっと幅広いものに工夫していけると確信できました。



草玉作りに無我夢中

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所



テーマ:六甲山で草玉を作ろう



第9回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親 : 12:00~13:00
2. 挨拶案内 : 13:00~13:15
3. 講演 : 13:15~14:40
4. 実習 : 14:50~15:30
5. 後片付け : 15:30~15:40

講演

山野草を楽しむ(スライド解説)

作業準備

実習

草玉づくり

後片付け

※いろいろな種類の山野草や伊東さんの活動の様子をパワーポイントで紹介していただきました。

講演のあいさつ(伊東 吉夫さん)

今日は山野草を楽しむというテーマで、自分の活動や山野草の基礎知識なども盛り込んで広く浅く紹介します。その後実習に入りたいと思います。



山野草をこよなく愛する伊東さん

講演内容

山野草とは

山野草とは、深山、溪谷、湿原、里山、田の畦、池辺、海岸の砂丘などに自生し、自然のままの姿で野趣に富み、季節の移り変わりや自然の風情を身近に感じられる野草をいう。

絶滅から守る -カザグルマの増殖など-

カザグルマはキンポウゲ科の多年生つる草。兵庫県希少生物リスト「レッドデータブック」のAランクで、ニュータウン開発等で減少している。



カザグルマの花

伊東さんは、絶滅から守るため、挿し木や取り木により増殖をして、自生地に戻す活動をされている。

その他、山野草についての基礎知識を詳しく紹介いただいた。(用土、肥料の与え方、水やり、病害虫、病気への対策など)

お待ちかねの実習へ

さあ、草玉作りがスタート。草玉の材料は伊東さんをはじめ、中川貴美子さんにご準備いただいた。材料のコケ、植え込み材料のシダ、ヤブコウジなどを採取してくれた。また、ケト土も作りやすいようにと伊東さんは練って下さった。



山野草を選ぶ

材料が揃って作り方の説明を受けた後、全員待ってましたとばかりに山野草に飛びつき、捕り合いになった。山野草のバーゲン会場みたいだとみんなで大笑い!



3世代で体験 佐田さん



全員で後片付け

草玉の作り方

基本となる草玉の作り方をマスターしましょう。草玉が大きくなりすぎないようにすることがポイント。成長後の姿を想像しながら作ります。

1. ケト土を練る
2. 植え込む草木を準備する
 - ・黒ポットを外す
 - ・古い土を落とす
 - ・枯れ葉は取り除く
 - ・根を洗う
 - ・古い土は全て取り除く
3. 平らな板を用意する
4. 中心の植物を決める
 - ・手前の植物を決める
 - ・後方の植物を決める
5. ケト土を貼る
6. 新芽を折らないよう注意する
7. 根をまとめる
8. 草玉を整形していく
9. 底にもケト土を貼る
10. コケを貼る大きさに切る
11. コケの余分な土を落とす
12. コケを貼る
13. 竹ぐしで押さえる
14. 水を与える
15. もう一度竹ぐしで押さえる
16. 完成



1



2



10



16

完成後は1~2週間明るい日陰で管理し、草玉の形がくずれないように霧吹きで水を与えます。

※ケト土とは湿地に生えるアシやヨシなどの植物が堆積して分解しかかった黒色の土

草玉作りの感想

参加者の方に感想を寄せていただきました。

～近藤佳里さん～

伊東さんの山野草に対する想いがとても感じられるお話で、内容はもとよりその温かい人柄が素敵でした。草玉は今ブームなので興味があり作ってみたかった。実際に作ってみると、泥遊びのような感じもあり、日本の伝統文化の世界もありで、自分の中の大人と子供両方の感性が満たされました。



楽しかった！
山内さん、近藤さん

～あけびグループの石田澄子さん～

スライドでの説明に、花屋の花に見慣れている私の眼には山野草の花の可憐さは新鮮で且つ清々しく写り、自生地での保護や増殖の現況を知ることが出来たのも収穫でした。講演後の草玉作りは指導のお陰で無事完成し、無用と化していた水盤に石を添えて並べ迎春飾りに出来ればと、その成長を楽しみに育てていきたいと思っています。



作品を自慢する あけびグループ

～あけびグループの藤本武子さん～

山野草という素朴な材料にひかれ参加させていただきました。自然にあんなにきれいな花が咲くとは偉大ですね。講師に二等辺三角形を形作る、材料を入れすぎない等、コツを教えていただきましたが、さわる程に思いと違う形になってしまったようです。伊東さんに習い、持ち帰った草玉に愛情を注いで育てていきたいと思っています。

作品と一緒に記念撮影



鳥井さんご夫婦



三上さん、岩井さん、中川さん



先月から続けて参加
泉さん



霜田さん、重野さん、小野さん

講演を終えて ～伊東さん～

全員一生懸命に草玉作りにチャレンジされ、私語を交わす人もなく熱心に作品を作っている姿には感動すら覚えました。

完成後のアフターケアを十分にされて、半年後には青々としたコケが見られることを祈るばかりです。季節的には初夏～梅雨時が植物の成長が活発に行われ、色々の山野草が挿し木出来るシーズンのためベストです。初冬のクサダマづくりも植える材料によってはクリスマスや正月の飾りとしての「ミニ盆栽づくり」としては良いのではないかと思います。大変楽しいひと時を、多くの方と一期一会でお会いでき有難うございました。

六甲山での創作活動は新たな魅力

今回初めての創作活動でしたが、皆さんが嬉しそうに草玉を持ち帰る様子を見て、楽しいひとときを提供できたと実感しています。六甲山という自然環境での創作活動は大変魅力的です。今後この草玉作りを定番化したり、また新たな創作活動をセミナーに盛り込んでみたいと思いました。

◆配布・参考資料：

- ・草玉の作り方資料一式
- ・参考資料（イソギクや野ぎくの石付き）

◆実習材料：

ケト土、コケ、山野草（マンリョウ、リュウノヒゲ、黄金ゼキショウ、ヤブコウジ、ダイヤモンドソウ等）

連絡先：三田山草会 伊東 吉夫
〒669-1546
三田市弥生が丘2-24-10
TEL/FAX：079-562-6956
E-Mail：itohke@d1.dion.ne.jp

◆アンケートより

・暖炉のある部屋でリラックスできた・暖炉の火の守り役のおじさん（那波昌彦さん）に感謝！・毎回趣向を凝らしたテーマでとても楽しい・ざっくばらんな雰囲気

◆参加者：29名（順不同・敬称略）

伊東 吉夫	中川 貴美子	田中 弘子	川口 嬉代子
石田 澄子	中務 勝子	藤本 武子	山口 紀子
黒田 郁子	那波 満子	宮本 和子	霜田 泰功
鳥井 正義	鳥井 満喜子	三上加津子	岩井 百合子
重野 遊佐子	佐田 利巳	佐田 イヨノ	佐田 俊美
佐田 麻葉	佐田 瑞季	泉 美代子	近藤 佳里
山内 郁子	堂馬 英二	小野 律子	那波 昌彦
菖蒲 美枝			

第28回テーマ:六甲山を描いて



満開のあじさいに囲まれて
スケッチを楽しむ

講演内容

- ①私と神戸とそして「六甲山」
- ②私の「鉛筆スケッチ画」
- ③私の描いた「六甲山」の

あちこち



講師: ^{あさい}浅井 ^{しんいち}審一さん

プロフィール

1928年生まれ。(株)島津製作所定年退職。在職中より京都日曜画家協会の会員として鉛筆スケッチ画を楽しむ。コミスタこうべ、コープこうべ他教室で講師として指導。

実施日:平成17年7月16日(土)
午後1時～3時30分
場所:六甲山自然保護センター
レクチャールーム

午前中はスケッチ画教室も併催

梅雨明けのまぶしい太陽の下、記念碑台で鉛筆スケッチ画教室を開きました。15名が集まり、京都日曜画家協会の会員浅井審一さんに指導をお願いしました。各自鉛筆と画用紙を持って描きたい場所に座り込み、黙々と描き始めました。個人別にアドバイスを受けながら皆がスケッチに集中。あっという間の2時間で気付けば両腕は日焼けしていました。

浅井さんの姿はスローライフそのもの

浅井審一さんは神戸や六甲山の様々な景色や植物を鉛筆スケッチ画で描かれています。時間を見つけては六甲山へスケッチに出かけて楽しめるそうです。講演ではスケッチ画との出会い、サンテレビで放映された神戸を描いている様子、鉛筆スケッチの楽しさとコツなどをご紹介します。風景とゆっくり語り合っておられる姿からスローライフの楽しみ方を学びました。



浅井さんの作品「六甲山牧場」

スケッチを楽しむきっかけができた

六甲山で描いた花や風景のスケッチ画をスライドでご説明いただきました。どの作品もなじみある風景で親しみを持ってお話を聞きました。講演後はスケッチ画教室の参加者が描いた絵を浅井さんに講評していただきました。

風景をじっくり見つめるという発見

鉛筆スケッチ画を切り口に六甲山で充実した1日を過ごすことができました。日頃景色を眺めたり写真を撮ったりしていますが、じっくりと見つめてはいないことに気づきました。風景を眺めてさらにその一部分を凝視する、スケッチを通じてものの見方や見る態度を学ぶことができました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 井筒 泰子さん

何十年ぶりかの六甲山！最高でした。若い頃には須磨の海で泳ぎ夕方には登山バスで六甲山に登り、星座を探した頃をなつかしく想います。あの頃とはすっかり様変わりしましたが、自然を残し上手に整備され、こんなに身近に楽しめるなんて驚きです。



浅井さんと井筒さんの
ツーショット

浅井先生のご指導を得て四季折々の姿を描くことができれば幸せに思います。

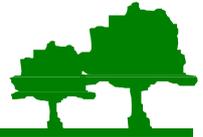
ひぐらしの 声のなつかしき 六甲山

主催:六甲山自然保護センターを活用する会
協力:兵庫県立人と自然の博物館
後援:兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山を描いて



午前中はスケッチ画教室を開催

第28回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：13:00~13:10
2. 講演：13:10~14:40
3. 絵画鑑賞：14:40~15:00
4. 質疑講評：15:00~15:30

講演

- ①私と神戸とそして「六甲山」
- ②私の「鉛筆スケッチ画」
- ③私の描いた「六甲山の」あちこち

午前中はスケッチ画教室

■セミナー参加者の半数が体験

15人が参加。記念碑台の思い思いの場所で鉛筆スケッチを楽しんだ。絵を描くのは「小学校以来」という参加者がほとんどで、子供に返って2時間をあっという間に過ごした。

■浅井さんがていねいに個人指導

浅井さんに一人ひとりを回って見ていただいた。浅井さんが線を数本入れれば、絵が見違えるように良くなっていくのは驚き。「炎天下では、日陰で描くのもスケッチのコツ」との指導もあった。

市民セミナー：講演内容

浅井さんのスケッチ画との出会いについて、鉛筆スケッチの楽しさとコツをご紹介いただいた後、サンテレビの特集ビデオを視聴。そして六甲山を描いた鉛筆スケッチ画をご紹介いただいた。

1. 私と神戸とそして「六甲山」

■機械製図がはじまり

京都に育ち、終戦の年に工業学校の機械科を卒業して当時軍需工場だった島津製作所に入社した。入社時の仕事は機械製図。製図から形を絵にする面白さを感じて、会社の美術サークルで油絵や木炭デッサンを楽しんだ。やがて手軽な鉛筆画を描くようになって半世紀。



浅井 審一さん

■サンテレビでのビデオ

震災後の平成8年にサンテレビで放映された特集ビデオを視聴。震災前の神戸の情景を愛おしみながら風景と対話する浅井さんの姿があった。

2. 私の「鉛筆スケッチ画」

■「絵になる風景」は絵にしておこう

「絵になる風景だなあ」と思ったら、そんなときは実際に絵にしてみよう。鉛筆と消しゴムと小さいスケッチブックをいつでも持つようにしてとにかく描いてみることに。

スケッチは、楽しく描いて自分の絵をつくるのが大事。自分の描き方でのびのびと進めること。今回の話は私の描き方なので参考程度に考えて、自分の描き方を見つけて欲しいと案内された。

■描き方—花を描く

まずは線で描く。描いては消し、消しては描きを繰り返して一本の線を探す。明暗や色は後回しにして、絵がまとまってからにする。明暗は暗さ（黒くする部分）をなるべく少なくすると、花や葉の薄さ、茎のしなやかさなどが表現できる。細くても確実な線と必要な部分に陰を描くことでさわやかな絵ができる。

■描き方—道を描く

野外での写生はまず構図を決めることから始める。上下左右の範囲や奥行き（遠近感）も大事。「道」を描き込むのは効果の一つ。都会の車道や田舎の畦道や家並み、小川の流れ、植え込みなども遠近感を出すのに効果的である。

3. 私の描いた「六甲山」のあちこち

浅井さんは西から東へとスケッチの六甲山縦走をされている。六甲山で描いた花（アジサイ、シチダンカ、シャクナゲ、クリソウ、センニンソウ）と風景（摩耶ロープウェイ山上駅、摩耶山天上寺、六甲山牧場、丁字が辻、六甲山YMCA、山の郵便局）をスライドでご説明された。またそれらの原画を20点ほど展示いただき鑑賞した。

■六甲山の花や風景のスケッチ画を説明

◇シチダンカ

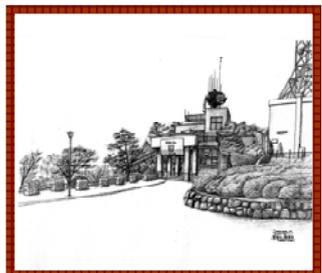
シーボルトの『日本植物誌』に紹介された幻の花。六甲山で発見され、六甲山小学校や六甲山YMCAで育てられている。素朴ながらも「六甲の名花」にふさわしい気品すら感じさせる花。



シチダンカ

◇摩耶ロープウェイ山上駅

この駅の辺りは掬星台（きくせいだい）と名づけられ夜空のきれいなところ。ロープウェイを降りて登山に向かう人や牧場への家族連れの人たちの賑やかな声が絶えない中でのスケッチだった。



摩耶ロープウェイ山上駅

◇山の郵便局

山上に古くからある郵便局。山の郵便局が建て替えられたときの写生。山のメインストリートの向かい側から六甲山ホテルを遠景に描いている。



山の郵便局 (六甲山郵便局)



休憩を兼ねてゆっくりスケッチ画鑑賞

質疑応答・講評

質問：花を描くときはどこから描けばいいのか？

花はまず大きな塊を描く。アジサイならまず花の塊の丸を描く。上を向いている花、下を向いている花などを飛び飛びでいいのでまとめて描いて、徐々に埋めていく。ガクアジサイは野菜のブロッコリーで練習するといひ。(大笑い)

■うれしはずかしの講評

午前中のスケッチ画教室に参加された方の絵を浅井さんに講評していただいた。はにかんだ表情で各自が絵を披露。浅井さんは「どの絵もなかなかの作品です」と褒められた上でアドバイスをされた。今後の完成が楽しみ。



和やかな雰囲気での講評

◆参考・配布資料など

- ・スケッチ画教室 (鉛筆、鉛筆削り、消しゴム画用紙、クリップボード、折りたたみイス、レジュメ描き方の説明)
- ・講演内容のレジュメとスケッチ画集、スライド、サンテレビ放映ビデオ、作品展示

浅井さんへのお問い合わせは当会までお願いします。



記念撮影



スケッチ画教室の優秀作品 (一部)

左：「空の雲は描かない。漫画っぽくなる。」
右：「グルームさんの銅像が真っ黒。光が当たっているところは思い切って白で飛ばすといい。」

浅井さんのまとめ

画用紙と鉛筆と消しゴムがあれば、手軽にいつでもスケッチが楽しめます。誰もが幼い頃から手にしてきた鉛筆を見直してお絵かきを楽しんでみませんか。六甲山で私を見かけたら気軽に声を掛けてください。

参加の感想 松田 忠さん

「カナカナ」と蝸(ひぐらし)が涼やかに呼びかける六甲山上は、癒しのセミナー会場。浅井先生の鉛筆スケッチ画説明、描かれた六甲山の風景の数々、そして花の絵。癒しの絵です。描きたいと誰もが思ったのではないでしょう。



先生からポイントを伝授していただき、目から鱗です。参加させていただき感謝しております。

事務局より

六甲山で充実した1日を過ごすことができました。今後も要望があれば浅井さんのスケッチ画教室を開こうと思います。ご希望の方はお申し出下さい。六甲山での豊かな時間を皆で共有しましょう。

◆参加者の感想 ～アンケートより～

- ・小学校以来、何十年ぶりのスケッチは新鮮だった。
- ・六甲山でのんびりと豊かな時間が過ごせた。
- ・自分からつくりたい時間を皆で共有でき楽しかった。
- ・今日をきっかけにスケッチを気軽に楽しみたい。
- ・一筋に道を極めた方の含蓄あるお話は参考になった。

◆参加者：25名 (順不同・敬称略)

浅井 審一	大谷安規永	八木 浄	村上 定広
青木 孝子	霜田 泰功	北山健一郎	山本 治子
植松富士子	中務 勝子	藤本 武子	久保 紘一
黒田 郁子	藤井 節子	松田 忠	井筒 泰子
村上スマ子	板谷 敏子	白井 光江	堂馬 佑太
堂馬 英二	中川貴美子	小野 律子	藤井宏一郎
菖蒲 美枝			



俳句づくりを楽しむ

第32回テーマ： 六甲山で俳句をつくろう

講演内容

- ①六甲山の自然と親しむ
- ②六甲山記念碑台周辺を
吟行しよう
- ③身近にある俳句

実施日：平成17年11月19日（土）
午後12時30分～3時
場 所：六甲山自然保護センター
レクチャールーム



講師：半田 陽生さん

プロフィール

1935年神戸生まれ。1984年俳句誌、九年母会入会。主宰：五十嵐播水、現主宰：五十嵐哲也に師事。1994年同人、課題句選者。日本伝統俳句、神戸芸術文化会議の会員。

六甲山の冬日和

午前中は「半田陽生さんの六甲山俳句教室」が開かれました。18名が集まり、九年母会の半田陽生さんにご指導いただきました。俳句についての説明の後、記念碑台周辺の散策路を約1時間吟行しました。外の気温は7度と寒く、携帯カイロをポケットに忍ばせて俳句づくりを楽しみました。

吟行後は、俳句を大短冊に書いて披露しました。昼食タイムでは寒かったせいもあり、用意していたカップラーメンが大好評でした。



皆の俳句を詠みあげる半田さん

半田さんのお仲間が手本を見せてくれた

午後のセミナーは25名が参加。はじめに、俳句で使う言葉の読み方をクイズ形式で紹介いただきました。見たこともない言葉が多く、答えを聞いては「なるほど」と納得の連続でした。

クイズの後は句会をしました。参加者の中には半田さんの俳句仲間もおられ、ベテランの豊かな表現力と感性にほれほれしました。

和気あいあいの句会

句会は和気あいあいの雰囲気で行いました。皆の俳句を回し読み、各自が気に入った句を選びました。全員真剣な表情で、いつになく静かなセミナーでした。俳句づくりは悪戦苦闘しましたが、初心者も俳人（芭蕉）の真似事？を満喫しました。

六甲山の楽しみ方のモデルがまた増えた

六甲山で五感をめぐらせ、感じたことを俳句にする体験ができました。記念碑台周辺の散策路は距離的にも吟行に向いており、今後も句会を催してほしいという声もあがりました。六甲山でスローライフを楽しむ有力なモデルを見つけました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 藤井 啓子さん

「六甲山自然保護センター」のドアを開けると中は和気藹々。お弁当やラーメンを食べる方、コーヒーの深い香りもしている。講師の半田さんをはじめ皆さんが笑顔で迎えてくれた。こんな温かい集いがこんな山の上であるなんて、今まで神戸に住みながら知らなかった。机上には木の実や真っ赤な紅葉や末枯れたあじさいが置かれ、参加者も登山靴というのも山の句座ならではの。親切なご指導とてきばきた運びでとても充実した会であった。

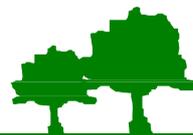


主催：六甲山自然保護センターを活用する会
協力：兵庫県立人と自然の博物館
後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】
(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、(財)ひょうご環境創造協会、コープこうべ環境基金、灘区役所「地域力を高める」事業助成



テーマ：六甲山で俳句をつくろう



散策路を吟行

第32回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. あいさつ：12:45~13:00
2. 講演：13:00~13:15
3. 句会：13:15~15:25
4. 交流会：15:25~15:40

講演

- ①六甲山の自然と親しむ
- ②六甲山記念碑台周辺を吟行しよう
- ③身近にある俳句（句会）

午前中は「半田陽生さんの六甲山俳句教室」

参加者の大半が午前中も参加。散策路のボランティア清掃も兼ねて、ゴミ袋片手にゆっくりと吟行した。自然保護センターに戻った後は、半田さんに俳句について解説をしていただいた。

■俳句って？

最近、俳句人口の増加が著しい。女性の教育レベルの向上や、経済的・時間的にゆとりができたことが大きい。日本は四季がはっきりしており、俳句を嗜む環境に叶っている。

■俳句の約束

俳句の約束は、五七五の十七音による定型詩であること、季題・季語を必ず詠み込むこと、自然や風土・風物の正しい季節感を詠むことだ。季重なりをできるだけ避け、音や色、香りの要素を取り入れて、リズム感のよいものにする。

秋の季語：霧、秋の雲、晩秋、山粧ふ、紅葉など

冬の季語：初冬、北風、短日、枯葉、鼻水など

市民セミナー：講演内容

1. あいさつ（半田さん）

俳句誌「九年母」で20年以上俳句を詠んでいます。

俳句は型にはまったものではありません。基本的なルールを守り詠みましょう。



半田陽生さん

2. 言葉のクイズ

まずは頭の体操として言葉のクイズから始まった。配付されたプリントには「蝨」 「蟹」 など見たこともないような言葉がズラリ。頭を悩ませるが、わからない。答えを聞いて納得した。

■言葉の読みと答え（一部）

ひともし：ネギのこと。 **ながむし**：蛇のこと。

南五味子：さねかずら。 **美男葛**とも。 **蟹**：はたはた。 **蝨**：きりぎりす。 **衣魚**：しみ（虫）。

虫出：むしだし。立春後、虫が出てくる頃の雷のこと。 **山鯨**：やまくじら。猪鍋。お寺が「肉」といわないため。薬食いとも言う。 **柴漬**：ふしづけ。「しばづけ」ではない。柴の小枝の束を水に漬けておき、寄って来た魚を獲るといふ漁法。

問題の言葉は、歳時記の傍題から選んだようだ。歳時記の題は目に留まるが、傍題まではなかなか見ないという。傍題には語数の長いものや短いものが色々あり、俳句を詠むのに重宝するようだ。

3. 六甲山記念碑台周辺を吟行

自然保護センターを出て、記念碑台周辺で吟行に出発した。30分間散策し、最低でも3句、多い人で5句を詠むことにした。景色をじっくりと観察して、俳句の素材になりそうなことをメモする。後でメモを見ながら俳句を詠んでいく。

当日は秋晴れに恵まれて、記念碑台からの神戸の景色は澄んでいった。風が強く、寒さに震えながらの吟行となった。



記念碑台で俳人気分



景色を見つめる澤田さん

4. 俳句会

自然保護センターのレクチャールームに戻って暖を取り、各自が俳句を詠む。ベテラン勢がスラスラと5句を短冊に書いていくのを尻目に、事務局スタッフなどの素人勢は3句詠むのがやっと。

俳句を詠んだら、いよいよ俳句会。「互選」で「選」を決め、「披講」でそれぞれの選を発表する。



みんな集中（いつもとちょっと違う静かな市民セミナー）

■互選

まず①自分の句を短冊に書く。名前は書かない。②短冊を折りたたんで、全員分を一箇所に集める。③自分の詠んだ句の枚数分、集めた俳句から取る。④取り出した俳句を別紙に書き写す。これを「清記」という。次に自分の「選」を決めていく。⑤清記を見て、良いと思う句があれば、「選」に加えて、⑥隣の人に清記を回す。

互選では清記を見るので、誰が書いた句か分からず、先入観無しに句を選べる。全員の俳句から自分の選を5句決めたら互選は終了。みんな真剣な表情でひとつひとつじっくりと読む。

■披講

続いて披講。互選で決めた「選」を半田さんが「○○さん選」として句を読んでいく。自分の句が選ばれた人は、選者への礼儀として名乗りでる。披講では参加者の多くが入選し、満足した様子だった。

参加者全員の選を読んだ後、半田さんが決めた選を発表した。

■半田陽生選（一部）

ベテラン揃いの中で、不得手と言っていた「活用する会」の会員も大健闘で何人かが入選した。

落ち葉踏み森の手入れの行き帰り	伊東茂子
おみやげに懐炉配らる俳句会	浄
柿干して山の日溜り何でも屋	朋子
小春日におお手ひろげるケヤキの木	久保
湿めりたる落ち葉松径小暗かり	西出茂子
玻璃越しに冬日のどく句座の席	悦子
冬の芽山風に耐えたくましく	光子
冬風や日矢射すところ新空港	ひとみ
紅葉濃しとはまだ言えぬ六甲に	かおる
山迫る松径とれば壺鳴す	美代子
ようこそと六甲連峰冬紅葉	北山
ラーメンをすすり初冬の俳句会	佑太



自分の句が詠まれたら名前を言う

参加者の声

- ・こんな会があることを知らなかった。また機会があれば参加したい。(西出茂子さん)
- ・句会に参加したのは今回が2回目。和気藹々とした雰囲気はとても楽しかった。(富岡穰さん)
- ・俳句や短歌は高校時代から好きだったが、俳句会に参加したのは今回が初めて。自然を舞台にみんなが色んなことを思い描いてやるのは面白いと思った。(平岡凡夫さん)

まとめ（半田さん）

天気が良く、適当に寒くて俳句をつくるのには真に結構な日和でした。六甲山は市街地からすぐに来れるし、標高が高いので季節が早い。俳句は季節の先取りをするので、俳句に適したところだと思います。ひとりひとりが気づいたことをやって、これからも六甲山を守っていければいいと思います。

参加の感想 香西 直樹さん

小春日和の六甲山にて、吟行とボランティアのゴミ拾いを兼ねてサンセット通りを散策した。慣れない俳句に戸惑いながら、経験豊富な方の俳句を拝聴していると、やはり言葉の豊かさや表現力の違いに驚かされた。



ボランティアで山の案内人をしていられる者として、新たな視点で自然に触れることができ、今後の活動に活かされるものと期待を膨らませております。このような貴重な機会を提供していただいた関係者の皆様にお礼申し上げます。

事務局より

俳句は全くの素人で、新鮮な体験でした。俳句を詠むのに頭をひねりながら、自分がいかに言葉に無関心であったかに気付きました。俳句を詠むという六甲山の楽しみ方は新しい発見です。多くの人をお誘いしたいものです。(佑太)

◆参考・配布資料など

- ・レジュメ ・歳時記
- ・清記用紙、短冊
- <午前の部>
- ・メモ帳、筆ペン、大短冊
- ・カイロ



いろいろな歳時記

◆参加者：25名（順不同・敬称略）

半田 陽生	久保 絃一	香西 直樹	大谷安規永
浅井 審一	下村 光子	澤田 中	岩水ひとみ
高見 悦子	中村美代子	坂本 朋子	伊東 茂子
西出 茂子	岡本かおる	岩崎 千子	藤井 啓子
富岡 穰	辻山 桂子	村上 定広	八木 浄
平岡 凡夫	北山健一郎	堂馬 英二	堂馬 佑太
菖蒲 美枝			



半田さんを囲んで記念撮影



索引

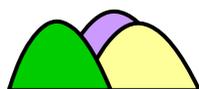
『六甲山物語1』には六甲山にまつわる多種多様な事実や話題が登場します。人名、地名、機関名、テーマ名、植物名、動物名、資料名など、解説を加えている437の用語を選んで掲載しました。また、巻末には第1回～3回の「六甲山魅力再発見市民セミナー」の年間プログラムも掲載していますので、併せてご参照ください。

【あ】		【え】		カワセミ	P73
「青い山脈」	P98	エキナセア	P107	川向家	P97
アオジ	P72	エゾゼミ	P74	完走認定証	P102
アカマツ林	P50	鉛筆スケッチ画	P113	環境カウンセラー	P20
赤松円心則村	P32	鉛筆スケッチ画教室	P112	環境教育	P16,P94
赤松城跡	P31	役行者	P35	環境大臣賞	P24
秋山 弘之 あきやま ひろゆき	P64	【お】		環境保全活動	P51
あけびグループ	P96	おいしい酒	P10	環境問題	P13
浅井 審一 あさい しんいち	P112	大阪大学	P11	環境問題とくらしの つながり	P94
アサギマダラ	P76	大阪YMCAの概要	P91	環境問題を解決する 3つのE	P94
芦屋・六麓荘	P12	大土神社	P31	環濠集落	P29
アジサイの家系図	P59	オオバヤシヤブシ	P51	【き】	
アジサイの原産地	P59	岡 敏明 おか としあき	P23	希少生物リスト	P110
アジサイ園	P59	オクマワラビ	P63	キナバル山	P65
アセビ	P56	越智 正篤 おち まさあつ	P84	記念碑台	P46,P47
「遊び」から学ぶ	P83	お地蔵さん	P47	ギフチョウ	P78
アライグマ	P70	お地蔵さんのよだれかけ	P35	キベリハムシ	P78
荒木用務員	P60	処女塚古墳	P29	キャンプでの体験学習	P92
アリマウマノスズクサ	P57	伯母野山下	P31	行者堂	P34
有馬温泉のでき方	P7	オプリュスニング	P88	居留地外国人	P101
【い】		オオムラサキ	P78	吟行	P116
「生きる力」	P83	オリエンタルホテル	P44,46	『近代における 駐日英国外交官』	P44
池田 勝一 いけだ しょういち	P90	【か】		近代レクリエーション	P15
育樹作業	P54	外来植物の持ち込み	P50	【く】	
砂山 (いさごやま)	P29	外来生物法	P70	草玉の作り方	P110
泉鏡花	P38	描き方	P113	九体仏	P34
イチョウウキゴケ	P65	学習放獣	P69	朽ち木の中の幼虫	P78
伊東 吉夫 いたう よしお	P109	カケス	P73	九年母会	P115
伊藤 浄巖 いたう じょうごん	P36	花崗岩	P6,P28,P56	クワガタ	P79
イナゴモドキ	P74	カザグルマの増殖	P110	桑田 優 くわた まさる	P42
イノシシ	P69	カブトムシ	P79	桑田 結 くわた むすぶ	P103
イノシシ餌付け禁止条例	P69	甲山	P29	グリーンベルト構想	P16,P19
命の教育	P78	カマキリの卵	P78	グループ	P15,P18,P32,P101
岩木 啓子 いわき けいこ	P93	紙芝居	P98	グループ出生届と死亡届	P44
イワヒバ	P63	「やまのゆうびん屋さん」		グループと神戸外国人	P42
インスタント	P108	ガラス瓶工芸	P97	居留地文化	
フェイスチャルスチーム		唐櫃	P35	グループの生い立ちと活動	P44
【う】		唐櫃古道	P34		
宇宙から見た六甲山	P8	唐櫃小学校の分教場	P82		
美しい森づくり	P18	唐櫃村のお話	P97		
		カリキュラム作り	P92		

【け】		里見ロッジ	P91	住吉村	P12
ケーブル通学	P82	里山	P41		
ケト土	P110	澤木 昌典 さわき まさゆけ	P11	【せ】	
ゲジゲジシダ	P63	サンコウチョウ	P73	製塩土器	P29
		参加体験型の学び	P95	青少年科学館 (神戸市立)	P77
【こ】		三田山草会	P109	赤外放射強度	P9
公共の広場やハイキング	P105	山王神社	P34	摂津名所図会	P40
コース		山野草とは	P110	戦後の六甲山	P46
郊外住宅	P12			善助茶屋	P101
高地性集落・住居	P29, P32	【し】		全縦の詩	P102
神戸ゴルフ倶楽部	P18,44	シーボルト	P59, P113	全縦市民の会	P101
神戸外国人居留地	P43	シイ・カシ林	P50	全縦路断面図	P102
神戸国際大学	P42	飼育方法	P79	セントラルパーク	P107
神戸市公園緑化協会	P106	四鬼家	P34		
神戸市埋蔵文化財センター	P27	施設めぐり	P97	【そ】	
神戸大学	P49	『自然環境ウォッチング	P41	双眼鏡の使い方	P72
神戸徒歩会	P101	「六甲山』		雑木林	P83, P86
神戸婦人大学	P96, P97	自然観察フィールド	P105	総合的な学習とは	P83
神戸歴史クラブ	P30, P33	自然体験	P85	卒業生の森	P19
『苔の話』	P66	シダ植物・シダ	P62, P110	祖父の見た六甲山	P46
コケ植物・コケ	P65, P110	シチダンカ	P59, P113		
苔の利用	P65	シチダンカの挿し木	P60, 95	【た】	
五色塚古墳	P29	市民の力	P19	第1回六甲山脈大縦走	P101
互選	P116	借景と縮景	P15	第1回六甲全山縦走大会	P101
コバノミツバノツツジ	P51, P56	ジャコウアゲハ	P57	体位向上の山	P46
コバノランタナ	P107	十一面観世音菩薩像	P37	『第3の教育』	P89
小林一三	P46	シュラインロード	P34, P72	大規模植林	P18
小林桂助	P72	修験道場	P32	大腸菌	P24
小林桂助		生涯学習	P16, P97	帝釈丹生山系	P18
鳥コレクション (絵画)	P73	小規模特認校とは	P82	高岡勇	P47
古墳時代	P29	昭和13年の大水害	P18	高取山	P29
ゴマダラチョウ	P78	昭和初期の六甲山開発	P46	高橋 敬三 たかはし けいぞう	P17
コメツキムシ	P79	照葉樹林帯	P50	高畑 正 たかはた ただし	P106
昆虫の越冬	P78	祥竜寺	P31	高光 正明 たかみつ まさあき	P81
昆虫リスト	P76	植樹活動	P25, P104	武田 義明 たけだ よしあき	P49
近藤 浩文 こんどう ひろぶみ	P2	植物群落の遷移	P50	谷 正俊 たに まさとし	P27
これからの六甲山	P105	植林のはじまり	P18	田原 直樹 たはら なおき	P39
コンパクトシティ	P13	白岩 卓巳 しらいわ たくみ	P55	タヌキ	P70
コンパクトタウン	P13	シロヤシロ	P56		
		人工衛星ランドサット	P9	【ち】	
【さ】		『森林美学』	P18	『地域を活かした	P95
西国名所図会	P40	森林改造事業	P18	環境学習』	
財産区	P35	森林植物園	P105	「知覚動考」	P85
歳時記	P117	森林整備事務所	P17, P102	近松門左衛門	P38
坂田 宏志 さかた ひろし	P68			鎮守の森	P40
先山 徹 さきやま とおる	P5	【す】			
桜ヶ丘銅鐸	P28	水質調査	P24	【つ】	
雑居地	P43	水車業	P32	ツキノワグマ	P69
酒造り	P32	スクールの4つの特長	P88	月見橋	P47
ササ (六甲山系の)	P21	鈴木 武 すずき たけし	P61	ツクシの胞子	P62
サツキ	P56	スポーツ文化	P102	ツツジ	P56

【て】		ハゲ山・禿げ山	P18 ,P41	P52,P 53,P103,P104	
テーマ学習	P91	ハシブトカラス	P72	不法投棄	P24
出る杭をのばす教育の実践	P87	ハシボソカラス	P72	フユノハナワラビ	P63
天狗岩	P32	バジル	P107	ふれあい行事	P82
デンマークの幼稚園	P88	発掘調査	P28	プロジェクト学習	P89
【と】		ハナムグリハネカクシ	P57	【へ】	
銅鐸	P28	花と市民の協定	P59	ベーシック教育	P88
銅矛	P28	ハマキゴケ	P66	ベニドウダンツツジ	P56
土器	P28	浜風	P9	ペニーロイヤルミント	P107
トクサ類	P62	パラソルゴケ	P65	【ほ】	
とことんやろう	P92	ハリミズキ	P66	ボーイスカウト西宮地区	P45
都市環境と六甲山	P11	阪急電鉄	P12	坊主山	P85
都市環境デザイン学	P12	阪神大震災	P12	ハウライシダ	P62
都市林	P15	阪神タイガース応援歌	P21	蓬莱峡	P7
戸田 信示 とだ しんじ	P77	阪神電鉄	P12	ホオジロ	P72
土地利用計画 (A B S P)	P16	阪神によるインフラ整備	P46	保久良山	P29
豊田 實 とよだ みのる	P30,P33	阪神・阪急の開発競争	P46	星野行則氏	P91
【な】		半田 陽生 はんだ はるお	P115	ほたぎ (椎茸栽培の)	P77
中島 龍 なかじま りゅう	P100	【ひ】		ホツツジ	P56
中瀬 勲 なかせ いさお	P14	ビオトープ	P16	ボランティア活動の	P105
ナスチウム	P107	火入れ式	P82	フィールド	
灘の樽酒	P35	ヒカゲノカズラ類	P62	本多静六	P18
ナビゲータ	P88	ヒガラ	P72	ホンモンジゴケ	P65
【に】		東おたふく山の草原	P50	【ま】	
西求女塚古墳	P29	東求女塚古墳	P29	毎日登山	P101
ニセアカシア	P19	披講	P117	前ヶ辻	P34
日米修好通商条約	P43	人と自然の博物館 (兵庫県立)	P5,P8,P14,P39,P61,	松井 光利 まつい みつとし	P52
日米和親条約	P43		P64,P68,P74	松枯れ	P51
二宮尊道	P82	101 番屋敷	P44	松下 猛 まつした たけし	P71
日本アジサイ協会	P59	兵庫開港	P43	松の絵巻	P40
『日本植物誌』	P113	兵庫県勤労者山岳連盟	P23	マツバラン類	P62
日本庭園	P15	兵庫県山岳連盟	P100,P102	摩耶合戦	P31
日本野鳥の会	P71	兵庫県生物学会	P55	マヤサンショウウオ	P78
ニューアーバニズム	P13	兵庫県知事賞	P24	摩耶山切利天上寺	P36
【の】		ヒヨコ登山会	P101	摩耶山を守ろう会	P102
野仏	P34	【ふ】		摩耶詣について	P36
【は】		フィールド・オブ・ゆう	P84	摩耶詣祭	P37
ハーブサミット神戸大会	P108	風水学	P9	摩耶ロープウェイ山上駅	P113
ハーブティー	P108	フエンネル	P107	マルダイゴケ	P65
ハーブとは	P107	複式学級	P82	【み】	
ハイキング文化	P101	再度山での 30 年間の	P51	みかげ石採石場	P7
俳句って？	P116	植生変化		三国池	P44
俳句会	P116	仏母摩耶夫人尊	P37	緑条例	P16
俳句の寺	P38	蕪村句碑	P38	緑の募金	P102
俳句の約束	P116	ブナの木・ブナ林	P50,P53	湊川神社	P40
		ブナの発芽	P105	ミノムシ	P78
		ブナは森のダム	P104	ミヤコツツジ	P56
		ブナを植える会			

宮崎 ひろ志 みやざき ひろし	P8	ルリビタキ	P72	育てる会	
ミヤマアカネ	P74			六甲山の景観計画	P15
ミヤマクワガタ	P76			六甲山の景観計画を考える	P14
		【れ】		六甲山の苔	P64
		歴史ハイキング	P97	六甲山の昆虫	P74
		レモンバーベナ	P107	六甲山のシダ植物	P61
【む】				六甲山の植生	P49
武庫山	P40	【ろ】		『六甲山の植物』	P22, P51
		ローズマリー	P107	六甲山の清掃運動と	P23
【め】		ロックガーデン	P7	水質調査	
名所図絵から見た	P39	六甲嵐・六甲山おろし	P10, P20, P21	『六甲山のツツジ』	P57
六甲山と神戸				『六甲山の100年そして	P19
明治時代の植林	P50	六甲開祖の碑	P44, P46	これからの100年』	
明治のころの六甲山	P46	六甲川	P31	六甲山のビジョン	P16
目印(山は)	P29	六甲銀座	P47	六甲山のブナ・植林	P53, P105
		六甲クリーン&	P25	六甲山のブナについて	P52
【も】		グリーン地図		六甲山の森づくり	P17
モナルダ	P107	六甲越え	P34	六甲山の野鳥	P71
紅葉谷	P51, P75	六甲越有馬鉄道	P46	六甲山の緑化	P97
森地 一夫 もりち かずお	P45	(六甲ケーブル)		六甲山俳句教室	P116
問題解決学習	P94	六甲砂防事務所	P18	六甲山ホテル	P46, 47
		『六甲山』	P22	六甲山南山麓の歴史	P30
【や】		六甲山開発史	P45	六甲山郵便局	P98, P114
野外体験プログラム	P86	六甲山廻遊道路之碑	P47	六甲山YMCA	P92
八木 剛 やぎ つよし	P74	六甲山からゴミを	P24	『六甲山YMCA	P92
ヤゴ・ミズカマキリ	P78	一掃する運動		50年のあゆみ』	
野生動物	P69	六甲山北山麓の歴史	P33	六甲山を描いて	P112
ヤブコウジ	P110	六甲山ゴルフ場	P97	六甲山を子どもの遊び場に	P84
ヤブツテツ	P62	六甲山小学校	P81, P95, P97	六甲山を楽しもう	P103
ヤマイヌワラビ	P63	六甲山小学校の総合的な	P81	六甲山をつくる花崗岩の	P5
ヤマツツジ	P56	学習		性質とその影響	
山手異人館	P43	六甲山全山縦走大会の	P100	六甲全山縦走大会の	P102
倭大乱	P32	生いたちと歴史		問い合わせ先	
弥生時代のムラ	P29	六甲山地	P12	『六甲全山縦走マップ』	P102
		六甲山地に埋められた宝物	P27	六甲登山ロープウェイ	P46
【よ】		『六甲山地の植物』	P62	六甲媛神社	P35
米村 邦稔 よねむら くになり	P58	六甲山地の地形と地質	P6	六甲八幡宮	P31
		六甲山頂明細地図	P47		
【ら】		(昭和11年版)		【わ】	
ラーンネット・グローバル	P89	六甲山で草玉を作ろう	P109	ワークショップ	P89
スクール		六甲山での野生生物との	P68	YMCAキャンプの理念	P92
ライフデザイン研究所	P93	共存を考える		YMCAの設立	P91
ラベンダー	P107	六甲山でハーブを楽しもう	P106	YMCA野外教育	P92
ラムズイヤー	P107	六甲山で俳句をつくろう	P115		
ランドシャフト	P15	六甲山と環境教育	P93		
ランドスケープ	P15	六甲山と昆虫たちの冬越し	P77		
		六甲山とツツジ	P55		
【り】		六甲山における野外教育	P90		
リスの巣	P72	六甲山に生涯学習の	P96		
リョウブ	P56	場を求めて			
		六甲山のアジサイ	P58		
【る】		六甲山のアジサイを	P58		
ルッコラ	P107				



市民セミナープログラム

平成15年度 六甲山魅力再発見市民セミナー(2003年4月～2004年3月)

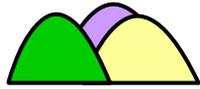
開催	テーマ	講師
第1回(4月)	六甲山のブナについて	松井 光利(ブナを植える会副会長)
第2回(5月)	六甲山南山麓の歴史	豊田 實(神戸歴史クラブ理事長)
第3回(6月)	六甲山の森づくり	高橋 敬三(神戸市森林整備事務所所長)
第4回(7月)	六甲山のアジサイ	米村 邦稔(アジサイを育てる会会長等)
第5回(8月)	六甲山の昆虫	八木 剛(県立人と自然の博物館研究員)
第6回(9月)	六甲山北山麓の歴史	豊田 實(神戸歴史クラブ理事長)
第7回(10月)	グループと神戸外国人居留地文化	桑田 優(神戸国際大学経済学部教授)
第8回(11月)	六甲山小学校の総合的な学習	高光 正明(六甲山小学校校長)
第9回(12月)	六甲山で草玉を作ろう	伊東 吉夫(三田山草会会長)
第10回(1月)	六甲おろし 今昔物語	近藤 浩文(環境省登録環境カウンセラー)
第11回(2月)	名所図会から見た六甲山と神戸	田原 直樹(人と自然の博物館 主任研究員)
第12回(3月)	六甲山の野鳥	松下 猛(日本野鳥の会会員)

平成16年度 六甲山魅力再発見市民セミナー(2004年4月～2005年3月)

第13回(4月)	六甲山とツツジ	白岩 卓巳 (兵庫県生物学会会長)
第14回(5月)	宇宙から見た六甲山	宮崎 ひろ志 (人と自然の博物館研究員)
第15回(6月)	六甲山と環境教育	岩木 啓子(ライフデザイン研究所 FLAP 代表)
第16回(7月)	六甲山でハーブを楽しもう	高畑 正(神戸市公園緑化協会公園緑地課長)
第17回(8月)	六甲山を子供達の遊び場に	越智 正篤 (フィールドオブ・ゆう代表)
第18回(9月)	六甲山全山縦走大会の生いたちと歴史	中島 龍 (兵庫県山岳連盟会長)
第19回(10月)	六甲山のシダ植物	鈴木 武 (人と自然の博物館研究員)
第20回(11月)	六甲山に生涯学習の場を求めて	あけびグループ (婦人大学卒業生)
第21回(12月)	摩訶詣について	伊藤 浄厳 (摩訶山天上寺貫主)
第22回(1月)	都市環境と六甲山	澤木 昌典 (大阪大学大学院教授)
第23回(2月)	六甲山と昆虫たちの冬越し	戸田 信示(神戸市立青少年科学館指導主事)
第24回(3月)	六甲山をつくる花崗岩の性質とその影響	先山 徹 (人と自然の博物館主任研究員)

平成17年度 六甲山魅力再発見市民セミナー(2005年4月～2006年3月)

第25回(4月)	六甲山地に埋められた宝物	谷 正俊(神戸市教育委・文化財課学芸員)
第26回(5月)	六甲山の景観計画を考える	中瀬 勲(県立人と自然の博物館 副館長)
第27回(6月)	六甲山の苔	秋山 弘之(人と自然の博物館主任研究員)
第28回(7月)	六甲山を描いて	浅井 審一(京都日曜画家協会 会員)
第29回(8月)	六甲山の清掃運動と水質調査	岡 敏明(兵庫県勤労者山岳連盟 理事)
第30回(9月)	出る杭をのばす教育の実践	ラーネットグローバルスクール
第31回(10月)	六甲山開発史	森地 一夫(ボーイスカウト西宮地区 役員)
第32回(11月)	六甲山で俳句をつくろう	半田 陽生(九年母俳句会)
第33回(12月)	六甲山での野生動物との共存を考える	坂田 宏志(県立人と自然の博物館研究員)
第34回(1月)	六甲山の植生	武田 義明(神戸大学発達科学部 教授)
第35回(2月)	六甲山における野外教育	池田 勝一(六甲山YMCA 所長)
第36回(3月)	六甲山を楽しもう	桑田 結(ブナを植える会 会長)



編集後記

『六甲山物語1』が出来上がりました。平成15年(2003年)4月の第1回市民セミナーを開催する前から、毎年の「六甲山魅力再発見ガイド」を発行して3年分を1冊にまとめることを広言しました。月次の報告書も簡潔かつ丁寧に制作してタイムリーに送付しました。目論見通りに実現できたようですが、内情は火の車の自転車操業でした。

平成15年度の第1期は、「とにかく、やってみよう」でした。参加者が10名を割ったら中止すると悲壮な決意も抱きました。費用のやりくりの不安は、灘区役所の助成金という「干天の慈雨」に救われました。

平成16年度の第2期は、様々な後援や助成金を得て「六甲山上の生涯学習ゾーン」をキャッチフレーズにしました。「六甲山魅力再発見ガイド1」を発刊し、年間の参加者は335名と増えました。この年から、記念碑台周辺の清掃・整備のボランティア活動も行いました。

平成17年度の第3期は、「六甲山に関わる、六甲山を楽しむ」をテーマにしました。新たに(財)大阪コミュニティ財団から大口の助成金をいただきました。「六甲山魅力再発見ガイド2」を発刊し、運営のノウハウを蓄積して先の見通しもつけました。

そして平成18年度の第4期は、「六甲山の自然と環境」と「六甲山の文化と生活」をテーマに掲げました。「六甲山魅力再発見ガイド3」を発刊し、期末には「ガイド4」も発刊しました。市民セミナーには4年間で延べ1,271名の方が参加されました。現在、平成19年度の第5期の年間プログラムを設定し第49回の開催を準備しています。平成20年度末には、『六甲山物語1』の続編の『六甲山物語2』も発行する予定です。

手探りで続けてきた活動ですが、講師の皆さん、参加者の皆さん、多くの機関や団体のご理解とご支援に支えられました。多くの方々に関心をもっていただき、ご協力いただいたことは市民活動の本懐とするところです。そして、企画・運営や編集制作に多くのスタッフにご尽力いただきました。改めて感謝を申し上げます。

最後になりますが、第10回の講師をしていただいた近藤浩文さんが2007年1月に永眠されました。慎んで哀悼の意を表します。

平成19年3月

『六甲山物語1』編集委員会

ご支援いただいた機関・団体の皆さま

六甲山魅力再発見市民セミナーの開催・報告書の発刊に対して多くの皆さまからご支援をいただきました。改めてお礼を申し上げます。

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

助成：灘区役所・「地域力を高める」手づくりの活動、生活復興県民ネット、
コープこうべ環境基金、ひょうご環境保全創造活動、
コベルコ環境保全基金、
(財)大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）

市民セミナーの会場として県立六甲山自然保護センターを利用させていただきました。また、同センターが閉鎖される冬季のセミナー会場は六甲山YMCAにお世話になりました。

このたびの『六甲山物語1』の発行は、(財)大阪コミュニティ財団（東洋ゴムグループ環境保護基金）の助成金を活用させていただきました。また、株式会社光陽社には印刷・製本で便宜を図っていただきました。

2018年に、ひょうご県政150周年記念県民連携事業の助成によって、改訂増刷して、『六甲山物語』1～5を取り揃えることができました。ご支援に感謝いたします。

「六甲山物語1」

六甲山を深く知る 36話 改訂増刷

平成15～17年度「六甲山魅力再発見市民セミナー」総集編

発行日：2007年3月25日

増刷日：2018年2月25日

編集制作：六甲山を活用する会（六甲山自然保護センター
を活用する会を改称）

制作協力：株式会社ワークスタイル研究所

印刷製本：株式会社光陽社

増刷版印刷製本：株式会社プリントネット